

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 学部・学科等の特色	11
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	14
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	15
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	30
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	33
7. 実習の具体的計画	34
8. 取得可能な資格	37
9. 入学者選抜の概要	38
10. 教員組織の編成の考え方及び特色	46
11. 施設、設備等の整備計画	49
12. 管理運営	52
13. 自己点検・評価	53
14. 情報の公表	55
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	57
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	59

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 学校法人文理学園及び本学の沿革と取組み

学校法人文理学園(以下「本学園」という)が設置する日本文理大学(以下「本学」という)は、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として、「産学一致」の建学の精神を礎とし、大学の基本理念として掲げた「産学一致」、「人間力の育成」及び「社会・地域貢献」に基づき、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究することによって、知的、道徳的及び応用的能力を展開し、人格の向上完成に努め、信頼と愛情に支えられた、産業界、地域社会さらに国際社会に有為な人材を育成することを目的としている。

本学の沿革は、昭和 30(1955)年に佐伯産業高等学校を設立し、続いて昭和 42(1967)年に、「工業を中心とする地域産業の発展に実践的に寄与する有用な人材育成」を目的として、本学の前身となる大分工業大学(工学部)を開設した。さらに、昭和 57(1982)年には工学部に加えて、商経学部(現在は経営経済学部)を増設するとともに日本文理大学に改称した。増設時の設置認可申請書には、「工業のみならず商業の経営実務に則する経営管理技術教育」を行うことが「地域社会からの要請である」と記されており、以来、工業のみならず広く地域産業の中で実践的に活躍する人材の育成のための高等教育をその使命としてきた。さらに、平成 15(2003)年より幅広い視野に立ち、高度な教育・専門分野に対応するために研究科(工学研究科:修士課程)を設置し、大学院教育を行っている。また、平成26(2014)年には、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択をきっかけに、COC(center of community)大学として、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、地域再生・活性化の核となる大学として役割を果たしてきた。平成 29(2017)年に迎えた創立 50 周年には、「世界を見つめ、地域で輝くグローカリスト」と新たにスローガンを掲げ、地域創生のリーダーとなる人材の育成に向け、全学で取り組んでいる。

一方、地域医療においては、大分県内はもとより全国的に医療技術の普及向上を図るために、平成 7(1995)年全国的に不足していた診療放射線技師の養成の必要性に鑑み、診療放射線技師養成専門学校となるNBU メディカルカレッジを開設した。さらに、医療従事者の高等教育を充実させるために、平成 17(2005)年に臨床検査学科、臨床工学科を増設、NBU メディカルカレッジを日本文理大学医療専門学校に改称するとともに医療技術力の向上と質の高い国家資格者の養成に取り組んできた。この結果、開設から令和 2(2020)年度まで 1,863 名の卒業生を輩出し、地元地域をはじめ全国の医療機関や行政機関に対して実践的な医療人を数多く輩出し、それぞれの地域において医療技術の普及向上に貢献してきた。

以上のことより、本学園は「産学一致」の建学の精神のもと、工業分野のみならず経営、経済、医療分野など、一貫して、広く地域産業の中で実践的に活躍できる人材育成のための高等教育と、多様な領域の人材養成を行ってきたといえる。

しかし、我が国を取り巻く現状は急速に変化し、既に少子高齢化や過疎化の進展といった課題を抱えている中、更に深刻化する自然災害、科学技術の国際競争力低下など新たな社会的課題に直面している。現在、国内に目を転じれば、新型コロナウイルス感染症により、我々の生活は一変した。今まで以上にものの価値や人の働き方、生き方が大きく変化しており、情報を基

盤としたスマート社会では、ビッグデータの活用、AIが導き出した集合知から人がどのように価値を創造していくかが問われてきている。

これからの大学の重要な役割は、次の時代を切り拓き、その基礎となる「知」を創出することである。複雑化した社会の課題解決のためには、個々の学問・専門分野の枠を超えて、他分野・多分野との広範な連携が行われないと解決できなくなっている。次の時代を担う人材は、自分の専門を様々な分野の知と融合させて活用するために、諸分野の専門家とも協力できる人材の育成が必要となる。特に、医療分野において、高度化、複雑化する諸課題へ対応するためには、特定の分野に限定された専門家ではなく、幅広い視野を持ち、専門知識と柔軟な応用能力を身に付けた人材が必要となっており、今まで日本文理大学医療専門学校が担ってきた技術者の養成教育だけでは次の時代を担う人材を育成することが難しい。そのためには、学部化による教育機能と研究機能の質的向上を可能な限り早期に図る必要があり、大学として、異なる分野が連携した「総合知」の創出・活用を目指すために、工学部、経営経済学部を設置する日本文理大学の新学部として新たに学士課程教育を行う必要があると判断し、設置認可申請を行うに至ったものである。将来的に、学問を融合した研究や学問間の知見を共有することが可能になれば、今まで以上に地(知)の拠点大学としての役割が期待され、大学の機能強化を図ることができる。

以上により、新しく設置する保健医療学部(以下「本学部」という)には、保健医療学科(以下「本学科」という)を置き、3つのコース(診療放射線学コース、臨床検査学コース、臨床工医学コース)を設置する。なお、併設の日本文理大学医療専門学校は令和5年に学生募集を停止し、すべての学生の卒業を待って廃校とする計画である。

(2) 新設する保健医療学部保健医療学科の必要性

1) 人材需要と人材育成の視点

令和2(2020)年版高齢社会白書【資料1 令和2年版高齢社会白書(抜粋)】によれば、65歳以上人口は、3,589万人(令和元(2019)年10月1日時点)となり、総人口に占める割合(高齢化率)も28.4%となった。総人口が減少する中で65歳以上の者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、令和18(2036)年には、33.3%で3人に1人となる。令和24(2042)年以降は65歳以上人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、令和47(2065)年には38.4%に達して、国民の約2.6人に1人が65歳以上の者となる社会が到来すると推計されている。このような状況の中、新設する本学部において、卒業後、様々な保健医療分野で活躍できる人材を育成する役割は大きい。2013成長戦略「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」(平成25(2013)年6月14日閣議決定)【資料2 2013成長戦略「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」(抜粋)】において、「戦略市場創造プラン」のテーマの一つに「国民の『健康寿命』の延伸」が掲げられ、国民が健康な生活及び長寿を享受することのできる社会(健康長寿社会)を形成するためには、世界最高水準の医療の提供に資する医療分野の研究開発及び健康長寿社会の形成に資する新産業創出を図るとともに、それを通じた我が国の経済の成長を図ることが求められている。すでに、様々

な施策が進められており、それに対応した人材育成は急務となっている。以下、3つの視点から保健医療分野における人材需要と人材育成の必要性を述べる。

先ず1点目は、「健康増進社会実現のための予防医学の重要性」である。健康増進社会実現のために、健康寿命を延伸し、平均寿命との差を短縮するために、様々な疾患への対応が課題となる中、診断・治療に加えて予防医学について重要性が増している。予防については、二次予防(疾病の早期発見、早期治療)、三次予防(疾病が発症した後、必要な治療を受け、機能の維持・回復を図るとともに再発・合併症を予防すること)に留まらず、一次予防(生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病等を予防すること)も併せて取り組むべきであることが指摘されており、このような予防医学において、早期診断はその後の治療効果や疾病予後に大きくかわる。予防や早期診断を推進するために、データ等を活用した予防・健康づくりの健康増進効果等に関するエビデンスを確認・蓄積するための能力や、専門知識や判断力を兼ね備えた医療従事者の役割はこれまで以上に重要性を増しているといえる。それに対応して、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の果たす役割はこれまで以上に重要性を増す。

2点目は、「健康・医療関連産業の拡大」にある。令和2(2020)年3月27日閣議決定による「健康・医療戦略」【資料3 健康・医療戦略(抜粋)】によれば、特にヘルスケア産業に関しては、公的保険を支える公的保険外サービスの産業群の国内市場規模が、平成28(2016)年には約25兆円であったが、令和7(2025)年には約33兆円になると推計されている。市場規模の拡大とともに、デジタルヘルスやゲノム解析など新たな技術を活用したヘルスケアサービスの多様化、健康増進・予防の促進や病気と共生できる社会の構築を一体的に進めていくことが重要視されている。公的保険外のヘルスケア産業の拡大等による、職域・地域・個人における健康投資の促進や個人の健康づくりへの取組促進、また、地域に根差したヘルスケア産業の活性化において、保健医療の知識を持つ人材の役割は非常に大きい。健康・医療関連産業の拡大に伴い、新産業の創出に対する医療分野におけるイノベーション人材を育成するために、事業化・経営人材や企業支援人材等についての育成プログラムの推進や産学官の交流が求められている。

3点目は、「質の高い医療サービスの提供」にある。質が高く、安心して安全な医療を求める患者・家族の声が高まる一方で、医療の高度化や複雑化に伴う業務の増大により医療現場の疲弊が指摘されるなど、医療の在り方が根本的に問われており、保健・医療・福祉が密接に連携した地域における総合的な保健医療サービスの提供体制の構築が喫緊の課題となっている。こうした現在の医療施設では、医師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士など多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」の実践が求められている。社会に出て多職種との連携を円滑に進めていくためには、チームで取り組む協働性、互いの価値を認め合う共感力、問題解決の方法や多職種とのコミュニケーション力等を育成することが早い段階から必要となってくる。

このような視点を踏まえると、特定の職種や技能を学ぶための専門学校の教育だけでは不十分であり、教養教育などにより幅広い知識と視野を養成し、コミュニケーション力や課題解決力な

どの汎用的能力を育成できる大学教育において養成すべきものと認識している。また、本学が工学部と経営経済学部を有する特徴として、他学部との連携した教育による知識の共有や複合的な視点を育成することができる。

2) 必要とされる診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士

① 診療放射線技師

令和 3(2021)年 5 月に「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」が成立し、これに伴う診療放射線技師法ならびに診療放射線技師法施行規則の一部改正の施行により、医師のタスクシフト・タスクシェアに向けた診療放射線技師の業務体制強化が各医療施設において進められつつある。また、昨今の医療技術の発展や医療機器の高度化に伴う医療現場における高精度な画像診断・治療の提供需要が増大する中、チーム医療の推進と診療放射線技師は必要不可欠な職種となっている。現在、診療放射線技師が携わる業務は幅広く、一般 X 線撮影以外にも乳房 X 線撮影や消化管造影検査、血管造影検査、CT 検査、MRI 検査、RI 検査、骨密度検査、超音波検査、さらに、がんの三大療法の一つである放射線治療などがある。医療従事者の中でも診療放射線技師は男性の多い職種であるが、近年は乳がん検診(マンモグラフィ)への関心の高まりから女性技師の需要も今後益々増えていくと考えられる。すでに、平成 26(2014)年 5 月 22 日には、公益社団法人日本診療放射線技師会から「診療放射線技師養成教育に関する要望書」【資料 4 診療放射線技師養成教育に関する要望書】が厚生労働省に提出され、診療放射線技師の 4 年制大学教育の必要性が示されている。その要望書には、「最先端医療に対応できる診療放射線技師の育成について、放射線を利用する診療技術について基本原理を学び、さらに高度化していく専門的な医療技術に対応できる技術を習得すること、医療人の原点である人間性を尊重し、心豊かな医療技術者として活躍するために必要とされる広汎な基礎的教養を身に付けること」が大切であるとし、この目的を達成するためには、診療放射線技師の 4 年制大学教育への移行について要望されている。

② 臨床検査技師

医療の高度化、チーム医療の推進、検査機器の小型化などの技術進歩にともない、臨床検査技師に求められる知識や技術は、今まで以上に高度専門化し、また、他職種や患者との円滑なコミュニケーションが求められている。具体的には、平成 31(2019)年 3 月 31 日に一般社団法人日本臨床衛生検査技師会から発出された「将来へ向けての臨床検査技師の在り方～提言～」【資料 5 「将来へ向けての臨床検査技師の在り方～提言～」】では、3 つのテーマから臨床検査技師の必要性が記されている。① AI と臨床検査技師なども含め 10 年後以上未来の臨床検査技師像を探る、② 予防医学と臨床検査技師のあり方、③ 医療におけるコーディネーターとしての臨床検査技師の位置づけの 3 つのテーマに基づいて提言されている。AI の普及により、医療現場の労働環境は大きく変化し、今後は臨床検査の領域においても AI によりの確で正確な判

断をする時代となる。臨床検査技師はAIの示した結果を理解し、臨床検査の専門性を活かしつつ、AI技術やICT技術と医師そして患者間を橋渡しする業務やAIへインプットする臨床検査情報の品質確保等の業務を担う。また、臨床検査技師は、医師が行うあらゆる疾病診断のための臨床検査を提供する唯一の医療技術者であるため、臨床医学の領域に限らず、生活指導、予防医学に関連するあらゆる領域において活躍できることが期待されている。特に、一次予防は、健康な人が病気になる前の段階の予防で、臨床検査技師が大きくかかわるところであり生活習慣の検査や改善指導を通じて寄与できる。一次、二次、更には三次を合わせた総合検診システムを構築できるのは臨床検査技師にできることである。また、予防医学においては膨大な受診者データを有しており、AIを用いて解析することにより、疾病の早期発見や治療経過の観察、合併症の防止に貢献できると考えられる。そのような能力を持つ臨床検査技師が求められている。以上を踏まえ、医療におけるコーディネーターの役割としての活躍が期待されており、治験コーディネーター(CRC: Clinical Research Coordinator)やPOC(Point Of Care)コーディネーター以外にも、生活習慣病や糖尿病をはじめとする慢性的な疾患の患者管理のためのコーディネーターとしての役割が臨床検査技師には期待されている。

③臨床工学技士

臨床工学技士は、昭和62(1987)年5月に制定された「臨床工学技士法」に基づく医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格となる。平成26(2014)年度の医療法改定により、医療機関における臨床工学技士の需要は、今後ますます増加すると考えられている。具体的には、診療報酬改定に含まれる特定集中室管理料1・2の施設基準に、「専任の臨床工学技士が、常時、院内に勤務していること」とする条件が加わり、また、呼吸ケアチーム加算や医療機器安全管理料などの施設基準においても、常勤の臨床工学技士の配置が義務付けられることとなった。医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする医療機器の専門医療職種となり、医師をはじめ、看護師などと共に医療機器を用いたチーム医療に欠かせない存在である。

また、医療機器産業の市場規模は、高齢化の進展や途上国の需要拡大等により一層拡大していくことが想定されており、日本の医療産業の発展のためには、医工連携は重要な施策の一つとなっている。新しい医療機器の創出が国策として進められ、医工連携や産学連携が多くの地域や機関で進められている。本学が所在する大分県においても、血液や血管に関する医療を中心に、医療機器産業の一層の集積と地域経済への波及、地域活性化を目指した「東九州メディカルバレー構想」【資料6 東九州メディカルバレー構想リーフレット】をもとに、産学官連携が取り組まれており、国内でも有数の医療機器産業の生産・開発拠点として成長している。また、特に大分県では、新産業振興として「医療ロボット・機器産業協議会」が中心となり、介護・福祉機器を含めた医療関連機器産業への参入拡大を図るため、新たな医療関連機器産業の創出をめざし、臨床工学技士等から収集されたニーズをもとにした産学連携推進の動きがある。臨床工学技士の今後の役割としては、単に医療の現場において専門能力を発揮するだけではなく、医

工連携の仲介者として、医療機器産業の開発現場において、機器の安全性や治療効果に対する知識を活用して、医療機器産業の発展に寄与することが期待されている。

3) 大分県内における診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の必要性

本学が所在する大分県の施策については、平成 30(2018)年 3 月に発行された「第 7 次大分県医療計画」【資料 7 第 7 次大分県医療計画(抜粋)】における医療計画の概要に、①地域医療を支える人材の確保と資質の向上、②安心して質の高い医療サービスの提供、③医療の安全の確保、④健康危機管理体制の構築、⑤医療における情報化の推進などが柱となっている。すなわち、質の高い医療サービスの提供のために、保健医療系人材の確保とその資質の向上及びがんや脳卒中などの発生予防の推進、在宅療養への支援等が重要視されている。また、大分県では「健康寿命日本一」を掲げており、令和 3(2021)年 12 月 20 日に厚生労働省が発表した令和元(2019)年調査結果【資料 8 厚生労働省健康寿命の令和元年値について】によると、健康寿命は男性が 73.72 歳となり全国 1 位、女性は 76.60 歳で全国 4 位となっており、全国の中でもトップクラスに位置付けられている。大分県では、「健康寿命」に対する取り組みは他県より進んでいると考えられ、健康増進社会を待望する状況下にあつて、本学における保健医療学部保健医療学科の設置は、地域の保健医療分野における医療技術水準の向上に伴う支援力の強化に繋がり、健康寿命の延伸に貢献できるものであるといえる。

本学園では、前述の通り、平成 17(2005)年から地域医療の普及向上を図るために、日本文理大学医療専門学校として、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士を養成してきた。平成 20(2008)年に第 1 期生の卒業生を輩出して以降、地元大分県内において、300 名以上の卒業生(令和 2 年度卒業生まで)が活躍している。

大分県内の各技師(技士)数に関して言えば、各都道府県人口(1 万人)あたりの技師(技士)数【資料 9 平成 29 年度各都道府県人口(1 万人)あたりの技師(技士)数】は、診療放射線技師 4.6 人(全国平均 3.5 人)、臨床検査技師 6.2 人(全国平均 4.3 人)、臨床工学技士 3.0 人(全国平均 1.7 人)と、それぞれの技師(技士)数で全国平均数を上回っており、本学園が行ってきた人材養成における地域貢献度は高いといえる。しかしながら、100 床あたりの医療従事者数【資料 10 平成 29 年度 100 床あたりの医療従事者数】をみると、診療放射線技師においては、2.6 人(全国平均 2.9 人)、臨床検査技師 3.6 人(全国平均 3.6 人)、臨床工学技士 1.8 人(全国平均 1.4 人)となり、臨床工学技士が全国平均を上回るものの、臨床検査技師は全国平均並み、診療放射線技師については、全国平均を下回る。また、1 病院あたりの医療従事者数【資料 11 平成 29 年度 1 病院あたりの医療従事者数】によれば、診療放射線技師は 3.4 人(全国平均 5.4 人)、臨床検査技師 4.6 人(全国平均 6.6 人)、臨床工学技士 2.2 人(全国平均 2.5 人)と、いずれの従事者数も全国平均を下回っている。今後は、医師のタスクシフト・タスクシェアが進むにつれて、各従事者の役割は増え、従事者数も必要とされる。

4) 保健医療学部設置に対する職能団体等からの要望及び賛同

本学園では医療専門学校内に学識経験者、大分県放射線技師会、大分県臨床検査技師会、大分県臨床工学技士会等の関連団体の会長等で組織する学校関係者評価委員会を平成31(2019)年4月に設置し、医療専門学校における教育内容及び今後の保健医療系における人材育成の在り方等について検討を続けてきた。昨今の医療技術の発展や医療機器の高度化、業務内容の拡大において、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の教育は大学(4年制)で実施することが望ましいことへの要望が高まってきており、各技師(技士)会より大学での4年制課程の設置について要望書【資料12 各技師(技士)会要望書】を頂いた。

(3) 教育研究上の目的及び人材養成の目的

「産学一致」の建学の精神に則り、大学の基本理念として掲げた「産学一致」、「人間力の育成」及び「社会・地域貢献」を踏まえたうえで、本学部においても「人間力教育」の考え方を基本とし、専門分野に関する知識と技術の修得に加えて、幅広い教養と倫理観を持ち、豊かな人間性と地域愛を基盤に、「人間力と専門の能力、職業能力を兼ね備え、地域医療現場や様々な関連職域で活躍できる人材」を「医療産業人」と呼称し、優秀な医療産業人を輩出することを教育研究上の目的とする。

基本理念の一つである「人間力の育成」は本学の教育において重要かつ根幹となるが、本学における「人間力」とは、自立した一人の人間として力強く生きていくための力であり、「こころの力」と「社会人基礎力」からなる力として定義している。「こころの力」とは他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性を育む力である。「社会人基礎力」とは学問分野、職業分野にとらわれず共通の基盤として持つべき、主体性を持ち、課題解決できる力とチームの中で協調して行動しコミュニケーションやプレゼンテーションできる基礎的な能力である。

相手の立場に立って患者と接することやチーム医療、多職種間の連携が求められる医療現場の現状を踏まえると、これらの力は本学部においても重要な能力である。

【資料13 カリキュラム・マップ】

【保健医療学部保健医療学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

本学部では、本学の基本理念に基づき、人間力と専門の能力、職業能力を兼ね備え、地域医療現場や様々な関連職域で活躍できる医療産業人を養成することを人材養成の目的としている。本学部の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた者に卒業を認定し学位を授与する。

- ①生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。
- ②幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。

- ③医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。
- ④日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。

(4) 組織として研究対象とする学問分野

本学部が組織として研究対象とする学問分野は、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学とする。

(5) 既設の専門学校との違い

1) 人材養成の目的について

学校教育法第 124 条「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的」との規定を踏まえ、専門学校では、技術者育成に重点を置き、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の国家資格取得を目指した教育を中心に行い、技術者養成を第一の目的としてきた。一方、大学における人材養成の目的は、学校教育法第 83 条の「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」という大学の目的を踏まえ、本学では、日本文理大学学則第一条により、「「産学一致」の建学の精神を礎とし、大学の基本理念として掲げた「産学一致」、「人間力の育成」及び「社会・地域貢献」に基づき、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究することによって、知的、道徳的及び応用的能力を展開し、人格の向上完成に努め、信頼と愛情に支えられた、産業界、地域社会さらに国際社会に有為な人材を育成することを目的とする。」を掲げている。またその下で、前述の通り、本学部においても「人間力教育」の考え方を基本とし、専門分野に関する知識と技術の修得に加えて、幅広い教養と倫理観を持ち、豊かな人間性と地域愛を基盤に、「人間力と専門の能力、職業能力を兼ね備え、地域医療現場や様々な関連職種で活躍できる人材」、すなわち「医療産業人」を輩出することを教育研究上の目的としている。

以上のことを踏まえると、専門学校では、技師(技士)養成教育を中心として医療技術者を養成していたことに対し、本学においては、医療分野において高度化、複雑化する諸課題へ対応するため、特定の分野に限定された専門家ではなく、幅広い視野を持ち、専門知識と柔軟な応用能力を身に付けた人材を養成することが大きな違いとなる。

2) 教育課程について

専門学校においては、3 年間の教育課程を編成し、各技師(技士)の養成に基づいたカリキュラムを編成している。専門的・実践的な能力の修得に関して言えば、国家資格の取得を主眼に置いたカリキュラムと実践的能力の修得に比重がおかれている。

一方、大学においては「学士課程教育の構築に向けて(答申)(中央教育審議会)」の「学士力」の参考指針にあるとおり、知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思

考力を基盤とした学位授与の方針と教育課程の編成の方策にその特徴がある。すなわち、学生の「幅広い学び」を保証するため、順次性のある体系的な教育課程において、豊かな人間性や課題探究能力等の育成に配慮することをその編成方針の柱とし、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを設定し、医療知識と技術の修得に加え、教養教育を含めた幅広い知識と問題解決能力を学ぶ「学士課程教育」を実施する。また、1 学科 3 コース制としていることで、細分化された一つの領域に留まらず、チーム医療に対応し、地域医療現場や様々な関連職域で活躍できる人材を輩出できるものと考えており、本学部で展開する「診療放射線学」「臨床検査学」と「臨床医工学」の 3 つの学問分野を一つの学科の中で教育することの意義は高いと考える。

3) 教員組織について

専門学校(入学定員:診療放射線学科 80 人、臨床検査学科 40 人、臨床工学科 40 人)の教員組織は、専任教員 23 人(内訳:診療放射線学科 10 人、臨床検査学科 6 人、臨床工学科 7 人)である。23 人中、博士の学位を保有している者は 1 人である。

本学部(入学定員 160 人)の教員組織は、専任教員 27 人である。27 人中、博士の学位を保有している者は 20 人であり、その構成は下記のとおりであり、多様な専攻分野に精通した陣容となっている。また、医療現場における臨床経験が豊富であるとともに、教育研究においても高い業績を有しており、それぞれの専門性を生かした幅広い視野に立った教育研究を進めていくことが可能である。

これは、本学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの達成という観点から構成したものであり、専門学校との違いが大きく示される点である。

学位(博士)の分野	人数
医学	7 人
工学	5 人
保健学	3 人
理学	2 人
健康科学	1 人
医療工学	1 人
学術	1 人

2. 学部・学科等の特色

平成 17(2005)年 1 月 28 日に公表された中央教育審議会答申、「我が国の高等教育の将来像」の第 2 章の 3「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」において、「新時代の高等教育は、全体として多様化して学習者の様々な需要に的確に対応するため、大学・短期大学、高等専門学校、専門学校が学校種ごとにそれぞれの位置付けや期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究を展開するとともに、個々の学校が個性・特色を一層明確にしていかなければならない」としている。特に大学は、全体として、以下 7 つの機能を併有するが、各大学は、選択により、保有する機能や比重の置き方は異なるので、どの分野に比重を置いた経営戦略を立てていくのか明確化する必要があるとしている。

- ① 世界的研究・教育拠点
- ② 高度専門職業人養成
- ③ 幅広い職業人養成
- ④ 総合的教養教育
- ⑤ 特定の専門的分野(芸術、体育等)の教育、研究
- ⑥ 地域の生涯学習機会の拠点
- ⑦ 社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)

本学部では、本学の沿革からもまた、今後の展開についても、「人間力と専門の能力、職業能力を兼ね備え、地域医療現場や様々な関連職域で活躍できる人材を輩出する」ことを教育研究上の目的とするため、「我が国の高等教育の将来像」においては、「③幅広い職業人養成」、「⑦社会貢献機能」の 2 点を特に重視し、次の 3 つを特色とした基礎的・実践的教育を行う。

【保健医療学部保健医療学科の特色】

(1) 医療産業人として必要な人間力教育

今後、社会で活躍する医療産業人を輩出していくためには、従来の専門性を重視した縦断型教育から、職種専門性を越えた横断型教育が必要となってくる。本学の教養教育科目においては、既に教養教育カリキュラムそのものが人間力教育を基礎としており、学部横断カリキュラムとして開講する。自分らしさを見つけ、人間関係を築くための知識とこころの力をつけるための導入となる科目である「人間力概論」、地域についての可能性と課題を認識するための「大分学・大分県」、産業界の現状と課題の理解のための「産学一致の勧め」、AI 技術の理解と課題解決への提案をできるための基礎科目である「データサイエンス入門」の授業を開講し、専門教育を学ぶ前段階において、人間としての素養と社会の現状と課題を理解し、保健医療分野において将来活躍できるための、産業人・企業人材の素養を身に付ける。また、さらに、他分野の知識の共有と複眼的な視点を持つために、教養教育科目に「社会参画実習」、専門教育科目に「保健医療と工学」、「保健医療と経営」を開講し、工学部との連携でモノづくりの視点持つことで、医療機器の企画や製品の提案ができる能力を身に付けたり、経営経済学部との連携において、組織をマネジメントする視点を持ち、

事業化・経営人材や企業支援人材として将来的に活躍できる等、医療技術者の育成だけではなく、医療分野における様々なイノベーション人材として幅広く活躍できるための素養を身に付けることとしている。

（２）地域をフィールドとした実践教育により地域医療・産業に寄与できる人材養成

専門教育を受ける初段階において、実体験を通じて地域の現状や課題を認識させることが肝要であり、低学年から地域をフィールドとした活動が、専門教育の理解につながると考えている。そのため、教養教育科目、専門教育科目で得た知識を実践するために、1年次では「社会参画実習」、3年次には「チーム協働と課題解決」において、地域医療や産業の課題について取り組み、4年次には「卒業研究」を開講し、専門的知識を踏まえて課題解決に取り組む。

本学では、平成26(2014)年、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」の採択をきっかけとして、地域をフィールドとした実践教育を行い、学生に対して地域愛を育てている。本学部においても、地域の中で活動することは、人々の生活や福祉、健康などの課題を直接肌で感じるができるものとし、地域医療のニーズを理解するための重要な役割として位置づけている。

具体的には、全学が共通する地域課題に対して、①小規模・高齢化が深刻な集落におけるコミュニティの維持・活性化、②人口減少社会を支えるための先進的なものづくり、③自然の積極的な活用による保全と地域活性化、④商店街の活性化による地域振興、⑤健康増進及び生活支援によるコミュニティの維持、⑥NPO 法人の活動・経営支援、⑦地域ブランドの発掘による交流人口の増加・産業の活性化の7つの視点から、各授業においてそれぞれの課題を意識しながら、各分野の専門知識を活かし、ステークホルダーと協働し課題を発見し、解決策を立案し実践するような学修サイクルを確立している。

本取り組みにおいては、本学部でも同様に取り組み、学生が地域に愛着を持ち、主体的に課題を発見し、専門的課題解決力を修得させることを目的として、県内のみならず、それぞれの地域において活躍できる人材を育成する。

（３）3コース連携で学ぶ、実践的チーム医療教育(多職種間連携教育)

チーム医療の重要性はこれまでも述べてきたが、将来の医療提供体制については、超高齢社会による社会構造や疾病構造の変化に伴って在宅医療の充実と推進、また、患者の状況に的確に対応した医療を提供するため、保健・医療専門職の多職種間における「チーム医療」の推進が求められている。しかしながら、現在の医療現場には一つの専門教育体系のみを学んだ医療従事者が多いのが現状である。今後さらに、チーム医療に欠かせない知識・技能・態度を身に付けた人材を教育の段階から養成し、医療現場へと送り出すことが、重要な役割の一つであると考えられる。本学部においては、基礎医学を中心とした専門基礎科目を共通科目として開講すると同時に、チーム医療で必要とされる「AI・デジタル医療」「チーム医療のためのコミュニケーション」「医療安全と危機管理」の3つの分野に関して、専門教育科目の共通科目として開講し、各コースの専門性の視点を他コースの学生にも身に付けさせる。

1 つ目の、「AI・デジタル医療」についていえば、AI の活用は、保健医療分野において、医療現場における医療データを活用した機械学習や膨大な受診者データから、AI を用いて解析することにより、疾病の早期発見や治療経過の観察、合併症の防止に貢献するということが予防医学の観点からも必要とされている。AIを活用した技術者の育成の基礎教育として、教養教育科目における「データサイエンス入門」に加え、専門教育科目では、「デジタル医療の基礎」を3コース共通の必修科目として開講し、それぞれの専門分野の立場から医療におけるAI技術の活用法を学ぶ。また、デジタル医療の知識理解については、機器等の適切な安全管理と使用についても理解を深めることがAIの活用の基本となるため、診療放射線学コースでは、「診療画像機器学(1・2)」「医療画像情報学(1・2)」、臨床検査学コースでは、「検査機器総論」、臨床医工学コースでは、「医療情報処理工学」「医用システム工学」「システム・情報処理実習」を各コースで開講し、医療機器全般の知識を深め、各分野における機器の安全管理と技術応用力を身に付ける。臨床実習・臨地実習では、実際の現場を体験し、デジタル医療の活用法を学ぶ。

2 つ目の「チーム医療のためのコミュニケーション」については、社会に出て多職種との連携を円滑に進めていくための協働性、互いの価値を認め合う共感力、問題解決の方法や多職種とのコミュニケーション力が必要とされるため、本学部において、「チーム医療概論」を3コース共通で必修科目として開講し、それぞれの立場を認識して協働の必要性を理解する。また、「チーム協働と課題解決」では、3コースの学生が混成したチームをつくり、各々の立場の専門性を基に課題解決し、発展的、実践的な多職種連携のための教育を行う。

3 つ目の「医療安全と危機管理」については、各コースの医療安全管理分野の科目の履修とともに、共通科目として「医療安全論」を開講し、医療機器における安全性の確保について理解する。これは、「医療安全と危機管理」についての本質的な理解を前提とするが、ヒューマンエラーを無くすことを第一とし、チーム医療を実践することで身に付けるものであると考えている。チーム医療は患者個人に適した良質な医療、且つ安全な医療を目指すのが、言い換えると医療危機管理が可能なチーム医療を実践することにつながる。これを確実に行うためには各々の医療専門職の確かな基本能力・技術力と、前述した大量情報への判断力に加えて、多職種間における互いの協力関係が不可欠であるとともに、医療専門職者一人ひとりの責任感や医療倫理観も重要な課題となっている。教育課程内において、「チーム医療のためのコミュニケーション」と「AI・デジタル医療」を学び、3コースの学生が職種を超えて臨床実習・臨地実習の中でチーム医療を実践することで、「医療安全と危機管理」の基本を身に付けることが出来ると考えている。一人の医療従事者が幅広い知識と技能を持つことは、チーム医療の推進及び医療安全上のリスクの早期発見と減少につながり、これは、医療機関が最優先に取り組むべき課題である。

本学部では、細分化された一つの領域に留まらず、「診療放射線学」「臨床検査学」と「臨床医工学」の3つの学問分野を一つの学科の中で教育することの意義は高いと考えている。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科の名称

本学部、学科の名称については、前述した人材養成の目的に従い、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学の各専門分野の専門領域に限らず、予防医学から診断・治療分野に関連する、あらゆる領域において活躍が期待されることから、学部名を「保健医療学部」、英文名は「School of Health Sciences」とし、学科名は「保健医療学科」、英文名は「Department of Health Sciences」とした。

学科には、3 コース設置し、診療放射線技師(診療放射線学コース)、臨床検査技師(臨床検査学コース)及び臨床工学技士(臨床医工学コース)を養成する。本学部の教育課程を履修し、卒業する者は学位が与えられ、診療放射線技師、臨床検査技師または臨床工学技士の国家試験受験資格を取得する。各コースの英語表記は、以下の通りとする。「診療放射線学コース(英文表記: Course of Radiological Technology)」、「臨床検査学コース(Course of Clinical Laboratory Technology)」、「臨床医工学コース(Course of Clinical Biomedical Engineering)」。

(2) 学位の名称

本学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び卒業要件を満たした者に対して授与する学位の名称は、学部・学科名称の意義に準じて学士(保健医療学)とした。英語表記は学部・学科名に準じて、「Bachelor of Health Sciences」とした。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の基本構成と方針

大学全体に共通する教育課程の編成として、1 年次では教養教育科目を中心に基本的な知識と人間力の基礎を含む汎用能力を幅広く修得し、2 年次では基礎的な専門知識を学び、3 年次ではさらに専門的かつ実践的な知識と技術を身に付け、4 年次ではそれまでに学んだ教養教育科目・専門教育科目での取り組みの集大成として、卒業研究など自主的な課題解決型の学修を行うこととしている。学部が掲げる「養成する人材像」及び「保健医療学科の特色」の趣旨を踏まえて、本学部のディプロマ・ポリシーを実現するために、教育課程において、「教養教育科目」及び「専門教育科目」の枠組みの中で、各コースの科目を配置し順次体系的に構成している。

この科目の構成は、医療産業人としての必要な素養を育成するとともに、専門知識と技能を確実に修得させるだけでなく、幅広い教養と倫理観を持ち、豊かな人間性と地域愛を基盤に、「人間力と専門の能力、職業能力を兼ね備え、地域医療現場や様々な関連職域で活躍できる人材」育成の目的のために、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」(平成 20(2008)年)を踏まえて、学士力(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力)を育むように編成している。

したがって、本学部では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、以下の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づきカリキュラムを編成する。【資料 14 カリキュラム・ツリー】

【教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)】

<教育課程編成>

本学部では、本学の基本理念に基づいたディプロマ・ポリシーを実現するため、教育課程は「教養教育科目」及び「専門教育科目」の 2 つの科目区分で構成し編成する。「専門教育科目」は「診療放射線学」「臨床検査学」「臨床医工学」の各コースに関する科目と「コース共通」科目で構成し編成する。

- ① 自立した一人の人間としての人間性や行動力の基礎を修得するための初年次教育科目を配置する。(DP①に対応)
- ② 幅広い教養を修得するための科学的思考の基盤、人間と生活、社会の理解に関する科目を配置する。(DP②に対応)
- ③ 医療現場で共通に必要な知識と技能、倫理観を修得したうえで、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門的な知識と技能を修得するための科目を配置する。(DP②に対応)
- ④ 人間力の概念を理解し、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を修得するための科目を配置する。(DP①及び③に対応)
- ⑤ 日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、保健医療分野において AI を活用できる知識とデジタル医療に対応する科目を配置する。(DP④に対応)

- ⑥医療産業人としての知識と技能を体系的に深く理解し、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門的な知識、技能、態度の総合的な向上を図るための科目を配置する。(DP②及び③に対応)

<教育方法>

- ①カリキュラム・マップを踏まえた授業を実現するため、シラバスの各科目の概要・到達目標・成績評価の方法は学部として組織的に確認し、質的向上を図る。
- ②講義と演習、実習を組み合わせ、主体的な学びの実践を通じて知識と技能の深化・定着を図る。

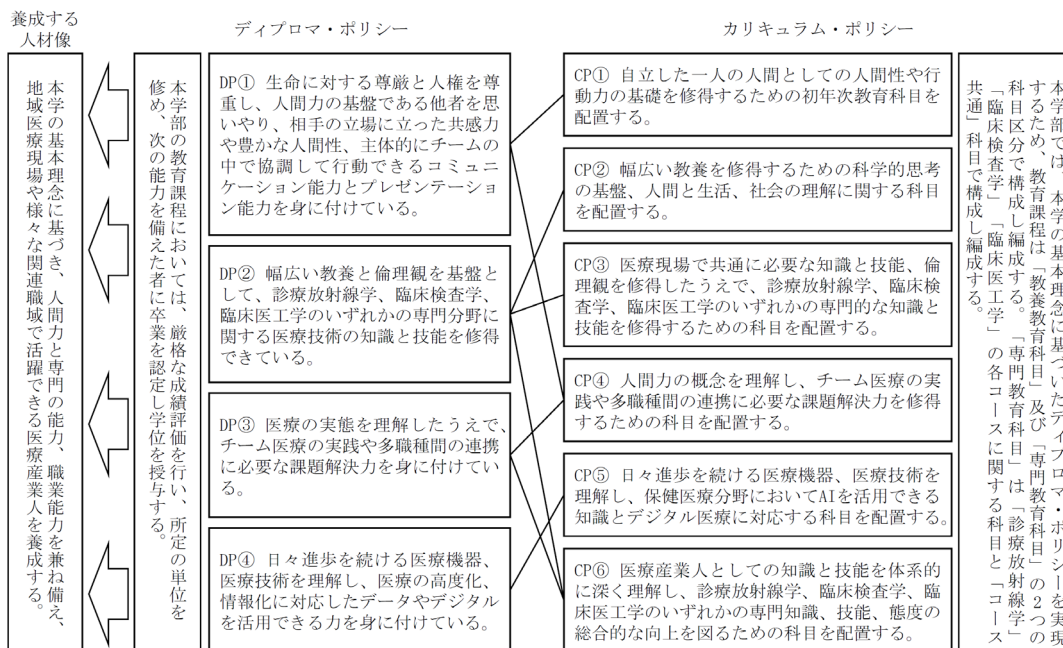
<学修成果の評価>

- ①シラバスに到達目標を具体的に明示し、到達目標に対応した評価方法により厳格な成績評価を行う。
- ②ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力の達成状況を確認するため、その総括的評価を卒業研究において行う。

<養成する人材像、ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)の連関図>

日本文理大学 保健医療学部 保健医療学科

養成する人材像、ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)の連関図



(2) 教養教育科目

教養教育科目は、主体的な学びへ転換する初年次教育科目を土台として、産業界で必要な人間力の基礎を育成する科目と、幅広い教養を修得するための科学的思考の基盤、人間と生活、社会の理解である基礎分野を網羅する科目を開講し、教育課程を編成している。

(3) 専門教育科目

診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学の基礎的な知識と技能を深めるために主要な専門基礎分野の多くを必修科目とし、それぞれの学問領域の専門性を高める基礎知識を1年次から4年次まで段階的に履修することで専門知識の定着を図り、さらに専門知識としての医療技術の理論と実際を学ぶ専門教育科目を配置し、全学年を通して専門基礎知識と専門知識を積み上げていくなから、臨床での実践を想起させるようなカリキュラム構成とした。

専門基礎分野では、医療従事者として必要な医学的基礎知識や医療の歴史、倫理観を学び、チーム医療などの概要を学修し、医療産業人として基盤となるべき考え方、知識を身に付けることを目標とし、多くの科目を3コース共通の科目として、1年次には、「解剖学」「生化学」「医学概論」「生理学」「病理学1」「薬理学」を配置する。2年次には「公衆衛生学」を配置する。

また、コース共通科目として3年次にチーム医療の一員として、医療の内容を把握し理解する能力を養うために「チーム医療概論」を配置し、また、医療安全について職種を超えた知識の修得を目的として「医療安全論」を必修科目として配置する。

診療放射線学コースの「臨床実習(診療参加型)」、臨床検査学コースの「臨地実習」は3年次後期に配置し、また臨床医工学コースの「臨床実習」は4年次前期に配置する。それぞれ学内で学んだ知識や技能を実際の医療現場で見学・体験することによって、臨床スキルの修得を図り、医療現場の現状や問題を把握できるようにしている。

3コースそれぞれが目指す専門職の違いを乗り越えて、医療とそれぞれの職種を理解し、新たな課題発見のためのチーム協働を学ぶための科目として「チーム協働と課題解決」を3年次に配置し、既設の工学部及び経営経済学部そして本学部が連携する科目として、「保健医療と工学」及び「保健医療と経営」を4年次に配置している。

4年次には、「臨床実習」、「臨地実習」で得られた知識と医療技術者としての意識を踏まえながら、知識と技能を体系的に整理してより深く理解し、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学それぞれの専門知識、技能、態度の総合的な向上を図る科目を配置する。

さらに4年次には通年の「卒業研究」を通して、先行研究や新たな知見を読み解く力を養い、自ら設定した研究テーマに沿って、これまでに修得した専門的知識や理論を活用しながら、必要な調査・実験やデータ収集・解析及び考察を卒業論文として纏める能力を身に付けることを目的として編成されている。

1) 診療放射線学コース

専門基礎分野の科目は、診療放射線技師に求められる医学的基礎及び理工学的知識全般の

理解と、専門分野の理解を助けることを目的として、指定規則に定められた『人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』『保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術』の2つから構成される。

①人体の構造と機能及び疾病の成り立ち

人体の構造と機能、細胞・組織の基礎、人体の構成臓器について学び、さらに生命現象や、生体の生命活動・恒常性について生物学的側面から学び、生体内で生じる様々な生体反応及びそのメカニズムについて学修し、そして各器官の主な疾患の原因及び変化について、物質代謝障害、循環障害、退行性病変、炎症、新生物等について形態学的並びに機能的変化を通して系統立てて理解する科目として配置する。

「解剖学」で学んだ知識を基に X 線 CT や MRI 画像診断装置等の画像診断装置で撮影された画像を用い、より臨床に直結した解剖学を学び、画像読影の補助をはじめとする各種診断法の精度向上に寄与できる知識を身に付けることを目的として、「臨床画像解剖学」を必修科目として配置する。

「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床画像解剖学」等の基礎医学に関する講義で学んだ知識を理解し、診療放射線技師として業務を遂行するうえで必要な、医学的知識と問題解決能力を養うことを目的として、「基礎医学大要」を必修科目として配置する。

②保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術

「放射線基礎工学」は、理工学分野の基礎となる電界や磁界などの物理的概念の数学的手法を理解し、放射線計測学の基礎知識を学修することを目標として配置し、その基礎的な理解を基にして「医用工学」を配置する。

放射線科学分野を学ぶ上で必要な放射線物理学の基本的事項、原子や原子核の構造と性質及び種々の放射線の発生方法及び物質との相互作用の概念等について理解することを目的として、「放射線基礎科学」を配置する。また、放射線発生の原理や放射線と物質の相互作用、放射線の測定法とその原理、測定機器の種類と原理、各種放射線の線量計算の理解を目的として、「放射線物理学」及び「放射線計測学」を配置する。

また、放射線を発生する物質の種類と特性、放射性核種の製造、標識合成等の理解のために、「放射化学」を配置する。

「放射線物理学」「医用工学」「放射化学」「放射線生物学・疫学」「放射線計測学」の各講義で学んだ内容について実験を通して理解を深め、また実験の共同作業を通して、2、3 年次の「診療画像技術学実習 1」「診療画像技術学実習 2」及び「臨床実習」における、チーム医療の体験に繋ぐことを目的として、「理工学実験」を配置する。

倫理規範の確立及び研究倫理などの重要性を学ぶ「医療倫理学」を配置する。

それぞれの科目の分野として『診療画像技術学・臨床画像学』『核医学検査技術学』『放射線治療技術学』『医療画像情報学』『放射線安全管理学』『医療安全管理学』『実践臨床画像学』『臨床実習』『診療放射線学』から構成し、医療現場において診療放射線技師が携わる、診療画像診断

業務や放射線治療業務に必要となる基礎的な知識と基本的な技術を系統的に理解することを目的とする。

①診療画像技術学・臨床画像学

X線撮影装置・X線コンピュータ断層撮影・磁気共鳴断層撮影・超音波撮影等の原理を理解し、それぞれの装置の構成、使用法及び保守管理法を学ぶことを目的として、「診療画像機器学 1・2」を必修科目として配置する。また、X線撮影の基礎及び単純撮影法、造影検査における造影剤及び各種投与薬剤の薬理について学ぶことを目的として「放射線撮影学 1・2」を配置する。また、撮影に必要な知識・技術、画像処理・画像解析、画質評価、正常所見、代表的な異常所見及び緊急対応を要する画像所見について学び、X線CT撮影法、MRI検査法、超音波検査法、マンモグラフィ検査法、疾患と検査の適応及び読影の補助について理解することを目的として、「診療画像検査学 1・2」「診療画像技術学実習 1・2」「臨床画像学」などの5科目を必修科目として配置する。

②核医学検査技術学

核医学検査の原理及び放射性薬剤について学び、核医学検査に用いる装置の構成、使用法及び保守管理法を理解し、核医学検査の実施に必要な知識・技術、画像処理・画像解析、正常所見及び代表的な異常所見について理解する科目として、「放射線医薬品学」「核医学検査技術学 1・2」の3科目を必修科目として配置する。

③放射線治療技術学

放射線治療の原理を学び、放射線治療に用いる装置の構成、使用法及び品質保証・品質管理を理解し、放射線治療の実施に必要な知識・技術及び吸収線量の計測と評価について理解する科目として「放射線腫瘍学」「放射線治療技術学 1・2」「放射線治療機器学」の4科目を必修科目として配置する。

④医療画像情報学

医療画像情報の基礎を理解し、医療画像に用いられる画像処理及び画像評価や、医療情報システムの構成、そして運用に必要な知識を理解する科目として、「医療画像工学」「医療画像情報学 1・2」の3科目を必修科目として配置する。

⑤放射線安全管理学

放射線防護の基本理念を理解し、放射線計測及び放射線管理の知識・技術を身に付け、事故の対策、発生時の対応等の問題解決能力を養い、放射性廃棄物の処理など放射線の安全管理に関わる関係法規について理解する科目として、「放射線安全管理学」「放射線関係法規」の2科目を必修科目として配置する。

⑥医療安全管理学

医療安全の基礎的知識を身に付け、医療事故や院内感染の発生原因とその対応について学び、放射線機器を含む医療機器及び造影剤を含む医薬品に関わる安全管理を理解し、救急救命対応の知識や技術、また造影剤の投与による副作用発生時等、診療放射線技師としての患者急変への対応について理解することを目的として、「医療安全論」及び「医療安全管理学」を必修科目として配置する。

⑦実践臨床画像学

臨床画像学で学んだ知識・技能を用い、医療現場における放射線機器等の取扱い、患者への対応及び検査に関わる説明、チーム医療及び他職種との連携、医療情報の取扱いについて実践的に学習する。

また、静脈路の確保及び造影剤・RI検査医薬品の注入手技、超音波検査における静脈路からの造影剤注入、抜針及び止血の手技、動脈路からの造影剤注入装置の操作の手技、肛門へのカテーテル挿入や、鼻腔へ挿入されたカテーテルからの造影剤注入の手技などの実践的知識・技術を身に付けることを目的として「実践臨床画像論」を必修科目として配置する。

⑧臨床実習

患者の接遇方法やチーム医療の実際など、講義や学内実習だけでは十分に理解できない事項について理解する。診療放射線技師としての基本的な実践能力を身に付け、併せて、多様なニーズを有する患者への適切な対応を学ぶ。また、医療チームの一員としての役割を理解し、責任を認識することを目的として、講義や演習で学修した放射線検査・治療に関する知識と技術の統合を図るとともに、医療施設等で臨床実習の指導者の下、実際に患者に接しながら診療放射線技術に関する実践的な能力を身に付けるための科目として、「臨床実習(診療参加型)」を必修科目として配置する。

医療人としての自覚を身に付け、チーム医療における診療放射線技師の役割を認識するとともに、各種画像診断機器の操作及び管理、画像処理、読影の補助等の基本的な技術に関する実践能力と対人的な対応能力を身に付けることとする。また、核医学検査の基本的事項、放射性医薬品の取扱と管理、機器の基本的操作と管理、各種検査法の概要、各種画像評価における専門的な技術に関する実践能力を身に付け、また放射線治療の基本的事項、機器の基本操作と管理、治療計画の概要、各品質管理における診断や治療の一連のプロセスの中で、主に核医学技術学及び放射線治療技術学における専門的な技術に関する実践能力を身に付けることを目的とする。

⑨診療放射線学

3年次までに修得した診療放射線技師として必要な医学的及び理工学的基礎知識、並びに診療放射線技術学に関する専門知識を総括的に把握するとともに、診療放射線技師に必要とされる知識を総合的に学修することを目的として、「放射線医科学演習」「放射線治療技術演習」「核医学

検査技術学演習」を必修科目として配置する。

また、診療放射線技術学と密接に関連する研究課題に対し、研究実施計画を立案し、学生自らが主体的に研究に取り組み、卒業研究としてまとめることを目的として、「卒業研究」を必修科目として配置する。

2) 臨床検査学コース

専門基礎分野の科目は、臨床検査技師に求められる医学的基礎及び理工学的知識全般の理解と、専門分野の理解を助けることを目的として、指定規則に定められた『人体の構造と機能』『臨床検査の基礎と疾病との関連』『保健医療福祉と臨床検査』『医療工学及び医療情報』から構成される。

①人体の構造と機能

私たちの健康は正常な機能や体の構造があって初めて成立する。臨床検査技師の業務に付随する基本的な生体现象の正確な理解、検査精度の向上及び、血清、検体検査及び生理学的検査などの臨床検査に必要な知識の修得を目的として「解剖学」「生化学」「生理学」「分子生物学」「薬理学」をコース共通科目として配置する。また、生活習慣病などの疾病について、食生活と健康の観点から学び、食品摂取による生体への影響と臨床検査の関連についての知識を修得するため、「栄養学」を必修科目として配置する。

②臨床検査の基礎とその疾病との関連

高度化する医療ニーズに対応した検査情報の提供を実践するため、医学・医療における検査の基礎となる生理現象のみならず、臨床で重要となる疾患について学び、救急や病棟、在宅など様々な現場で行われる臨床検査を理解するとともに、疾病の成因を系統的に把握、理解することを目的として、「医学概論」「病理学 1」「免疫学」などのコース共通科目を配置する。その他、各種疾患の病因、発生機序、経過・予後等と臨床検査との関連をより深く学ぶために、「病理学 2」を必修科目として配置する。

また、世界レベルで考慮すべき感染症として、新興・再興感染症、人畜共通感染症、輸入感染症を学び、感染防御の立場から消毒と滅菌、薬剤耐性菌、化学療法、ワクチンについての知識の修得を目的として「微生物学」を必修科目として配置する。

③保健医療福祉と臨床検査

高齢化の進展に伴う医療需要の増大や地域保健医療システム及び介護福祉、予防医学、在宅医療、地域包括ケアシステム等について学び、多職種連携について理解することを目的として「保健医療福祉論」を配置する。

また、日本における地域社会への取り組みや世界的に見た日本の状況を把握し、私たちを取り巻く環境の変化と臨床検査技師の役割を理解することを目的として「公衆衛生学」「公衆衛生学演習」を配置する。これらの環境を取り巻く医療と法律、臨床検査技師の業務に関連した法律等を理

解し、医療過誤への理解、臨床検査技師の法的責任を理解するため、「関係法規(臨床検査)」を必修科目として配置する。

④医療工学及び医療情報

検査領域における電気工学的計測技術について理解し、医用工学の起源、生体情報の特異性などを理解し、医療に利用されている医療機器(ME 機器)に関する理工学的基礎と安全性に関する知識を身に付けることを目的として、「医療工学概論」を必修科目として配置する。

また、臨床検査室で血液、尿、組織などの生体試料を用いる検査に使用する機器、生体信号を生体情報に変換する生理検査機器、画像診断装置について理解することを目的として、「検査機器総論」を必修科目として配置する。また、病院システムと検査システムの関係性を理解し、臨床検査技師が扱う情報の意義、情報の種類、患者のプライバシーの保護、知的所有権などの権利保護や情報倫理について理解することを目的として、「情報科学概論」を必修科目として配置する。

専門分野の科目は、『病態学』『血液学的検査』『病理学的検査』『尿・糞便等一般検査』『生化学的検査・免疫学的検査』『遺伝子関連・染色体検査』『輸血・移植検査』『微生物学的検査』『生理学的検査』『臨床検査総合管理』『医療安全管理』『臨地実習』『臨床検査学』から構成し、医療現場において臨床検査技師が携わる検体検査業務や、生理学検査業務などに必要となる基礎的な知識と基本的な技術を系統的に学習することを目的とする。

①病態学

臨床で重要となる各種疾患の病態を体系的に学び、疾患と臨床検査との関わりを理解し、各種検査データから、疾病ごとの患者の病態に関する検査データの変動及び必要な検査項目を理解し、医療チームの一員として臨床に対して支援できる能力を養い、また各臓器の特異的な臨床医学の知識を身に付けることを目的として、「臨床病態学 1・2」「臨床検査医学」を必修科目として配置する。

また、臨床検査の実習で使用する単位、試薬、器具・機器の名称及びその使用方法と原理を理解し、器具・機器を適切に使用できる基礎知識と技術を身に付けるために、「臨床検査学演習」を必修科目として配置する。

②血液学的検査

血液に関して疾病時の組織的、機能的変化を形態学的検査及び遺伝子関連・染色体検査や、血液学的検査の知識と技術、また結果の解析と評価について理解し、また、血液の各成分の様々な用手法による測定原理や、基本的な染色原理・染色方法とそれぞれの血球の特徴について理解するために、「血液検査学」を必修科目として配置する。また、血液の機能と構造についての正確な検査手法を身に付けるため、血液検体を観察・測定するまでの一連の操作・技術を修得することを目的として、「血液検査学実習」を必修科目として配置する。

③病理学的検査

臓器・組織・細胞等からの検体の採取による、種々の形態学的検査及び遺伝子関連・染色体検査について、病理学的検査の知識と技術及び結果の解析と評価について理解することを目的として、「病理組織検査学」「病理組織細胞検査学実習」を必修科目として配置する。その中でも特に、婦人科や呼吸器領域における癌や腫瘍などのスクリーニングに関連した「細胞診検査学」を配置し、より深く組織・細胞の形態学的検査を学ぶ。

④尿・糞便等一般検査

臨床検査におけるスクリーニング検査に重要な尿・糞便等を検体とする一般検査における、正常時及び疾病時の検体の性状あるいは細胞等の形態学的検査の必要性及び、尿・糞便等一般検査の観点からの生物化学的分析の理論と実際を理解、結果の解析と評価について理解することを目的として、「一般検査学演習」を必修科目として配置する。また、糞便等を検体とし、ヒトの健康に直接間接に関わる動物を扱い、それらが関係する疾病の発生機序と検査法を理解し、世界における寄生虫症検査の重要性を理解する目的として、「寄生虫検査学実習」を必修科目として配置する。

⑤生化学的検査・免疫学的検査

全血、血清、血漿等の各種生体試料に含まれる成分について、検査に必要な単位、精度管理、試薬に対する基礎知識をはじめ、生体の生化学的・免疫学的検査の観点から化学的分析による検体検査の理論と実際の検査法の理解、また、検査に用いられる放射性同位元素を含む検査法の理解、結果の解析と評価について学ぶことを目的として、「生体分析検査化学」「生体分析検査化学実習」「免疫検査学」「免疫検査学実習」を必修科目として配置する。

⑥遺伝子関連・染色体検査

各分野の検査法において重要な役割を果たしている遺伝子関連・染色体検査について、遺伝子、染色体、ゲノムの概念と基礎知識を学び、各種生体材料の取扱法や、遺伝子検査の観点からの各種分析法の理論と実際、及び結果の解析と評価について理解することを目的として、「遺伝子・染色体検査学」「遺伝子・染色体検査学実習」を必修科目として配置する。

⑦輸血・移植検査

病因・生体防御機能のひとつである免疫の仕組みを理解し、また輸血、移植、遺伝子関連に関する検査の理論と実際、及び結果の意義及び評価について理解することを目的として、「輸血・移植検査学」「輸血・移植検査学実習」を必修科目として配置する。

⑧微生物学的検査

微生物の病原性と感染の仕組みを理解し、病原性、感染症防御に関する検査の理論、微生物

が持つ生物的性状の変化とそれらを利用した検査法の理解、そして、検査結果の意義及び評価の理解と、細菌の同定鑑別試験や薬剤感受性試験技術などを理解することを目的として、「微生物検査学 1・2」「微生物検査学実習」を必修科目として配置する。

⑨生理学的検査

人体からの生体機能情報を収集するための心電図や脳波測定などの各種検査法の理論と手技及び患者接遇について理解し、様々な条件下における結果の解析と評価、また医療現場における多様なニーズに対応できる技術や、検査時の急変の対応について理解することを目的として、「臨床生理検査学 1・2」「臨床生理検査学実習」を必修科目として配置する。

また、生体の構造と機能を理解し、疾患時における生体の形態的变化を理解し、疾患を発見するための評価法と手技について学ぶため、「画像検査学」「画像検査学実習」を必修科目として配置する。さらに、最新の画像検査法に対応するため、「画像・AI 解析検査学」を必修科目として配置する。

⑩臨床検査総合管理

検査データの可視化や検定、推定を理解することを目的として「医療統計学 1・2」を配置する。また 1, 2 年次で学んだ臨床工学技術の演習及び実習の総合的に理解のために「臨床検査総合演習」を配置する。また臨床検査の精度管理・品質保証及び人材・業務・機器・情報・運営・安全に関する管理法を理解するとともに、臨床検査(健康診断)の重要性と衛生検査所(検診センター)の役割と業務について理解を深めるとともに、臨床検査室及び衛生検査所に対する認証制度について理解することを目的として、「検査総合管理学」を必修科目として配置する。

⑪医療安全管理

臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、また感染管理及び医療安全と患者接遇に配慮して、適切に検体採取ができる能力を身に付ける。また採血・検体採取に伴う危険因子について理解し、合併症の発生時に適切に対処できる能力を身に付け、医療事故等発生の際の要因分析とその対策について理解することを目的として、「医療安全論」及び「医療安全管理学実習」を必修科目として配置する。

⑫臨地実習

臨床検査技師としての基本的な実践技術及び施設における検査部門の役割を理解し、患者との適切な対応や、臨床現場(救急、病棟、在宅等)や健診、衛生検査所等での役割と業務、施設内の各医療チームの役割と、実施内容を理解するとともに、それらの一員としての責任と自覚を養い、適切な接遇マナーを身に付けることを目的として「臨地実習」を必修科目として配置する。また、臨地実習前に実技試験及び指導等を行う「臨地実習前総合実習」を必修科目として配置する。

⑬臨床検査学

3年次までに修得した臨床検査技師として必要な医学的及び理工学的基礎知識、並びに臨床検査技術学に関する専門知識を総括的に把握するとともに、臨床検査技術の現状と課題に関する認識を深め、探究する能力を養うことを目標として、「臨床検査論 1・2・3」を必修科目として配置する。

また、臨床検査技術学と密接に関連する研究課題に対し、研究実施計画を立案し、学生自らが主体的に研究に取り組むことにより、応用的な臨床検査技術の理解を深め、卒業研究としてまとめることを目的として、「卒業研究」必修科目として配置する。

3) 臨床医工学コース

専門基礎分野の科目は、臨床工学技士に求められる医学的基礎及び理工学的知識全般の理解と、専門分野の理解を助けることを目的として、指定規則に定められた『人体の構造及び機能』『臨床工学に必要な医学的基礎』『臨床工学に必要な理工学的基礎』『臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎』から構成される。

①人体の構造及び機能

解剖学、生理学、生化学などの観点から、人体の構造と機能を系統的に学び、生命現象を総合的に理解し、関連科目を修得するための基礎的能力を養うことを目的として、コース共通科目の「解剖学」「生理学」「生化学」の理解を通して、基礎的な医学的内容についての実技や実習により、基礎医学に関する基礎的知識と技術を身に付け、人体模型等による各部の観察、正常組織の顕微鏡観察、生理学に関する基礎実習として、「基礎医学実習」を必修科目として配置する。

②臨床工学に必要な医学的基礎

臨床工学に必要な臨床医学の基礎及び各種疾患の病態を体系的に学び、チーム医療の一員として、医療の内容を把握し理解する能力を養う。また、保健医療福祉の向上のために、医療倫理、予防臨床医学、在宅医療、地域包括ケアシステム、多職種連携において臨床工学技士が果たすべき役割を理解することを目的として、コース共通科目の「チーム医療概論」「保健医療福祉論」のほか、「関係法規(医工学)」を必修科目として配置する。

③臨床工学に必要な理工学的基礎

臨床工学に必要な理工学的基礎知識を修得し、医療に应用される理工学的技術・機器を安全かつ効果的に使用するために必要な基礎的能力を身に付けることを目的として、「応用数学」「医用電気工学総論」「医用電子工学総論」を必修科目として配置する。

また、「医用電気工学各論」「医用電子工学各論」「医用機械工学」を必修科目として配置する。

医用電気工学総論・各論で修めた知識や、医用電子工学総論・各論で修めた知識をもとに、電気工学や電子工学の基本的な知識と技術を身に付けることを目的として、「医用電気工学実習」

「医用電子工学実習」「医用計測工学」を必修科目として配置する。

④臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎

医療分野で利用される情報処理技術及びシステム工学を学び、医療機器及び関連データの管理・分析・効率化などその実践応用に必要な基礎的能力を身に付けることを目的として「医療情報処理工学」を必修科目として配置する。また、工学的な視点から医用システムを理解・解析する能力を養うために、診断と治療の2つの側面から画像診断と再生医療について理解することを目的として、「医用システム工学」「システム・情報処理実習」「データサイエンス概論」を必修科目として配置する。

専門分野の科目は、『医用生体工学』『医用機器学及び臨床支援技術』『生体機能代行技術学』『医療安全管理学』『関連臨床医学』『臨床実習』『臨床医工学』から構成される。

①医用生体工学

工学の基礎概念を用いて生体を理解し、工学的技術を医療機器に応用するための知識・技術や生体医工学の基本的事項及び、生体の物理・化学特性と特異性、電気的特性、磁場に対する特性、音響特性などについて基礎的知識を身に付けることを目的として、「医用工学概論」「生体物性工学」「医用材料工学」「生体計測工学」を必修科目として配置する。

②医用機器学及び臨床支援技術

臨床工学技士が取り扱う各種医療機器の原理と臨床的意義について理解するため、各種医療機器の安全性や有効性、構造、原理、正しい使用方法についての知識や、医用機器と関連技術、医用機器の人体への適用や生体情報モニタリングや生体計測の概念、医用治療機器の概念や生体機能代行補助機器について理解することを目的として、「医用機器学概論」を配置する。また、臨床工学技士が取り扱う各種医療治療機器等の適切な操作と保守管理を行うために「医用治療機器学」を配置する。また、臨床技術支援に関する実践的知識や医工学的基礎知識の臨床応用能力を身に付けるため「臨床支援技術学」を必修科目として配置する。

またその他、医用機器学で修めた知識をもとに、臨床工学技士が取り扱う各種医療機器の適切な操作と保守管理方法について、実際の医療機器に触れながら原理、点検、方法、使用方法などを理解することを目的として、「医用機器学実習」を必修科目として配置し、生体が活動しているときに発生する電氣的・力学的・科学的信号を計測することで、生体各部の機能や状態を把握し、治療等の活用についての理解を深めることを目的として「生体計測装置学」を配置する。また、臨床支援技術学で修めた知識をもとに、臨床支援技術の実践能力を身に付けるために「臨床支援技術学実習」を配置する。

③生体機能代行技術学

心臓血管外科・循環器内科を中心とした循環器領域、移植医療、その他の外科手術領域での機械的循環・呼吸補助について理解することを目的として「循環制御治療学」、また人工呼吸器に関する臨床的意義と臨床工学技士の関わる役割について理解を深め、呼吸器系の生理と病態及び医療ガスの物性に関する基本的知識を身に付けることを目的として「人工呼吸療法学」、また血液透析、急性血液浄化療法に関する原理・水処理システム、患者モニタリング法、バスキュラーアクセスの管理に関する基本的知識を身に付けることを目的として「血液浄化療法学」を必修科目として配置する。

また、循環器治療領域で使用される機械的呼吸・循環補助装置に関する基本構造、管理方法を各疾患に応じた操作方法・保守管理方法についてシミュレーション実習を通して学ぶことで、臨床で必要とされる基本的な実践能力を身に付けることを目的として「循環制御治療学実習」を必修科目として配置する。

また、臨床工学技士として臨床業務に携わる上で必要となる基本的技術を学び、人工呼吸器の正しい取り扱い方法、管理方法、モニタリング、患者管理方法について実践的な知識と技術を身に付けることを目的として「人工呼吸療法学実習」を必修科目として配置する。

また、「血液浄化療法学実習」を必修科目として配置し、臨床工学技士として臨床業務に携わる上で必要となる基本的技術を学ぶ。

④医療安全管理学

医療機器の安全な取り扱い方法を理解し、電気的安全、電撃・レーザー・超音波・熱・放射線に対する生体反応や事故事例、医療ガスや滅菌・消毒の基本的な注意事項、機器・設備の法的規格、漏れ電流、接地抵抗、人間工学的安全対策に関する知識を身に付けることを目的として、「医療機器安全管理学」を必修科目として配置する。

各種医用治療機器(電気的治療機器、機械的治療機器、手術用機器等)の適切な操作と保守管理方法について、実際の医療治療機器に触れながら原理、点検方法、使用方法及び医用治療機器の安全管理に関する基本的知識と技術を身に付けることを目的として、「医用治療機器学実習」を必修科目として配置する。

また、各種生体計測装置の適切な操作と保守管理方法について実際の生体計測装置に触れながら、生体計測装置の安全管理に関する基礎的知識と技術を身に付けることを目的として、「生体計測装置学実習」を必修科目として配置する。

また、質の高い医療を提供するためのシステムの構築と、医療法、チーム医療、病院全体の医療安全対策管理方法について、実例を中心として学び、医療機関で医療安全管理責任者としての責務を果たすための医療システムマネジメントに関する基本的知識を身に付けることを目的として、「医療システムマネジメント論」を必修科目として配置する。

⑤ 関連臨床医学

臨床工学業務を行う上で必要な関連疾患の病態生理、検査・診断及び治療法を理解することを目的として、「生命科学概論」「臨床医学英語」「救急・麻酔・集中治療医学」を必修科目として配置する。

また、内科学の概要について理解し、臨床医学に関する基本的な知識を学び、高度先進医療を実践する上で必要となる内科学の知識を身に付けることを目的として、「臨床医学総論(内科系)」を、また外科学の概要について理解し、実際の臨床現場で生命維持管理装置を中心とした医療機器を操作及び保守管理を行い、チーム医療の中で高度先進利用を実践するために必要となる外科疾患、治療法、侵襲、合併症に関する基本的知識の理解を目的として「臨床医学総論(外科系)」を必修科目として配置する。

⑥ 臨床実習

医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ患者への対応について臨床現場で学修し、チーム医療の一員としての責任と役割を理解し、また、臨床実習前後の到達度評価により、臨床実習に臨むために必要な知識、技術、患者対応及び、臨床実習の効果を確認し、臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身に付けることを目的として「臨床実習」を必修科目として配置する。

臨床実習には、血液浄化療法関連実習、呼吸療法関連実習及び循環器関連実習並びに治療機器関連実習及び医療機器管理業務実習を含む。

⑦ 臨床医工学

3年次までに修得した臨床工学技士として必要な医学的及び理工学的基礎知識、並びに臨床医工学技術学に関する専門知識を総括的に把握するとともに、人工臓器の現状について理解し、臨床工学技士が関わる医療機器を用いた最新治療、診断技術について理解を深めることを目標として、「人工臓器学」「医工学治療論」「レギュラトリーサイエンス論」を必修科目として配置する。

また、「卒業研究」は必修科目として配置し、臨床医工学と密接に関連する研究課題に対し、研究実施計画を立案し、学生自らが主体的に研究に取り組み、発表を行い、卒業論文としてまとめることで、論理的思考を経験し、臨床医工学における研究の重要性を学修する。

(4) リメディアル教育・入学前教育

本学部の教育を受ける上で前提となる数学の基礎学力について、各学生の入学時の学力を把握し、適切な支援を行うことも大学生活を成功に導く上で重要であるが、入学者選抜試験の受験形態が多様であるため、統一的な数学の基礎学力を把握することが難しい。そこで、入学時に数学プレースメントテストを実施することとしている。これらの結果に基づいて数学の基礎学力が不足する学生に対し、教育課程外のリメディアル教育プログラムとして、「基礎学力講座・数学」を1年次前期に開講する。リメディアル教育プログラムは週2コマ8週間の構成とし、早期に基礎学力を底上げすることとしている。さらに不十分な学生に対しては、前期後半に再度の受講を義務づける。

また、早期に入学手続きが完了する「学校推薦型選抜」や「総合型選抜」による入学予定学生を対象に入学前教育を教育推進センターが主管となって実施することとしている。入学前教育は早期に入学が決定したことによる学習に対するモチベーションの低下の防止や基礎学力の向上を目的に、高校での学習内容の復習問題を提供する。具体的には、e-learning による「数学 I」の範囲を中心とした数学の課題を課し、入学前年の 12 月以降 3 月まで、入学手続きが完了者した者から随時行い、2 週間程度を区切りとして、進捗状況を確認しながらフォローアップを行うこととしている。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

1) 授業方法

本学部の授業は、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせて構成する。理論と実践を融合し一体的に学修できる構成にしている。知識・理論の理解を目的とする授業は講義形式を中心とし、技術や技能及び態度を修得することを目的とする授業は演習形式としている。また、身に付けた知識・理論と技術や技能を実践し、現場で活用できるための授業を実験、実習形式としている。

また、授業は年間を前期・後期に分け、それぞれ 15 週にわたる授業を行うとともに、その後に学期末試験の期間を設ける。

2) 配当年次

科目の配当年次については、主に 1 年次から教養教育科目において、人間力の根幹となる幅広い教養や科学的・論理的思考の基盤を学修するための科目を配置している。2 年次には、各コースの基礎的な専門教育科目を履修し専門基礎力を身に付けるための科目を配置している。3 年次には専門能力を高め、専門技術を修得するための高度な専門教育科目を配置している。4 年次では、3 年次までに学んだ幅広い専門知識をもとにして、これまでに修得した内容を総合した実践的な理論や技術を修得するための科目を配置している。

3) 授業を行う学生数

本学の入学定員は、160 名で、コース入学定員は、診療放射線学コース 80 名、臨床検査学コース 50 名、臨床医工学コース 30 名である。授業の内容に応じた学生数は、科目の内容に応じて講義、演習形式は 160 人または 80 人、外国語科目は 40 人、実験・実習は担当教員を複数配置することにより 10～20 人(グループ編成)、臨床実習・臨地実習は 2～4 人、卒業研究は少人数～10 人程度で設定する。

(2) 履修指導方法及び卒業要件

1) 履修指導方法

本学では、入学直後からスタートアップセミナーを開催して、学生に配布する「学生便覧」に基づいて、本学の教育理念の理解や 4 年間の学修に必要な事項を説明し指導する。各学年の学期初めにはオリエンテーションを実施し、適切な履修計画策定に向けて履修指導を行う。また、4 年間を通じて学生一人ひとりにきめ細やかなサポートを実施するため、担任制を実施している。担任教員は、学生の科目履修にあたり、「履修モデル」【資料 15 履修モデル】を提示しながら、履修計画・学修目的・科目選択の指導を行うほか、学修や学生生活、進路等について、指導、助言を行う。また、授業内容や履修方法に関する学生の質問や相談に応じるために、専任教員はオフィスアワーを設定し、研究室に待機する。オフィスアワーの日時については学生に周知した上で実施する。

2) 履修上限の設定

本学部では、学生の学習時間を確保し、単位制度の実質化を図るために、履修科目の登録条件を設けることとし、1年間で48単位、学期(前期・後期)ごとに24単位を上限とする。

3) 他大学における授業科目の履修

他大学における授業科目の履修については、履修修得単位上限を本学学則第32条で60単位として規定しており、適切な履修体制のもとで必要に応じて学生が履修できるようにする。

4) 多様なメディアを利用して授業を行う場合

多様なメディアを利用して授業を行う場合、卒業要件に参入できる単位数は60単位を上限としている。

5) 成績評価

本学部の成績評価はSからEまでの5段階評価とする。Sは秀(100点換算で90点以上)、Aは優(同80点～89点)、Bは良(同70点～79点)、Cは可(同60点～69点)、Eは不可(同59点以下)である。S～Cの成績評価を得た者は、その科目の単位を修得した者とし、Eは不合格とする。

この5段階評価に加え、本学部ではGPA(Grade Point Average)制度を行う。各成績評価とGrade Pointの対応は、次のとおりである。

成績評価 Grade Point S(秀) 4.0、A(優) 3.0、B(良) 2.0、C(可) 1.0、E(不可) 0.0
単位を修得したときの取得ポイントは、[授業科目単位数×その科目のGrade Point]とする。GPAは、[取得ポイントの合計÷履修登録の授業科目の単位数の合計]で示される。

GPAの評点は、学生自身が学修結果を総合的、客観的に確認する指針となり、学修意欲の向上につながり、学生自身で学修目標を明確にし、主体的に学修を推進することに資する。また教員等が学生一人ひとりに対して指導する際に、効果的で適切な指導を行うための資料として利用し、教育の質の向上へのフィードバックを図る。さらに特待生や各種奨学生の選考資料として利用する。

6) 卒業要件

本学の卒業要件は、4年以上在学し、124単位以上修得とする。卒業に必要な単位の内訳は以下のとおりである。

【診療放射線学コース】

- ・教養教育科目 22単位(うち必修14単位)以上
- ・専門教育科目 コース共通 必修19単位 及び「医療統計学1」1単位
- ・専門教育科目 診療放射線学 必修82単位

【臨床検査学コース】

- ・教養教育科目 22単位(うち必修14単位)以上

- ・専門教育科目 コース共通 必修 19 単位及び「病理学 2」「微生物学」「分子生物学」「免疫学」「保健医療福祉論」「医療統計学 1・2」計 7 単位

- ・専門教育科目 臨床検査学 必修 76 単位

【臨床医工学コース】

- ・教養教育科目 22 単位(うち必修 14 単位)以上、

- ・専門教育科目 コース共通 必修 19 単位及び「分子生物学」「免疫学」「保健医療福祉論」計 3 単位

- ・専門教育科目 臨床医工学 必修 80 単位

7) 留学生の在籍管理の方法や入学後の履修指導、生活指導等について

留学生について、本学部では以下のとおり受入れを行う。

留学生の在籍管理の方法としては、既設学部が実施しているとおり、入国前指導や、入国時オリエンテーション等のオリエンテーションを適宜開催し、留学生の在籍管理と必要な留学支援を行う。また、留学生間(緊急時)連絡網を設けており、在籍状況の把握等を行う。

なお、連絡網の迅速な運用のため、留学生会の連絡網も活用しながら、漏れなく効率的な学生状況の把握に努める。

- ・留学生会(韓国)や留学生同士の連絡網の活用
- ・SNS による連絡網(LINE・WeChat・Cacao-Talk) 登録・活用
- ・大学 E メール(ユニパメール)活用
- ・留学生個人プライベートメールも必要に応じて活用

留学生の出席・単位取得状況を含む学習状況等をチェックし、必要に応じて指導する。こうした留学生の個別状況については、学生の担任、教務・学生支援担当から問題があがってくる場合もあるが、国際交流室でも適宜留学生状況をチェックし、対応する。また、国際交流室(室長 1 名、職員 4 名)では、留学生の在留資格管理やビザの更新等の管理や退学・休学等の管理・指導を行う。

留学生の生活指導としては、新入生の入国時は、国際交流室から先輩留学生へサポートを依頼する。留学生の生活・学習状況に現れた問題については、必要に応じて担任や教務・学生支援担当等と適宜連絡を取りながら、指導対応する。留学生への全体指導としては、定期的なオリエンテーションを開催し、生活上の問題意識を共有する。また、「留学生ガイドブック」「留学生就活ガイドブック」の各国語版(韓中英 3 か国語版)を配布し、生活等指導に活用する。

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学部における多様なメディアを利用した授業(以下、「メディア授業」という。)は、対面授業と同等の授業(映像・音声等による)をあらかじめ収録し、指定の期間中、学生がいつでも授業を視聴できるオンデマンド方式で行う。この場合、時間割上のコマ位置をコアタイム(教員がリアルタイムで質問等に対応する時間)とし、学生は1週間以内に授業を受講することとしている。

(1) 実施場所

メディア授業は、自宅等でインターネット環境を利用し、パソコンやタブレット、スマートフォン上で受講する。通信手段は学生個人の通信環境で行うため、受講場所は自宅等各々学生の通信可能な場所となる。

(2) 実施方法

学生は Web カメラの付いたパソコン、スマートフォン、タブレットなどの端末を用意し受講する。メディア授業は学生個々に各々通信可能な場所で受講することから、受講する際に本人認証を行い、かつログイン記録が残る方法により受講の有無を確認する。

(3) メディア授業実施のための学則等整備

本学部においてメディア授業を実施することについては、「日本文理大学学則」で明記し、併せて、運用等必要な事項について「日本文理大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業の実施に関するガイドライン」を定め実施する。

なお、これらは、告示(平成13年3月30日文科省告示第51号「大学設置基準第25号第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件」)の要件を満たすよう定めている。

(4) 告示の要件を満たすものであることの説明

本学部において実施するメディア授業は、毎回の授業コンテンツ受講(視聴)のほか、設問(解答入力後、その場の画面で正解・不正解が確認できる。)や課題レポートを課すことや、質疑応答、ディスカッション等を行うことを授業構成とする非同時双方向性の、いわゆるオンデマンド型により実施する。また、学生は授業後ただちに、授業担当教員に対し、疑問や質問をLMS上のメッセージ機能等で行うことができ、提出された質問等には随時授業担当教員や指導補助者が答えるほか、設問解答や提出される課題レポートに対しても、採点・添削等を行い、インターネットを介し受講者にフィードバックする。

7. 実習の具体的計画

(1) 実習の目的

本学部における臨床実習・臨地実習(臨床実習:診療放射線学コース及び臨床医工学コース、臨地実習:臨床検査学コース)は、医療従事者の養成教育の中で重要な科目であり、講義で学修した理論・知識・技術を臨床体験により統合させ、実践に必要な実技能力と医療従事者としての基本的な態度を身に付けることに加え以下の修得を目指す。

- 1) 臨床実習・臨地実習において、患者さんと接することで生命の尊さに触れ、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた医療従事者としての心構えを身に付ける。
- 2) 臨床実習・臨地実習において、多職種が連携し検査・治療に携わっていることを学び、チーム医療を実践するために必要なコミュニケーション力を身に付ける。
- 3) 臨床実習・臨地実習において、幅広い知識と医療技術がどのようにして地域産業界及び地域保健医療への貢献に繋がっているかを理解するとともに、将来の医療現場及び産業界において医療の質や安全性の向上に貢献できるようそれぞれの専門分野における探求心を身に付ける。

(2) 実習先の確保の状況

必要な臨床実習・臨地実習施設として、大分県を中心に、九州圏内の施設からの承諾を受け、学生に必要な施設数を担保している。学生の出身地や現住所を考慮した上で実習施設を決定する計画である。また、臨床実習・臨地実習先は各養成所指導ガイドラインに示されている基準を満たす施設とし、地域基幹病院中心に承諾を得た。

【資料 16-1 臨床実習・臨地実習施設一覧】

【資料 16-2 臨床実習・臨地実習承諾書】

【資料 16-3 臨床実習・臨地実習計画表】

(3) 実習先との契約内容

大学と実習施設の間で、実習に関する契約を文書で結ぶ。契約書の内容は、実習の期間、実習の内容、実習謝礼金、学生の規則遵守、法人機密情報の保護、保険加入、実習中の負傷・疾病、事故発生時の対応等である。実習施設に所定の契約書や実習要綱がある場合には、内容を検討の上、原則として実習施設の定めに従う。

【資料 16-4 臨床実習・臨地実習委託に関する覚書】

(4) 実習水準の確保の方策

本学では、実習水準を確保するために、下記に示す事項について実施する。

- 1) 実習指導者会議を開催し、事前打合せを行い、臨床実習・臨地実習先との連携強化を図ると共に、実習の目的や実習内容及び方法について確認し実習水準の確保に努める。また、事故など不測の事態への対応について十分に話し合い未然防止に努める。
- 2) 学内実習で、臨床実習・臨地実習に臨むにふさわしい総合的知識及び基本的技能・態度を

らかじめ身に付けさせ、その確認として実技試験を含む臨床実習・臨地実習前評価を行う。

- 3) 臨床実習・臨地実習前ガイダンスを開催し、臨床実習・臨地実習に対する心構えや患者対応、個人情報取り扱いについて周知徹底を図る。
- 4) 臨床実習・臨地実習期間中は、教員による巡回や定期的に登校日を設け実習の状況把握に務め、状況に応じた適切な指導を行う。

【資料 16-5 臨床実習・臨地実習要綱】

(5) 実習先との連携体制

実習開始前の実習指導者会議にて、実習目的、達成目標、実習計画、実習の心構え、諸注意、実習指導方法、実習評価基準について相互に確認する。実習中は、実習担当教員が、巡回指導や定期的な連絡により学生の状況を把握する。実習終了後は、実習担当教員が実習施設における指導者との協議の場を設け、反省点や達成目標の到達度について協議する。以上のように、実習前後及び実習中において実習先との連携体制を構築する。

(6) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況等）

臨床実習・臨地実習の際に必要な感染予防策として、B 型肝炎ウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、水痘ウイルス、ムンプスウイルスの抗原・抗体価検査と必要に応じてワクチン接種を必須とする。また、インフルエンザについては適宜接種を勧める。

臨床実習・臨地実習に臨む学生は、全員が総合補償制度 Will [ウィル] に加入する。Will は学生自身の傷害事故に加えて、実習先を含む 24 時間の賠償事故、さらに学生自身の感染症罹患や二次感染にも対応している。

学生には、個人情報保護に関するマニュアルの配布に加え、実習開始までに個人情報保護や守秘義務、人権尊重の考え方に関して具体例を示して教授し、特にブログやツイッターなどのソーシャルネットワークへの投稿が禁止であることを厳重に注意する。

【資料 16-6 個人情報保護に関するマニュアル】

【資料 16-7 個人情報保護に関する誓約書】

【資料 16-8 事故報告書】

(7) 事前・事後における指導計画

1) 実習前評価の実施

臨床実習・臨地実習前の学生に対して実技試験を含む評価を行い、臨床実習・臨地実習に臨むにふさわしい総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。評価点が平均より低かった学生、また、各課題で「問題あり」と指摘された学生に対しては、補習授業、レポート課題、実技試験を含む評価の振り返り学習などを課し、臨床実習・臨地実習に向けて臨床技能を高めるための指導を行う。

2) 事前の指導計画

実習担当教員は、実習の意義と目標、方法、留意点等を学生に指導する。さらに、実習前オリエンテーションにおいて必要な知識や情報の再確認を行うとともに、学生からの質問や相談に適切に応じられるように複数の実習担当教員による指導体制を整える。

3) 事後の指導計画

教員は各学生の実習の成果や問題点について個別面談や実習指導者との面談などにより状況を把握し、必要な指導を行う。

(8) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

1) 教員及び助手の配置

実習施設における指導者の配置計画については、各実習施設に1人の教員又は助手を配置する。教員又は助手の配置は、各実習施設の実習指導者と連携し、実習の計画・実施・評価について責任を持って業務を遂行できる体制とする。なお、助手に対しては学生からの聴取事項や伝達事項、また実習指導者から聞き取る内容などについて、事前に学内において指導を行う。

2) 巡回指導計画

担当教員は、各施設における学生の安全と適切な実習内容を維持するために、実習期間中に各実習施設に赴き実習指導者と面談し実習内容及び実習状況を把握したうえで、実習生と面談し実習指導者と連携して指導にあたる。なお、教員は講義のない日に巡回指導を計画し実施する。

【資料 16-9 教員別時間割】

(9) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設の選定においては、十分な実習指導経験を持つ指導者が担当可能であることを確認し、決定した。各実習施設における指導者の配置計画は、それぞれの実習施設の環境や業務体制に従い実施いただくよう要請する。

(10) 成績評価体制及び単位認定方法

評価は、実習施設の実習指導者からの評価(実習担当教員からの巡回指導報告を含む)、学生の実習記録を総合して成績判定し単位認定を行う。また、実習後には臨床実習・臨地実習で学修した内容について報告会を実施する。

1) 実習指導者からの評価(実習担当教員からの巡回指導報告を含む)

実習状況、学修評価(実践的技術・技能の修得状況)、実習態度について総合的に評価する。

2) 実習記録

学生は、実習で学修した内容を実習記録として日々記録し翌日に実習指導者に提出する。また、記載した実習記録の内容について実習指導者から課題が出された場合は遅滞なく提出する。

3) 実習報告会

実習後に実習生は実習報告会にて実習で学修した内容を学内で報告する。

【資料 16-10 臨床実習・臨地実習評価表】

8. 取得可能な資格

本学部において所定の単位を修得し卒業することにより、下記の資格を取得することができる。

コース名	取得可能な資格	資格の種類
診療放射線学	診療放射線技師国家試験受験資格	国家資格
臨床検査学	臨床検査技師国家試験受験資格	国家資格
臨床医工学	臨床工学技士国家試験受験資格	国家資格

【資料 17 診療放射線技師指定規則対比表】

【資料 18 臨床検査技師指定規則対比表】

【資料 19 臨床工学技士国家試験受験資格の関連科目】

9. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本学部・学科で掲げる卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現し、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定めた教育を受けるにふさわしい入学者を選抜するため、以下の入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を「学力の3要素」の観点から定める。また、ディプロマ・ポリシーとの関連性については、アドミッション・ポリシーの「知識・技能」については、ディプロマ・ポリシー②、「思考力・判断力・表現力」については、ディプロマ・ポリシー③及び④、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」についてはディプロマ・ポリシー①及び③と関連し、入学者選抜においてディプロマ・ポリシーを実現できる資質を有するかどうかを判断する。

1) 日本文理大学アドミッション・ポリシー（3学部共通）

- ① 本学の建学の精神及び教育理念を理解し、主体的・意欲的に学ぼうとする人
- ② 世の中の諸課題や変化に強い関心を持ち、社会・地域の発展に貢献しようとする人
- ③ 社会の一員としての自覚と誇りを持ち、若者らしい発想と行動力でチャレンジできる人

2) 保健医療学部保健医療学科アドミッション・ポリシー

【知識・技能】

- ① 高等学校までに履修した教科・科目について、大学での学修に必要な基礎事項を理解したうえで、特に数学または国語において、学習意欲と基礎学力を有する人
- ② 高等学校での総合的な探究、課外活動、資格取得などの実践的・体験的学習から得られた知識・技術・能力を有する人
- ③ 医療における診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の仕事に興味を持ち、それに必要となる知識・技術の修得に意欲的な人

【思考力・判断力・表現力】

- ① 自分の考えを他者に分かりやすく表現できる人
- ② 物事を多面的に考察し、保健医療を通じて社会・地域の発展、豊かな生活の創造に貢献する意欲を有する人
- ③ 事実や意見などの情報を読み解き、論理的に思考・判断できる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

- ① 医療人として豊かな人間性を培うために、社会・地域に対して旺盛な好奇心を持ち、幅広い視野で主体的に学び、社会的な要請に応えようと努力を続ける人
- ② 社会・地域の諸課題に対して、多様な人々と協働し、チームワークによって解決する方向を探ることができる人
- ③ 協調・協働して物事を実行していくために必要なリーダーシップを有する人

(2) 入学者選抜方法

1) 募集人員

学部／学科	コース	入学定員
保健医療学部／ 保健医療学科	診療放射線学コース	80 人
	臨床検査学コース	50 人
	臨床医工学コース	30 人
合 計		160 人

2) アドミッション・ポリシーで示す「学力の3要素」の評価方法

選抜区分	アドミッション・ポリシーで示す「学力の3要素」の評価方法		
	知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体性を持って 多様な人々と協働して 学ぶ態度
学校推薦型 選抜	調査書(共通) 基礎学力テスト(共通)	面接試験(共通) 志望理由書(共通) 基礎学力テスト(共通)	面接試験(共通) 調査書(共通) 志望理由書(共通)
総合型 選抜	調査書(共通) 基礎学力テスト(一部) 大学入学共通テスト (一部)	面接試験(共通) 自己推薦書(共通) 基礎学力テスト(一部) 大学入学共通テスト(一 部)	面接試験(共通) 調査書(共通) 自己推薦書(共通)
一般選抜	調査書(共通) 大学入学共通テスト (一部) 個別学力試験(一部)	志望理由書(共通) 大学入学共通テスト(一 部) 個別学力試験(一部)	調査書(共通) 志望理由書(共通)
その他 (社会人入 試)	調査書 小論文試験 経歴書	面接試験 志望理由書 小論文試験	面接試験 調査書 志望理由書

※(共通)は当該選抜区分のすべての入試区分に該当し、(一部)は特定の入試区分のみに該当する。

3) 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学校教育法第90条第1項及び学校教育法施行規則第150条で定められた大学入学資格を有する者に対して、各入学試験の定める選抜方法に従い、調査書の内容、推薦

書、学力検査、面接その他の能力・適性等に関する検査の成績等により、入学志願者の能力・適性・意欲・関心等を総合的に判定し、アドミッション・ポリシーで掲げる資質を有する入学者を選抜する。

【学校推薦型選抜】

学校推薦型選抜における選抜方法の考え方は以下の通りである。

アドミッション・ポリシーの「【知識・技能】①高等学校までに履修した教科・科目について、大学での学修に必要な基礎事項を理解したうえで、特に数学または国語において、学習意欲と基礎学力を有する人」、「【思考力・判断力・表現力】③事実や意見などの情報を読み解き、論理的に思考・判断できる人」を選抜するために、特に数理的な基礎学力や論理的な思考力を判断するための「数学」、文章読解力や論理的な思考力を判断するための「国語」のいずれかの選択制とする。

面接試験では、アドミッション・ポリシーの「【思考力・判断力・表現力】①自分の考えを他者に分かりやすく表現できる人、②物事を多面的に考察し、保健医療を通じて社会・地域の発展、豊かな生活の創造に貢献する意欲を有する人」、「【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】①医療人として豊かな人間性を培うために、社会・地域に対して旺盛な好奇心を持ち、幅広い視野で主体的に学び、社会的な要請に応えようと努力を続ける人」を選抜することを目的としている。

①指定校推薦入試／日本文理大学附属高校推薦入試

本学独自の基礎学力テスト1科目(100点満点)及び面接試験(100点満点)の合計200点満点を課す。上記の結果に加え、「志望理由書」「学校長推薦書」「調査書」の記載内容を総合判定する。

試験科目は、「数学(数学Ⅰ)」「国語(国語総合(現代文))」からの1科目選択とする。

また、出願基準については、指定校推薦入試では本学で定める高等学校に在籍し評定平均値3.3～3.5以上の者と定める。附属高校推薦入試では附属高校に在籍し評定平均値が3.3以上の者と定める。

②公募推薦入試

本学独自の基礎学力テスト1科目(100点満点)及び面接試験(100点満点)の合計200点満点を課す。上記の結果に加え、「志望理由書」「学校長推薦書」「調査書」の記載内容を総合判定する。

試験科目は、「数学(数学Ⅰ)」「国語(国語総合(現代文))」からの1科目選択とする。

また、出願基準については、「高等学校もしくは中等教育学校を令和4(2022)年3月に卒業した者及び令和5(2023)年3月に卒業見込の者」「通常の課程による12年の学校教育を令和4(2022)年3月に修了した者及び令和5(2023)年3月に修了見込みの者」とし、評定平均値3.5以上の者と定める。

【総合型選抜】

総合型選抜における選抜方法の考え方は以下の通りである。

アドミッション・ポリシーの「【知識・技能】①高等学校までに履修した教科・科目について、大学での学修に必要な基礎事項を理解したうえで、特に数学または国語において、学習意欲と基礎学力を有する人」、「【思考力・判断力・表現力】③事実や意見などの情報を読み解き、論理的に思考・判断できる人」を選抜するために、「特待生選抜自己推薦型入試」では、特に数理的な基礎学力や論理的な思考力を判断するための「数学」、文章読解力や論理的な思考力を判断するための「国語」のいずれかの選択制とする。

また、「大学入学共通テスト型入試」では、大学入学共通テストにおける「数学」「国語」のいずれかの選択制とする。

面接試験では、アドミッション・ポリシーの「【思考力・判断力・表現力】①自分の考えを他者に分かりやすく表現できる人、②物事を多面的に考察し、保健医療を通じて社会・地域の発展、豊かな生活の創造に貢献する意欲を有する人」、「【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】①医療人として豊かな人間性を培うために、社会・地域に対して旺盛な好奇心を持ち、幅広い視野で主体的に学び、社会的な要請に応えようと努力を続ける人」を選抜することを目的としている。

①特待生選抜自己推薦型入試

本学独自の基礎学力テスト1科目(100点満点)及び面接試験(100点満点)の合計200点満点を課す。上記の結果に加え、「自己推薦書」「調査書」の記載内容を総合判定する。

試験科目は、「数学(数学Ⅰ)」「国語(国語総合(現代文))」からの1科目選択とする。

また、出願基準については、「高等学校もしくは中等教育学校を令和4(2022)年3月に卒業した者及び令和5(2023)年3月に卒業見込の者」「通常の課程による12年の学校教育を4(2022)年3月に修了した者及び令和5(2023)年3月に修了見込みの者」とし、評定平均値3.5以上の者と定める。

②大学入学共通テスト型入試

大学入学共通テスト1科目(100点満点)及び面接試験(100点満点)の合計200点満点を課す。上記の結果に加え、「自己推薦書」「調査書」の記載内容を総合判定する。大学入学共通テストは、「数学」「国語」より高得点の1科目を利用する。

また、出願基準については、大学入学資格を満たす者とする。評定平均値の出願基準は設けない。

【一般選抜】

一般選抜における選抜方法の考え方は以下の通りである。

アドミッション・ポリシーの「【知識・技能】①高等学校までに履修した教科・科目について、大学での学修に必要な基礎事項を理解したうえで、特に数学または国語において、学習意欲と基礎学力を有する人」、「【思考力・判断力・表現力】③事実や意見などの情報を読み解き、論理的に思

考・判断できる人」を選抜するために、「学力試験 2 科目型入試」「大学入学共通テスト併用型」の大学独自の学力試験においては、特に数理的な基礎学力や論理的な思考力を判断するための「数学」、文章読解力や論理的な思考力を判断するための「国語」を選択科目として設定する。それに加えて、総合的な学力を判断するために選択科目として、国際的なコミュニケーション力により研究分野等での新しい知見を得ることのできる基礎学力を判断するための「英語」も設定する。

また、「大学入学共通テスト」については、各教科・科目における総合的な学力を判断するため、全教科・科目を選択の対象とし、入試区分によって 2～5 科目の合計点によって、学力を判断する。

アドミッション・ポリシーの「【思考力・判断力・表現力】①自分の考えを他者に分かりやすく表現できる人、②物事を多面的に考察し、保健医療を通じて社会・地域の発展、豊かな生活の創造に貢献する意欲を有する人」、「【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】①医療人として豊かな人間性を培うために、社会・地域に対して旺盛な好奇心を持ち、幅広い視野で主体的に学び、社会的な要請に応えようと努力を続ける人」を選抜するためには、出願時に提出する「志望理由書」を踏まえて評価する。

以下の入試区分における出願基準については、大学入学資格を満たす者とする。評定平均値の出願基準は設けない。

①学力試験 2 科目型入試

本学独自の学力試験を 2 科目課す。各科目は 100 点満点とし、合計 200 点満点の学力試験の結果に加え、「志望理由書」「調査書」の記載内容を総合判定する。

試験科目は、「数学(数学Ⅰ・Ⅱ)」「国語(国語総合(現代文))」「外国語(英語〈コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ／筆記〉)」のいずれかより 2 科目を選択。

②大学入学共通テスト併用型入試

本学独自の学力試験を 1 科目と、大学入学共通テスト 2 科目を課す。各科目は 100 点満点とし、合計 300 点満点の学力試験の結果に加え、「志望理由書」「調査書」の記載内容を総合判定する。

独自試験の試験科目は、「数学(数学Ⅰ・Ⅱ)」「国語(国語総合(現代文))」「外国語(英語〈コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ／筆記〉)」のいずれかより 1 科目を選択。

大学入学共通テストは、「数学」「理科」「国語」「地理歴史」「公民」「外国語」より高得点の 2 科目を利用。ただし、同一教科からの複数科目の選択は不可とする。

③大学入学共通テスト利用入試 3 科目型

大学入学共通テストにおける高得点の 3 科目を課す。各科目は 100 点満点とし、合計 300 点満点の学力試験の結果に加え、「志望理由書」「調査書」の記載内容を総合判定する。利用科目は「数学」「理科」「国語」「地理歴史」「公民」「外国語」から高得点 3 科目を利用。ただし、同一教科からの複数科目の選択は不可とする。

④大学入学共通テスト利用入試 5 科目型

大学入学共通テストにおける高得点の 5 科目を課す。各科目は 100 点満点とし、合計 500 点満

点の学力試験の結果に加え、「志望理由書」「調査書」の記載内容を総合判定する。利用科目は「数学」「理科」「国語」「地理歴史・公民」「外国語」の各教科の高得点1科目ずつを利用。

【その他】

①社会人入試

社会人入試における選抜方法の考え方は以下の通りである。

学力試験は免除し、「小論文試験」および「面接試験」によって、学修意欲の高い社会人を選抜する。「小論文試験」では、アドミッション・ポリシーの「【知識・技能】①高等学校までに履修した教科・科目について、大学での学修に必要な基礎事項を理解したうえで、特に数学または国語において、学習意欲と基礎学力を有する人、③医療における診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の仕事に興味を持ち、それに必要となる知識・技術の修得に意欲的な人」、「【思考力・判断力・表現力】①自分の考えを他者に分かりやすく表現できる人、③事実や意見などの情報を読み解き、論理的に思考・判断できる人」を選抜する。

面接試験では、アドミッション・ポリシーの「【思考力・判断力・表現力】①自分の考えを他者に分かりやすく表現できる人、②物事を多面的に考察し、保健医療を通じて社会・地域の発展、豊かな生活の創造に貢献する意欲を有する人」、「【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】①医療人として豊かな人間性を培うために、社会・地域に対して旺盛な好奇心を持ち、幅広い視野で主体的に学び、社会的な要請に応えようと努力を続ける人」を選抜することを目的としている。

以下、選抜方法の詳細となる。

本学独自の小論文試験(100点満点)及び面接試験(100点満点)の合計200点満点を課す。上記の結果に加え、「経歴書」「志望理由書」「調査書」の記載内容を総合判定する。

小論文試験については、テーマ型小論文とする。

なお、出願資格を有する社会人とは、保健医療分野に限らず、平成30(2018)年以降で通算2年以上の社会経験(定職就業経験)のある者を指す。

留学生の受入れについては、留学生のみを対象とした入試区分は設けず、一般選抜、総合型選抜及び社会人入試において、出願基準を満たす入試区分での出願とし、合格基準を満たした者について入学を許可する。その場合、日本語能力等の資格要件は特に定めない。

4) 第2・第3志望登録制度

全入試区分において、第2・第3志望を出願時に登録した受験生に対しては、第1志望が不合格の場合に限り、第2・第3志望の合否判定を行う。

5) 各入学試験区分の募集人員

(名)

試験区分		診療 放射線学 コース	臨床 検査学 コース	臨床 医工学 コース
学校推薦型 選抜	指定校推薦入試	15	8	4
	公募推薦入試	4	3	2
	附属高校推薦入試	4	3	2
総合型選抜	特待生選抜自己推薦型入試	5	2	2
	大学入学共通テスト型入試	4	2	2
一般選抜	学力試験 2 科目型入試	20	15	8
	大学入学共通テスト併用型入試	15	9	4
	大学入学共通テスト利用入試	10	6	4
その他	社会人入試	3	2	2
合計		80	50	30

6) 出願資格

入学を志願することのできる者は次の通りである。但し、入試区分により出願資格は異なる。

- ①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者及び令和 5(2023)年 3 月卒業見込の者。
- ②通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び令和 5(2023)年 3 月修了見込みの者。
- ③以下の高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和 5(2023)年 3 月までにこれに該当する見込みのある者。
 - (ア)外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者(令和 5(2023)年 3 月修了見込みの者を含む)又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - (イ)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者(令和 5(2023)年 3 月修了見込みの者を含む)。
 - (ウ)専修学校の高等課程(修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者(令和 5(2023)年 3 月修了見込みの者を含む)。
 - (エ)文部科学大臣の指定した者(令和 5(2023)年 3 月までにこれに該当する見込みの者を含む)。
 - (オ)高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格の者(合格見込みの者を含む。なお、旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)。
 - (カ)本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和 5(2023)年 4 月 1 日までに 18 歳に達する者。

(3) 入学者選抜実施体制の概要

入学者選抜に関する事項、合否判定については、入学試験協議会において審議する。

また、中立・公正かつ厳格に入学者選抜を行うために、下記事項については特に留意する。

1) 入試情報の取扱いについて

合格者の氏名や住所、調査書に記載された内容等、各大学の選抜を通じて取得した個人情報については、漏洩や、選抜以外の目的の利用等がないよう、その保護に十分留意しつつ、適正な取扱いに努める。

2) 入学者選抜の公正確保について

入学者選抜においては、中立・公正に実施するため、入試問題の漏洩など入学者選抜の信頼性を損なう事態が生ずることのないよう、入学者選抜に関わる者の責務を明確にし、教員、事務職員等関係者が一体となり、全学的な連携協力体制の確立に努める。

3) 留学生の受入れについて

留学生の経費支弁能力の確認方法としては、入学手続書類として以下の提出を義務付ける。

- ①納税証明書(原本、1年分)
- ②収入証明書(「源泉徴収票」でも可)(原本、1年分)
- ③残高証明書(預貯金をしている金融機関発行のもの)
- ④通帳のコピー(残高証明書の内容を確認できるもの)
- ⑤経費支弁書(経費支弁者記載)

留学生の受入れの際の在籍管理の方法としては、入国前指導や、入国時オリエンテーション等のオリエンテーションを適宜開催し、留学生の在籍管理と必要な留学支援を行う。また、留学生間(緊急時)連絡網を設けており、在籍状況の把握等を行う。

- ①留学生会(韓国)や留学生同士の連絡網の活用
- ②SNSによる連絡網(LINE・WeChat・Cacao-Talk)登録・活用
- ③大学Eメール(ユニパメール)活用
- ④留学生個人プライベートメールも必要に応じて活用

留学生の出席・単位取得状況を含む学習状況等をチェックし、必要に応じて指導する。こうした留学生の個別状況については、学生の担任、教務・学生支援担当から問題があがってくる場合もあるが、国際交流室でも適宜留学生状況をチェックし、対応する。また、国際交流室では、留学生の在留資格管理やビザの更新等の管理や退学・休学等の管理・指導を行う。さらに留学生の試験管理、結果統計などの対応を行う。

10. 教員組織の編制の考え方及び特色

(1) 教員組織の編制の特色について

本学部では、産学一致の建学の精神のもとに「人間力と専門の能力、職業能力を兼ね備え、地域医療現場や様々な関連職域で活躍できる人材」の養成を目的としている。この人材養成の目的を踏まえて、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学の理論と実践を体系的に履修することが可能となる教育課程の編成とすることから、各領域の授業科目数及び単位数に応じて、それぞれの専門分野や実務経験を踏まえ、教育経験、教育研究業績及び実務経験を豊富に有する教授、准教授、講師及び助教を配置した。

本学部の専任教員組織は、教授 12 名、准教授 8 名、講師 4 名、助教 3 名の計 27 名である。専任教員の取得学位は博士 20 名、修士 6 名、学士 1 名であり、いずれも科目を担当するのに十分な研究業績を有している。また、診療放射線技師の資格を有する教員 9 名、臨床検査技師の資格を有する教員 9 名、臨床工学技士の資格を有する教員 3 名、医師の資格を有する教員 1 名がおり、豊富な実務経験と教育研究業績を有している。

【資料 20 各コース専任教員名簿】

(2) 重要科目等における具体的な教員配置について

本学の目指す人材養成において重要な科目、特に専門基礎科目及び専門科目の必修科目を中心として、できる限り専任教員による教育を行うことを旨として教員配置を行っている。

教養教育科目では兼担及び兼任教員が担当する科目の割合が比較的多くなるが、初年次教育を含め学士力の基礎を形成する必修科目である「社会参画入門」や「社会参画実習」、本学の専門教育の基礎となる理系科目の「生物リテラシー」は、それぞれ専任教員が担当する。

教育課程の重要かつ主要部分を構成する専門基礎科目及び専門教育科目の必修科目の大半は、専任教員が担当する。また、専門科目のうち、診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士国家試験受験資格の取得に必要な必修科目は、本学の教育課程において主要科目と位置付け、これらの科目は教授又は准教授が担当するものとする。実習・実験科目は助手を配置して授業を行う。

(3) 教員の年齢構成について

本学部の専任教員の年齢構成(完成年度末)は、70 歳以上 5 名、60 歳代 9 名、50 歳代 10 名、40 歳代 3 名となる。本学の定年は 64 歳であるが、開設時の令和 5(2023)年 4 月 1 日時点において定年年齢を超える教員及び完成年度(令和 8(2026)年度)までに定年を迎える教員については、特例規程を適用し完成年度まで雇用することとしている。よって、完成年度まで教員組織の維持に特段の問題はない。

令和 8(2026)年度(完成年度)末に 65~70 歳代の専任教員 12 名が、定年退職する予定である。定年退職となる教員の後任は、公募による採用、内部昇任、日本文理大学医療専門学校教員から大学教員への登用を行う予定である。

年齢構成としては、内部昇任の対象予定の教員は 40～50 歳代であり、医療専門学校から登用する教員も同様に 40～50 歳代である。完成年度以降は不足する 55～64 歳代の教授または准教授を公募で採用する。また、完成年度における 40 歳代の教員は 3 名となるため、30～40 歳代の採用も行うことによって、年齢構成のバランスを図り、将来的に若返りを図りながら教育研究の水準と体制を維持していく。

完成年度に定年年齢を超えている教員 12 名は、主として教授職にある。完成年度以降の計画としては、年齢構成や専門領域の職位構成のバランスに配慮して、教育研究の質が維持・継続できるように、学年進行に応じて教授は准教授からの昇任また助教から講師への昇任を行うほか、学外からの新規採用を計画的に実施する予定である。新規採用教員については、開設 1 年目から公募を行う予定である。

また、内部昇任については、本学部の開設段階からそれぞれの職位に応じて、大学で規定(日本文理大学教員資格審査基準)された、教育研究業績、教育能力、研究指導能力などの具体的な基準を踏まえて、論文の投稿や研究等についての支援を行う。また、研究活動のみならず、教育活動を評価に反映し、若手教員のキャリア支援を行い、教育研究活動の充実を図っていく。

具体的な支援内容として、研究業績向上に対する支援では、既設学部ですでに実施している、研究を進める上で必要な外部資金獲得のための助言やセミナーの開催、学内公募による研究資金の提供を、新学部においても活用していく。また、教育能力向上の支援に関しては、本学の FD 活動で実施している、授業方法の展開や、授業内容改善検討会などに参加することによって、教育能力の向上につなげていく。

また、日本文理大学医療専門学校は令和 6(2024)年度で閉校予定であり、在籍する教員は学位等の取得の状況を踏まえて教員として順次採用していく計画としていることから、医療専門学校の教員の学位取得を支援するため、大学院進学の際の学費の支援を行っている。

また、学位取得に向けて学術論文執筆のための指導体制、また論文投稿の支援やさらに、大学教員としての資質を身に付けるための研修会や学部講義の聴講などの支援体制を整えるほか、研究面においても本学部専任教員との共同研究の促進や研究業績の発表の場として、大学紀要への論文投稿を可能にするなどの支援体制を整えていく。

大学教員転籍後の支援については、前述した内部昇任の場合と同様な研究業績の向上に向けた支援とともに、大学教員として相応しい教育能力の向上に向けた FD 研修の受講などを通して、教育力の向上を図っていく。

【資料 21 学校法人文理学園教員就業規則】

【資料 22 日本文理大学定年を超える教育職員の採用に関する特例規程】

(4) 研究体制について

本学部の研究分野としては、「診療放射線学」「臨床検査学」「臨床医工学」分野を中心に専門基礎領域から臨床領域まで多岐にわたる。それぞれの専門性を生かした研究を継続しつつ、教育に直結する内容を中心に研究を発展させていく。

研究推進のため、個人研究費の支給のほか、学外の競争的資金の獲得に向けた研究計画の作成・申請書作成等に関する指導、支援を行う。また、FD 研修会を定期的実施し、教員が研究水準を維持・向上させ、地域社会に貢献し、さらなる研究の活性化・発展を行う。

1.1. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学は、大分市東部の自然にめぐまれた一木の丘に立地しており、校舎を中心として、周辺にグラウンド、緑地が広がっている。校地面積は 299,829 m²、校舎の面積は 61,435 m²あり、いずれも大学設置基準上必要とされる面積、22,400 m²、19,138.8 m²を大きく上回っている。また、本学の教育目的を実現するための十分な施設を有している。

学生の憩いの場として、学生食堂では昼食時間帯以外も開放しテレビの設置、フリーWi-Fi の導入、畳スペースを整備している。キャンパス内の屋内外では、テーブル・ベンチを、学生食堂前、事務本館前、2号館前、1号館1階ホール、1号館前、野外ステージ付近、25号館1階2室に設置し、休息・歓談、食事などに活用している。

また、25号館9階「レストラン」についてはフリーWi-Fiを導入し、昼食時間帯以外でもカフェを楽しめるようにしている。

運動場は、キャンパス周囲に野球場・サッカー場・ラグビー場・陸上競技場・ソフトボール場・球技場・テニス場などを有しており、また、キャンパス内には体育館・トレーニング場・柔道場・ゴルフ練習場を設置しており、クラブ活動等で利用可能としている。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学部が使用する校舎については、既存1号館(主に工学部講義棟)、7号館(現在未使用棟)、10号館(現在、日本文理大学医療専門学校にて使用)を改修・改築する計画である。

1号館については、診療放射線学コース、臨床検査学コースの講義室を合計8室確保し、講義机・椅子の更新、また、特に女子学生の増加を見越し、トイレの改修などを計画している。改修時期については、既設学部が夏季休業に入る令和4年8月より開始し、同年11月末完工を予定している。既設学部の後期の授業については、他棟にて対応を行う予定としている。

7号館については、耐震補強工事を計画するとともに、内装の全面改修をすることとし、学部管理室(学部長室・学科事務室・応接室・技術員室・会議室)、教員研究室(全27室)、オープンスペース、学部共通学生相談ゼミ室(11室)を設ける。

共用部の廊下・階段・トイレの改修も含め、新規にエレベーターの設置を計画している。また、臨床医工学コースの講義室(4室)、実習室(中央機器管理実習室、臨床工学実習室、血液浄化実験室、集中治療シミュレーション室、手術シミュレーション実習室、基礎工学実習室)・更衣室を設け、臨床医工学コースの使用室は7号館に集約する。改修時期については、行政手続き後の(建築確認申請)令和4年7月より同年12月末完工を予定している。

10号館については、現在日本文理大学医療専門学校が多目的教室として学校行事、関連資格対策講座・模擬試験等、普通教室の広さで全員収容できない場合に使用しているが、本学部の建物として改築し、診療放射線学コース、臨床検査学コースの実習室を設ける。改築にあたり1階に学生ホールを設けるとともに、診療放射線学コースのMRI実習室、X線CT実習室、操作室、2階にX線撮影室(骨密度・マンモ・眼底)・X線透視撮影実習室、画像情報学実習室、基礎科学実

習室及び VR ルーム、3 階には基礎医学実習室と更衣室を設ける。また、臨床検査学コースの生化学・臨床科学一般実習室、脳波・聴力実習室、臨床生理実習室を設ける。4 階に微生物・免疫輸血実習室、遺伝子・血液実習室、解剖・病理実習室と更衣室を設ける。なお、3 階と 4 階には将来を見据え、未使用室をそれぞれ 1 室確保している。環境面では、エレベーターの設置(2 基)、2～4 階の南面にはアメニティとしてフリースペースを整備する。改築時期については、行政手続き(用途変更、建築確認申請)後の令和 4 年 7 月着工、令和 5 年 6 月末完成を予定している。完成後に教具・校具の搬入・設置を行い、実習環境を造り上げる。

この環境整備の完了(10 号館運用開始)については、本学部開設後となるが、診療放射線学コース、臨床検査学コースとも実習については、2 年生の後期より(令和 6 年 10 月以降)始まることから、教育上問題ないものと考ええる。

また、開講期間中の建築工事ではあるが、完成を迎えようとする 4～6 月の時期、外装は概ね完成しており、内装工事が主体のため工事騒音で他の建物(最寄り建物 1 号館など)に影響を及ぼすことはないと考えている(状況により、防音壁を設置する)。

教室数及び各教室の収容人数については、本学部の収容定員に対して十分なものである。**【資料 23 各コース時間割】**設備については、各技師(技士)養成所指導ガイドラインに準じたもの**【資料 24 各技師(技士)養成所ガイドライン別表 2】**を整備し、本学部の設置計画に十分対応できる環境を確保している。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書館は 4 階建ての建物でキャンパスのほぼ中央に位置している。現在、約 32 万冊の図書資料を所蔵し、一部の資料を除き開架式の図書館となっており、利用者が自由に図書資料を手にとれる環境が整っている。また、図書館システムにより、利用者は本学蔵書の検索から文献複写の申込、利用者個人の利用状況確認等のサービスを学内外より利用できるようになっている。

本学部の設置にあたり、教育研究に必要な図書として、専門図書 2,392 冊(うち洋書 115 冊)のほか、学術雑誌 43 種類(うち外国雑誌 1 種類)、映像資料や DVD 等の視聴覚資料 139 点を開設前年度に新たに購入し、学生が学ぶ環境を整備する。また、データベースとして医中誌 Web を導入し、医学関連電子ジャーナルを活用できるようにする。**【資料 25 購入図書リスト】**

学術情報提供サービスとして、図書館ホームページからのオンライン版新聞記事(ヨミダス歴史館、日経テレコン)や雑誌記事(日経 BP 記事検索サービス)の検索及び電子ジャーナル等へのアクセスを可能としている。

また、大分県内の図書館の蔵書を一度に検索できる横断検索システムへも図書館ホームページからアクセスを可能とし、本学に所蔵がない図書資料についても学生へのサポート体制を整えている。

平成 26(2014)年度より導入を開始した電子書籍については、現在は 178 タイトル(和書・洋書)を購入し閲覧が可能となっている。

図書館の施設設備及び利用環境は以下のとおりとなっている。

1) 閲覧室等

- ・2 階～4 階の各階に設置(総座席数 571 席)
- ・3 階に「ブラウジングコーナー」としてソファを設置
- ・2 階に簡易閲覧用ソファを設置(6 カ所)

2) グループ学習室

- ・3 階に 1 室(約 16 人)
- ・4 階に 2 室(各室 約 12 人)

3) パソコン等情報機器及び設備

- ・1 階から 4 階 OPAC(Online Public Access Catalog)端末 4 台
- ・3 階 情報検索用端末 10 台
- ・館内貸出用電子辞書 9 台(英語、韓国語、中国語に対応)
- ・学内 LAN 接続情報コンセント(3 階)及び Wi-Fi 無線 LAN(2 階、3 階、4 階)

グループ学習室については、キャプチャーボードの設置やネットワーク環境を整えており、グループでの学習やゼミ・講義等で利活用できるよう整備している。

また、図書館スタッフによるサポートとして、関連した図書・資料の準備やレファレンス対応等を行っている。

なお、グループ学習室等の館内施設を利用したゼミ・講義等では現在、週 10 コマ程度の利用がなされており、令和元(2019)年に、3 階グループ学習室の机にキャスターを取り付け、ニーズに対応した可変的な空間づくりが可能となっている。

12. 管理運営

教学面における重要事項を審議する機関として「日本文理大学学則」第12条に教授会の設置が規定されている。また、同第11条に大学評議会の設置が規定されており、学長が諮問する事項について審議する。

教授会の構成及び運営に関しては「日本文理大学教授会規程」に規定され、また大学評議会の構成及び運営に関しては「日本文理大学評議会規程」に規定されている。

(1) 教授会

「教授会」は、学部長及び学部にも所属する専任の教授で構成されるが、各学部にも所属する専任の准教授、講師及び助教を加えることができるようになっており、それらを加えた全専任教員が構成メンバーとなっている。教授会は、学部長の諮問に応じて、毎月第2及び第4水曜日に定例会を、その他必要に応じて臨時の会議を開催する。教授会は次に掲げる事項について、学長が決定を行うにあたり、意見を述べるものとされている。

- 1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- 2) 学位の授与
- 3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

(2) 大学評議会

「大学評議会」は、学長、副学長、研究科長、各学部長、図書館長及び学部ごとに選任された教授3人(計9人)で構成され、学長の諮問に応じて、学則及び学内規則の制定改廃をはじめ、「日本文理大学学則」に定めるところにより、大学運営に関する重要事項の審議をする。大学評議会は、毎月第3水曜日に定例会を、その他必要に応じて臨時の会議を開催する。

(3) 全学的専門委員会等

全学的専門委員会等として、「危機管理委員会」「厚生補導協議会」「FD委員会」「SD委員会」「研究倫理委員会」等がある。各学部専門委員会として、学部長の諮問機関である「教務委員会」、「厚生補導委員会」及び「就職委員会」がある。

13. 自己点検・評価

本学の自己点検・評価の実施については、「日本文理大学学則」第2条に規定されており、自己点検・評価委員会が設置されている。この委員会の活動や自己点検・評価の実施については「日本文理大学自己点検・評価規程」に規定されており、毎年度自己点検・評価を実施し、3年に一度「自己点検・評価報告書」を作成している。

また、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を平成20(2008)年度、平成26(2014)年度、令和2(2020)年度に受審し、同機関が定める大学評価基準に適合していると認定された。

(1) 実施方法

自己点検・評価委員会は次に掲げる事項を審議し、自己点検・評価を実施する。また、その結果が本学の教育研究活動の活性化及び大学運営に反映・活用されているかどうかについて点検・評価を行う。

- 1) 自己点検・評価の基本方針の策定に関すること。
- 2) 全体スケジュールの立案に関すること。
- 3) 各評価基準の基準責任者、基準担当者等人員の選定に関すること。
- 4) 各組織の自己点検・評価作業内容の企画に関すること。
- 5) 自己点検・評価報告書の書式の企画立案に関すること。
- 6) 全学に関する自己点検・評価事項の実施に関すること。
- 7) 各組織から提出された資料等の調整・編集及び自己点検・評価報告書の原案の作成に関すること。
- 8) その他、自己点検・評価に関する事項

自己点検・評価委員会で挙げられる課題については、学長室が中心となって策定した大学全体の「中長期改善施策」計画に反映され、「大学評議会」での審議を経た後、理事会及び評議員会の議決を受けたのち、教学部門、事務部門責任者によるアクションプランが策定され課題解決に取り組んでいる。

(2) 実施体制

自己点検・評価の実施に当たっては、自己点検・評価委員会で実施している。委員会は、学長を委員長とし、「日本文理大学自己点検・評価委員会規程」に規定する次の委員をもって構成する。担当副学長、工学研究科長、各学部長、図書館長、各研究所長、人間力育成センター長、進路開発センター長、教養基礎教育調整役、国際交流室長、各学科教室主任、別科日本語課程別科長、学園事務局長、大学事務本部長、法人本部及び大学事務本部の部責任者、その他、学長が指名する者。

(3) 結果の活用・公表

自己点検・評価については、原則 3 年ごとに自己点検・評価報告書を作成し、その結果を学内外に公表している。印刷物等による公表の他に、ホームページにおいても公開している。

委員会は、自己点検・評価の結果に基づき、改善の必要があると認められるものについては、その改善に努める。

(4) 評価項目

自己点検・評価は、以下の項目について行う。

- 1) 大学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等
- 2) 沿革と現況
- 3) 使命・目的等
- 4) 学生
- 5) 教育課程
- 6) 教員・職員
- 7) 経営・管理と財務
- 8) 内部質保証
- 9) 地域貢献・連携

14. 情報の公表

本学に関する情報については、大学ホームページ、パンフレット等各種印刷物を通じて広く社会に公表しており、今後も更なる内容の充実を図り、積極的な情報の公表を行っていく。ホームページでは、教育・研究に関する情報を以下のとおり公表している。

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること

トップ>大学について>学部・学科等の教育研究目的

http://www.nbu.ac.jp/guide/research_purpose/

(2) 教育研究上の基本組織に関すること

トップ>情報公開>組織図・役員一覧

<https://www.nbu.ac.jp/guide/disclosure/research/pdf/organization.pdf>

(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

トップ>大学について>教員構成表

https://www.nbu.ac.jp/guide/research_teacher/

トップ>教育・研究>教員・研究情報

<https://www.nbu.ac.jp/education/teacher/>

(4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

トップ>大学について>3つのポリシー

https://www.nbu.ac.jp/guide/study_policy/

トップ>大学について>収容定員及び在学者数等

https://www.nbu.ac.jp/guide/study_capacity/

トップ>大学について>教育・研究/就職率

<https://www.nbu.ac.jp/guide/disclosure/facilities/employment-situation.pdf>

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

トップ>情報公開>科目・ナンバリングコード一覧

<https://www.nbu.ac.jp/education/numbering-code/>

トップ>教育・研究>シラバス情報

<https://www.nbu.ac.jp/education/syllabus/>

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

トップ>大学について>学修成果の評価の方針(アセスメントポリシー)

https://www.nbu.ac.jp/guide/assessment_policy/

トップ>大学について>卒業・修了認定基準

https://www.nbu.ac.jp/guide/study_standards/

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

トップ>大学について>教育研究施設

https://www.nbu.ac.jp/guide/research_facility/

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

トップ>学生生活>納入金について

https://www.nbu.ac.jp/s_life/income/

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

トップ>学生生活>学修支援について

https://www.nbu.ac.jp/s_life/about_s_support/

トップ>就職関連>就職サポートプログラム

https://www.nbu.ac.jp/f_employ/program/

トップ>学生生活>健康管理について

https://www.nbu.ac.jp/s_life/health_care/

(10) その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

トップ>大学について>3つのポリシー

https://www.nbu.ac.jp/guide/study_policy/

トップ>学部・大学院

https://www.nbu.ac.jp/fac_sub/

トップ>大学について>学則等

<https://www.nbu.ac.jp/guide/regulations/>

トップ>大学について>設置届出書・履行状況報告書

<https://www.nbu.ac.jp/guide/papers/>

トップ>大学について>大学機関別認証評価

<https://www.nbu.ac.jp/guide/hyouka/>

トップ>大学について>自己点検・評価報告書

<https://www.nbu.ac.jp/guide/hyouka/pdf/data.pdf>

トップ>大学について>修士学位論文等審査基準

<https://www.nbu.ac.jp/guide/masters-thesis/>

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等

本学における教育方法の改善を組織的に行うため、FD委員会を設け、教員の資質・能力の向上にあたっている。委員会は、委員長と全学から選出された委員によって構成されている。審議事項は「日本文理大学FD委員会規程」に規定され、適切に運営されている。

本学が行っている主なFD活動の内容は、以下のとおりである。

1)FD 研修会の実施

FD研修会は、学内教員による学び合いを重視したものや、学外の講師を招聘して行うもののほか、学内の教職員が学外のFD研修会を受ける試みも積極的に行っている。

内容としては、新任教員研修、教育教材の開発、アクティブ・ラーニング・ICT(情報通信技術)を活用した教育内容の改善、受講アンケートの結果を踏まえた学生との共同FD、更なる教育改善の進展に関する工夫、大学間連携のFD活動などを取り扱い、年に5~6回、継続的に行っている。

2)受講アンケートの実施

受講アンケートは、学生支援システムを利用し、前期と後期に、全科目を対象として実施している。受講アンケートの結果は、個別に各授業担当教員にフィードバックされ、授業改善に利用されている。全体集計結果とアンケート結果に対する教員の回答書は学内ネットワークの「FD活動推進のページ」に掲載し、教職員は随時閲覧できるようになっている。学生は学生支援システムにて閲覧できるようになっている。アンケート全体結果については、FD研修会で報告し、翌年度の教育課程編成の一資料として活用している。

3)シラバスの整備

シラバス内容の充実を図るため、シラバスの記載項目、記載方法等に関するシラバスガイドラインを策定している。作成したシラバスについては、第三者によるチェックを行っている。

4)授業関連資料の提出・閲覧の推進

学内にて教員相互の閲覧に供するため、学期ごとに全科目を対象として授業関連資料をデジタルデータにて提出し、図書館の管理によりアーカイブ化して運用している。

5)FD活動推進のページの整備

学内ネットワークで閲覧可能な「FD活動推進のページ」には、教員の教育研究活動の改善について必要な情報を整備している。

(2) 大学職員に必要な能力及び資質を向上させる研修

令和元(2019)年本学教員及び職員が組織的に必要な知識及び技能を習得し、能力及び資質の向上を図ることを目的に「日本文理大学SD委員会規程」を制定した。具体的なSD活動の取組としては、令和2(2020)年9月16日「日本文理大学におけるSD実施方針等について」が大学評議会で承認され、人材育成目標、SD実施方針、SD実施計画について明示され、その方針に基づいて組織的にSD活動に取り組んでいる。SD研修会については、以下8つのテーマのもと計画

され実施されている。

(SD 活動実施内容)

- 1) 大学職員として必要な知識、技能の習得のための研修
- 2) 大学運営に関する研修
- 3) 高等教育情勢の知見を高める研修
- 4) 学生の厚生補導に関する研修
- 5) 部署の専門性を高める研修(各担当)
- 6) 外部団体主催による研修会への参加による研修(各担当)
- 7) 研修成果の報告
- 8) その他自己啓発研修

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

卒業後の「就職」は大学生生活の集大成というべき大きな目標であり、ただ単に「働く場所」を見つけるだけでなく、就職後も医療人としての自覚を持ち、常に自己研摩に励み、社会のために主体的に行動することができるよう、「人間力教育」の一環として入学から卒業まで様々な就職サポートを含むキャリア支援プログラムを展開する。

これらのプログラムを通じて、学生たちは「自己理解」「将来の目標の明確化」「職業観・倫理観の涵養」「職業に関する専門的な知識・技術の修得」「社会的自立を実現するための主体性」などを養い、人間力豊かな医療人への成長を促していく。そのために、教育課程内外において、各学科、就職サポートを専門に行う「進路開発センター」、低学年のキャリア教育を扱う「人間力育成センター」等が連携し、キャリア支援プログラムを推進していく。

(1) 教育課程内の取組について

正課科目において、分野によらず必要となる汎用的能力や職業観を育成するため、教養教育科目に下に挙げる必修科目を配置している。

1 年次の必修科目である「社会参画入門」「社会参画実習」では、自立に向けた第一歩として、学修技術の修得、人間関係形成能力の育成を目的とし、大学生生活の心構えや将来の働く目標を考えるきっかけとなる企業取材などを実施する。また、コースの異なる学生同士でチーム活動を行い、社会で必要とされる能力、特に社会人基礎力の向上を図り、問題点の整理・提案など各課題に取り組む。また、1 年次前期配当の「人間力概論」では、地域で活躍するために必要な汎用的なスキルや能力、社会や地域との接点から自分の役割を考えさせる。

2 年次では、本学の建学の精神である「産学一致」に基づき、自校教育とともに、大学が産業界や社会と強く結びついているという視点からの講義内容を、教員だけでなく病院や企業、NPO(Nonprofit Organization)団体など広く社会における組織人からも話を聴く機会を設けた必修科目「産学一致の勧め」を開講し、自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

3 年次では、「チーム協働と課題解決」を開講し医療とそれぞれの職種を理解し、新たな課題発見のためのチーム連携を学ぶ。また、3 年次から 4 年次にかけて、「臨床実習・臨地実習」を開講し、実践現場における体験学習を通じて、職業人としての役割と責任と自覚を身に付けるとともに、職業現場で必要となる実践的な能力の養成を図ることとしている。

4 年次では「保健医療と工学」「保健医療と経営」を開講し 3 学部が連携して医療産業人としての知識を深めていく。

(2) 教育課程外の取組について

本学部に入学者の多くが「診療放射線技師」、「臨床検査技師」、「臨床工学技士」を卒業後の目標としていることが予想されるため、その目標を達成するために必要となるキャリア教育を教育課程外では進路開発センターが中心となり、学科と連携しながら推進していく。

1・2 年次では、自己分析に基づくキャリアプランの作成などに取り組む。同時に、医療現場で活

躍する医療関係者を招いての講演会や、対人能力を養うための接遇マナーや医療サービスに関する講習会を開催し、職業への理解を深めるとともに、医療人に求められる職業観・倫理観、コミュニケーションスキルなどを段階的に身に付けていく。

3年次では、医療機関を中心に、関連業界の採用担当者を招いた「業界・企業研究セミナー」を開始し、職業に対する理解をさらに深めていく。また、採用試験対策講座や履歴書・エントリーシート作成講座なども開催する。

4年次では、医療機関を中心とした「就職説明会」を随時開催し、自分自身のキャリアプランに添った進路が実現できる機会を設ける。同時に、進路開発センタースタッフや学科教員等による就職相談や面接試験対策を個別指導中心で行い、目標達成をサポートしていく。また、国家試験対策としては、模擬試験を複数回実施し、必要に応じて補講を行う。学生の到達度を確認し、個別指導を行い、継続的な国家試験対策に取り組む。

(3) 適切な体制の整備について

就職サポートの専門部署として「進路開発センター」を設置しており、センター長を中心に、センター職員と教員の中から選出された就職委員とが連携し、学生への就職支援プログラムの企画・運営を行う。また、就職委員は所属学科・コースの就職状況を把握し、学科・コースでの就職サポートの中心としてきめ細かいサポートを推進する。

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

資料 1	令和 2 年版高齢社会白書（抜粋）	2
資料 2	2013 成長戦略「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」（抜粋）	4
資料 3	健康・医療戦略（抜粋）	17
資料 4	診療放射線技師養成教育に関する要望書	20
資料 5	「将来へ向けての臨床検査技師の在り方」～提言～	21
資料 6	東九州メディカルバレー構想リーフレット	29
資料 7	第 7 次大分県医療計画（抜粋）	33
資料 8	厚生労働省健康寿命の令和元年値について	49
資料 9	平成 29 年度各都道府県人口（1 万人）あたりの技師(技士)数	52
資料 1 0	平成 29 年度 100 床あたりの医療従事者数	53
資料 1 1	平成 29 年度 1 病院あたりの医療従事者数	54
資料 1 2	各技師（技士）会要望書	55
資料 1 3	カリキュラム・マップ	58
資料 1 4	カリキュラム・ツリー	61
資料 1 5	履修モデル	64
資料 1 6	臨床実習・臨地実習関係資料	67
資料 1 7	診療放射線技師指定規則対比表	212
資料 1 8	臨床検査技師指定規則対比表	214
資料 1 9	臨床工学技士国家試験受験資格の関連科目	216
資料 2 0	各コース専任教員名簿	217
資料 2 1	学校法人文理学園教員就業規則	218
資料 2 2	日本文理大学定年を超える教育職員の採用に関する特例規程	228
資料 2 3	各コース時間割	229
資料 2 4	各技師（技士）養成所ガイドライン別表 2	235
資料 2 5	購入図書リスト	240

第1章

高齢化の状況

第1節 高齢化の状況

1 高齢化の現状と将来像

(1) 高齢化率は28.4%

我が国の総人口は、令和元（2019）年10月1日現在、1億2,617万人となっている。

65歳以上人口は、3,589万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も28.4%となった。

65歳以上人口を男女別に見ると、男性は1,560万人、女性は2,029万人で、性比（女性人口100人に対する男性人口）は76.9であり、男性対女性の比は約3対4となっている。

65歳以上人口のうち、「65～74歳人口」は1,740万人（男性831万人、女性908万人）で総人口に占める割合は13.8%となっている。また、

「75歳以上人口」は1,849万人（男性729万人、女性1,120万人）で、総人口に占める割合は14.7%であり、65～74歳人口を上回っている（表1-1-1）。

我が国の65歳以上人口は、昭和25（1950）年には総人口の5%に満たなかったが、昭和45（1970）年に7%を超え、さらに、平成6（1994）年には14%を超えた。高齢化率はその後も上昇を続け、令和元（2019）年10月1日現在、28.4%に達している。

また、15～64歳人口は、平成7（1995）年に8,716万人でピークを迎え、その後減少に転じ、令和元年には7,507万人と、総人口の59.5%となった。

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

		令和元年10月1日		
		総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,617	6,141 (性比) 94.8	6,476
	65歳以上人口	3,589	1,560 (性比) 76.9	2,029
	65～74歳人口	1,740	831 (性比) 91.5	908
	75歳以上人口	1,849	729 (性比) 65.1	1,120
	15～64歳人口	7,507	3,802 (性比) 102.6	3,705
	15歳未満人口	1,521	779 (性比) 105.0	742
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0
	65歳以上人口（高齢化率）	28.4	25.4	31.3
	65～74歳人口	13.8	13.5	14.0
	75歳以上人口	14.7	11.9	17.3
	15～64歳人口	59.5	61.9	57.2
	15歳未満人口	12.1	12.7	11.5

資料：総務省「人口推計」令和元年10月1日（確定値）

（注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

(2) 将来推計人口でみる令和47（2065）年の日本

次に、平成29（2017）年4月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」における出生中位・死亡中位推計結果（以下、本節においてははすべてこの仮定に基づく推計結果）を概観する。将来推計人口とは、全国の将来の出生、死亡及び国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいて我が国の将来の人口規模並びに年齢構成等の人口構造の推移について推計したものである。

ア 9,000万人を割り込む総人口

我が国の総人口は、長期の人口減少過程に入っており、令和11（2029）年に人口1億2,000万人を下回った後も減少を続け、令和35（2053）年には1億人を割って9,924万人となり、令和47（2065）年には8,808万人になると推計されている（図1-1-2）。

イ 約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上

65歳以上人口は、「団塊の世代」が65歳以上となった平成27（2015）年に3,387万人となり、「団塊の世代」が75歳以上となる令和7（2025）年には3,677万人に達すると見込まれている。

その後も65歳以上人口は増加傾向が続き、令和24（2042）年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。

総人口が減少する中で65歳以上の者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、令和18（2036）年に33.3%で3人に1人となる。令和24（2042）年以降は65歳以上人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、令和47（2065）年には38.4%に達して、国民の約2.6人に1人が65歳以上の者となる社会が到来すると推計されている。総人口に占める75歳以上人口の割合は、令和47（2065）年には25.5%となり、約3.9人に1人が75歳以上の者となると推計されている。

コラム 「高齢者」とは

高齢者の用語は文脈や制度ごとに対象が異なり、一律の定義がない。高齢社会対策大綱（平成30年2月閣議決定）では、便宜上、一般通念上の「高齢者」を広く指す語として用いている。本白書においても、各種の統計や制度の定義に従う場合のほかは、一般通念上の「高齢者」を広く指す語として用いることとする。

なお、高齢者の定義と区分に関しては、日本老年学会・日本老年医学会「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ 報告書」（平成29年3月）において、近年の高齢者の心身の老化現象に関する種々のデータの経年的変化を検討した結果、特に65～74歳では心身の健康が保たれており、活発な社会活動が可能な人が大多数を占めていることや、各種の意識調査で従来の65歳以上を高齢者とすることに否定的な意見が強くなっていることから、75歳以上を高齢者の新たな定義とすることが提案されている。

また、高齢社会対策大綱においても、「65歳以上を一律に「高齢者」と見る一般的な傾向は、現状に照らせばもはや現実的なものではなくなりつつある。」とされている。

日本再興戦略

-JAPAN is BACK-

平成 25 年 6 月 14 日

3. 科学技術イノベーションの推進	39
①「総合科学技術会議」の司令塔機能強化	
②戦略的イノベーション創造プログラムの推進	
③革新的研究開発支援プログラムの創設	
④研究開発法人の機能強化	
⑤研究支援人材のための資金確保	
⑥官・民の研究開発投資の強化	
⑦知的財産戦略・標準化戦略の強化	
4. 世界最高水準の IT 社会の実現	42
①IT が「あたりまえ」の時代にふさわしい規制・制度改革	
②公共データの民間開放と革新的電子行政サービスの構築	
③IT を活用した安全・便利な生活環境実現	
④世界最高レベルの通信インフラの整備	
⑤サイバーセキュリティ対策の推進	
⑥産業競争力の源泉となるハイレベルな IT 人材の育成・確保	
5. 立地競争力の更なる強化	46
①「国家戦略特区」の実現	
②公共施設等運営権等の民間開放（PPP/PFI の活用拡大）	
③空港・港湾など産業インフラの整備	
④都市の競争力の向上	
⑤金融・資本市場の活性化	
⑥公的・準公的資金の運用等	
⑦環境・エネルギー制約の克服	
6. 中小企業・小規模事業者の革新	52
①地域のリソースの活用・結集・ブランド化	
②中小企業・小規模事業者の新陳代謝の促進	
③戦略市場に参入する中小企業・小規模事業者の支援	
④国際展開する中小企業・小規模事業者の支援	

<留意事項>

二. 戦略市場創造プラン 57

テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸 59

- ①効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会
- ②医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療等が受けられる社会
- ③病気やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く社会に復帰できる社会

テーマ2：クリーン・経済的なエネルギー需給の実現 69

- ①クリーンで経済的なエネルギーが供給される社会
- ②競争を通じてエネルギーの効率的な流通が実現する社会

二. 戦略市場創造プラン

エネルギー制約や健康医療などの社会課題は、今後確実に巨大なグローバル市場を形成。日本はこれら課題の先進国であり、高度な技術力で市場を獲得する潜在力を有するが、

- －規制制度や慣習に縛られていること、
- －ビジネスを展開するインフラが未整備であること、

などにより市場形成に至っていない。世界でも最先端の研究開発でしのぎを削っている分野での取組の遅れは、容易に取り戻すことが困難である。

このため、世界や我が国が直面している社会課題のうち、「日本が国際的に強み」を持ち、「グローバル市場の成長が期待」でき、「一定の戦略分野が見込めるテーマ」として、以下の4テーマを選定し、集中改革期間経過後の「2020年」、中期的な政策展開の観点から「2030年」を時間軸とし、研究開発から規制緩和に至るまで政策資源を一気通貫で集中投入するための「ロードマップ」を策定する。

テーマ1	: 国民の「健康寿命」の延伸
テーマ2	: クリーンかつ経済的なエネルギー需給の実現
テーマ3	: 安全・便利で経済的な次世代インフラの構築
テーマ4	: 世界を惹きつける地域資源で稼ぐ地域社会の実現

テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸

社会像	： 予防から治療、早期在宅復帰に至る適正なケアサイクルの確立		
戦略分野	： 健康増進・予防サービス、生活支援サービス、医薬品・医療機器、高齢者向け住宅等		
市場規模	国内	26兆円(2020年)、37兆円(2030年)	Cf. 16兆円(現在)
	海外	311兆円(2020年)、525兆円(2030年)	Cf. 163兆円
雇用規模		160万人(2020年)、223万人(2030年)	Cf. 73万人

(1) 2030年の在るべき姿

我が国の健康寿命は、世界で最高水準となっている。我が国の医療・介護システムは、国民皆保険制度の下、フリーアクセスを維持しつつ、比較的安価な費用負担で、質の高いサービスを提供し、これに寄与している。

しかしながら、

- ・慢性疾患による受療が多い、疾病の罹患率が高い、要介護率が高いなどの特徴を有する75歳以上の高齢者の増加、
- ・一人暮らし世帯など、家庭内の相互扶助が期待できない高齢者の増加、
- ・医療・介護技術の進歩による、サービス提供水準の高度化、

などにより、国民の需要が増大している。

2030年には、予防サービスの充実等により、国民の医療・介護需要の増大をできる限り抑えつつ、より質の高い医療・介護を提供することにより、『国民の健康寿命が延伸する社会』を目指すべきである。

このため、「健康・医療戦略」（本年6月14日関係大臣申合せ）も踏まえ、次の3つの社会像の実現を目指す。

- ① 効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会
- ② 医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療等が受けられる社会
- ③ 病気やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く社会に復帰できる社会

これにより、国民自身が疾病予防や健康維持に努めるとともに、必要な予防サービスを多様な選択肢の中で購入でき、必要な場合には、世界最先端の医療やリハビリが受けられる、適正なケアサイクルが確立された社会を目指す。

(2) 個別の社会像と実現に向けた取組

① 効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会

I) 社会像と現状の問題点

個人や企業が自ら健康管理や予防に高い意識で取り組むとともに、必要なサービスがどこでも簡単に受けられる社会を目指す。

一方、現状では、次のような要因で予防への動機付けが乏しい。

- i) 個人は、健康なときは、食事管理や運動などの予防・健康管理を継続して行う意識が弱くなる傾向がある。
- ii) 保険者は、健康管理や予防の必要性を認識しつつも、個人に対する動機付けの方策を十分に講じていない。

企業にとっても、本来、社員の健康を維持することは、人材の有効活用や保険料の抑制を通じ、会社の収益にも資するものであるが、こうした問題意識が経営者に浸透しているとは言い難い。

- iii) これらも要因となり、健康管理や予防サービスが産業・市場として成長していない。

特に、公的分野との境界で制度的な不明確さもあり、サービスの提供者が参入にちゅうちょしたり、消費者にとっても安心してサービスを受けにくい状況にある。

II) 解決の方向性と戦略分野（市場・産業）及び当面の主要施策

こうした現状を打開するため、個人・保険者・企業の意識・動機付けを高めることと健康寿命延伸産業の創出を両輪で取り組む。これにより、どこでも簡単にサービスを受けられる仕組みを作り、自己健康管理を進める「セルフメディケーション」等を実現する。

すなわち、意識・動機付けにより潜在市場の拡大を図るとともに、規制・制度の改革・明確化を始めとして、最も効果的・効率的な政策手段を採用することで、健康増進・予防（医療機関からの指示を受けて運動・食事指導を行うサービス、簡易な検査を行うサービスなど）や生活支援（医療と連携した配食サービスを提供する仕組みづくり等）を担う市場・産業を戦略分野として創出・育成する。

○健康寿命延伸産業の育成

- ・ 適正なケアサイクルの確立と、公的保険に依存しない新たな健康寿命延伸産業を育成するための包括的な政策パッケージを策定する。関連規制に関するグレーゾーンの解消、新製品・サービスの品質保証・情報共有の仕組み、リース方式の活用等を通じた市場の創造・リスク補填に取り組む。本年8月末までに検討を進め結論を得た上で、法制上の措置等必要な措置を講ずる。
- ・ また、法制上の措置を待たず、各企業が新たに実施しようとする事業の実施が可能（適法）であることを確認するため、個別に相談を受け付ける体制を直ちに整備するとともに、民間サービスの品質を確保する枠組みを整備するため、「次世代ヘルスケア産業協議会（仮称）」を法制度整備にあわせて設置する。
- ・ 疾病予防効果のエビデンスに基づく適正な運動量や健康な食事の基準を策定する。

○予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり

- ・ 健康保険法等に基づく厚生労働大臣指針（告示）を今年度中に改正し、全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画（仮称）」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。
- ・ 糖尿病性腎症患者の人工透析導入を予防する重症化予防事業等の好事例について、来年度内に横展開を開始できるよう、本年8月末までに検討を進め結論を得た上で、概算要求等に反映させる。
- ・ 特定健診・保健指導の効果に関し、特定保健指導を終了した人と利用していない人とで健康状態や生活習慣の改善状況を比較するとともに、特定保健指導の医療費適正化効果の分析にも着手することにより、当面来年度までの2か年において一定の効果検証の成果を得て、その周知を行い、保険者の保健事業等の取組を促進する。
- ・ 後期高齢者支援金の加算・減算制度については、今年度からの実施状況、関係者の意見に加え、特定保健指導の効果の検証を踏まえ、より良い仕組みを今後検討していく。
- ・ 自治体や企業による市民や社員の健康づくりに関するモデル的な取組を横展開するとともに、健康づくりに向けた幅広い企業連携を主体とした取組である「スマート・ライフ・プロジェクト」の更なる推進などにより、個人や企業の「健康意識」及び「動機付け」の醸成・向上を図る。
- ・ 薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する。

○食の有する健康増進機能の活用

- ・ いわゆる健康食品等の加工食品及び農林水産物に関し、企業等の責任において科学的根拠をもとに機能性を表示できる新たな方策について、今年度中に検討を開始し、来年度中に結論を得た上で実施する。検討に当たっては、国ではなく企業等が自らその科学的根拠を評価した上でその旨及び機能を表示できる米国のダイエタリーサプリメントの表示制度を参考にしつつ、安全性の確保も含めた運用が可能な仕組みとすることを念頭に行う。
- ・ 食の有する健康増進機能の解明・評価や、健康増進機能を有する食材・食品の開発・普及促進を図る。

さらに、健康・疾病データベースなど、世界最先端の研究・分析基盤を確立すること等により、こうした市場・産業の拡大・発展を図る。

○医療・介護情報の電子化の促進

- ・ 医療の質の向上や研究基盤の強化を進めるため、国が保有するレセプト等データの利活用を促進する。このため、民間企業も、行おうとする研究が国の行政機関から費用の助成を受けているものである場合には、レセプト等データの提供を申し出ることができることを含め、データ提供の申出者の範囲について周知徹底する。さらに、幅広い主体による適時の利活用を促すため、データ提供の円滑化や申出者の範囲について検討する。
- ・ 保険者において、ICT を活用してレセプト等データを分析し、加入者の健康づくりの推進や医療費の適正化等に取り組む好事例の全国展開を図る。
- ・ 地域でのカルテ・介護情報の共有により、ICT を活用した在宅を含めた地域医療介護連携の全国普及を図る。
- ・ 医薬品の副作用データベースシステムについて、データ収集の拠点となる病院の拡充や地域連携の推進を図ることにより、利活用できる十分な情報を確保し、医薬品の有効性・安全性評価や健康寿命の延伸につなげる。
- ・ 医療の質を向上させるため、関係学会等が、日々の診療行為、治療結果及びアウトカムデータ（診療行為の効果）を、全国的に各分野ごとに一元的に蓄積・分析・活用する取組を推進する。

○医療情報の利活用推進と番号制度導入

- ・ 地域で行われている医療情報連携ネットワークの全国への普及・展開を進め、医療情報の利活用と保護を図るため必要な措置を講ずるなど環境整備を行う。また、個人一人ひとりが自分の医療・健康データを利活用できる環境を整備・促進し、適正な情報の活用により適切な健康産業の振興につなげるべく検討を進め、国民的理解を得た上で、医療情報の番号制度の導入を図る。このため、まずはデータやシステム仕様の標準化、ガイドライン作成等の運用ルールの検討等の環境整備を行う。

○一般用医薬品のインターネット販売

- ・ 一般用医薬品については、インターネット販売を認めることとする。その際、消費者の安全性を確保しつつ、適切なルールの下で行うこととする。
- ・ ただし、「スイッチ直後品目」及び「劇薬指定品目」については、他の一般用医薬品とはその性質が異なるため、医療用に準じた形での慎重な販売や使用を促すための仕組みについて、その成分、用法、用量、副作用の発現状況等の観点から、医学・薬学等それぞれの分野の専門家による所要の検討を行う。本年秋頃までに結論を得て、所要の制度的な措置を講ずる。
- ・ 検討に当たっては、インターネット販売か対面販売かを問わず、合理的かつ客観的な検討を行うものとする。

○ヘルスケアポイントの付与

- ・ 総合特区の枠組みを活用し、地方自治体の国民健康保険や企業の健康保険組合等における ICT システムや健診データ等を活用した健康づくりモデル（予防）の確立のための大規模実証を実施（来年度より）。この取組の中で、ヘルスケアポイント（運動等の健康増進に関する取組・成果に対して付与され、健康・介護サービス施設や地域商店街等で利用するポイント）自体を用いた大規模実証実験を、今後推進する。

② 医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療等が受けられる社会

I) 社会像と現状の問題点

がん、難病・希少疾病、感染症、認知症等の克服に必要な我が国発の優れた革新的医療技術の核となる医薬品・医療機器・再生医療製品等を世界に先駆けて開発し、素早い承認を経て導入し、同時に世界に輸出することで、日本の革新的医療技術の更なる発展につながる好循環が形成されている社会を目指す。

しかし、現実には、2011年時点で、医薬品・医療機器合わせて約2兆円の輸入超過である。また、2012年12月における再生医療製品の承認状況を見ると、米国9品目、韓国14品目に対して、日本は2品目にとどまっている。

II) 解決の方向性と戦略分野（市場・産業）及び当面の主要施策

こうした現状を打開すべく、優れた医療技術の核となる医薬品・医療機器・再生医療製品等について、日本の強みとなる、ものづくり技術も活かしながら、その実用化を推進し、世界で拡大するマーケットを獲得できる世界最先端の革新的製品を創出する。このため、国家の課題としての、疾病克服のための研究を俯瞰する司令塔機能を創設する。

○医療分野の研究開発の司令塔機能（「日本版 NIH」）の創設

- ・ 革新的な医療技術の実用化を加速するため、医療分野の研究開発の司令塔機能（「日本版 NIH」）を創設する。具体的には、
 - 司令塔の本部として、内閣に、内閣総理大臣・担当大臣・関係閣僚からなる推進本部を設置する。
政治の強力なリーダーシップにより、①医療分野の研究開発に関する総合戦略を策定し、重点化すべき研究分野とその目標を決定するとともに、②同戦略の実施のために必要な、各省に計上されている医療分野の研究開発関連予算を一元化（調整費など）することにより、司令塔機能の発揮に必要な予算を確保し、戦略的・重点的な予算配分を行う。
 - 一元的な研究管理の実務を担う独立行政法人を創設する。
総合戦略に基づき、個別の研究テーマの選定、研究の進捗管理、事後評価など、国として戦略的に行うべき実用化のための研究を基礎段階から一貫通貫で管理することとし、そのため、プロ

グラムディレクター、プログラムオフィサー等を活用しつつ、実務レベルの中核機能を果たす独立行政法人を設置する。

- 研究を臨床につなげるため、国際水準の質の高い臨床研究・治験が確実に実施される仕組みを構築する。
臨床研究中核病院及び早期・探索的臨床試験拠点において、企業の要求水準を満たすような国際水準の質の高い臨床研究・治験が確実に実施されるよう、所要の措置を講ずる。
臨床研究・治験の実施状況（対象疾患、実施内容、進捗状況等）を適切に把握するため、知的財産の保護等に十分に留意しつつ、こうした状況を網羅的に俯瞰できるデータベースを構築する。
民間資金も積極的に活用し、臨床研究・治験機能を高める。

等の措置を講ずる。

- ・ これらに基づき、本年8月末までに推進本部を設置するほか、詳細な制度設計に取り組み、その結果を概算要求等に反映させるとともに、所要の法案を次期通常国会に提出し、早期に新独法を設立することを目指す。

（注）独立行政法人の設置は、スクラップアンドビルド原則に基づき行うこととし、公的部門の肥大化は行わない。

さらに、革新的な製品を世界に先駆けて実用化し、世界初承認とするため、審査の迅速化と質の向上を実現する体制整備を進める等、研究開発から実用化につなげる体制整備を進める。加えて、医療関連産業の国際競争力を抜本的に向上させる。このため、国際競争を意識した、規制・制度改革、研究開発及び海外展開支援を集中的に講ずる。

○先進医療の大幅拡大

- ・ 保険診療と保険外の安全な先進医療を幅広く併用して受けられるようにするため、新たに外部機関等による専門評価体制を創設し、評価の迅速化・効率化を図る「最先端医療迅速評価制度（仮称）」（先進医療ハイウェイ構想）を推進することにより、先進医療の対象範囲を大幅に拡大する。このため、本年秋を目途にまず抗がん剤から開始する。

○医薬品・医療機器開発、再生医療研究を加速させる規制・制度改革

- ・ 薬事法等改正法案（医療機器の民間の第三者機関による認証の拡大、再生医療等製品の条件・期限付での早期承認制度の創設等）、再生医療等安全性確保法案（再生医療等を提供する際の計画の提出、細胞培養加工の医療機関から企業への委託を可能とする制度の創設等）について、早期の成立を目指す。
- ・ 審査当局である独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）や国立医薬品食品衛生研究所と大学等との人材交流を促進し、各種ガイドラインの策定により、再生医療製品、医療機器を含め革新的な製品の開

- 発・評価方法を確立する。
- 大学等の基礎的研究成果を革新的医薬品として実用化に導くため、医薬基盤研究所に設置した創薬支援戦略室が本部機能を担い、理化学研究所、産業技術総合研究所等の連携による創薬支援ネットワークを「日本版 NIH」の創設に先行して構築し、新薬創出に向けた研究開発を支援する。
 - 産官学が一体となって、再生医療に用いる細胞等を培養加工又は製造する際の品質管理等の基準を新たに作成するとともに、投与されたヒト幹細胞等を長期間保管する体制整備を行うなど、再生医療の実用化を促進するための環境の整備を図る。
 - 中小企業等の有する高度なものづくり技術を活かした医工連携により、医療現場のニーズ・課題解決を図るため、産学官と医療機関との連携による健康・医療戦略クラスターについて、「日本版 NIH」の創設に先行して構築を促進することにより、医療機器開発・実用化の推進と支援体制の整備を行う。
 - 「再生医療実現化ハイウェイ構想」等に基づき、研究開発から実用化までの一貫した支援体制を構築することにより、ヒト幹細胞を用いた研究について、薬事戦略相談を活用しつつ、質の高い臨床研究・治験への迅速な導出を図る。
 - 「日本版 NIH」の創設に向けた検討とも整合した形で、臨床研究中核病院等を中核的な医療機関として医療法に位置付ける他、必要に応じて所要の措置を講じ、高度な専門家と十分な体制を有する中央治験審査委員会及び中央倫理審査委員会の整備、ARO（多施設共同研究を始めとする臨床研究・治験を実施・支援する機関）構築により、ニーズを踏まえた、高度かつ専門的な臨床研究や治験の実施体制を整備する。
 - 「総合科学技術会議」の関与により 2008 年度から 2012 年度まで取り組み、企業出身者等を活用した早期からの薬事相談や研究資金の柔軟な運用を目指した先端医療開発特区（「スーパー特区」）の成果を踏まえ、PMDA が実施する薬事戦略相談を拡充するとともに、規制改革による研究開発の実用化、事業化が促進される制度（ポスト「スーパー特区」（仮称））を構築する。
 - 有用な医療機器・再生医療製品を迅速かつ安全に国民に提供するため、関係学会等との連携により、長期に安全性を確認するシステム構築等の市販後情報収集体制の強化を図る。
 - 医薬品、医療機器やそれらを組み合わせた新規医療材料の評価において、臨床的に有用性の高い革新的なイノベーションがより適切に反映されるよう、さらに検討を進め、来年度診療報酬改定において検討し、結論を得る。

○革新的な研究開発の推進

- ・ 革新的な医薬品・医療機器の研究開発、再生医療等の先端医療研究を推進するとともに、人材育成や革新的医薬品・医療機器・再生医療製品の安全性と有効性の評価法の確立に資する研究の充実、スーパーコンピュータを活用したシミュレーション手法による医療、創薬プロセスの高度化及びその製薬会社等による利用の促進等の基盤強化を図る。
- ・ 再生医療の実用化やバイオ医薬品の効率的な開発、個別化医療等の推進とともに、生活習慣病を非侵襲で早期発見するシステムやがん、脳血管疾患、心臓病等を低侵襲で早期診断・治療する装置、小型で患者に対するストレスの少ない手術支援ロボット、ニューロリハビリ（脳神経の機能改善・回復）など身体機能再生等の最先端医療技術の研究開発・実証を、治験、承認まで一気通貫で2020年までに推進する。
- ・ iPS細胞等の再生医療の研究と実用化推進のための研究を集中的かつ継続的に推進する。

○独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の強化

- ・ 世界に先駆けて革新的医薬品・医療機器、再生医療製品の実用化を促進するため、市販後の製品の品質確保や安全対策にも留意しつつ、更なる審査の迅速化と質の向上を図る。具体的には、2020年までの医薬品・医療機器の審査ラグ（※）「0」の実現を目指すとともに、審査の質の向上等に必要な体制強化を行う。
※ ラグとは、米国と日本の審査期間（申請から承認までの期間）の差である審査ラグと、企業が米国と日本の審査機関に申請する時期の差で示される開発ラグに大別される。
- ・ 開発初期からの明確なロードマップ相談が実施できるよう、薬事戦略相談を拡充する。
- ・ 併せて、PMDA-WEST構想への対応として、先行して関西地区でも薬事戦略相談を実施する体制を本年秋までに整備し、その後速やかに製造所の製造管理・品質管理に係る実地調査を実施する体制を整備する。

○難病患者等の全国規模のデータベースの構築

- ・ 治療法がなく患者数が少ない難病及び小児慢性特定疾患について、全国規模の患者データベースを構築し、治療法の開発・実用化を目指す研究を推進する。

○医療の国際展開

- ・ 一般社団法人メディカル・エクセレンス・ジャパン（MEJ）を活用し、官民一体となって、日本の医療技術・サービスの国際展開を推進する。新興国を中心に日本の医療拠点について2020年までに10か所程度創設し、2030年までに5兆円の市場獲得を目指す。その際、国際保健外

交戦略との連携、ODA、政策金融等の活用も図り、真に相手国の医療の発展に寄与する持続的な事業展開を産業界とともに実現する。

- ・ その実現に向け、上記の取組とともに、日本の良質な医療を普及する観点から、①相手国の実情に適した医療機器・医薬品、インフラ等の輸出等の促進、②外国人が安心して医療サービスを受けられる環境整備等に係る諸施策も着実に推進する。
- ・ 財務状況の健全性など一定の要件を満たす医療法人が、現地法人に出資可能であることを明確化する。
- ・ 日本の製薬産業の優れた研究開発力を活かして、開発途上国向けの医薬品研究開発と供給支援を官民連携で促進する。

③ 病気やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く社会に復帰できる社会

I) 社会像と現状の問題点

自宅にいても円滑に必要な医療・介護サービスが利用でき、リハビリ等によって施設から早期に社会復帰できるケアサイクルの構築を目指す。特に、高齢者の増加に伴い、こうした復帰支援、在宅支援への潜在的な需要は更に高まる。

しかし、現状では、

- i) 特に単身の高齢者が安心して必要な医療・介護サービスを受けながら生活できる環境整備が不十分である、
 - ii) 現在の介護支援機器は、潜在ニーズはあるものの、高価・大型で使いにくい等の理由により普及が進まない、
- といった課題があり、社会のニーズに応えられていない状態にある。

II) 解決の方向性と戦略分野（市場・産業）及び当面の主要施策

健康増進・予防や生活支援に関する市場・産業を創出する（前述）ことに加え、医療・介護提供体制の強化、高齢者向け住宅の整備等に取り組み、良質な医療やリハビリサービスへのアクセス、介護ロボット産業の活性化を実現し、高齢者、障害者等が、地域で安心して暮らせるようにする。

○健康寿命延伸産業の育成【再掲】

○医療・介護情報の電子化の促進【再掲】

○医療・介護サービスの高度化

- ・ 質の高い介護サービス等を安定的に供給するため、社会福祉法人の財務諸表の公表推進により透明性を高めるとともに、法人規模拡大の推進等の経営を高度化するための仕組みの構築や、地域医療介護連携のための医療情報連携ネットワークの普及・展開、介護・医療関連情報の「見える化」を実施する。

○生活支援サービス・住まいの提供体制の強化

- ・ 高齢者生活関連産業等を活性化し、地域で暮らせる社会を実現するため、自助・互助の考え方に基づく、高齢者自身やNPO、ボランティア、社会福祉法人、民間企業等による多様な生活支援サービスを充実する。
- ・ 中低所得層の高齢者が地域において安心して暮らせるようにするため、空家や学校跡地などの有効活用による新たな住まいの確保を図る。

○安心して歩いて暮らせるまちづくり

- ・ 安心・健康・省エネでバリアフリーにも配慮した歩いて暮らせるまちづくり「スマートウェルネス住宅・シティ」を実現し、次世代の住宅・まちづくり産業を創出するため、以下の取組を行う。
 - ① 民間資金の活用を図るため、ヘルスケアリートの活用に向け、高齢者向け住宅等の取得・運用に関するガイドラインの整備、普及啓発等（来年度中）
 - ② 高齢者向け住宅や生活拠点の集約化、ICTを活用した見守り等を推進するとともに、公民のストックを活用するため、既存住宅の建物評価に係る指針策定（今年度中）、既存住宅・リフォームの性能評価基準等の策定（今年度中）等による住宅価値向上や事業者間連携の強化、住み替えの円滑化等の支援
 - ③ コンパクトシティの実現及び移動機会の増大を図るため、地域の関係者間の役割分担と合意の下で公共交通の充実を図る仕組みの構築（今年度中に結論）及び高齢化社会に適応した公共交通を補完する取組の実施

○都市部での高齢化対策としての地域包括ケアシステムの構築

- ・ 都市部での急速な高齢化の進展に対して、住まい、生活支援、介護などのサービス提供確保方策（民間企業や互助の活用、在宅・施設サービス整備の課題等）、地方での都市部高齢者の受入れ時の課題と対応策等について、有識者と自治体関係者で構成する検討会で検討を進め、本年秋を目途に取りまとめる。

○ロボット介護機器開発5ヵ年計画の実施等

- ・ 急速な普及拡大に向けて、移乗介助、見守り支援等、安価で利便性の高いロボット介護機器の開発をコンテスト方式で進めること等を内容とする「ロボット介護機器開発5ヵ年計画」を今年度より開始する。
- ・ また、研究開発に先立ち、開発された機器の実用化を確実にするため、安全基準及びそれに基づく認証制度を今後1年以内に整備する。
- ・ ロボット技術を利用した機器が、障害者の自立や生活支援に活かされるよう、企業が行う開発を更に促進するためのシーズ・ニーズマッチング等を行う。

健康・医療戦略

令和2年3月27日
閣議決定

いるところもあるなど、グローバルな企業活動が展開されている⁷。また、医療機器については、治療機器は欧米企業の後塵^{じん}を拝しているものの、診断機器については画像診断装置を中心に、日本企業が世界市場において一定のシェアを有している⁸。その一方で、欧米企業が、自前主義からオープン・イノベーションへと転換し、ベンチャー企業発の革新的な医薬品や医療機器を事業化する中、我が国では、ライフ系ベンチャー企業が十分に育っていない状況にある。そのほか、バーコード等を活用した製品のトレーサビリティに関するデータ蓄積及び標準化に向けた取組が企業・関係団体により進められている。

ヘルスケア産業⁹に関しては、公的保険を支える公的保険外サービスの産業群の国内市場規模が、2016年には約25兆円であったが、2025年には約33兆円になると推計されている¹⁰。市場規模の拡大とともに、デジタルヘルスやゲノム解析など新たな技術を活用したヘルスケアサービス⁹の多様化が見込まれている。

加えて、世界はまさに第4次産業革命のただ中にあり、人工知能(以下「AI」という。)、ロボット、ビッグデータなどのデジタル技術とデータの利活用が、産業構造や経済社会システム全体に大きな影響を及ぼしつつある中、我が国においては目指すべき未来社会の姿の一つとして「Society5.0」を提唱し、その実現に向けた取組を進めている。とりわけ、健康・医療分野は、これらの技術を活かし得る分野の一つとして期待されており、異分野からの企業の参入やスタートアップ企業等による投資が進みつつある。政府においても、健康・医療・介護データ基盤の整備などデータヘルス改革を進めており、AIやビッグデータ等の利活用による創薬等の研究開発の進展や、新たなヘルスケアサービスの創出等が見込まれている。その際には、健康か病気かという二分論ではなく健康と病気を連続的に捉える「未病」¹¹の考え方やその取組を進めるための指標の構築¹²等が重要になると考えられる。

世界的にも高齢化の進展は不可避の状況にあり、世界の高齢化率は1950年の5.1%から2015年には8.3%に上昇し、さらに、2060年には17.8%にまで上昇すると見込まれている。先進地域はもとより、開発途上地域においても、2015年に6.4%であった高齢化率は、2060年に16.3%にまで上昇し、急速に高齢化が進むことが見込まれている。その中でも、我が国は世界に先駆けて超高齢社会を迎え、今後も最も高い水準の高齢化率を維持していくと予想される³。

⁷ 「医薬品産業強化総合戦略」(厚生労働省、2015年9月4日策定、2017年12月22日一部改訂)

⁸ 「日本の医療機器産業の競争力強化とイノベーション活性化に向けて」(2018年4月、経済産業省、我が国医療機器のイノベーションの加速化に関する研究会)

⁹ ヘルスケア産業やヘルスケアサービスには、狭義のヘルスケア(健康の保持・増進)に資する取組に限らず、疾病の予防・共生に資する取組を含む。

¹⁰ 民間統計等から算出(平成29年度健康寿命延伸産業創出推進事業(健康経営普及推進・環境整備等事業)調査報告書)

¹¹ 未病とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、この全ての変化の過程を表す概念である。

¹² 神奈川県において未病コンセプトの普及や未病指標の構築など先駆的な取組が進められている。

定する業界認証等の在り方を示す指針の取りまとめ、各地域において産学官の多様な主体の連携を推進する「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」の設置促進及びそのアライアンスの設置など、新産業の供給環境の整備を進めた。

- ・ 国際展開については、日本的介護のアジアへの展開を進める「アジア健康構想に向けた基本方針」を推進本部において決定(2016年7月)し、さらに、介護のみならず医療、予防、健康な生活を支えるサービス等まで対象を拡大する改定(2018年7月)を行い、同基本方針に基づきアジア健康構想を推進した。さらに、「アフリカ健康構想に向けた基本方針」を推進本部において決定(2019年6月)し、同基本方針に基づきアフリカ健康構想の推進に着手した。
- ・ 日本の国際医療拠点の設置の推進や、渡航受診者の受入れに意欲と能力のある国内医療機関の認定を進めた。

(課題)

○ 新産業創出に係る課題

- ・ 我が国において重要性が増している多因子疾患への対応に当たっては、優れた医療の提供に加え、健康増進・予防の促進や病気と共生できる社会の構築を一体的に進めていくことが重要である。このため、これを支える新たな産業の創出・拡大への期待が高まっているが、市場は発展途上の状況にある。
- ・ 民間のヘルスケアサービスを有効に活用するには公的保険サービスとの連携が重要になるが、その素地がまだ十分に整っていない。
- ・ 世界的なオープン・イノベーションへの流れの中で、創薬等のライフ系ベンチャー企業がイノベーション創出の主要な担い手となりつつあるが、我が国では、上場基準が厳しい、リスクマネーの供給やインキュベーションの機能が弱いなど、その育成のための土壌が整っていない。
- ・ 新たなシーズが創出された場合でも、それを実用化にまでつなげる製造インフラ等が十分でない。
- ・ AI、ビッグデータなどのデジタル技術とデータの利活用により、異分野からの企業の参入やスタートアップ企業等による投資が進みつつあるが、従来から健康・医療産業に取り組んできた産業界等との連携が進んでおらず、ノウハウが必ずしも十分でない。

○ 国際展開に係る課題

- ・ 我が国の健康・医療関連産業は高い水準であることに比して、これまで国際的なプレゼンスの水準は一定程度にとどまっている。
- ・ 高齢化が進むアジアや、急増する人口を背景に高い経済成長を遂げているアフリカは潜在的市場として大きな魅力があり、諸外国が積極的なアプローチを行う中、我が国がより戦略的な国際展開を行わなければ市場確保に後れを取る可能性がある。

(3) 研究開発及び新産業創出等を支える基盤的施策に係る成果と課題

(成果)

- ・ 臨床研究法に基づく質の高い臨床研究や治験を実施する人材を育成するため、臨床研究中核病院による研修を開始するとともに、講義内容についてコアカリキュラ

1 (題名)

診療放射線技師養成教育に関する要望書

2 (出典)

公益社団法人 日本診療放射線技師会

3 (引用範囲)

「公益社団法人 日本診療放射線技師会」ホームページより、
「要望書・意見書 (<http://www.jart.jp/activity/opinion.html>)」
> 「2014年5月22日」
> 「診療放射線技師養成教育に関する要望書 (PDF)」

4 (その他の説明)

- ・「最先端医療に対応できる診療放射線技師の育成について、放射線を利用する診療技術について基本原理を学び、さらに高度化していく専門的な医療技術に対応できる知識と技術を修得すること」
 - ・「医療人の原点である人間性を尊重し、心豊かな医療技術者として活躍するために必要とされる広汎な基礎的教養を身に付けること」
 - ・「診療放射線技師の4年制大学教育への移行」
 - ・「診療放射線技師の基礎教育を4年制大学以上とすることを要望する」
- 上記文言を強調するために、マーカーを記入した。

平成31年3月31日

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
会長 宮島 喜文 様

臨床検査技師あり方推進ワーキンググループ

リーダー 丸田 秀夫

メンバー 横地 常広

長沢 光章

梶山 広美

滝野 寿

千葉 正志

西浦 明彦

片山 博徳

竹浦 久司

白波瀬浩幸

高村 好実

直田健太郎

担当理事 深澤 恵治

「将来へ向けての臨床検査技師のあり方」～提言～

はじめに

急速に少子高齢化に向けて進展する我が国は、団塊の世代（昭和22～24年に出生）が後期高齢者（75歳）となる2025年に照準を合わせた社会保障制度改革が進められている。また、高齢者人口がピークを迎える2040年には人口構成が激変することが予測されており、特に生産人口（15～65歳）の減少が加速して高齢者人口が4000万人とピークに達し、総人口の3分の1を超えると推計されている。行政や医師会を含む各種の医療団体では2040年を見据え、医療・介護サービスのあり方の検討が進められている。

このような背景を踏まえて各医療機関は新たな取り組みを模索している。我々臨床検査技師が国民にとって不可欠な職種として存続するためには何が必要なのであろうか？「臨床検査技師あり方推進ワーキンググループ」では医療の高度化、複雑化さらに情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）、人工知能（AI：Artificial Intelligence）等々の最新テクノロジーの医療への活用などを鑑み、臨床検査技師が将来へ向けて対応すべき課題として以下の3つのテーマを挙げ、提言書として取りまとめたので報告する。

検討テーマ

その1：AIと臨床検査技師なども含め10年後以上未来の臨床検査技師像を探る

その2：予防医学と臨床検査技師のあり方

その3：医療におけるコーディネーターとしての臨床検査技師の位置づけ

その1、A I と臨床検査技師なども含め 10 年後以上未来の臨床検査技師像を探る

提言の概要

科学技術の発達や労働人口の減少により、医療、検査分野でもロボットや「人工知能（A I）」が内蔵した医療機器、検査機器の開発が進むが、これは時代が求めている潮流である。

これに対して、臨床検査技師は臨床の場においては、ロボットや「人工知能（A I）」を管理する。道具として使う。お互い不足する能力を補完し合うことを目指し、国民により良い医療の提供を目指す体制を構築する。

提言に対する説明

団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年には、国内の就業者が 1285 万人減と予想される中で 65 歳以上が約 4,000 万人とピークに達し、労働現役世代の減少が最大の課題となる。20 年後に直面する労働人口減少という大きなリスクは、首都圏の急速な高齢化と医療・介護分野の危機到来、深刻な実労働者の不足となること等が挙げられている。労働人口の減少を補うためには、女性や高齢者の社会参加の推進や外国人労働者の確保とさらなる活用などにとどまらず、ロボットや人工知能（A I : Artificial Intelligence）などのテクノロジーの活用による労働の自動化を進めることで、労働の生産性を高めると共に、働き方や生活スタイルを大きく変化させていくことが重要となっている。

これまで、臨床検査分野には様々な新技術が導入されてきた。その先駆けとしては、臨床化学検査分野で手動的測定により行っていた検査項目が生化学自動分析装置で測定できるようになり、血液検査分野では顕微鏡を用いて血球をカウントする方法から血球数計測以外の多項目をも同時に測定し、白血球分類まで行えるようになった。今後さらなる技術革新により、様々な検査領域において簡便で高精度の測定系が開発され臨床現場に導入されるはずである。

現在、「第4次産業革命」と呼ぶべき変革（イノベーション）が進行しており、その中核となっている技術が「人工知能（A I）」である。保健医療分野におけるA I活用のメリットは、患者・国民だけでなく、医療・介護従事者や産業界にも及ぶ。A Iは高度で洗練されたソフトウェアシステムで、コンピューターが人間の知性や意思決定を補助するものと考えられる。その中でも医療の分野では人間の知識トレーニングや情報の有効性検証、継続的な学習の実施に大量の検査データが使用されている。医療の分野での活用範囲としては、カルテ、検診・健診の電子記録、医学研究、臨床検査結果、各種診断情報等である。その中で最もA Iの導入が早いとされている臨床検査領域では、臨床検査技師の役割は何かを真剣に模索することが急務と考えられる。

このような状況で今後の想定されるA Iの機能・活用方法から将来の臨床検査室の状況を描いてみると、以下の項が挙げられる。

① マニュアル作業がオートメーション化される

A I 臨床検査室では、細かく煩雑な人為的作業は大きく削減される。臨床検査の工程全般のプロセスは効率が上がり、様々な意思決定も迅速に行えるようになる。臨床検査技師

はオートメーション作業を管理するA Iの管理が業務になる。

② デジタル化による情報の流れの自動化

ルールに基づいたプログラミングにより、臨床検査室内の人による作業と意思決定が置き換えられ、ワークフローは加速化しエラーが低減される。手書きの結果報告や手作業による編集をデジタル編集に変え、即時に医師に転送できるようになる。文書の間違い等は常にピックアップされ、人がA Iで動かされることもある。

③ 臨床検査のリーダーらが見るA Iの近未来

臨床検査業務でのA I活用は、患者ケアのパス、病変の検出や診断、慢性疾患の予防などへも波及し、今よりもさらに改善される。

④ 主流になっていくA I

A Iは学習と改善を繰り返しながら、患者以外とのやり取りも処理できるようになり、患者ケアの流れのすべてが変革する。つまり、EHR (Electronic Health Record) の確認から検査の発注、診断情報や症状、リスクプロファイルや人口統計までを統合し、診断と治療のオプションを推奨することができる。

A Iの普及は当然の流れであり、医療の現場は急速に様変わりしていくことが予想されるが、それらに柔軟に対応し、自らの立ち位置を確立し、医療の現場で不可欠な存在となる必要がある。そのための方策として、臨床検査技師がA Iの示した結果を理解し、それを分かりやすく患者に伝えるなどの取り組みが「A Iを利用する」ことに繋がると考える。臨床検査の専門性を活かしつつ、A I技術やICT技術と医師そして患者間を橋渡しする業務、ここに着目していくことで到達する未来がみえてくる。また、A Iを有効に機能させるためにはベースとなる様々な医療情報の精度・品質の確保も重要であり、A Iへインプットする臨床検査情報の品質確保は当然臨床検査技師が担う業務となる。

A Iの普及により、医療現場の労働環境は大きく変化すると予想される。これまで臨床検査技師が行ってきた業務は、今後はA Iが的確に正確に判断し、実践してくれる時代となる。そこで懸念されているのが「A Iが普及すると我々の職種がなくなる」といった意見であるが、A Iはあくまで「道具」であり「道具」には必ず「使う人」が必要となる。つまりA Iは我々にとって仕事を奪う「脅威」ではなく、人間と「共存」していく存在となっていくと予想する。実際の医療現場では患者を中心としての業務であり、複雑な表現を交えたコミュニケーションが必要であるが、臨床検査技師がこれからのA I時代を生き残るためにはA Iを活用できる人材の育成を急ぎ、A Iと共に「コミュニケーション力」を磨き患者の近い場所で業務を実践し、他医療職に信頼される職種になっていくことが必要と考える。

その2、予防医学と臨床検査技師のあり方

提言の概要

臨床検査技師は、医師が行なうあらゆる疾病診断のための臨床検査値を提供する唯一の

医療技術者であり、提供した臨床検査値での診断は医業であり医師のみしか認められていないが、臨床検査値と当疾病・病態との関連性についての理解は、他の医療技術者に比べて優位な存在である。

このことから、臨床医学の領域に限らず、生活指導、予防医学に関連するあらゆる領域において活躍できる考えることから、制度設計に取り組むべきである。

提言に対する説明

現状の臨床検査技師の多くが勤務している環境は臨床医学と考えられる。臨床医学は予防医学と異なり、健康障害の原因を特定し、それを取り除き治療することである。一方、診断学では一次予防、二次予防などの予防医学との連携が不可欠とされている。臨床分野では予防的活動を行うことが可能であり、予防医学の重要性から現在では医師の予防医学教育が進んでいる。同時に、予防医学の領域の拡大に伴いメディカルスタッフの役割分担の重要性も認識されつつある。予防医学の実践活動は医師、歯科医師の他に薬剤師、保健師・看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士等の医療職種の協力活動による展開が進められてきた。しかし、臨床検査技師はこの領域に十分に認知されているとは言い難い現状がある。国内の人材育成は全国の大学医学部および医科大学に衛生学、公衆衛生学の講座を設置して予防医学に関する教育が実施されているにも関わらず、臨床検査分野ではそれらに対応出来ているとはいえない状況である。

臨床医学の学会を中心に専門医、認定医、指導医の形で専門医制度が整備されつつあるが、公衆衛生あるいは予防医学に関する研修の必要性を認識し、その内容について検討することも必要であるようである。また、予防医学分野では一部の学会を除き、各学会が人材養成にどのように関わるべきなのか十分に検討されていない。関連学会が医師だけでなく予防医学に関わる幅広い人材養成にどう取り組んで行くべきか模索する時期と捉えるべきである。臨床医学の各領域においては予防医学教育の拡充を検討する必要があり、臨床検査技師、看護師等の大学における人材育成教育が急がれる。そのうえで、臨床検査分野の立ち位置も明確化しなければならない。

予防医学には、一次予防（疾病の予防。健康への啓発、健康増進、特殊予防（教育、予防接種など））と二次予防（重症化の防止。疾病の早期発見と早期措置、適切な医療と診療対策（健康診断など））と三次予防（疾病が発症した後、必要な治療を受け、機能の維持・回復を図ること）がある。

一次予防は、健康な人が病気になる前の段階の予防で、臨床検査技師が大きく係るところであり生活習慣の検査や改善指導を通じて寄与できる。また、治療において検査値が基準値範囲内になるようにコントロールして病気になる前に予防することも可能となり、国民に対して予防に関する教育も推進できる。

二次予防は、発生した疾病に対して自覚症状が出る前に疾病を発見し、早期に治療しようとするものである。その早期発見のために各種の健康診断が実施されている。ここでも臨床

検査が利用され、多くの臨床検査技師が活躍しているところである。

三次予防は主に医療における診療により、病気の進展を防いだり、合併症の発生を防いだりするものである。ここでの臨床検査は治療の経過観察や投薬などのモニタリングなどが想定される。人口の高齢化や社会環境の変化に伴い、脳血管疾患・心臓疾患・呼吸器疾患など基礎疾患を有する人々が病院から在宅などで疾病管理を行うことが想定され、居宅での疾病管理にはある程度の臨床検査を用いて適切に行われなければならない。現状では臨床検査技師の存在は希薄なものは否めないが、地域包括ケアシステムを上手に利用し臨床検査技師による居宅での疾病管理（三次予防）は政府の方針に沿った内容であると考えている。

以上のような国民に寄り添った検査や検査説明だけではなく、一次、二次さらには三次を合わせた総合健診システムを構築ができるのは、検査の専門家である臨床検査技師にできることである。また、予防医学においては、膨大な受診者データを有しており、AI を用いて解析することにより、疾病の早期発見や治療経過の観察、合併症の防止に貢献すると考える。超高齢社会が始まった現在、高齢先進国に生きる私たちは、健康維持に努め、さまざまな疾患と立ち向かい高齢期でも健康で、自立して、社会に貢献できること、新たなサクセッフル・エイジング（幸せに、より良く老いる）のモデルやシステム の構築と実践を行い、それを世界に発信できることを期待したい。当然その中には臨床検査技師が加わり一次・二次・三次の予防医学へ寄与もできる。すべての国民が健康に関心を持ち、病気にならないように臨床検査技師ができることを創造し、医療費の削減につなげる仕事ができる臨床検査技師、国民（患者）中心に仕事ができる臨床検査技師になることが重要である、それらを担う人材の育成も重要な課題である。

その3、医療におけるコーディネーターとしての臨床検査技師の位置づけ

提言の概要

臨床検査技師は、医師が行なうあらゆる疾病診断のための臨床検査値を提供する唯一の医療技術者であり、提供した臨床検査値での診断は医業であり医師のみしか認められていないが、臨床検査値と当疾病・病態との関連性についての理解は、他の医療技術者に比べて優位な存在である。

このことから、臨床医学の領域に限らず、生活指導、予防医学に関連するあらゆる領域においても、コーディネーターとし活躍できる考えることから、制度設計に取り組むべきである。

提言に対する説明

現在、臨床検査技師がコーディネーターの名称を用いて活動出来ている分野は、治験コーディネーター（CRC : Clinical Research Coordinator）やPOC（Point Of Care）コーディネーター等がある。

CRCは治験責任医師又は治験分担医師の指導の下、治験業務に協力する者で、主に看護師、薬剤師、臨床検査技師などが担当している。業務範囲としてはインフォームド・コンセント

取得補助、治験のスケジュール管理、治験中の患者のサポート、症例報告書作成補助、関係各部署のスタッフに対する連絡、調整などである。

POC コーディネーターの役割は、操作マニュアルやトレーニング事項の作成と記録、機器・試薬の添付文書など書類の管理、各部門における責任者の把握、測定現場での操作手順の確立、測定現場と検査室への連絡、使用者の教育などである。

これらの他に生活習慣病や糖尿病をはじめとする慢性的な疾患の患者管理のためのコーディネーターも重要視されている。患者管理において臨床検査は重要なメルクマークであり、臨床検査技師の関与が不可欠と考える。上記のほか、臨床検査技師に期待されるコーディネーター業務について以下5つの可能性を考察してみる。

一つ目は、検体検査の精度の確保に関する医療法等の一部改正に伴い、臨床検査技師が、作業手順書や日誌・台帳の作成・運用管理を任されるなど法改正への体制整備において、検査室が管理する領域を超え施設全体の検体検査に関連する運営・管理のコーディネートができることである。

二つ目は、臨床検査技師は、がんゲノム医療の実用化に必要な医療従事者として、がんのゲノム医療に関する遺伝子関連検査に精通し、患者・家族への説明、多職種との連携、意思決定支援等を担うことができ、がんゲノム医療コーディネーター業務ができることである。平成30年より厚生労働省主導で人材の育成が進められており、臨床検査技師をはじめ看護師、薬剤師が対象職種となり、がんゲノム医療中核拠点病院やがんゲノム医療連携病院に配置が求められている。業務内容の多くの部分は臨床検査技師の専門性が発揮できる遺伝子関連検査に関するものであり、多くの臨床検査技師の関与が望まれる。

三つ目は、各医療職種の役割分担をコーディネートできることである。たとえば多職種業務推進コーディネーター（仮称）である。働き方改革の検討の中で、医師・看護師の負担軽減を目的とする医療職の働き方や仕事の割り振りを臨床検査技師がコーディネートすることも十分に可能である。診療放射線技師や病院薬剤師と比較し、臨床検査技師は医療・疾病に関連する豊富な知識と技術を活用することにより、患者・病院双方に有益となる。

四つ目は、臨床検査技師は、現状のレベルにおいて一定以上の検査データ管理が可能である。また、検査領域を超え、医療事故防止・削減に向けて、病院・施設全体のロジック構築に有効なツールをコーディネートできる力がある。検体検査のデータ解析において、設定された解析ロジックに基づき、臨床検査システムから受信した検査オーダー・検査結果をリアルタイム自動解析する診断支援において、検査ロジックに従ってフォローすることで、臨床検査技師は今後さらなる進化ができる。

五つ目は、在宅医療において、検体採取やPOCT 検体検査、ポータブル超音波、心電図なども使いこなせる臨床検査技師は、どのような医療スタッフをどの患者宅に派遣することで、よりよい医療を提供できるのかをコーディネートすることが可能となる。在宅医療において診療の効率化、医師の業務軽減、看護師や関連するメディカルスタッフが単独で在宅を訪問するシステムが一般化するところに臨床検査技師も含まれることによりコーディネー

ターの役割を發揮し在宅での活躍が期待される。

臨床検査技師がコーディネーターとして関与した実例の一端として以下の事例を把握している

- ◆院内における多職種の研修事業（診療支援研究会）
- ◆在宅医療における多職種研修事業（医師、薬剤師、ケアマネ、行政、介護福祉士、作業療法士など）
- ◆地域の医療施設の地域講演事業への臨床検査技師の参入
- ◆地域企業とのコラボレーションによる社会貢献活動等活動
- ◆職域を跨いだ研修事業（コメディカル統合研修会）
- ◆平成31年度開催を目指し、勇美財団助成金の申請（2回目）を行った。（事業は技師会ではなく南予プロジェクト、代表高村）①. 顔の見える多職種連携研修会）②. 看取りの経験報告研修会（いずれも愛媛2市3町での研修会開催予定）、などがある。

このような事例をコーディネーターとすることは、最初にコーディネーターの概念やフレームを作らなければならない。それはフィールドが広すぎる場合は意見が右往左往するからである。そしてコーディネーターのカテゴリーを明示することが必要である。

社会においては、いずれの仕事に関してもコーディネートを行う仕事は、個々のキャリアに裏付けされた知識やコミュニケーション能力を持ち、フットワークの良い人材が適していることが多く、その業務を行うためには、総合的な人間力や特定の分野に特化した人材を意識的に育成する環境が必要である。

コーディネーター業務を臨床検査の実務と並行して行う業務に位置づけるのか、コーディネーター専任とする仕事として位置づけるのかを考えると、臨床検査現場にしながらコーディネーター業務の兼務は難しいかもしれない。専任のコーディネーターとして活躍できる臨床検査技師を育成することを主眼に置いて、専任のコーディネーターである臨床検査技師が、コーディネーター業務に役立てるために臨床検査現場で研修して実務も学ぶ、そういう位置づけと関係性が理想である。

結びに

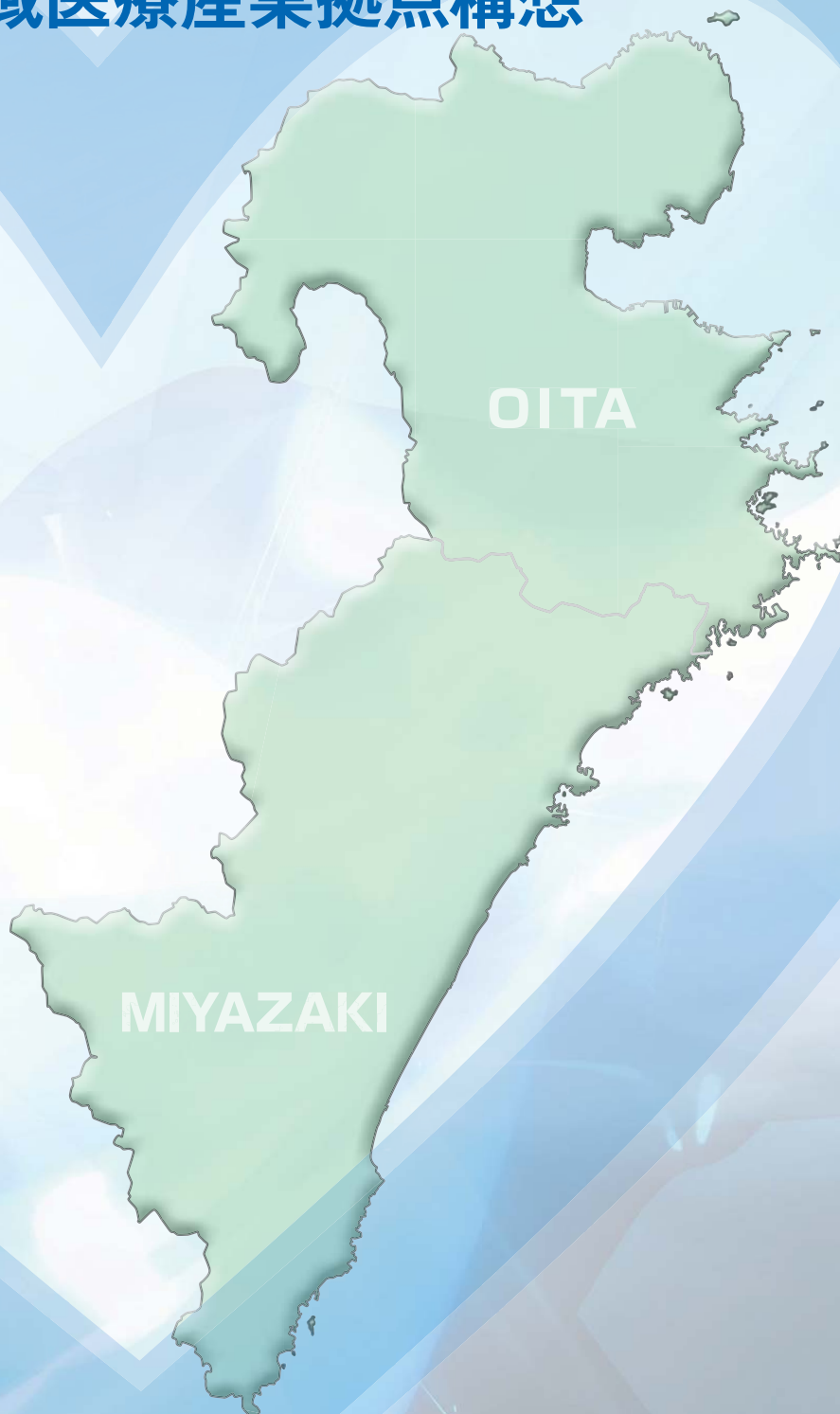
以上 3 つのテーマについて現状と今後の課題についてまとめた。それら以外についても多くの論点があるが、今後折に触れ整理していきたい。

旧来、臨床検査技師の主要な業務の場は、中央化された検査室内での測定業務が中心であり、日々検査室へ提出される多量の検体を迅速に測定し、精度の高い検査結果を報告することに多くの労力を投入してきた。そのような中、2025 年問題をはじめ、医療を取り巻く環境の変化によりチーム医療の必要性が明確化され、臨床検査技師も医療職種の一員としてチーム医療への参画が不可欠となった。本来のチーム医療は患者本位、患者中心の医療を提供することが求められている。医師の働き方改革に伴うタスクシフトなど医療を取り巻く環境の変化だけでなく、臨床検査技師による真のチーム医療推進のためには、従来から当会が目指している患者に寄り添う臨床検査技師の創造が不可欠であると考え。さらに将来を見据えると、技術革新により自動化、ロボット化が加速し、従来の臨床検査業務の多くは人手を不要とする時代が到来すると予測されている。2018 年 11 月、政府は、AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システムの研究開発計画を始動させた。その中には、患者の負担軽減・がん等の再発の超早期診断につながる AI 技術を応用した血液等の超精密検査を中心とする、患者生体情報等に基づく AI 技術を応用した診断、モニタリング及び治療（治療薬含む。）選択等支援システム（センサー、検査機器等の開発、活用含む。）の開発が含まれている。

未来を見据え、臨床検査技師が医療の中で必要不可欠な職種としてあり続けるためには、時勢に合わせ社会のニーズに柔軟に対応し、常に新たな活路へ向け挑戦し続ける気概と勇気が不可欠であると考え。今回の提言がその一助となることを願い結びとする。

東九州メディカルバレー構想 (総合特区第1次指定)

東九州地域医療産業拠点構想



大分県・宮崎県

1 東九州メディカルバレー構想の目的

大分県から宮崎県に広がる東九州地域において、血液や血管に関する医療を中心に、産学官が連携を深め、医療機器産業の一層の集積と地域経済への波及、更にはこの産業集積を活かした地域活性化と、医療の分野でアジアに貢献する地域を目指します。

2 東九州地域のポテンシャル

◆東九州地域の医療機器産業

東九州地域における医療機器産業は、血液や血管に関する医療機器を製造する企業が集積しているという特長があり、宮崎県で部品を生産し、大分県で最終加工及び出荷を行っている製品が多く、医療機器生産金額は両県合わせて1,108億円となっています。*

特に、人工腎臓をはじめ血液回路、血管用カテーテルなどの製品シェアは日本一、さらにアフェリシス(血液浄化)製品は世界一のシェアを誇るなど、血液や血管に関する医療機器の世界的な生産・開発拠点となっています。



3 東九州メディカルバレー構想の取り組み

◆ 研究開発の拠点づくり

● 産学官連携による研究開発の推進

血液・血管に関する医療機器の高度化を進め、東九州地域が世界的な研究開発拠点として成長するように、産学官が連携して研究開発を推進します。

● 研究開発環境の整備

産学官の交流を充実させるための仕組みづくりや医工連携の取組など研究開発の環境整備を進めます。

● 研究開発資金の確保

国等の公募型研究開発資金や補助制度の活用を図り、産学官が協力してその獲得に努めます。

● 研究開発を促進する制度の活用

総合特区制度等を活用して、現場ニーズに基づく研究開発の効率化、迅速化を図る方策について検討していきます。

〈具体的な取組事例〉

- ・ 血液や血管を中心とした新たな医療に関する研究会の設置
- ・ 産学連携、医工連携の研究拠点を設置
- ・ 産学連携による医療機器開発の推進
- ・ 医療機器開発のための治験ネットワークの構築

◆ 医療技術人材育成の拠点づくり

● 医療技術に係る人材の育成

血液や血管に関する高度な医療機器の適切な操作方法を習得できるプログラム開発やトレーニング施設の整備を図ります。

また、アジアを中心に海外の医療技術者に対するトレーニング、医療技術者の国際交流も積極的に進めます。

● 将来を担う医療人材の育成

大学等において血液や血管を中心とした医療や医療機器開発を専門とする学科、講座の設置を検討するとともに、高等学校など学校教育機関と連携し、将来を担う医療人材の育成を進めます。

〈具体的な取組事例〉

- ・ 医療技術のトレーニングセンターを設置
- ・ 海外からの医療技術者の研修を受け入れる窓口を設置
- ・ 大学や高等学校に医療技術人材を養成する学科等の設置を検討

4つの 拠点づくり

◆ 血液・血管に関する医療拠点づくり

● 中核的医療機関の拠点化と

医療機関ネットワークの構築

東九州地域発の血液や血管に関する先端医療技術が国際標準化されるよう、血液や血管に関する高度医療を提供できる拠点の整備を検討します。

また、医療拠点や医療機関のネットワークで得られた臨床データを一元的に管理し、研究開発に活かせる体制の構築について検討します。

〈具体的な取組事例〉

- ・ 血液や血管に関する高度医療の拠点整備の検討
- ・ 国内外の関連医療機関のネットワーク化

◆ 医療機器産業の拠点づくり

● 更なる企業誘致の推進

医療機器産業の集積を図るため、総合特区制度を活用するとともに、交通インフラ整備、工業用地の整備などを行い、医療機器メーカーの一層の誘致を進めます。

● 地場企業に対する支援

地場企業が医療機器産業に新規参入できるよう、参入研究会の立ち上げ、医療機器メーカーとのマッチング、許認可に関するセミナーの開催などを支援します。

〈具体的な取組事例〉

- ・ 医療機器メーカーや医療機器開発に必要な試験機関等の誘致
- ・ 医療機器産業参入のための研究会の立ち上げと活動の支援
- ・ 東九州自動車道など関連する道路・港湾等の整備促進

4 地域医療の活性化と国際医療交流の推進

◆地域の医療の活性化

4つの拠点づくりを行うことにより、幅広い領域の医療技術者にとっても魅力的な地域となることから、医療産業の集積とあわせて医療技術者の集積が期待されます。

また、血液・血管に関する医療拠点の整備や医療機関のネットワークづくりを進めることで、地域の医療機関の相互連携が強化されます。

そのことにより、東九州地域の医療の活性化が期待されます。

◆地域資源を活用した国際医療交流

4つの拠点づくりとあわせて東九州地域の地域資源と医療を組み合わせた新たなサービスの提供となる国際医療交流を推進します。

5 構想の推進

◆推進体制



◆情報の発信



〈お問い合わせ先〉

大分県商工労働部産業集積推進室

TEL 097-506-3271
FAX 097-506-1753

宮崎県商工観光労働部産業集積推進室

TEL 0985-26-7101
FAX 0985-26-7322

第7次大分県医療計画

平成30年3月
大分県

目 次

第1章 大分県医療計画の趣旨	
1 計画策定の趣旨	1
2 基本理念	1
3 計画の位置づけ	1
4 計画の期間	1
第2章 大分県の医療の現状	
第1節 人口及び医療施設等の状況	
1 人口及び人口動態	2
2 医療施設等	6
第2節 県民の受療の状況	
1 患者数・受療率	14
2 疾病大分類別患者数・受療率	14
3 年齢階級別患者数・受療率	17
4 圏域別患者数・受療率	18
5 患者の流出入	19
第3章 医療圏と基準病床数	
第1節 医療圏の設定	
1 医療圏設定の趣旨	22
2 医療圏の設定	22
第2節 基準病床数	24
第4章 地域医療構想	25
第5章 安心で質の高い医療サービスの提供	
第1節 患者本位の医療サービスの提供	26
第2節 医療機関の医療機能の分化と連携	28
【5疾病】	
第3節 がん医療	31
第4節 脳卒中医療	36
第5節 心筋梗塞等の心血管疾患医療	40
第6節 糖尿病医療	44
第7節 精神疾患医療	
1 認知症を除く精神疾患	49
2 認知症	57
【5事業】	
第8節 小児医療	66
第9節 周産期医療	72
第10節 救急医療	78
第11節 災害医療	86
第12節 へき地医療	92
第13節 在宅医療	102
第14節 その他の医療提供体制の確保	
1 障がい保健対策	110
2 結核・感染症対策	113

3	臓器等移植対策	1 2 4
4	難病・原爆被爆者対策	1 2 6
5	アレルギー疾患対策	1 2 9
6	今後高齢化に伴い増加する疾患等対策	1 3 1
7	歯科保健医療対策	1 3 6
8	リハビリテーション対策	1 3 8
9	血液の確保・適正使用対策	1 4 0
第15節	公的病院等の役割	1 4 2
第16節	歯科医療機関の役割	1 4 5
第17節	薬局の役割	1 4 8

第6章 地域医療を支える人材の確保と資質の向上

第1節	医師	1 5 1
第2節	歯科医師	1 5 5
第3節	薬剤師	1 5 6
第4節	看護職員（保健師、助産師、看護師・准看護師）	1 5 8
第5節	歯科衛生士・歯科技工士	1 6 6
第6節	管理栄養士・栄養士	1 6 7
第7節	臨床検査技師・衛生検査技師・診療放射線技師・診療エックス線技師	1 6 9
第8節	理学療法士・作業療法士	1 7 0
第9節	その他の医療従事者	1 7 1
第10節	介護サービス従事者	1 7 2

第7章 医療の安全の確保

第8章 健康危機管理体制の構築

第1節	健康危機管理体制	1 7 6
第2節	医薬品等の安全対策	1 8 2
第3節	食品の安全衛生対策	1 8 6
第4節	生活衛生対策	1 9 0

第9章 保健・医療・福祉（介護）の総合的な取組の推進

第1節	保健・医療・福祉（介護）の連携	1 9 2
第2節	健康寿命を延ばす健康づくりの推進	1 9 3
第3節	高齢者保健福祉対策	1 9 6
第4節	保健福祉施設の機能強化	
1	保健所	1 9 9
2	地域包括支援センター	2 0 1
3	精神保健福祉センター（こころとからだの相談支援センター）	2 0 2
4	衛生環境研究センター	2 0 5

第10章 医療における情報化の推進

第11章 計画の推進

第1節	計画の周知と情報公開	2 0 8
第2節	計画の推進、評価・公表	2 0 9

附属資料（5疾病5事業在宅医療に関する現状把握のための指標一覧表等） 2 1 1

第5章 安心で質の高い医療サービスの提供

第1節 患者本位の医療サービスの提供

1 診療情報の提供体制の充実

(現状及び課題)

- 患者の受療意識の向上、医療技術の高度化に伴う治療方法等の選択肢の拡大等を背景に、治療方針や治療方法の選択肢の患者への適切な説明、他の医師の意見を求める患者への協力など、患者の選択や患者の意向が尊重される医療サービスの提供が求められています。
- 医療機関は、患者が保健医療サービスの選択を適切に行うことができるように、正確かつ適切な情報の提供に努めるよう定められており、情報提供の方法として、県のホームページに掲載するための報告が義務づけられているほか、院内掲示、広告、医療機関独自のホームページ等が活用されています。
一方で、医療に関する広告については、医療法により広告可能な事項が制限されています。
- 患者が地域の医療機能を理解し、病期に適した質の高い医療が受けられるようになるために、地域の医療連携体制を構築し、病期に応じた身近な医療機関を知らせることも重要です。
- 患者が医療機関の選択に関して必要な情報を容易に得られるよう、医療機能情報提供制度に基づき、県のホームページ「おおいた医療情報ほっとネット <http://iryjo-joho.pref.oita.jp/>」を開設し、診療科目や診療時間などの基本情報や人員の配置や患者の数などの実績に関する情報など、県内医療機関の医療機能情報を公開しています。
また、外国人も閲覧できるよう、英語、韓国語、中国語での表示も行っています。

(今後の施策)

- 病状、指導方法、診療内容等について、医療従事者と患者・家族等が十分に話し合い、信頼関係に基づいた医療が提供されるよう、インフォームド・コンセントの促進に努めます。
- セカンドオピニオンの制度が使いやすくなる仕組みについて研究します。
- 本計画の中で、主要事業ごとの医療連携体制を構築し、各病期に対応できる医療機関を明示（必要に応じて情報を更新）するなど、地域の医療機能情報を提供します。
- 医療機能情報提供制度については、医療機関の登録漏れをなくし、「おおいた医療情報ほっとネット」の充実を図ります。また、県民が医療機関を選択するための情報を容易に取得できるよう検索機能の強化を図ります。

2 人権に配慮した医療サービスの提供

(現状及び課題)

- ハンセン病や結核などの感染症については、治療法が確立された今もなお誤った認識が存在し、また、エイズ患者、HIV感染者などに対する偏見は根強く、医療関係者の深い理解と人権を尊重したサービスの提供が求められています。
また、臓器移植の場合などにおける臓器提供者・家族等のプライバシーの問題や身体拘束（抑制）の問題など、患者の人権を尊重する医療を進めることが必要です。
- 県では、「大分県人権尊重社会づくり推進条例（平成21年4月施行）」及び「大分県人権尊重施策基本方針（平成27年4月改定）」に基づき、県民への正しい知識の普及と啓発を図っていますが、保健医療関係者は、その一人ひとりが人権が尊重される社会の実現に深く関わっていることから、一層の人権教育・研修の充実を図る必要があります。
また、医療関係者と患者・家族との信頼関係を構築するため、大分県医療安全支援センターを設置し、専任の相談員による中立的な立場からの医療相談を実施しています。

(今後の施策)

(1) 啓発活動の推進

- 感染症などに対する偏見や差別は、認識不足から来るものが多いことから、市町村や関係団体、学校、事業所等と連携し、さまざまなメディアを通じて情報を提供し、正しい知識の普及・啓発を図ります。また、患者に対しては、患者の人権を尊重した適切な医療の提供を推進します。

(2) 人権教育・研修の推進

- 高い職業倫理が求められる医師、看護師等の医療関係者に対する人権教育・研修の充実を図るため、学校・養成施設に働きかけるとともに、関係団体に対しても取組を要請します。

(3) 相談体制の充実

- 大分県医療安全支援センターや二次医療圏ごとの医療安全支援センターの活動を通じて、中立的な立場で、患者と医療機関との橋渡しを行い、医療サービスの向上と患者の人権尊重に取り組みます。

第7節 臨床検査技師・衛生検査技師・診療放射線技師・診療エックス線技師

(現状及び課題)

- 平成 28 年 10 月 1 日現在、県内の病院で業務に従事している臨床検査技師は 706.2 人、衛生検査技師は 2.5 人となっています。
- 県内には、平成 29 年 4 月 1 日現在、2 か所の養成施設で臨床検査学科が設置されており、質の高い臨床検査技師の確保が図られています。

◇臨床検査技師・衛生検査技師数の推移 (各年 10 月 1 日現在) (単位：人)

区分 \ 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
臨床検査技師	652.1	660	678.2	696.7	706.2
衛生検査技師	4.4	3.5	1.5	2.5	2.5

資料：厚生労働省「病院報告」(常勤換算)

- 平成 28 年 10 月 1 日現在、県内の病院で業務に従事している診療放射線技師は 519.3 人、診療エックス線技師は 0 人となっています。また、県内の専門学校に診療放射線科が 1 ヶ所設置されています。

◇診療放射線技師・診療エックス線技師数の推移 (各年 10 月 1 日現在) (単位：人)

区分 \ 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
診療放射線技師	470.4	477.9	488.5	499	519.3
診療エックス線技師	7.5	7.3	7.3	-	-

資料：厚生労働省「病院報告」(常勤換算)

(今後の施策)

(1) 人材の確保

- 県内の需要に対応した臨床検査技師、診療放射線技師の養成、確保を促進します。

(2) 研修の充実

- 就業団体による研修等の充実を促進します。

第9節 その他の医療従事者

(現状及び課題)

- 保健、医療、福祉の連携が求められる中、質の高い保健医療を提供するため、視能訓練士、言語聴覚士、臨床工学技士、あん摩マッサージ指圧師、精神保健福祉士、社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）、臨床心理士、はり師・きゅう師、柔道整復師など多種多様な医療従事者の確保が求められています。
- 職種別の病院への従事者数の推移をみると、言語聴覚士、臨床工学技士、精神保健福祉士、社会福祉士については増加傾向ですが、視能訓練士、あん摩マッサージ指圧師については減少傾向です。

◇病院の従事者数の推移 (各年10月1日現在) (単位：人)

年 \ 職種	視能訓練士	言語聴覚士	臨床工学技士	あん摩マッサージ指圧師	精神保健福祉士	社会福祉士
平成24年	14	209.1	279.8	47.8	110	159.9
平成25年	14.2	226	285.8	47	125	155
平成26年	14.7	229.4	311.3	39.4	137.8	170.7
平成27年	14.5	245.9	322.5	40.6	153.6	178
平成28年	13.9	264.5	333.4	38.1	153.8	175.8

資料：厚生労働省「病院報告」(常勤換算)

- 職種別の就業者数の推移をみると、はり師、きゅう師、柔道整復師については増加しています。

◇就業者数の推移 (各年12月末現在) (単位：人)

年 \ 職種	はり師	きゅう師	柔道整復師
平成20年	822	803	243
平成22年	944	926	325
平成24年	884	861	394
平成26年	833	814	451
平成28年	849	826	507

資料：厚生労働省「衛生行政報告例」

- 県内にある養成施設は、平成29年4月1日現在、視能訓練士1か所、言語聴覚士1か所、臨床工学技士2か所、柔道整復師1か所、はり師・きゅう師1か所となっています。

(今後の施策)

(1) 人材の確保

- 県内の需要に対応した医療従事者の養成、確保を促進します。

(2) 研修の充実

- 医師を中心とした総合的な医療体制が求められており、各職種にまたがる課題に適切に対応するため、関係職種間の交流を促進するとともに、研修の促進を図ります。

第7章 医療の安全の確保

(現状及び課題)

○ 県医療安全支援センター

平成15年8月1日に、「大分県医療安全支援センター」を県医療政策課に設置し、専任の相談員（常勤換算看護師1名）が中立的な立場で、患者や家族等からの相談に応じ、医療機関との橋渡し役を行っています。

また、相談者からの相談等に適切に対応するため、弁護士、医療関係団体、住民代表、行政機関で構成する「医療安全推進協議会」を設置しており、活動方針の決定や対応困難事例等の検討を行っています。

○ 二次医療圏医療安全支援センター

県では、二次医療圏での医療安全支援センターを設置しており、医療法許認可担当職員が相談に応じています。

◇各医療安全支援センターの連絡先等

名称	電話番号	相談時間	相談方法
大分県医療安全支援センター	097-506-2644	9:30～12:00 13:00～16:30 (土日祝日除く)	電話、面談等
東部保健所医療安全支援センター	0977-67-2511(代)		
中部保健所医療安全支援センター	0972-62-9171(代)		
南部保健所医療安全支援センター	0972-22-0562(代)		
豊肥保健所医療安全支援センター	0974-22-0162(代)		
西部保健所医療安全支援センター	0973-23-3133(代)		
北部保健所医療安全支援センター	0979-22-2210(代)		

◇医療安全支援センターでの相談実績

期間	相談件数	月当たり相談件数	期間	相談件数	月当たり相談件数
H19年度	417	34件/月	H24年度	529	44件/月
H20年度	458	38件/月	H25年度	528	44件/月
H21年度	518	43件/月	H26年度	587	48件/月
H22年度	530	44件/月	H27年度	637	53件/月
H23年度	455	37件/月	H28年度	666	55件/月

○ 保健所設置市(大分市)医療安全支援センター

平成23年4月1日に、「大分市医療安全支援センター」が設置されました。

名称	電話番号	相談時間	相談方法
大分市医療安全支援センター	097-536-2554	8:30～12:00 13:00～17:15 (土日祝日除く)	電話・面接等

(今後の施策)

(1) 医療安全支援センターの充実

- 二次医療圏での医療安全支援センターの相談担当職員への研修を行い、相談体制の充実に努めます。
- 大分市の医療安全支援センターと相互に連携・協力して、患者・住民等からの相談に対応します。
- 医療安全支援センターの活動状況をホームページ等で情報提供するとともに、患者・住民に対する医療安全に係る啓発を行います。

(2) 医療機関における相談体制の整備・充実

- 医療機関への立入検査等を通じて、各医療機関における相談体制の現状を把握するとともに、未整備の医療機関等に対しては体制の整備・充実を働きかけます。
- 医療安全の確保に関する必要な相談事例の収集、分析を行い、医療機関等へ情報提供を行います。

(3) 他の関係機関・団体との連携強化

- 多様な相談等に適切に対応するため、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会や民間相談窓口など関係機関との連携強化を図ります。

第8章 健康危機管理体制の構築

第1節 健康危機管理体制

(現状及び課題)

○ 全国的に感染症、食中毒、医薬品、飲料水などの原因により、地域住民の生命と健康を脅かす事案が発生しています。海外で発生流行したMERS・エボラ出血熱は、交通網の発達により国内に入り、感染拡大する可能性が高くなりました。

また、地震や豪雨による災害も発生し、被害住民の健康維持のため、避難所における衛生・健康対策が重要な業務として求められています。

このため、これらの事案が発生した際には、保健所、衛生環境研究センター、医療機関等と連携し迅速に対応できるよう、健康危機管理体制の整備を行う必要があります。

◇県内における健康危機管理事案の発生状況 (単位：人)

疾患等の名称	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
コレラ					
細菌性赤痢	1	2			
腸管出血性大腸菌感染症	40	27	21	22	55
腸チフス				1	
食中毒	172	604	156	64	298

資料：「大分県健康づくり支援課、食品・生活衛生課調べ」

○ 県では、「大分県健康危機管理基本指針」を策定し、健康危機管理対策調整会議を設置するとともに、様々な健康危機に対応するための実施体制やマニュアル等をまとめた「健康危機管理の手引き」（平成 26 年 3 月改訂）を作成するなど、健康危機の発生に備えています。

○ MERS やエボラ出血熱等の患者が発生した場合に備え、患者移送車を車いすにも対応できるものに更新し、新型インフルエンザ発生時の訓練や、各保健所で行う様々な健康危機発生を想定したシミュレーションに活用しています。

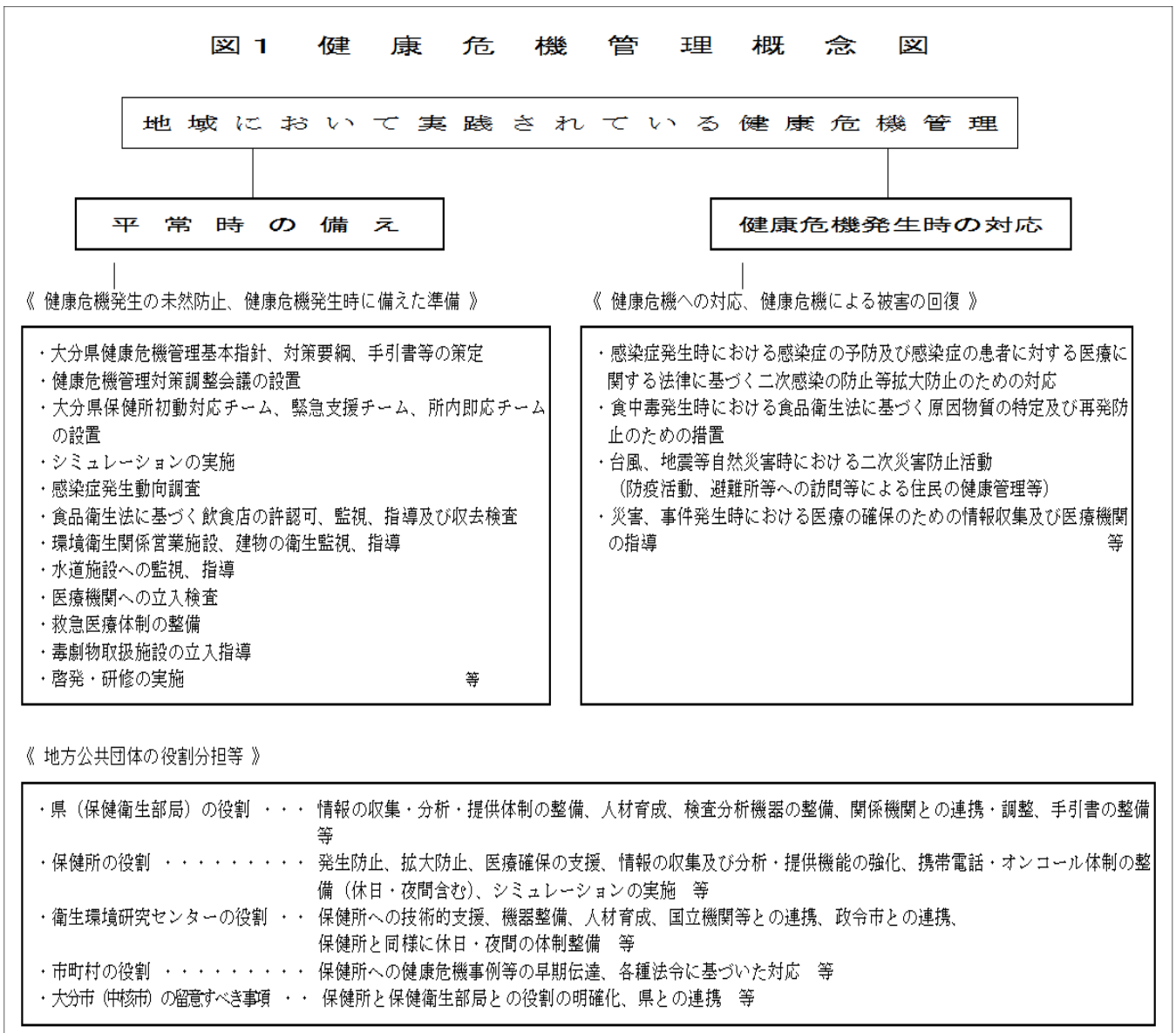
○ 県は、健康危機発生時に迅速に対応できるよう、機器や資材及び人的支援のチームを整備しています。

- ・防護服、除染用シャワー、感染症患者搬送用の陰圧アイソレーター及び搬送車、陰圧エアートントを配備
- ・各保健所に所内即応チーム、健康づくり支援課に初動対応チームを設置
- ・大規模自然災害発生時に、被災地で地区災害対策本部保健所班が行う公衆衛生活動の支援のため、災害時公衆衛生対策チームを設置
- ・県外の災害発生時に対応するため災害時健康危機管理支援チーム養成研修を実施

○ 平成 29 年九州北部豪雨災害等の発生を受け、保健所災害時対応マニュアルを

見直すとともに、災害時公衆衛生対策チームの活動要領を作成し、保健所の災害に備える体制整備に努めています。

図1 健康危機管理概念図

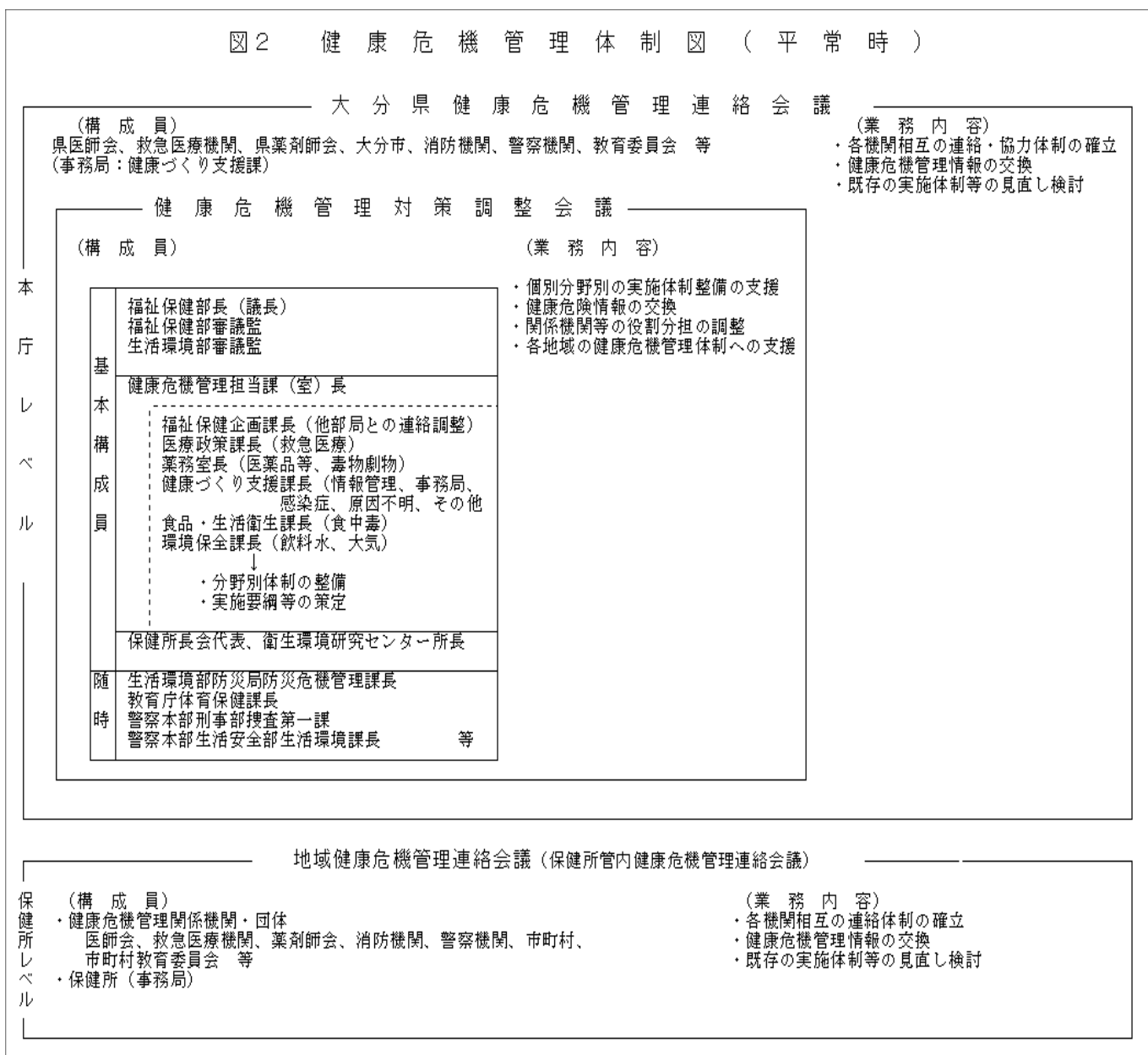


（今後の施策）

（1） 地域における健康危機管理体制の確保

- 健康危機の発生予防や発生時の対応に備え、平常時から消防・警察等の関係機関や医師会等の関係団体との協力・連携体制を確立することにより、地域における健康危機管理体制の確保を図ります。

図2 健康危機管理体制図（平常時）



(2) 関係職員の資質向上

- 保健所職員等を対象にした健康危機管理研修会の実施や、国が実施する健康危機管理研修会への保健所長等の派遣を通じて、職員の資質の向上に努めます。

(3) 知見の集積とシミュレーションの実施

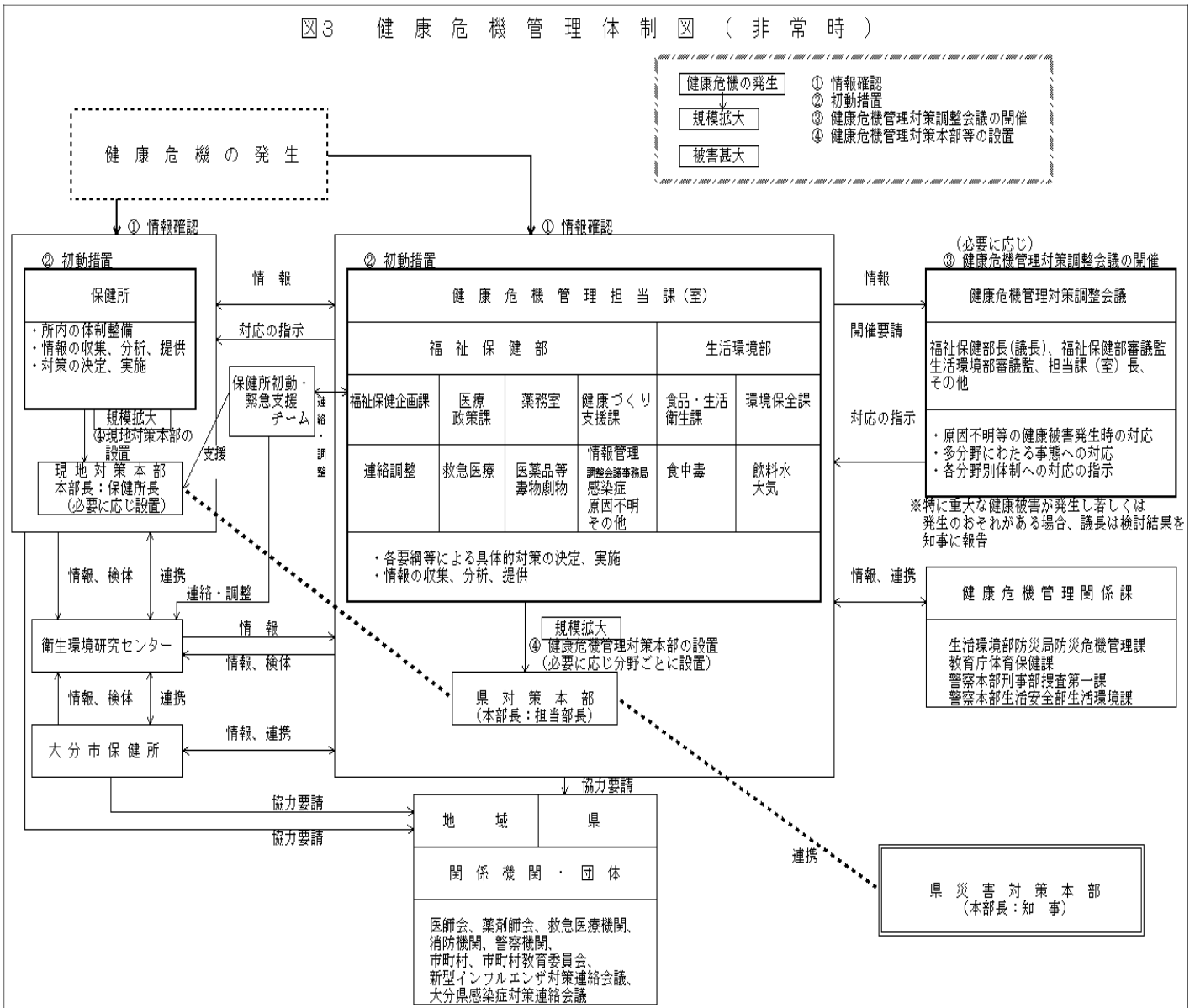
- 健康危機管理に必要な情報の整理、専門的知識の習得、健康危機に関する調査研究、健康危機管理事例の収集等に努めます。また、発生予測のつかない健康危機に対し、保健所の迅速かつ適切な対応能力を高めるため、管内を対象とするシミュレーションを実施します。また、県境を管内に持つ保健所にあつては、隣県の保健所等の関係機関との連携が重要になることから、広域連携型のシミュレーションを実施します。

(4) 健康危機管理対策本部の設置

- 重大な健康被害が発生した場合若しくは発生のおそれがある場合は、健康危

機管理対策本部を設置し、発生状況や患者の収容状況等の情報収集を行い、対応策を検討するとともに、受け入れ医療機関の調整や関係機関との情報交換・提供等を行います。

図3 健康危機管理体制図（非常時）



(5) 健康危機による被害の回復

- 健康危機の被害回復に向け、医療機関や市町村と連携しながら、被害住民に対する健康相談や心のケア、飲食物の安定確保などの対策を講じます。

(6) 健康危機管理情報の収集と提供

- 国内及び国外のあらゆる機関から健康危機管理に関する情報収集に努め、県民に必要な情報を適宜適切に提供します。

(7) 九州各県との広域連携

- 広域的に対応を要する感染症の発生について、「九州・山口九県における感染症に対する広域連携に関する協定書」に基づき、派遣の受け入れ及び支援要請を行い、広域的な連携を図ります。

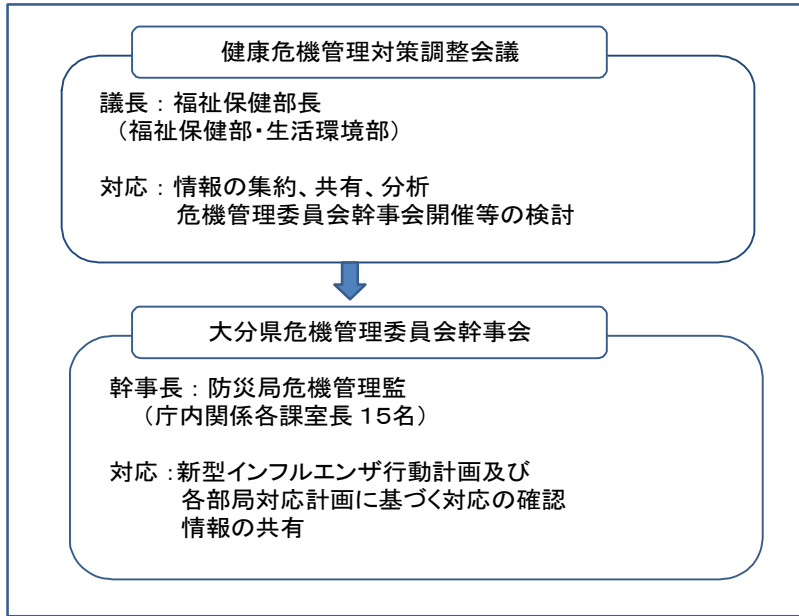
(8) 新型インフルエンザ対策に係る危機管理組織

- 新型インフルエンザの発生・流行に対応するため、発生段階に応じた危機管理組織を整備します。

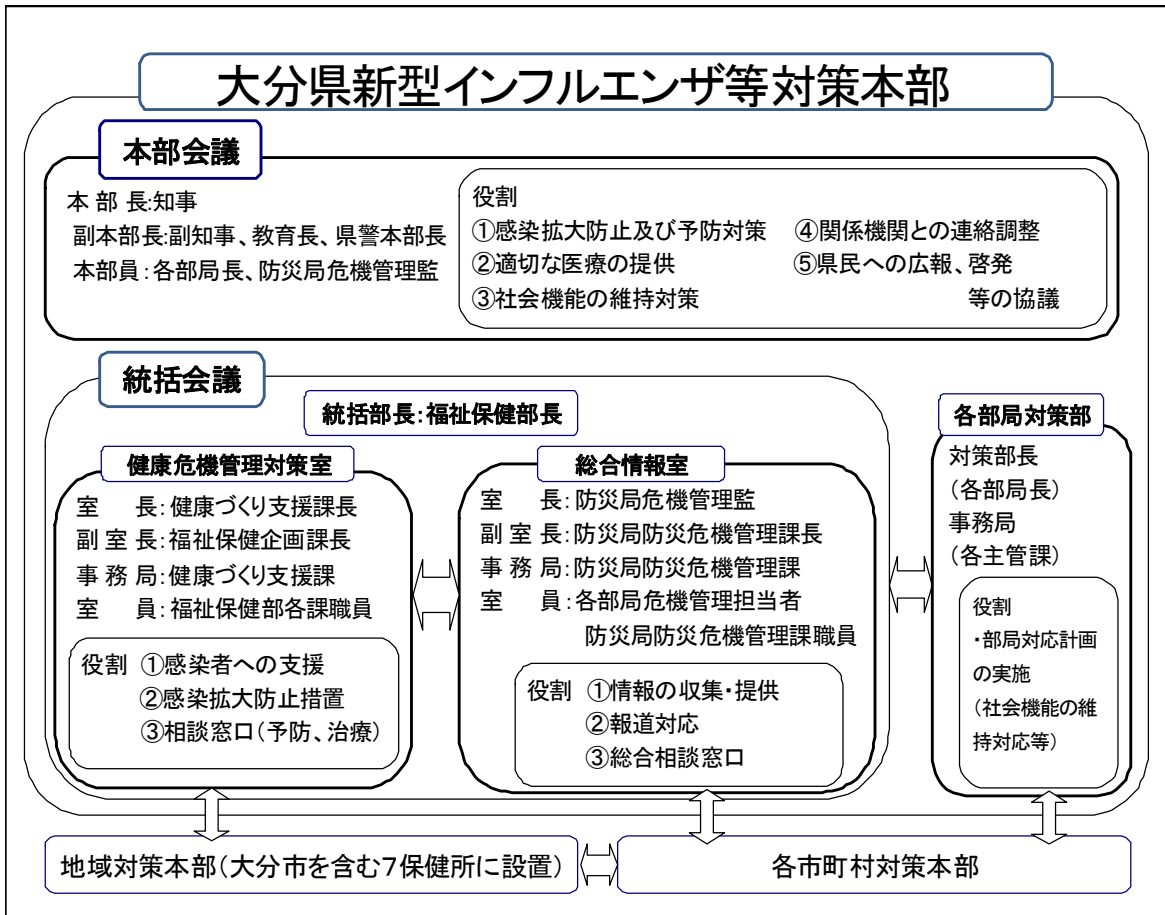
(9) 新型インフルエンザ対策に係る医療体制

- 新型インフルエンザの国内での発生早期においては、医療の提供が患者の治療とともに感染拡大防止策としても有効である可能性があることから、感染症法に基づき、新型インフルエンザ患者等を感染症指定医療機関等に入院させることとします。
- 新型インフルエンザに感染している可能性がより高い、発生国からの帰国者や国内感染者の濃厚接触者の診療のために、海外発生期（海外で新型インフルエンザが発生した状態）以降は、初診対応医療機関（15カ所）に設置した「帰国者・接触者外来」（発生国からの帰国者や国内感染者の濃厚接触者であって、発熱・呼吸器症状等を有する者を対象とした外来）を確保して診療を行います。
- 県は、発生国からの帰国者や国内感染者の濃厚接触者であって、発熱・呼吸器症状等を有する者から電話で相談を受け、「帰国者・接触者外来」の紹介を行うための相談センター（帰国者・接触者相談センター）を設置し、その周知を図ります。
- 帰国者・接触者外来以外の医療機関でも患者が診られるようになった場合や帰国者・接触者外来の診療能力を超える患者が発生した場合等には、国との協議等により帰国者・接触者外来を指定しての診療体制から一般の医療機関（内科・小児科等、通常、インフルエンザの診療を行う全ての医療機関）で診療する体制に切り替えます。
- 患者数が大幅に増加した場合は、重症者は入院、軽症者は在宅医療に振り分けるとともに、入院患者は、感染症指定医療機関及び「協力医療機関」（40カ所）において対応します。まん延期には、県内で一日最大 940 人の患者が入院すると推計されますが（新型インフルエンザの毒性が中等度の場合）、それを超える入院患者が発生した場合には、入院病床を有する全ての医療機関で対応するものとします。
- いずれの発生段階においても、院内感染を防止することが重要であり、「新型インフルエンザ等対策ガイドライン」（平成 29 年 9 月 25 日一部改定）に沿って、院内感染対策を強化します。

◇新型インフルエンザ等対策体制図（発生前）



◇新型インフルエンザ等対策体制図（発生後）



第10章 医療における情報化の推進

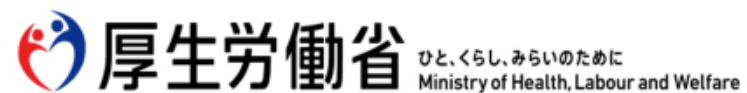
(現状及び課題)

- 国は、平成 29 年 6 月に「未来投資戦略 2017」を決定し、健康寿命の延伸と高齢者の自立した生活を実現するため、技術革新を活用した新しい健康・医療・介護システムの構築に取り組んでいます。
- また、遠隔医療については、国において、地域医療の充実に資する遠隔医療技術の活用・推進方法が検討されています（平成 20 年 7 月「遠隔医療の推進方策に関する懇談会」中間とりまとめ）。
- 医療の情報化に関しては、厚生労働省より「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」や「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」が示されています。
- 電子カルテやオーダーリングシステム等の病院内情報システムやレセプトの電子化など医療の情報化については、医療の質や効率化を図るための有力な手段として、推進されています。
- 県内の一部地域（別府市、臼杵市等）においては、地域の医師会を中心に診療・検査・検診結果等の情報を医療機関間で共有することなどによって、地域医療の連携を推進する取組が進められています。
- 厚生労働省では、保健医療分野において、医療情報のシステム化のために必要な情報の標準規格（データ形式やコード）の普及を図っています。

(今後の施策)

- 医療機関の電子カルテやオーダーリングシステム等の導入、レセプトの電算化等の施設内情報化の促進に加え、地域における I T を活用した医療情報連携や在宅療養支援等のシステムの導入など自主的な取り組みを支援し、医療資源の有効活用、地域の医療の質の向上に努めます。
- 医療の情報化にあたっては、標準的なデータ形式を用いたシステムの構築が求められており、国において最先端技術やビッグデータの活用、全国規模のネットワーク化の実証事業などが検討されていることから、国等の動向を注視していきます。

令和3年12月20日	資料3-1
第16回健康日本21（第二次）推進専門委員会	



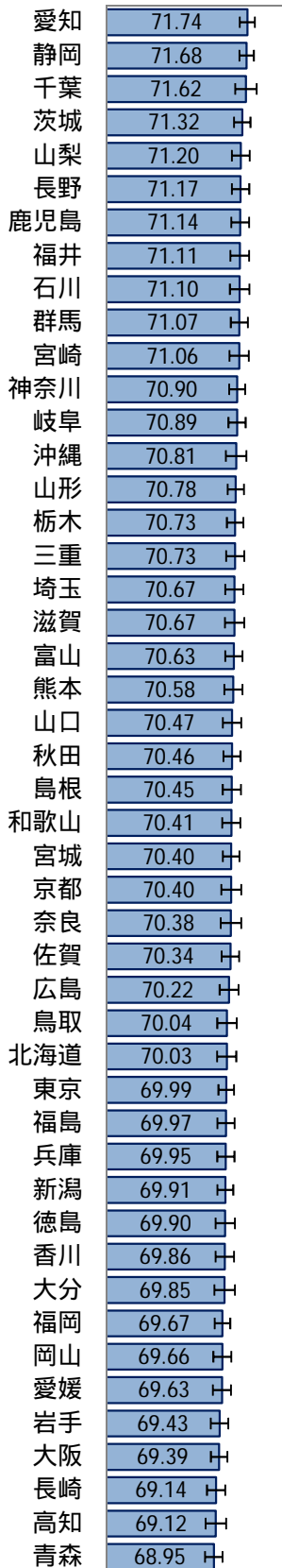
健康寿命の令和元年値について

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

(男性)

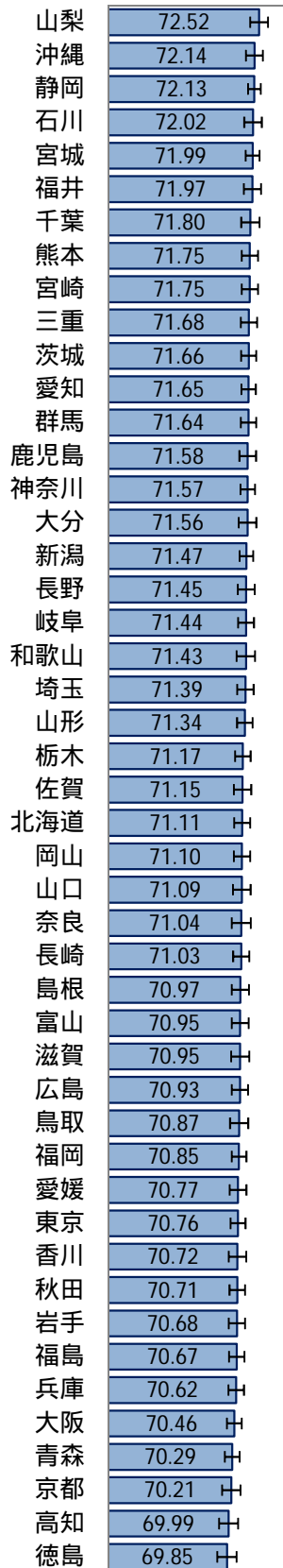
2010

60.0 65.0 70.0 75.0



2013

60.0 65.0 70.0 75.0



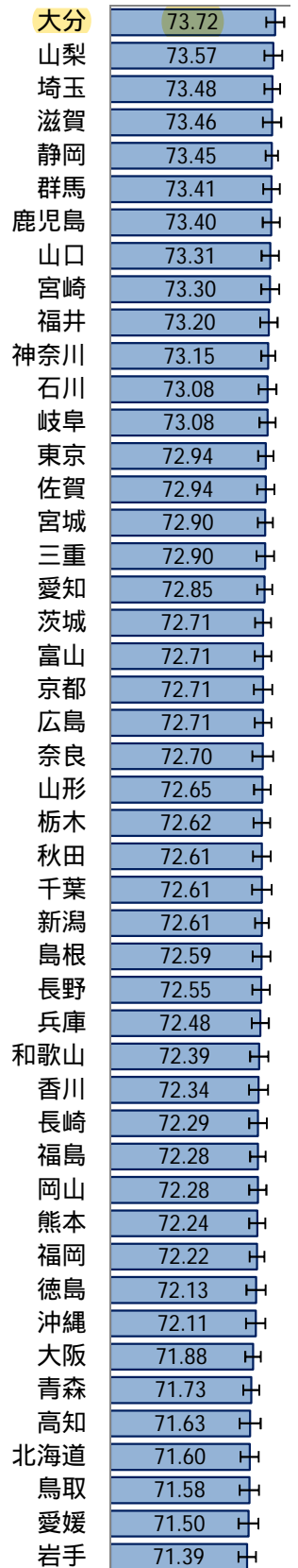
2016

60.0 65.0 70.0 75.0



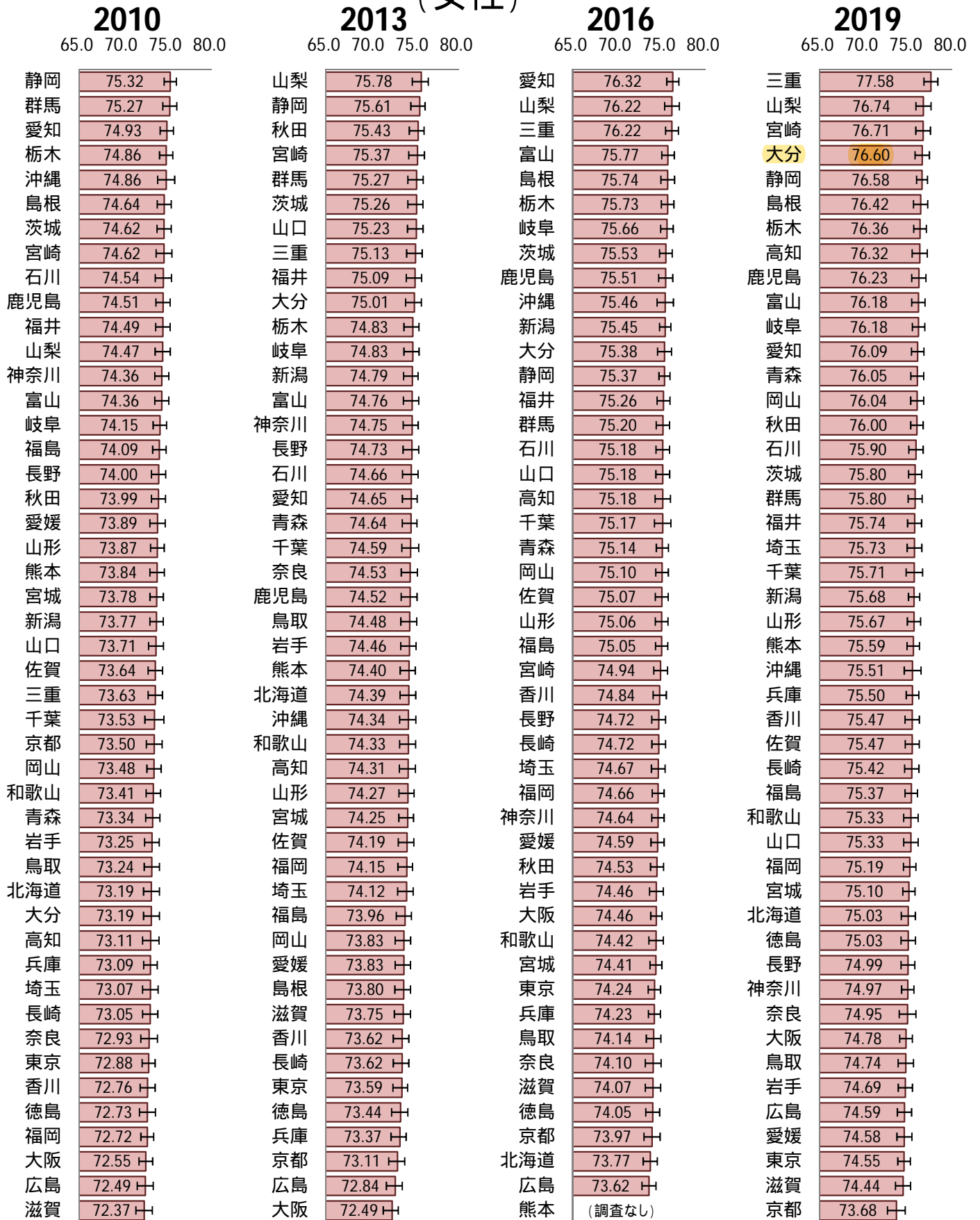
2019

60.0 65.0 70.0 75.0



図の誤差範囲は95%信頼区間を示した。健康寿命の算出においては算出上の誤差が含まれるため、数値間の比較においては95%信頼区間も考慮して検討する必要がある。

(女性)



図の誤差範囲は95%信頼区間を示した。健康寿命の算出においては算出上の誤差が含まれるため、数値間の比較においては95%信頼区間も考慮して検討する必要がある。

【資料9】

平成29年度各都道府県人口（1万人）あたりの技師（技士）数

単位：人			単位：人			単位：人		
全国		3.5	全国		4.3	全国		1.7
順位	都道府県	診療放射線技師	順位	都道府県	臨床検査技師	順位	都道府県	臨床工学技士
1	北海道	4.7	1	高知	7.5	1	高知	3.9
2	高知	4.7	2	大分	6.2	2	大分	3.0
3	大分	4.6	3	熊本	5.7	3	京都	2.7
4	福井	4.4	4	岡山	5.6	4	北海道	2.6
5	鹿児島	4.3	5	長野	5.6	5	岡山	2.6
6	岡山	4.3	6	山口	5.5	6	徳島	2.3
7	徳島	4.2	7	香川	5.5	7	福島	2.2
8	石川	4.2	8	島根	5.4	8	長野	2.2
9	宮崎	4.2	9	福岡	5.2	9	熊本	2.2
10	福岡	4.1	10	愛媛	5.2	10	香川	2.2
11	富山	4.1	11	石川	5.2	11	奈良	1.9
12	香川	4.0	12	秋田	5.1	12	滋賀	1.9
13	熊本	4.0	13	鳥取	5.1	13	福岡	1.9
14	京都	3.9	14	沖縄	5.0	14	鹿児島	1.8
15	長崎	3.9	15	長崎	5.0	15	沖縄	1.8
16	島根	3.9	16	新潟	4.9	16	山形	1.8
17	奈良	3.9	17	徳島	4.9	17	愛媛	1.7
18	大阪	3.9	18	山形	4.8	18	群馬	1.7
19	愛媛	3.9	19	福井	4.8	19	兵庫	1.7
20	山口	3.8	20	福島	4.7	20	岐阜	1.7
21	鳥取	3.8	21	北海道	4.7	21	新潟	1.7
22	福島	3.8	22	群馬	4.7	22	大阪	1.7
23	長野	3.7	23	富山	4.6	23	広島	1.7
24	和歌山	3.7	24	山梨	4.6	24	山口	1.6
25	群馬	3.7	25	兵庫	4.5	25	三重	1.6
26	佐賀	3.7	26	東京	4.4	26	千葉	1.6
27	秋田	3.7	27	大阪	4.4	27	島根	1.6
28	青森	3.7	28	奈良	4.4	28	福井	1.5
29	兵庫	3.7	29	栃木	4.4	29	静岡	1.5
30	岐阜	3.5	30	広島	4.4	30	鳥取	1.5
31	広島	3.5	31	宮崎	4.4	31	山梨	1.5
32	沖縄	3.4	32	青森	4.3	32	秋田	1.5
33	栃木	3.4	33	佐賀	4.3	33	宮城	1.5
34	茨城	3.4	34	鹿児島	4.2	34	埼玉	1.4
35	東京	3.4	35	岩手	4.1	35	石川	1.4
36	山形	3.3	36	京都	4.1	36	茨城	1.4
37	新潟	3.3	37	三重	4.0	37	富山	1.4
38	山梨	3.3	38	岐阜	4.0	38	佐賀	1.4
39	岩手	3.2	39	宮城	3.9	39	和歌山	1.4
40	宮城	3.2	40	静岡	3.9	40	栃木	1.4
41	静岡	3.2	41	和歌山	3.8	41	東京	1.4
42	三重	3.1	42	神奈川	3.7	42	愛知	1.3
43	滋賀	3.1	43	茨城	3.7	43	神奈川	1.3
44	愛知	3.1	44	滋賀	3.6	44	長崎	1.3
45	千葉	3.0	45	愛知	3.6	45	岩手	1.3
46	神奈川	2.9	46	千葉	3.5	46	宮崎	1.3
47	埼玉	2.8	47	埼玉	3.3	47	青森	1.1

(出典)e-stat 医療施設調査 平成29年医療施設（静態・動態）調査 下巻「病院の従事者数、職種・都道府県—指定都市・特別区・中核市（再掲）・精神科病院—一般病院別」より作成

平成29年度100床あたりの医療従事者数

単位：人

全国平均	2.9
------	-----

順位	都道府県	診療放射線技師
1	東京	3.7
2	神奈川	3.6
3	岐阜	3.4
3	愛知	3.4
5	埼玉	3.3
6	千葉	3.2
6	長野	3.2
6	大阪	3.2
6	奈良	3.2
10	茨城	3.1
10	栃木	3.1
10	福井	3.1
10	兵庫	3.1
14	宮城	3.0
14	群馬	3.0
14	静岡	3.0
14	滋賀	3.0
18	京都	2.9
18	岡山	2.9
20	福島	2.8
20	三重	2.8
22	北海道	2.7
22	青森	2.7
22	石川	2.7
25	新潟	2.6
25	富山	2.6
25	和歌山	2.6
25	島根	2.6
25	広島	2.6
25	香川	2.6
25	大分	2.6
25	沖縄	2.6
33	山形	2.5
33	山梨	2.5
33	鳥取	2.5
36	秋田	2.4
36	愛媛	2.4
36	福岡	2.4
36	宮崎	2.4
40	岩手	2.3
41	徳島	2.2
42	鹿児島	2.1
43	山口	2.0
43	佐賀	2.0
43	長崎	2.0
43	熊本	2.0
47	高知	1.8

単位：人

全国平均	3.6
------	-----

順位	都道府県	臨床検査技師
1	東京	4.9
2	長野	4.8
3	神奈川	4.5
4	栃木	4.0
4	愛知	4.0
6	埼玉	3.9
6	新潟	3.9
6	岐阜	3.9
9	群馬	3.8
9	兵庫	3.8
9	岡山	3.8
9	沖縄	3.8
13	宮城	3.7
13	山形	3.7
13	千葉	3.7
13	静岡	3.7
13	大阪	3.7
18	三重	3.6
18	滋賀	3.6
18	奈良	3.6
18	島根	3.6
18	大分	3.6
23	福島	3.5
23	山梨	3.5
23	香川	3.5
26	秋田	3.4
26	福井	3.4
28	茨城	3.3
28	石川	3.3
28	鳥取	3.3
31	青森	3.2
31	広島	3.2
31	愛媛	3.2
34	福岡	3.1
35	岩手	3.0
35	京都	3.0
35	高知	3.0
38	富山	2.9
38	熊本	2.9
40	山口	2.8
41	北海道	2.7
41	和歌山	2.7
43	徳島	2.5
43	長崎	2.5
43	宮崎	2.5
46	佐賀	2.3
47	鹿児島	2.0

単位：人

全国平均	1.4
------	-----

順位	都道府県	臨床工学技士
1	京都	2.0
2	長野	1.9
3	滋賀	1.8
3	岡山	1.8
3	大分	1.8
6	埼玉	1.7
6	神奈川	1.7
8	福島	1.6
8	千葉	1.6
8	岐阜	1.6
8	奈良	1.6
12	北海道	1.5
12	東京	1.5
12	愛知	1.5
12	三重	1.5
12	高知	1.5
17	宮城	1.4
17	山形	1.4
17	群馬	1.4
17	静岡	1.4
17	大阪	1.4
17	兵庫	1.4
17	香川	1.4
17	沖縄	1.4
25	茨城	1.3
25	栃木	1.3
25	新潟	1.3
28	広島	1.2
28	徳島	1.2
30	福井	1.1
30	山梨	1.1
30	愛媛	1.1
30	福岡	1.1
30	熊本	1.1
35	秋田	1.0
35	和歌山	1.0
35	鳥取	1.0
35	島根	1.0
39	岩手	0.9
39	富山	0.9
39	石川	0.9
39	鹿児島	0.9
43	青森	0.8
43	山口	0.8
43	佐賀	0.8
46	長崎	0.7
46	宮崎	0.7

(出典)e-stat 平成29年医療施設調査 閲覧第69表「病院の100床当たり従事者数、職種・都道府県—指定都市・特別区・中核市(再掲)・精神科病院—一般病院別」より作成

平成29年度 1 病院当たりの医療従事者数

単位：人

全国平均	5.4
------	-----

単位：人

全国平均	6.6
------	-----

単位：人

全国平均	2.5
------	-----

順位	都道府県	診療放射線技師
1	神奈川	7.8
2	滋賀	7.7
3	東京	7.3
4	愛知	7.2
5	岐阜	7.0
6	奈良	6.9
7	大阪	6.7
8	千葉	6.6
9	静岡	6.5
10	栃木	6.2
11	京都	6.1
12	埼玉	6.0
12	長野	6.0
14	兵庫	5.8
15	福島	5.7
15	新潟	5.7
15	三重	5.7
18	茨城	5.6
18	群馬	5.6
20	宮城	5.4
21	秋田	5.3
21	山形	5.3
21	島根	5.3
24	沖縄	5.2
25	石川	5.1
26	青森	5.0
26	福井	5.0
26	岡山	5.0
29	鳥取	4.9
30	北海道	4.5
30	福岡	4.5
32	山梨	4.4
33	岩手	4.3
33	和歌山	4.3
33	香川	4.3
36	広島	4.2
37	富山	4.0
38	愛媛	3.7
39	山口	3.6
40	長崎	3.5
41	大分	3.4
42	熊本	3.3
43	宮崎	3.2
44	徳島	2.9
44	佐賀	2.9
46	鹿児島	2.8
47	高知	2.6

順位	都道府県	臨床検査技師
1	神奈川	9.9
2	東京	9.7
3	滋賀	9.0
4	長野	8.9
5	新潟	8.7
6	愛知	8.4
7	栃木	8.0
7	静岡	8.0
9	岐阜	7.9
10	奈良	7.8
11	山形	7.7
11	沖縄	7.7
13	千葉	7.6
13	大阪	7.6
15	秋田	7.4
15	三重	7.4
15	島根	7.4
18	福島	7.1
18	群馬	7.1
18	埼玉	7.1
21	兵庫	7.0
22	宮城	6.7
23	岡山	6.6
24	鳥取	6.5
25	石川	6.3
25	山梨	6.3
25	京都	6.3
28	茨城	6.0
29	青森	5.9
29	香川	5.9
31	福岡	5.8
32	岩手	5.5
32	福井	5.5
34	広島	5.2
34	山口	5.2
36	愛媛	5.0
37	熊本	4.7
38	富山	4.6
38	大分	4.6
40	北海道	4.5
40	長崎	4.5
42	和歌山	4.4
43	高知	4.2
44	徳島	3.4
44	宮崎	3.4
46	佐賀	3.3
47	鹿児島	2.8

順位	都道府県	臨床工学技士
1	滋賀	4.6
2	京都	4.2
3	神奈川	3.6
4	長野	3.5
5	千葉	3.4
5	奈良	3.4
7	福島	3.3
7	岐阜	3.3
9	埼玉	3.1
9	静岡	3.1
9	愛知	3.1
9	岡山	3.1
13	東京	3.0
13	三重	3.0
15	山形	2.9
15	新潟	2.9
15	大阪	2.9
18	沖縄	2.8
19	兵庫	2.7
20	群馬	2.6
21	北海道	2.5
21	宮城	2.5
21	栃木	2.5
24	茨城	2.3
24	香川	2.3
26	高知	2.2
26	大分	2.2
28	秋田	2.1
28	島根	2.1
28	福岡	2.1
31	山梨	2.0
31	広島	2.0
33	鳥取	1.9
34	熊本	1.8
35	岩手	1.7
35	石川	1.7
35	福井	1.7
35	愛媛	1.7
39	和歌山	1.6
39	山口	1.6
39	徳島	1.6
42	青森	1.5
43	富山	1.4
44	長崎	1.2
44	鹿児島	1.2
46	佐賀	1.1
47	宮崎	1.0

(出典)e-stat 平成29年医療施設調査 閲覧第68表 「1病院当たり従事者数、職種・都道府県—指定都市・特別区・中核市(再掲)・精神科病院—一般病院別」より作成



分放技発 2021008 号
令和3年 7月 30日

学校法人文理学園
理事長 菅 貞淑 殿

公益社団法人 大分県放射線技師
会 長 吉田 幸



社会から求められる診療放射線技師の養成ならびに
人材の確保に係る要望について（お願い）

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてご承知のとおり、今年5月に「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」が成立し、これに伴う診療放射線技師法ならびに診療放射線技師法施行規則の一部改正の施行により、医師のタスクシフト・タスクシェアに向けた診療放射線技師の業務体制強化が各医療施設において進められつつあります。また昨今の医療技術の発展や医療機器の高度化に伴う医療現場における高精度な画像診断・治療の提供需要が増大するなか、チーム医療の推進と共に我々診療放射線技師は必要不可欠な職種となっております。

このような背景から、一般社会とりわけ医療現場では今まで以上に質の高い専門性と倫理観豊かな診療放射線技師が求められており、そのような人材輩出を担う教育機関としては最低限4年制大学課程で教育されることが望ましいと考えております。

大分県内における唯一の診療放射線技師養成機関である日本文理大学医療専門学校が、高等教育機関として4年制大学の設置を進めていくことは本県の今後の医療体制において大きく貢献するものであると確信しております。

以上のことから、本会といたしまして、4年制の診療放射線技師養成校の設置実現化を強く要望いたします。

謹白

令和3年10月5日

学校法人文理学園

理事長 菅 貞淑 殿

公益社団法人 大分県臨床検査技師会
代表理事会長 佐藤 元 恭



臨床検査技師の養成ならびに人材の確保に係る要望

謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、(公社)大分県臨床検査技師会における会員は、県下の病院やクリニック等で日々職務に邁進しております。しかしながら、高齢者人口の増加が見込まれる中で、臨床検査技師の需要は益々増加することが予測されており、技師の養成は喫緊の課題となっております。そのような中、医療技術の発展や医療機器の高度化、業務内容の拡大などを踏まえると、今まで以上に技師の質の高さが求められ、医療分野の細分化・分業化が進んでいる昨今、臨床検査技師はチーム医療の一員として必要不可欠な職種となっております。これらのことから、本県内において臨床検査技師の養成機関である日本文理大学医療専門学校が、高等教育機関として4年制大学の学部へと生まれ変わることは望ましく、大分県医療体制への貢献度は高いと考えております。

以上のことから、本技師会と致しまして、日本文理大学の中に4年制の臨床検査技師養成課程の設置を実現していただくよう要望致します。

謹白

令和 3年 8月19日

学校法人文理学園

理事長 菅 貞淑 殿

公益社団法人 大分県臨床工学技士会
会 長 小 川



臨床工学技士の養成ならびに人材の確保に係る要望

謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、(公社)大分県臨床工学技士会における会員は、県下の病院やクリニック等で日々職務に邁進しております。しかしながら、高齢者人口の増加が見込まれる中で、臨床工学技士の需要は益々増加することが予測されており、技士の養成は喫緊の課題となっております。

また、昨今の医療技術の発展や医療機器の高度化、業務内容の拡大などを踏まえても、臨床工学技士を養成するための教育課程としては、4年制大学で行うことが望ましいと本技士会としても感じており、今まで以上に技師の質の高さが求められております。そして、医療分野においても細分化・分業化が進んでおり、臨床工学技士はチーム医療の一員としても、必要不可欠な職種となっています。これらのことから、本県内において数少ない、臨床工学技士の養成機関である日本文理大学医療専門学校が、高等教育機関として4年制大学の学部へと生まれ変わることは、大分県の医療体制において今後大きく貢献するものであると考えております。

以上のことから、本技士会と致しまして、日本文理大学の中に4年制の臨床工学技士養成課程の設置を実現していただくよう強く要望致します。

謹白

保健医療学部保健医療学科カリキュラム・マップ				DPとの関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目区分	科目名	必修・選択	配当年次	DP			
				①生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。	②幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。	③医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。	④日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。
教養教育科目	力学リテラシー	選択	1	○	◎		
	生物リテラシー	選択	1	○	◎		
	化学リテラシー	選択	1		◎		
	情報リテラシー1	必修	1	○	○	○	◎
	情報リテラシー2	選択	1	○	○	○	◎
	自然科学入門	選択	1		◎		
	社会科学入門	選択	1	○	◎		
	社会参画入門	必修	1	◎	○	○	
	社会参画実習	必修	1	◎	△	◎	○
	人間力概論	必修	1	◎	○	○	○
	産学一致の勧め	必修	2	◎	◎	◎	○
	英語1	必修	1	◎	◎	○	
	英語2	選択	1	◎	◎	○	
	英語3	選択	2	◎	◎	○	
	第二外国語 (韓国語)	選択	2	○	◎	△	
	第二外国語 (中国語)	選択	2	○	◎	△	
	コミュニケーション演習	選択	1	◎	○	◎	
	文章表現	選択	1	◎	○	○	○
	データサイエンス入門	必修	1		○	○	◎
	データサイエンス・AI基礎	選択	2		○	○	◎
	データ分析と社会課題解決	選択	2	◎	○	◎	◎
	大分学・大分楽	必修	1	◎	◎	○	△
	健康の科学	選択	1	○	◎	△	
	スポーツサイエンス	選択	1	◎	◎	○	
	人文科学への誘い	選択	2	◎	◎	○	
	ジェネリックスキル養成1	選択	1	◎		◎	
ジェネリックスキル養成2	選択	1	◎	△	◎	◎	
コース共通	解剖学	必修	1	○	◎		
	生理学	必修	1	○	◎		
	生化学	必修	1	○	◎		
	病理学1	必修	1	○	◎		
	病理学2	選択	2	○	◎		
	微生物学	選択	1	○	◎		
	分子生物学	選択	2	○	◎		
	免疫学	選択	2	○	◎		
	医学概論	必修	1	○	◎		
	薬理学	必修	1	○	◎		
	公衆衛生学	必修	2	○	◎		△
	デジタル医療の基礎	必修	1		◎		◎
	チーム医療概論	必修	3	◎	◎	◎	△
	保健医療福祉論	選択	3	○	◎		△
	医療安全論	必修	3	○	◎		○
	医療統計学1	選択	3		◎		◎
	医療統計学2	選択	3		◎		◎
	チーム協働と課題解決	必修	3	○	◎	◎	◎
	保健医療と経営	必修	4		◎	◎	◎
	保健医療と工学	必修	4		◎	◎	◎
卒業研究	必修	4	◎	◎	◎	◎	
診療放射線学	臨床画像解剖学	選択	2		◎		
	基礎医学大要	選択	4		◎		
	放射線基礎科学	選択	1	○	◎		
	放射線基礎工学	選択	1		◎		○
	医用工学	選択	1		◎		○
	放射線物理学	選択	2		◎		
	放射化学	選択	2		◎		
	放射線生物学・疫学	選択	2		◎		
	放射線計測学	選択	2		◎		
	理工学実験	選択	2	○	◎		
医療倫理学	選択	3	○	◎	○		
放射線撮影学1	選択	1		◎			

保健医療学部保健医療学科カリキュラム・マップ				DPとの関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目区分	科目名	必修・選択	配当年次	DP				
				①生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。	②幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。	③医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。	④日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。	
診療放射線学	放射線撮影学2	選択	2		◎			
	臨床画像学	選択	3		◎			
	診療画像機器学1	選択	2		◎		○	
	診療画像機器学2	選択	2		◎		○	
	診療画像機器学実験	選択	4		◎			
	診療画像検査学1	選択	2		◎			
	診療画像検査学2	選択	3		◎			
	診療画像技術学実習1	選択	2	◎	◎	○		
	診療画像技術学実習2	選択	3	◎	◎	○		
	放射線医薬品学	選択	2		◎			
	核医学検査技術学1	選択	2		◎			
	核医学検査技術学2	選択	3		◎			
	放射線腫瘍学	選択	2		◎			
	放射線治療技術学1	選択	2		◎			
	放射線治療技術学2	選択	3		◎			
	放射線治療機器学	選択	2		◎		△	
	医療画像工学	選択	2		◎			
	医療画像情報学1	選択	2		◎		○	
	医療画像情報学2	選択	3		◎		○	
	放射線関係法規	選択	2	○	◎		△	
	放射線安全管理学	選択	3		◎		△	
	医療安全管理学	選択	4		◎	○	△	
	実践臨床画像論	選択	3		◎	◎		
	放射線医科学演習	選択	4		◎		◎	
	放射線治療技術演習	選択	4		◎		◎	
	核医学検査技術演習	選択	4		◎		◎	
	臨床実習(診療参加型)	選択	3	◎	◎	◎	◎	
	専門教育科目	栄養学	選択	2	○	◎		
		公衆衛生学演習	選択	3	○	◎	◎	
		関係法規(臨床検査)	選択	4	○	◎		△
		医療工学概論	選択	2		◎		△
		検査機器総論	選択	2		◎		○
情報科学概論		選択	3		◎		○	
臨床病態学1		選択	2		◎			
臨床病態学2		選択	2		◎			
臨床検査医学		選択	2		◎			
臨床検査学演習		選択	2		◎	◎		
血液検査学		選択	2		◎			
血液検査学実習		選択	2	◎	◎	○		
病理組織検査学		選択	2		◎			
細胞診検査学		選択	2		◎			
病理組織細胞検査学実習		選択	3	◎	◎	○		
一般検査学演習		選択	2		◎	○		
寄生虫検査学実習		選択	3	◎	◎	○		
生体分析検査化学		選択	2		◎			
生体分析検査化学実習		選択	2	◎	◎	○		
免疫検査学		選択	2		◎			
免疫検査学実習		選択	3	◎	◎	○	○	
遺伝子・染色体検査学		選択	2		◎			
遺伝子・染色体検査学実習		選択	3	◎	◎	○	○	
輸血・移植検査学		選択	2		◎		△	
輸血・移植検査学実習		選択	3	◎	◎	○	○	
微生物検査学1		選択	2		◎			
微生物検査学2		選択	2		◎			
微生物検査学実習	選択	3	◎	◎	○	○		
臨床生理検査学1	選択	1		◎				
臨床生理検査学2	選択	1		◎				
臨床生理検査学実習	選択	2	◎	◎	○			
画像検査学	選択	2		◎				
画像検査学実習	選択	3	◎	◎	○			
画像・AI解析検査学	選択	4		◎		◎		

保健医療学部保健医療学科カリキュラム・マップ				DPとの関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)			
科目区分	科目名	必修・選択	配当年次	DP			
				①生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。	②幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。	③医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。	④日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。
臨床検査学	臨床検査総合演習	選択	3		◎	◎	◎
	検査総合管理学	選択	4		◎		◎
臨床検査学	医療安全管理学実習	選択	4	◎	◎	○	△
	臨床検査論1	選択	4		◎		○
臨床検査学	臨床検査論2	選択	4		◎		○
	臨床検査論3	選択	4		◎		○
臨床検査学	臨地実習前総合実習	選択	3	◎	◎	◎	◎
	臨地実習	選択	3	◎	◎	◎	◎
臨床検査学	基礎医学実習	選択	2	◎	○	○	△
	関係法規(医工学)	選択	4	○	◎		△
臨床検査学	応用数学	選択	2		◎		
	医用電気工学総論	選択	2		◎		
臨床検査学	医用電気工学各論	選択	3		◎		
	医用電気工学実習	選択	3		◎	○	
臨床検査学	医用電子工学総論	選択	2		◎		
	医用電子工学各論	選択	3		◎		
臨床検査学	医用電子工学実習	選択	3		◎	○	
	医用機械工学	選択	3		◎		
臨床検査学	医用計測工学	選択	3		◎		
	医療情報処理工学	選択	2		◎		○
臨床検査学	医用システム工学	選択	3		◎		○
	システム・情報処理実習	選択	3		◎	○	○
臨床検査学	データサイエンス概論	選択	3		◎		○
	医用工学概論	選択	2		◎		
臨床検査学	生体物性工学	選択	2		◎		
	医用材料工学	選択	3		◎		
臨床検査学	生体計測工学	選択	3		◎		
	医用機器学概論	選択	2		◎		△
臨床検査学	医用機器学実習	選択	2	◎	○	○	△
	医用治療機器学	選択	2		◎		
臨床検査学	生体計測装置学	選択	2		◎		
	臨床支援技術学	選択	2		◎		
臨床検査学	臨床支援技術学実習	選択	2	◎	○	○	
	循環制御治療学	選択	3		◎		△
臨床検査学	人工呼吸療法学	選択	3		◎		△
	血液浄化療法学	選択	3		◎		△
臨床検査学	循環制御治療学実習	選択	3	◎	○	○	△
	人工呼吸療法学実習	選択	3	◎	○	○	△
臨床検査学	血液浄化療法学実習	選択	3	◎	○	○	△
	医療機器安全管理学	選択	2		◎		△
臨床検査学	医用治療機器学実習	選択	2	◎	○	○	△
	生体計測装置学実習	選択	2	◎	○	○	△
臨床検査学	医療システムマネジメント論	選択	3		◎		○
	生命科学概論	選択	2	◎	○	△	
臨床検査学	臨床医学英語	選択	3		◎	○	
	救急・麻酔・集中治療医学	選択	3		◎		
臨床検査学	臨床医学総論(内科系)	選択	3		◎		
	臨床医学総論(外科系)	選択	3		◎		
臨床検査学	人工臓器学	選択	4	△	◎		○
	医工学治療論	選択	4		◎	△	○
臨床検査学	レギュラトリーサイエンス論	選択	4		◎		○
	臨床実習	選択	4	◎	◎	◎	◎

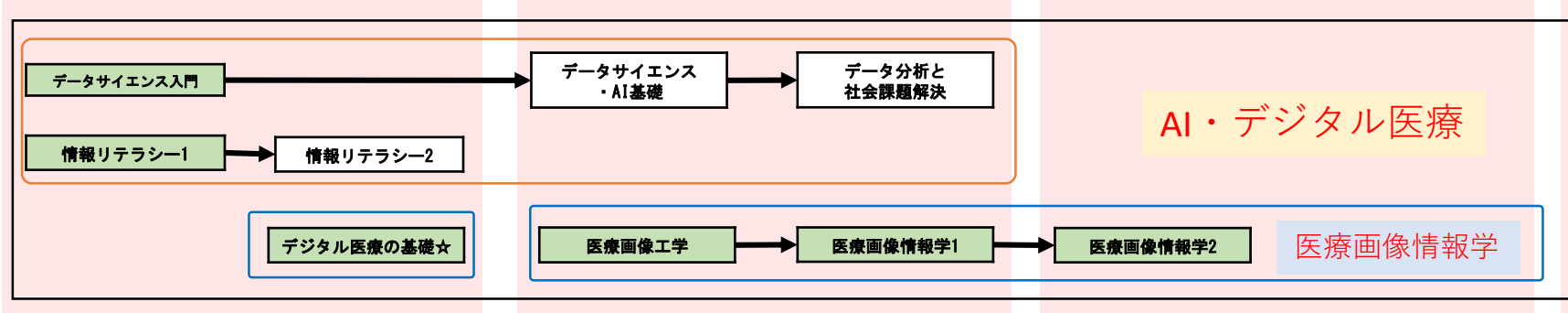
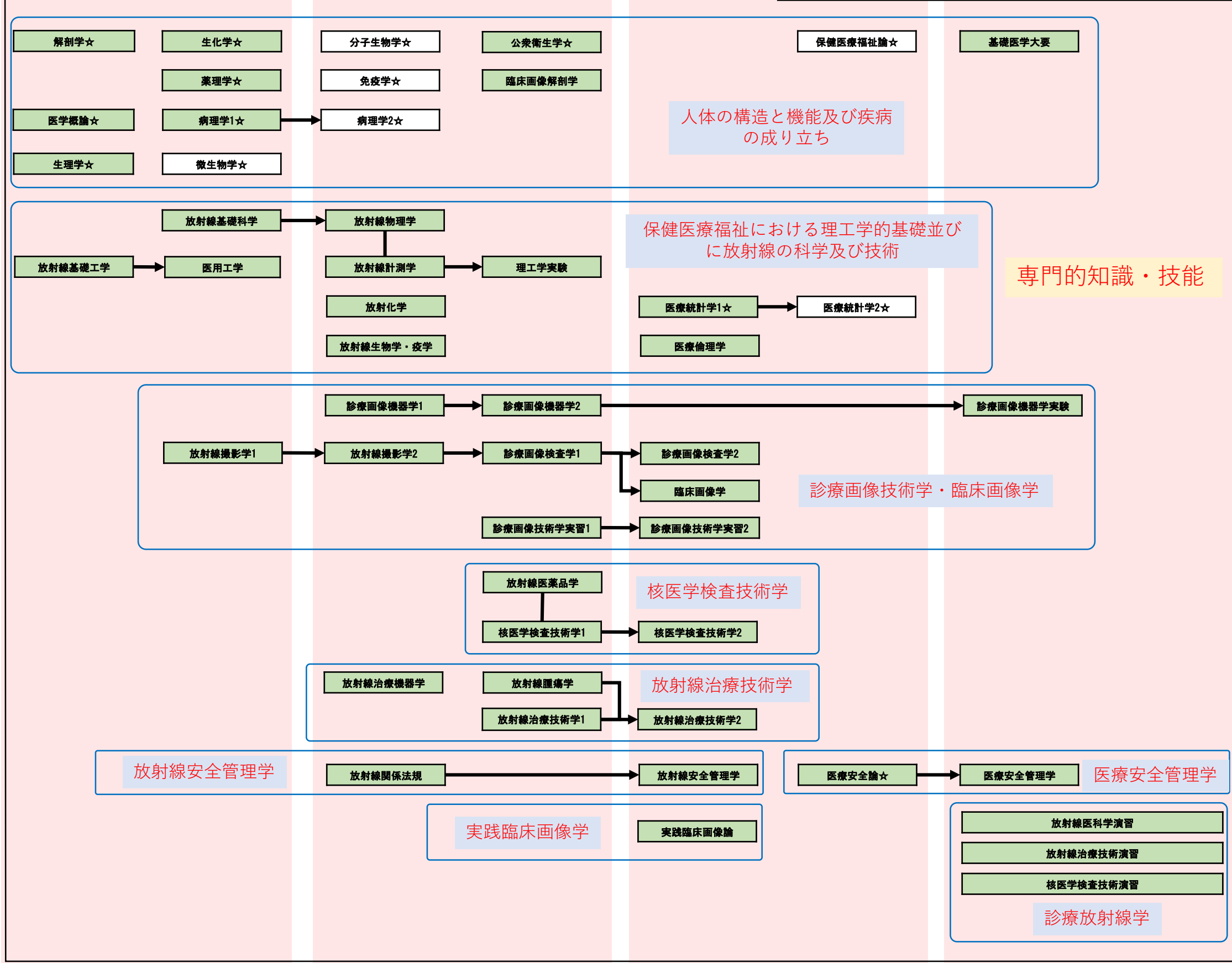
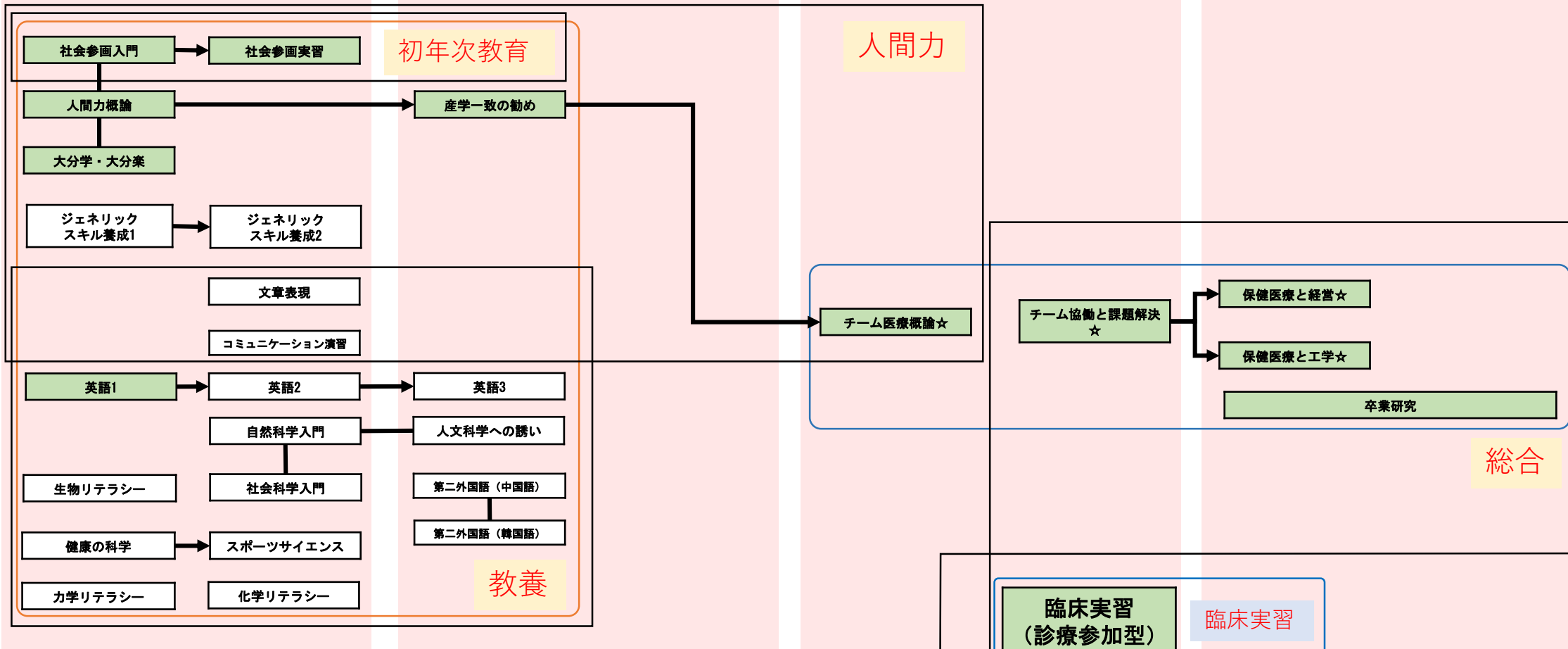
DP① 生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。

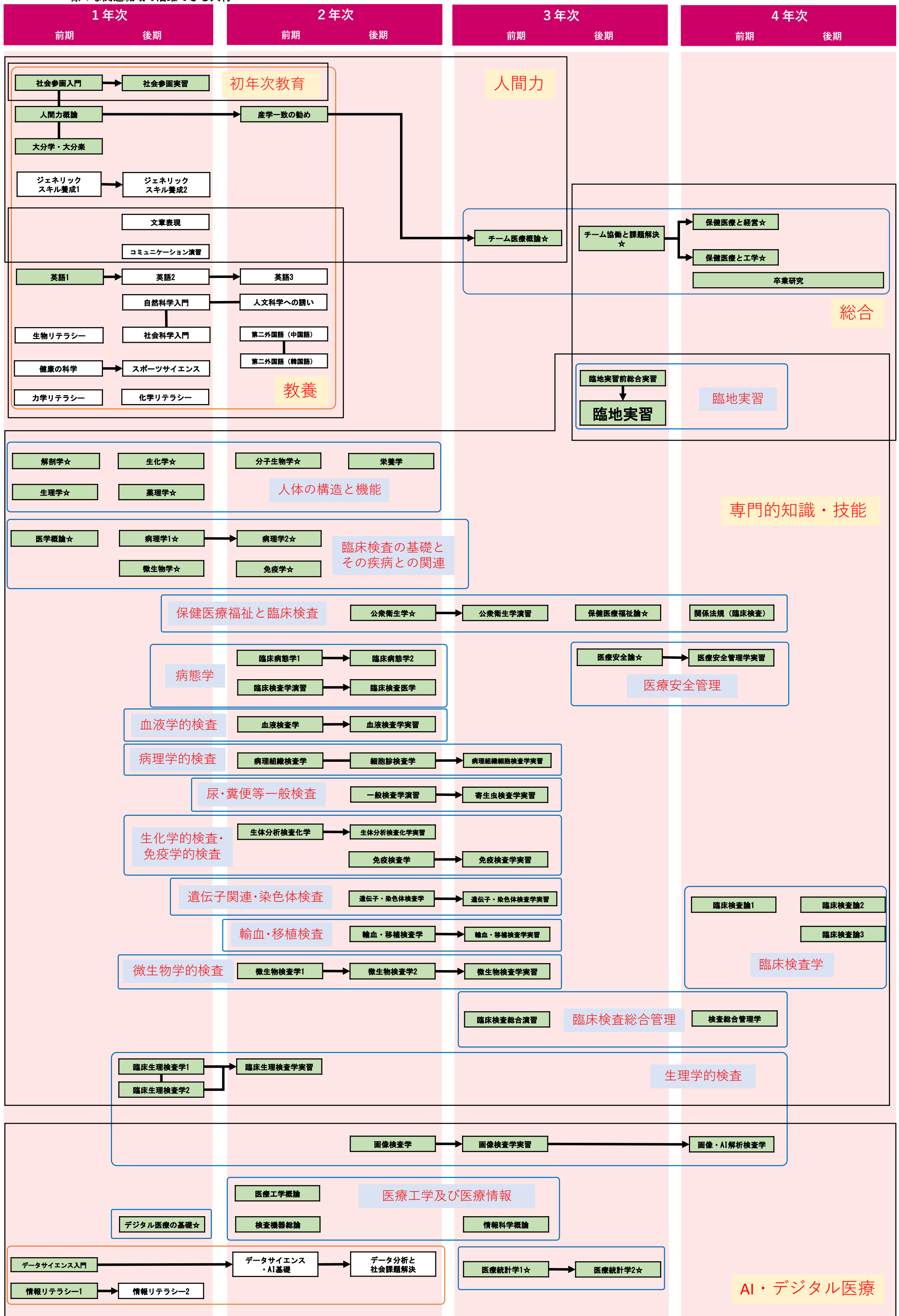
DP③ 医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。

DP② 幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。

DP④ 日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。

1年次 2年次 3年次 4年次





ディプロマポリシー
※主に対応するもの

DP① 生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感性や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。

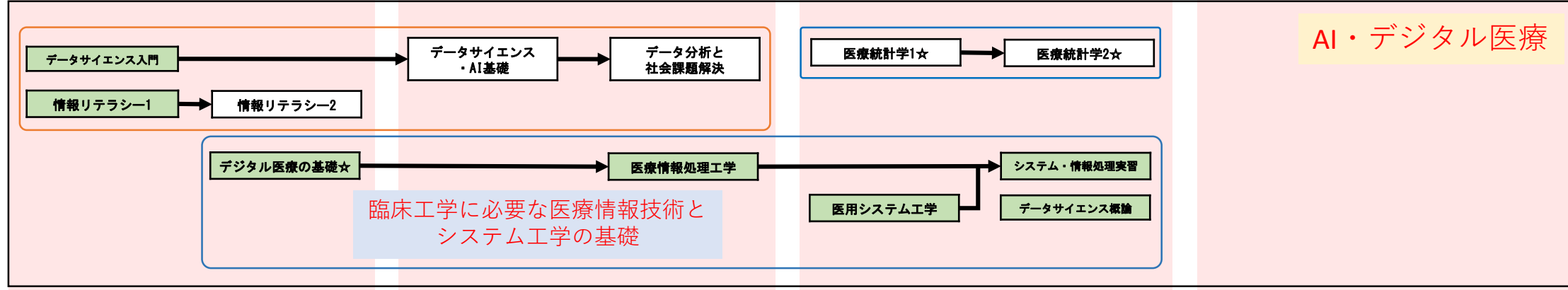
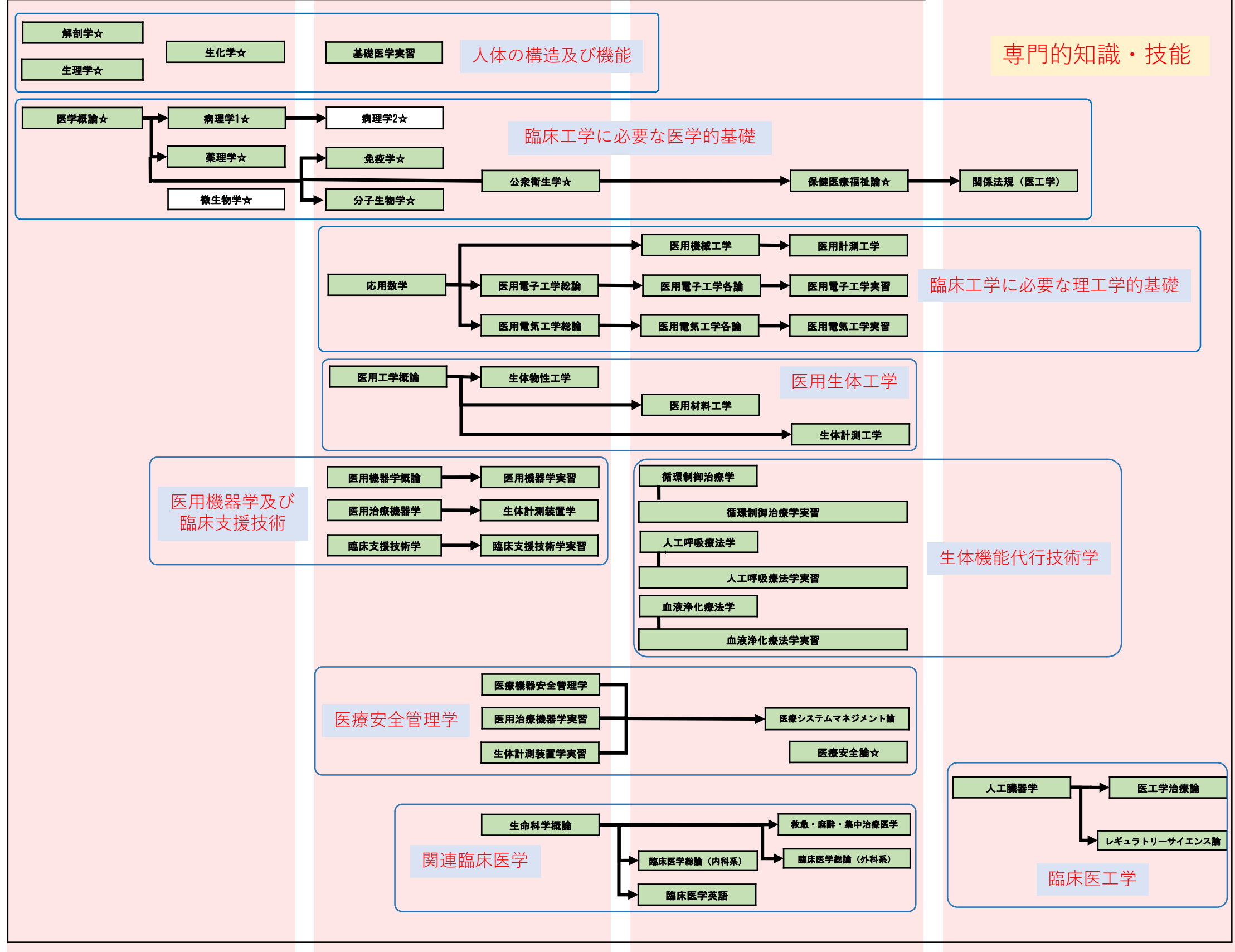
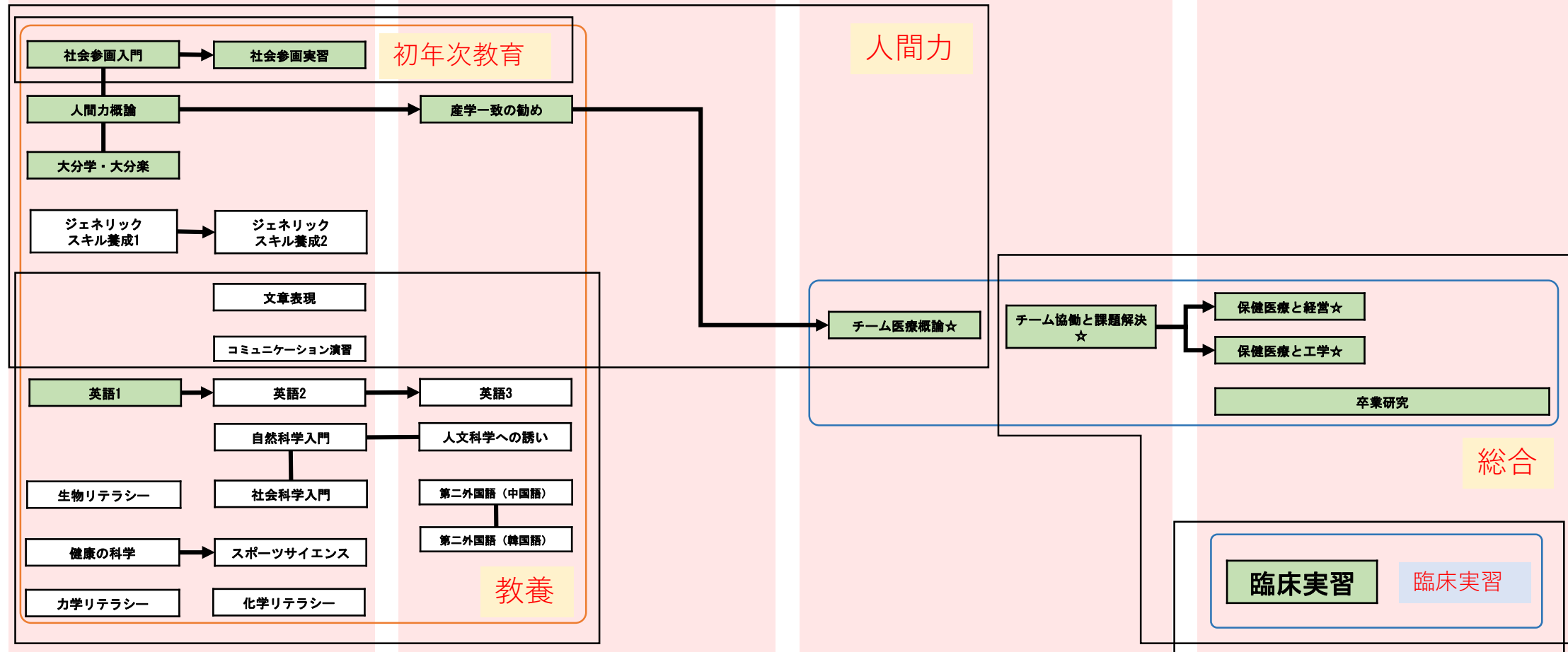
DP③ 医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。

DP② 幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。

DP④ 日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。

養成する人材像：人間力と専門の能力、職業能力を兼ね備え、地域医療現場や様々な関連職域で活躍できる人材

必修科目 選択科目 ☆…3コース共通専門教育科目 教養教育科目 専門教育科目



ディプロマポリシー
※主に対応するもの

DP① 生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。

DP③ 医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。

DP② 幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。

DP④ 日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。

診療放射線学コース履修モデル

	1年		2年		3年		4年									
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数								
教養教育科目	◎ 情報リテラシー1	2	◎ 社会参画実習	1	◎ 産学一致の勧め	2										
	◎ 社会参画入門	2	情報リテラシー2	2	データサイエンス・AI基礎	2										
	◎ 人間力概論	2	コミュニケーション演習	2												
	◎ 英語1	2														
	◎ データサイエンス入門	1														
	◎ 大分学・大分県健康の科学	2														
専門教育科目	◎ 解剖学	2	◎ 生化学	1	○ 放射線物理学	2	◎ 公衆衛生学	1	◎ チーム医療概論	1	◎ 医療安全論	1	○ 医療安全管理学	1	◎ 卒業研究	2
	◎ 生理学	2	◎ 病理学1	1	○ 放射化学	2	○ 臨床画像解剖学	2	○ 医療統計学1	1	◎ チーム協働と課題解決	1	◎ 保健医療と経営	1	○ 放射線医科学演習	0.5
	◎ 医学概論	1	◎ 薬理学	1	○ 放射線生物学・疫学	2	○ 理工学実験	2	○ 医療倫理学	1	○ 臨床実習（診療参加型）	12	◎ 保健医療と工学	1	○ 放射線治療技術演習	1
	○ 放射線基礎工学	2	◎ デジタル医療の基礎	1	○ 放射線計測学	2	○ 診療画像機器学2	2	○ 臨床画像学	2			◎ 卒業研究	2	○ 核医学検査技術演習	1
			○ 放射線基礎科学	2	○ 放射線撮影学2	2	○ 診療画像検査学1	2	○ 診療画像検査学2	2			○ 基礎医学大要	2		
			○ 医用工学	2	○ 診療画像機器学1	2	○ 診療画像技術学実習1	1	○ 診療画像技術学実習2	1			○ 診療画像機器学実験	2		
			○ 放射線撮影学1	2	○ 放射線治療機器学	2	○ 放射線医薬品学	2	○ 核医学検査技術学2	2			○ 放射線医科学演習	0.5		
					○ 医療画像工学	2	○ 核医学検査技術学1	2	○ 放射線治療技術学2	2			○ 放射線治療技術演習	1		
					○ 放射線関係法規	2	○ 放射線腫瘍学	1	○ 医療画像情報学2	2			○ 核医学検査技術演習	1		
							○ 放射線治療技術学1	2	○ 放射線安全管理学	2						
							○ 医療画像情報学1	2	○ 実践臨床画像論	2						
		期別修得単位数	20	期別修得単位数	15	期別修得単位数	22	期別修得単位数	19	期別修得単位数	18	期別修得単位数	14	期別修得単位数	11.5	期別修得単位数
	年次別修得単位数	35		年次別修得単位数		41		年次別修得単位数		32		年次別修得単位数		16		
		総修得単位数														124

◎：必修

○：コース必修

注) 放射線医科学演習1単位、放射線治療技術演習2単位、核医学検査技術演習2単位、卒業研究4単位は通年科目

臨床検査学コース履修モデル

	1年		2年		3年		4年									
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数								
教養教育科目	生物リテラシー	2	◎ 社会参画実習	1	◎ 産学一致の勧め	2										
	◎ 情報リテラシー1	2	英語2	2	データサイエンス・AI基礎	2										
	◎ 社会参画入門	2	文章表現	2												
	◎ 人間力概論	2														
	◎ 英語1	2														
	◎ データサイエンス入門	1														
	◎ 大分学・大分薬	2														
専門教育科目	◎ 解剖学	2	◎ 生化学	1	○ 病理学2	1	◎ 公衆衛生学	1	◎ チーム医療概論	1	○ 保健医療福祉論	1	○ 医療安全管理学実習	1	◎ 卒業研究	2
	◎ 生理学	2	◎ 病理学1	1	○ 分子生物学	1	○ 栄養学	1	○ 公衆衛生学演習	1	◎ 医療安全論	1	◎ 保健医療と経営	1	○ 臨床検査論2	2
	◎ 医学概論	1	◎ 薬理学	1	○ 免疫学	1	○ 臨床病態学2	2	○ 情報科学概論	1	○ 医療統計学2	1	◎ 保健医療と工学	1	○ 臨床検査論3	1
			◎ デジタル医療の基礎	1	○ 医療工学概論	2	○ 臨床検査医学	2	○ 病理組織細胞検査学実習	2	◎ チーム協働と課題解決	1	◎ 卒業研究	2		
			○ 微生物学	1	○ 検査機器総論	1	○ 血液検査学実習	2	○ 寄生虫検査学実習	1	○ 臨地実習前総合実習	1	○ 関係法規（臨床検査）	1		
			○ 臨床生理検査学1	1	○ 臨床病態学1	1	○ 細胞診検査学	1	○ 免疫検査学実習	2	○ 臨地実習	11	○ 画像・AI解析検査学	2		
			○ 臨床生理検査学2	1	○ 臨床検査学演習	2	○ 一般検査学演習	2	○ 遺伝子・染色体検査学実習	1	○ 検査総合管理学	2	○ 臨床検査論1	2		
					○ 血液検査学	2	○ 生体分析検査化学実習	2	○ 輸血・移植検査学実習	2						
					○ 病理組織検査学	2	○ 免疫検査学	1	○ 微生物検査学実習	2						
					○ 生体分析検査化学	1	○ 遺伝子・染色体検査学	1	○ 画像検査学実習	2						
					○ 微生物検査学1	2	○ 輸血・移植検査学	2	○ 医療統計学1	1						
					○ 臨床生理検査学実習	2	○ 微生物検査学2	2	○ 臨床検査総合演習	2						
							○ 画像検査学	2								
		期別修得単位数 18	期別修得単位数 12	期別修得単位数 22	期別修得単位数 21	期別修得単位数 18	期別修得単位数 16	期別修得単位数 12	期別修得単位数 5							
		年次別修得単位数 30		年次別修得単位数 43		年次別修得単位数 34		年次別修得単位数 17								
	総修得単位数 124															

◎：必修

○：コース必修

注) 卒業研究4単位は通年科目

臨床医工学コース履修モデル

	1年		2年		3年		4年										
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数									
教養教育科目	◎ 情報リテラシー1	2	◎ 社会参画実習	1	◎ 産学一致の勧め	2											
	◎ 社会参画入門	2	ジェネリックススキル養成2	1	データサイエンス・AI基礎	2											
	◎ 人間力概論	2	化学リテラシー	2													
	◎ 英語1	2															
	◎ データサイエンス入門 ジェネリックススキル養成1	1															
	◎ 大分学・大分薬	2															
専門教育科目	◎ 解剖学	2	◎ 生化学	1	○ 分子生物学	1	◎ 公衆衛生学	1	◎ チーム医療概論	1	○ 保健医療福祉論	1	◎ 保健医療と経営	1	◎ 卒業研究	2	
	◎ 生理学	2	◎ 病理学1	1	○ 免疫学	1	○ 医用電気工学総論	2	○ 医用電気工学各論	2	◎ チーム協働と課題解決	1	◎ 保健医療と工学	1	○ 医工学治療論	2	
	◎ 医学概論	1	◎ 薬理学	1	○ 基礎医学実習	1	○ 医用電子工学総論	2	○ 医用電子工学各論	2	◎ 医療安全論	1	◎ 卒業研究	2	○ レギュラトリーサイエンス論	2	
			◎ デジタル医療の基礎	1	○ 応用数学	2	○ 医療情報処理工学	2	○ 医用機械工学	2	○ 医用電気工学実習	1	○ 関係法規(医工学)	1			
					○ 医用工学概論	1	○ 生体物性工学	2	○ 医用システム工学	2	○ 医用電子工学実習	1	○ 人工臓器学	2			
					○ 医用機器学概論	2	○ 医用機器学実習	1	○ 医用材料工学	2	○ 医用計測工学	2	○ 臨床実習	7			
					○ 医用治療機器学	2	○ 生体計測装置学	2	○ 循環制御治療学	2	○ システム・情報処理実習	1					
					○ 臨床支援技術学	2	○ 臨床支援技術学実習	1	○ 人工呼吸療法学	2	○ データサイエンス概論	2					
							○ 医療機器安全管理学	2	○ 血液浄化療法学	2	○ 生体計測工学	2					
							○ 医用治療機器学実習	1	○ 循環制御治療学実習	1	○ 循環制御治療学実習	1					
							○ 生体計測装置学実習	1	○ 人工呼吸療法学実習	1	○ 人工呼吸療法学実習	1					
							○ 生命科学概論	1	○ 血液浄化療法学実習	1	○ 血液浄化療法学実習	1					
									○ 臨床医学総論(内科系)	2	○ 医療システムマネジメント論	2					
									○ 臨床医学英語	1	○ 救急・麻酔・集中治療医学	1					
											○ 臨床医学総論(外科系)	2					
		期別修得単位数	17	期別修得単位数	8	期別修得単位数	16	期別修得単位数	20	期別修得単位数	23	期別修得単位数	20	期別修得単位数	14	期別修得単位数	6
		年次別修得単位数	25		36		43		20		20		124				
														総修得単位数			

◎：必修

○：コース必修

注) 循環制御治療学実習2単位、人工呼吸療法学実習2単位、血液浄化療法学実習2単位、卒業研究4単位は通年科目

臨床実習・臨地実習関係資料

1. 臨床実習・臨地実習施設一覧
2. 臨床実習・臨地実習承諾書
3. 臨床実習・臨地実習計画表
4. 臨床実習・臨地実習委託に関する覚書
5. 臨床実習・臨地実習要綱
6. 個人情報保護に関するマニュアル
7. 個人情報保護に関する誓約書
8. 事故報告書
9. 教員別時間割
10. 臨床実習・臨地実習評価表

臨床実習施設一覧（診療放射線学コース）

No.	実習施設名	所在地	受入可能人数
1	大分大学医学部附属病院	大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地	12
2	大分医療センター	大分県大分市横田二丁目11番45号	6
3	別府医療センター	大分県別府市大字内竈1473番地	6
4	西別府病院	大分県別府市大字鶴見4548番地	6
5	南海医療センター	大分県佐伯市常盤西町7番8号	6
6	大分県立病院	大分県大分市豊饒二丁目8番1号	12
7	中津市立中津市民病院	大分県中津市大字下池永173番地	6
8	豊後大野市民病院	大分県豊後大野市緒方町馬場276番地	6
9	大分赤十字病院	大分県大分市千代町3丁目2番37号	6
10	大分県済生会日田病院	大分県日田市大字三和643-7	2
11	大分県厚生連 鶴見病院	大分県別府市大字鶴見4333番地	6
12	新別府病院	大分県別府市大字鶴見3898番地	6
13	大分市医師会立 アルメイダ病院	大分県大分市大字宮崎1509-2	6
14	宇佐高田医師会病院	大分県宇佐市大字南宇佐635	6
15	臼杵市医師会立 コスモス病院	大分県臼杵市大字戸室字長谷1131番地1	6
16	大分健生病院	大分県大分市古ヶ鶴1丁目1番15号	6
17	大分中村病院	大分県大分市大手町3丁目2番43号	6
18	大分岡病院	大分市西鶴崎3-7-11	6
19	大分循環器病院	大分市大字三芳320番3	6
20	大分三愛メディカルセンター	大分県大分市大字市1213番地	6
21	井野辺病院	大分県大分市大字中尾字平255番地	6
22	天心堂へつぎ病院	大分県大分市大字中戸次字二本木5956番地	6
23	オアシス第一病院	大分市東鶴崎3丁目3-19	6
24	有田胃腸病院	大分県大分市牧1丁目2番6号	6
25	佐賀関病院	大分県大分市大字佐賀関750-88	6
26	中村病院	大分県別府市秋葉町8番24号	6
27	大分先端画像診断センター	大分県別府市上人ヶ浜9組	6
28	佐藤第一病院	大分県宇佐市大字法鏡寺77-1	6
29	長門記念病院	大分県佐伯市鶴岡町1丁目11番59号	6
30	大牟田市立病院	福岡県大牟田市宝坂町2丁目19番地1	2
31	福岡和白病院	福岡県福岡市東区和白丘2-2-75	2
32	福岡徳洲会病院	福岡県春日市須玖北4-5	2
33	北九州病院 北九州総合病院	福岡県北九州市小倉北区東城野町1-1	2
34	唐津赤十字病院	佐賀県唐津市和多田2430	4
35	済生会 唐津病院	佐賀県唐津市元旗町817	4
36	長崎大学病院	長崎県長崎市坂本1丁目7-1	2
37	長崎みなとメディカルセンター	長崎県長崎市新地町6-39	2
38	佐世保市総合医療センター	長崎県佐世保市平瀬町9-3	4
39	佐世保共済病院	長崎県佐世保市島地町10番17号	4
40	熊本総合病院	熊本県八代市通町10番10号	4

No.	実習施設名	所在地	受入可能人数
41	熊本赤十字病院	熊本県熊本市東区長嶺南2丁目1番1号	4
42	朝日野総合病院	熊本県熊本市北区室園町12番10号	4
43	くまもと森都総合病院	熊本県熊本市中央区大江3-2-65	4
44	宮崎県立宮崎病院	宮崎県宮崎市北高松町5-30	2
45	宮崎県立延岡病院	宮崎県延岡市新小路2-1-10	2
46	宮崎県立日南病院	宮崎県日南市木山1丁目9番5号	2
47	鹿児島市立病院	鹿児島県鹿児島市上荒田町37番1号	4
48	南風病院	鹿児島県鹿児島市長田町14-3	4
49	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	沖縄県島尻郡南風原町字新川118-1	2
50	中部徳洲会病院	沖縄県中頭郡北中城村字比嘉801番地	4
51	中頭病院	沖縄県沖縄市字登川610番地	4

臨床実習施設一覧（臨床検査学コース）

No.	実習施設名	所在地	受入可能人数
1	九州大学病院別府病院	大分県別府市大字鶴見字鶴見原4546	3
2	大分医療センター	大分県大分市横田二丁目11番45号	2
3	別府医療センター	大分県別府市大字内竈1473番地	4
4	南海医療センター	大分県佐伯市常盤西町7番8号	3
5	大分県立病院	大分県大分市豊饒二丁目8番1号	4
6	国東市民病院	大分県国東市安岐町下原1456番地	2
7	中津市立中津市民病院	大分県中津市大字下池永173番地	4
8	大分赤十字病院	大分県大分市千代町3丁目2番37号	7
9	大分県済生会日田病院	大分県日田市大字三和643-7	2
10	大分県厚生連 鶴見病院	大分県別府市大字鶴見4333番地	3
11	新別府病院	大分県別府市大字鶴見3898番地	4
12	大分市医師会立 アルメイダ病院	大分県大分市大字宮崎1509-2	4
13	大分中村病院	大分県大分市大手町3丁目2番43号	2
14	大分岡病院	大分市西鶴崎3-7-11	3
15	天心堂へつぎ病院	大分県大分市大字中戸次字二本木5956番地	2
16	九州大学病院	福岡県福岡市東区馬出3-1-1	2
17	佐賀大学医学部附属病院	佐賀県佐賀市鍋島5-1-1	2
18	長崎大学病院	長崎県長崎市坂本1丁目7-1	2
19	熊本赤十字病院	熊本県熊本市東区長嶺南2丁目1番1号	2
20	宮崎県立宮崎病院	宮崎県宮崎市北高松町5-30	1
21	鹿児島大学病院	鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1	2
22	大隅鹿屋病院	鹿児島県鹿屋市新川町6081番地1	2
23	琉球大学病院	沖縄県中頭郡西原町字上原207番地	2
24	中頭病院	沖縄県沖縄市字登川610番地	2

臨床実習施設一覧（臨床医工学コース）

No.	実習施設名	所在地	受入可能人数
1	大分大学医学部附属病院	大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地	4
2	大分医療センター	大分県大分市横田二丁目11番45号	2
3	別府医療センター	大分県別府市大字内竈1473番地	4
4	南海医療センター	大分県佐伯市常盤西町7番8号	2
5	大分県立病院	大分県大分市豊饒二丁目8番1号	4
6	国東市民病院	大分県国東市安岐町下原1456番地	2
7	中津市立中津市民病院	大分県中津市大字下池永173番地	2
8	大分県済生会日田病院	大分県日田市大字三和643-7	2
9	大分県厚生連 鶴見病院	大分県別府市大字鶴見4333番地	4
10	新別府病院	大分県大分市大字宮崎1509-2	4
11	大分市医師会立アルメイダ病院	大分市西鶴崎3-7-11	4
12	大分中村病院	大分県大分市大字市1213番地	4
13	大分岡病院	大分県大分市大手町3丁目2番43号	2
14	大分三愛メディカルセンター	大分県大分市大字中戸次字二本木5956番地	2
15	天心堂へつぎ病院	大分県別府市大字鶴見3898番地	4
16	中村病院	大分県別府市秋葉町8番24号	2
17	児玉病院	大分県別府市亀川四の湯町5番19号	2
18	高田中央病院	大分県豊後高田市新地 1176-1	2
19	長門記念病院	大分県佐伯市鶴岡町1丁目11番59号	2
20	産業医科大学病院	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1	2
21	佐賀県医療センター好生館	佐賀県佐賀市嘉瀬町中原400番地	1
22	長崎大学病院	長崎県長崎市坂本1丁目7-1	1
23	佐世保中央病院	長崎県佐世保市大和町15	1
24	熊本大学病院	熊本市中央区本荘1-1-1	1
25	熊本赤十字病院	熊本県熊本市東区長嶺南2丁目1番1号	1
26	宮崎大学医学部附属病院	宮崎県宮崎市清武町木原5200	1
27	宮崎県立宮崎病院	宮崎県宮崎市北高松町5-30	1
28	宮崎県立日南病院	宮崎県日南市木山1丁目9番5号	1
29	藤元総合病院	宮崎県都城市早鈴町17-1	1
30	鹿児島医療センター	鹿児島県鹿児島市城山町8番1号	1
31	大隅鹿屋病院	鹿児島県鹿屋市新川町6081番地1	1
32	琉球大学病院	沖縄県中頭郡西原町字上原207番地	1
33	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	沖縄県島尻郡南風原町字新川118-1	1
34	沖縄県立北部病院	沖縄県名護市大中2-12-3	1
35	中頭病院	沖縄県沖縄市字登川610番地	1

資料 16-2

臨床実習・臨地実習承諾書

(資料 16-1 の臨床実習・臨地実習施設一覧をもって省略とする)

臨床実習・臨地実習計画表(診療放射線学コース)

学生	実習施設											
	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目	9週目	10週目	11週目	12週目
1	大分大学医学部附属病院			大分岡病院			井野辺病院					
2	大分大学医学部附属病院			大分岡病院			井野辺病院					
3	大分大学医学部附属病院			大分中村病院			有田胃腸病院					
4	大分大学医学部附属病院			大分中村病院			有田胃腸病院					
5	井野辺病院			大分大学医学部附属病院			大分岡病院					
6	井野辺病院			大分大学医学部附属病院			大分岡病院					
7	有田胃腸病院			大分大学医学部附属病院			大分中村病院					
8	有田胃腸病院			大分大学医学部附属病院			大分中村病院					
9	大分岡病院			井野辺病院			大分大学医学部附属病院					
10	大分岡病院			井野辺病院			大分大学医学部附属病院					
11	大分中村病院			有田胃腸病院			大分大学医学部附属病院					
12	大分中村病院			有田胃腸病院			大分大学医学部附属病院					
13	大分県厚生連 鶴見病院			中村病院			大分健生病院					
14	大分県厚生連 鶴見病院			中村病院			大分健生病院					
15	大分健生病院			大分県厚生連 鶴見病院			中村病院					
16	大分健生病院			大分県厚生連 鶴見病院			中村病院					
17	中村病院			大分健生病院			大分県厚生連 鶴見病院					
18	中村病院			大分健生病院			大分県厚生連 鶴見病院					
19	大分医療センター			大分三愛メディカルセンター			オアシス第一病院					
20	大分医療センター			大分三愛メディカルセンター			オアシス第一病院					
21	オアシス第一病院			大分医療センター			大分三愛メディカルセンター					
22	オアシス第一病院			大分医療センター			大分三愛メディカルセンター					
23	大分三愛メディカルセンター			オアシス第一病院			大分医療センター					
24	大分三愛メディカルセンター			オアシス第一病院			大分医療センター					
25	別府医療センター			西別府病院			大分循環器病院					
26	別府医療センター			西別府病院			大分循環器病院					
27	大分循環器病院			別府医療センター			西別府病院					
28	大分循環器病院			別府医療センター			西別府病院					
29	西別府病院			大分循環器病院			別府医療センター					
30	西別府病院			大分循環器病院			別府医療センター					
31	大分県立病院			南海医療センター			長門記念病院					
32	大分県立病院			南海医療センター			長門記念病院					
33	大分県立病院			臼杵市医師会立 コスモス病院			佐賀関病院					
34	大分県立病院			臼杵市医師会立 コスモス病院			佐賀関病院					
35	長門記念病院			大分県立病院			南海医療センター					
36	長門記念病院			大分県立病院			南海医療センター					
37	佐賀関病院			大分県立病院			臼杵市医師会立 コスモス病院					
38	佐賀関病院			大分県立病院			臼杵市医師会立 コスモス病院					
39	南海医療センター			長門記念病院			大分県立病院					
40	南海医療センター			長門記念病院			大分県立病院					
41	臼杵市医師会立 コスモス病院			佐賀関病院			大分県立病院					
42	臼杵市医師会立 コスモス病院			佐賀関病院			大分県立病院					
43	大分市医師会立 アルメイダ病院			豊後大野市民病院			天心堂へつぎ病院					
44	大分市医師会立 アルメイダ病院			豊後大野市民病院			天心堂へつぎ病院					
45	天心堂へつぎ病院			大分市医師会立 アルメイダ病院			豊後大野市民病院					
46	天心堂へつぎ病院			大分市医師会立 アルメイダ病院			豊後大野市民病院					
47	豊後大野市民病院			天心堂へつぎ病院			大分市医師会立 アルメイダ病院					
48	豊後大野市民病院			天心堂へつぎ病院			大分市医師会立 アルメイダ病院					
49	大分赤十字病院			新別府病院			大分先端画像診断センター					
50	大分赤十字病院			新別府病院			大分先端画像診断センター					
51	大分先端画像診断センター			大分赤十字病院			新別府病院					
52	大分先端画像診断センター			大分赤十字病院			新別府病院					
53	新別府病院			大分先端画像診断センター			大分赤十字病院					
54	新別府病院			大分先端画像診断センター			大分赤十字病院					
55	中津市立中津市民病院			宇佐高田医師会病院			佐藤第一病院					
56	中津市立中津市民病院			宇佐高田医師会病院			佐藤第一病院					
57	佐藤第一病院			中津市立中津市民病院			宇佐高田医師会病院					
58	佐藤第一病院			中津市立中津市民病院			宇佐高田医師会病院					

学生	実習施設											
	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目	9週目	10週目	11週目	12週目
59	宇佐高田医師会病院				佐藤第一病院				中津市立中津市民病院			
60	宇佐高田医師会病院				佐藤第一病院				中津市立中津市民病院			
61	大分県済生会日田病院											
62	大分県済生会日田病院											
63	大牟田市立病院											
64	大牟田市立病院											
65	福岡和白病院											
66	福岡和白病院											
67	福岡徳洲会病院											
68	福岡徳洲会病院											
69	北九州病院 北九州総合病院											
70	北九州病院 北九州総合病院											
71	唐津赤十字病院						済生会 唐津病院					
72	唐津赤十字病院						済生会 唐津病院					
73	長崎大学病院											
74	長崎大学病院											
75	長崎みなとメディカルセンター											
76	長崎みなとメディカルセンター											
77	佐世保市総合医療センター						佐世保共済病院					
78	佐世保市総合医療センター						佐世保共済病院					
79	熊本赤十字病院						朝日野総合病院					
80	熊本赤十字病院						朝日野総合病院					
81	熊本総合病院						くまもと森都総合病院					
82	熊本総合病院						くまもと森都総合病院					
83	宮崎県立宮崎病院											
84	宮崎県立宮崎病院											
85	宮崎県立延岡病院											
86	宮崎県立延岡病院											
87	宮崎県立日南病院											
88	宮崎県立日南病院											
89	鹿児島市立病院						南風病院					
90	鹿児島市立病院						南風病院					
91	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター											
92	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター											
93	中頭病院						中部徳洲会病院					
94	中頭病院						中部徳洲会病院					

臨床実習・臨地実習計画表(臨床検査学コース)

学生	実習施設									
	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目	9週目	10週目
1	九州大学病院別府病院									
2	九州大学病院別府病院									
3	九州大学病院別府病院									
4	大分医療センター									
5	大分医療センター									
6	別府医療センター									
7	別府医療センター									
8	別府医療センター									
9	別府医療センター									
10	南海医療センター									
11	南海医療センター									
12	南海医療センター									
13	大分県立病院									
14	大分県立病院									
15	大分県立病院									
16	大分県立病院									
17	国東市民病院									
18	国東市民病院									
19	中津市立中津市民病院									
20	中津市立中津市民病院									
21	中津市立中津市民病院									
22	中津市立中津市民病院									
23	大分赤十字病院									
24	大分赤十字病院									
25	大分赤十字病院									
26	大分赤十字病院									
27	大分赤十字病院									
28	大分赤十字病院									
29	大分赤十字病院									
30	大分県済生会日田病院									
31	大分県済生会日田病院									
32	大分県厚生連 鶴見病院									
33	大分県厚生連 鶴見病院									
34	大分県厚生連 鶴見病院									
35	新別府病院									
36	新別府病院									
37	新別府病院									
38	新別府病院									
39	大分市医師会立 アルメイダ病院									
40	大分市医師会立 アルメイダ病院									
41	大分市医師会立 アルメイダ病院									
42	大分市医師会立 アルメイダ病院									
43	大分中村病院									
44	大分中村病院									
45	大分岡病院									
46	大分岡病院									
47	大分岡病院									
48	天心堂へつぎ病院									

学生	実習施設									
	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目	9週目	10週目
49	天心堂へつぎ病院									
50	九州大学病院									
51	九州大学病院									
52	佐賀大学医学部附属病院									
53	佐賀大学医学部附属病院									
54	長崎大学病院									
55	長崎大学病院									
56	熊本赤十字病院									
57	熊本赤十字病院									
58	宮崎県立宮崎病院									
59	鹿児島大学病院									
60	鹿児島大学病院									
61	大隅鹿屋病院									
62	大隅鹿屋病院									
63	琉球大学病院									
64	琉球大学病院									
65	中頭病院									
66	中頭病院									

臨床実習・臨地実習計画表(臨床医工学コース)

学生	実習施設							
	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目
1	大分大学医学部附属病院				大分三愛メディカルセンター			
2	大分大学医学部附属病院				大分三愛メディカルセンター			
3	大分三愛メディカルセンター				大分大学医学部附属病院			
4	大分三愛メディカルセンター				大分大学医学部附属病院			
5	大分県立病院				大分中村病院			
6	大分県立病院				大分中村病院			
7	国東市民病院				大分県立病院			
8	国東市民病院				大分県立病院			
9	大分岡病院				高田中央病院			
10	大分岡病院				高田中央病院			
11	高田中央病院				大分岡病院			
12	高田中央病院				大分岡病院			
13	大分市医師会立アルメイダ病院				天心堂へつぎ病院			
14	大分市医師会立アルメイダ病院				天心堂へつぎ病院			
15	中津市民病院				大分市医師会立アルメイダ病院			
16	中津市民病院				大分市医師会立アルメイダ病院			
17	別府医療センター				児玉病院			
18	別府医療センター				児玉病院			
19	中村病院				別府医療センター			
20	中村病院				別府医療センター			
21	厚生連鶴見病院				新別府病院			
22	厚生連鶴見病院				新別府病院			
23	新別府病院				厚生連鶴見病院			
24	新別府病院				厚生連鶴見病院			
25	大分県済生会日田病院				大分医療センター			
26	大分県済生会日田病院				大分医療センター			
27	南海医療センター				長門記念病院			
28	南海医療センター				長門記念病院			
29	産業医科大学病院							
30	産業医科大学病院							
31	佐賀医療センター好生館							
32	長崎大学病院							
33	佐世保中央病院							
34	熊本大学医学部附属病院							
35	熊本赤十字病院							
36	宮崎大学医学部附属病院							
37	宮崎県立宮崎病院							
38	宮崎県立日南病院							
39	藤元総合病院							

学生	実習施設							
	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目
40	鹿児島医療センター							
41	大隅鹿屋病院							
42	琉球大学医学部附属病院							
43	沖縄県立南部医療センター							
44	沖縄県立北部病院							
45	中頭病院							

臨床実習・臨地実習に関する覚書

日本文理大学(以下、「甲」という。)&「臨床実習・臨地実習委託先」(以下、「乙」という。)&は、次の条項により臨床実習・臨地実習委託に関する覚書を締結する。

記

第1 基本的役割等

- (1) 乙は、実習生を甲が定める期間(以下、「実習期間」という)受け入れ、臨床実習・臨地実習において実習生の専攻分野に関する実践的かつ専門的な能力を修得するための教育及び指導等を行う。
- (2) 甲は、臨床実習・臨地実習費として、一日につき、実習生一人あたり 1,000 円(税込)を乙に支払うものとする。
- (3) 甲及び乙は、事前に甲及び乙の協議の上で臨床実習・臨地実習の内容及びスケジュールに係る実施計画(以下、「実施計画」という。)を決定する。
- (4) 甲は、学生の中から選定した実習生の候補者について、臨床実習・臨地実習の参加申込に係る書類を乙に提出する。
- (5) 甲は、実習生が臨床実習・臨地実習の参加に当たり遵守すべき事項を定めた誓約書に、実習生本人の署名捺印を得て、乙に提出する。
- (6) 乙は臨床実習・臨地実習以外の責任を負わない。
- (7) 乙は、乙の役員及び職員(以下、「職員等」という。)の中から、臨床実習・臨地実習に必要な適性及び能力等を有する実習指導者(以下、「実習指導者」という。)を選定し、実施計画どおり教育及び指導等を実施する。なお、実習指導者は、実習生が臨床実習・臨地実習終了後に作成する報告書の承認並びに実習生の実習成果の評価を行う。
- (8) 乙は、臨床実習・臨地実習中の実習生の身体及び財産の安全に努め、感染防止等に必要な講習その他安全衛生管理の措置(以下、「安全衛生管理措置」という。)を実習を開始する前に実習生に講ずる。
- (9) 実習生は、乙の指揮監督の下で乙に従属して労働力を提供しない範囲で、乙の就業規則及び実習指導者の指示等を遵守する。なお、実習生は、実習指導者による従属労働の命令等を拒否する権利を有するとともに、拒否する義務を負担し、当該命令等を甲及び乙に報告しなければならない。

第2 実習時間・場所、実習に係る費用負担及び事故への対応

- (1) 臨床実習・臨地実習の時間は、原則として午前 8 時 30 分から午後 5 時 30 分までとする。このうち正午から午後 1 時までを休憩時間とする。ただし、事前の甲及び乙の協議の上で決定した臨床実習・臨地実習の目的を達成するために必要と認められる合理的な理由があり、かつ、予め乙が実習生の同意を得た場合は、一日当たりの臨床実習・臨地実習の総時間数及び休憩時間数を変えない範囲で、上記の時間帯を変更することができる。
- (2) 臨床実習・臨地実習を実施する場所は、事前の甲及び乙の協議の上で決定した場所のうち、実習指導者が指定した場所とする。

- (3) 乙は、実習生に対して一切の臨床実習・臨地実習に関する給与及び手当等(交通費、滞在費、食費、保険料等)は支給しない。なお、乙は、実習生に対して臨床実習・臨地実習に必要な備品等を貸与する。
- (4) 甲は、臨床実習・臨地実習中の事故等により、実習生が傷害を負った場合又は実習生が乙及び乙の職員等又は第三者へ損害を与えた場合等に備え、実習生に災害傷害保険及び賠償責任保険へ加入させなければならない。なお、上記保険の利用等に関する必要な手続は甲が行い、上記保険の保険料等は実習生が負担する。

第3 実習期間中における遵守事項等

- (1) 甲は、実習生がこの覚書に定める義務を遵守することを乙に保証する。
- (2) 実習生は、乙の就業規則その他文書等に定める職員等の服務規律に違反する行為を行ってはならない。
- (3) 実習生は、実習期間中に乙及び乙の患者並びにそれらの活動に関して知り得た知識又は入手した情報であって乙の実習指導者から秘密の旨を指定された情報(以下、「病院情報等」という。)について、次のいずれかに該当する情報を除き、乙の事前の書面による同意なしに第三者に提供、開示又は漏洩してはならない。
 - ① 開示を受け又は知得した際、既に自己が保有していたことを証明できるもの
 - ② 開示を受け又は知得した際、既に公知公用であることを立証できるもの
 - ③ 開示を受け又は知得した後、自己の責めによらずに公知となったもの
 - ④ 正当な権原を有する第三者から秘密保持義務を負うことなく適法に入手したことを立証できるもの
 - ⑤ 開示された情報によることなく独自に開発又は取得していたことを証明できるもの
 - ⑥ 書面により事前に同意を得たもの
- (4) 実習生は、乙の事前の書面による同意を得て、臨床実習・臨地実習に関する報告において必要な範囲で病院情報等を甲に開示することができる。
- (5) 甲は、臨床実習・臨地実習に関して、実習生が口頭若しくは書面でなした報告に病院情報等が含まれる場合は、第3の(3)に定める実習生が負う義務と同等の義務を負う。
- (6) 甲は、実習生に甲が保有する情報(以下、「甲保有情報」という。)を臨床実習・臨地実習で利用させる場合は、甲保有情報の内容を事前に乙に伝え、乙の同意を得なければならない。
- (7) 乙は、甲から開示を受けた甲保有情報について、第3の(3)の①乃至⑥に該当する情報を除き、甲の事前の書面による同意なしに第三者に提供、開示又は漏洩してはならず、又は臨床実習・臨地実習以外の目的で使用してはならない。
- (8) 病院情報等及び甲保有情報の秘密保持及び目的外使用禁止期間は、甲乙の協議の上で決定する。ただし、その間に公知となった場合は、この限りではない。
- (9) 乙は、甲又は実習生がこの覚書に違反する行為その他臨床実習・臨地実習を継続しがたい事由の行為があった場合は、直ちに臨床実習・臨地実習(特定の実習生に対する個別の臨床実習・臨地実習を含む。以下、同じ。)を終了することができる。なお、乙は、臨床実習・臨地実習を終了させたときは、速やかに甲にその旨を通知しなければならない。

第4 臨床実習・臨地実習の事業成果の帰属

- (1) 臨床実習・臨地実習の結果得られた成果(発明、考案、意匠及び著作物その他全ての成果を含み、以下、「事業成果」という。)に係る権利は、原則として乙に帰属する。ただし、甲の教員が事業成果に寄与又は貢

献している場合は、甲及び乙の協議の上で当該権利の帰属について決定する。

- (2) 乙は、実習生に帰属する事業成果に係る権利を承継した場合は、その譲渡の対価として乙の定める規定に基づく報償金等を実習生に支払う。
- (3) 甲は、甲又は実習生が学会発表又は論文発表等により第三者に事業成果を公表しようとする場合は、事前に乙の同意を得て行うものとする。

第5 賠償責任等

- (1) 甲は、実習期間中又は実習期間終了後に、実習生がこの覚書及び誓約書に違反する行為を行い、乙及び第三者へ損害を生じさせた場合は、乙及び第三者に生じた損害に係る賠償の責任を負う。ただし、甲が負う賠償の責任の範囲は、当該違反により生じた損害のみ賠償の責任を負い、逸失利益は一切の責任を負わない。
- (2) 乙は、臨床実習・臨地実習の実施中に臨床実習・臨地実習に起因して実習生に感染や損害が生じた場合、乙及び第三者の故意又は過失と実習生に生じた感染や損害との間に相当の因果関係がない限り、実習生に生じた感染や損害に係る賠償の責任を負わない。
- (3) 実習生は、実習期間中又は実習期間終了後に甲に損害が生じた場合、乙及び第三者の故意又は過失と甲に生じた損害との間に相当の因果関係がない限り、甲に生じた損害に係る賠償の責任を負う。

第6 個人情報の目的外使用の禁止

- (1) 乙は、実習生の個人情報の管理について万全を期し、実習生の個人情報を本人の同意なく第三者に提供しない。また、乙は、実習生の個人情報を臨床実習・臨地実習の実施以外の目的に使用しない。

第7 覚書の解除その他

- (1) 乙は、甲又は実習生がこの覚書に違反したときは、この覚書を解除することができ、当該解除の効力は解除した日から生ずるものとする。ただし、乙の損害賠償請求権の効力はこの限りではない。
- (2) 甲は、乙がこの覚書に違反したときは、この覚書の解除権を取得するものとし、当該解除の効力は解除した日から生ずるものとする。
- (3) この覚書に定めのない事項又はこの覚書に疑義が生じた事項については、その都度、甲及び乙の協議の上で決定するものとする。
- (4) この覚書の締結を証するため、本書2通を作成の上、甲及び乙双方が記名捺印の上、それぞれ1通を保管するものとする。

年 月 日

甲:所在地:大分県大分市一木 1727

施設名:日本文理大学

代表者: 印

乙:所在地:

施設名:

代表者:

臨床実習・臨地実習要綱

日本文理大学 保健医療学部 保健医療学科

目次

I. 臨床実習・臨地実習について	1
1. 臨床実習・臨地実習の基本方針	1
2. 臨床実習・臨地実習の構成と概要	1
3. 成績評価・単位認定	1
4. 追加実習について	1
5. 臨床実習・臨地実習の安全対策	2
6. 臨床実習・臨地実習開始時のオリエンテーション	3
7. 出欠の取り扱い	3
8. 事故発生時の対応	3
9. 臨床実習・臨地実習施設への事前連絡	3
10. 事前学修について	4
11. 身だしなみについて	4
12. 臨床実習・臨地実習施設への移動手段について	4
13. 臨床実習・臨地実習中の一般的な心構え	5
14. 時間の厳守（欠席・遅刻・早退について）	5
15. 臨床実習・臨地実習指導者及び臨床実習・臨地実習施設の職員に対する心構え	5
16. 患者（ご利用者）に対する心構え	5
17. 臨床実習・臨地実習の終了時には	6
18. 臨床実習・臨地実習の停止について	6
19. 臨床実習・臨地実習報告会	6
20. 臨床実習・臨地実習終了時に大学へ提出する書類等	6
II. 実習指導者へのお願い	7
1. 学生について	7
2. 臨床実習・臨地実習前の評価について	7
3. 実習の目標と到達目標	7
4. 個人情報保護に関する誓約書について	7
5. 実習時間等について	7
6. 実習課題	8
7. 臨床実習・臨地実習評価について	8
8. 事故防止について	8
9. 土曜日・日曜日・祝日の取り扱いについて	8
10. 実習地訪問について	8
11. 臨床実習の中止について	8
12. 気象条件の悪化・公共機関のストライキ等による実習対応	9
13. 実習中のハラスメントについて	9
14. 抗体検査について	9

I. 臨床実習・臨地実習について

1. 臨床実習・臨地実習の基本方針

本学科における臨床実習・臨地実習（臨床実習：診療放射線学コースおよび臨床医工学コース、臨地実習：臨床検査学コース）は、医療従事者の養成教育の中で重要な科目であり、講義で学修した理論・知識・技術を臨床体験により統合させ、実践に必要な実技能力と医療従事者としての基本的な態度を身につけることに加え以下の修得を目指す。

- 1) 臨床実習・臨地実習において、患者さんと接することで生命の尊さに触れ、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた医療従事者としての心構えを身につける。
- 2) 臨床実習・臨地実習において、多職種が連携し検査・治療に携わっていることを学び、チーム医療を実践するために必要なコミュニケーション能力を身につける。
- 3) 臨床実習・臨地実習において、幅広い知識と医療技術がどのようにして地域産業界および地域保健医療への貢献に繋がっているかを理解するとともに、将来の医療現場および産業界において医療の質や安全性の向上に貢献できるようそれぞれの専門分野における探求心を身につける。

2. 臨床実習・臨地実習の概要

	【 診療放射線学コース 】	【 臨床検査学コース 】	【 臨床医工学コース 】
科目名	臨床実習（診療参加型）	臨地実習	臨床実習
単位数	12単位	11単位	7単位
開講期	3年後期	3年後期	4年前期

3. 成績評価・単位認定

評価は、実習施設の臨床実習・臨地実習指導者（以下、実習指導者）からの評価〔実習状況、学修評価（実践的技術・技能の修得状況）、総合評価〕、臨床実習・臨地実習担当教員（以下、実習担当教員）からの巡回指導報告、学生の実習記録を総合して成績判定し単位認定を行う。

4. 追加実習について

追加実習とは、実習の出席日数が、以下の理由で実習期間の5分の4を満たさなかった場合に行う。病気や事故、忌引きなど、やむを得ない欠席であり、いずれの場合も診断書や証明書を必要とする。

- 1) 追加実習を行うか否かは大学の判断による。
- 2) 同年度内の追加実習以外の再実習は行わない。

5. 臨床実習・臨地実習の安全対策

実習に先立って学内オリエンテーションを実施し、安全対策の徹底を図る。

1) 医療安全

実習期間中は、医療安全を徹底し事故防止に努めること。予期せぬ事故や事態が生じた場合には、学生は実習指導者及び実習担当教員に速やかに報告し、指示を待つ。

2) 健康診断・抗体検査

毎年1回、定期健康診断を受診すること。

B型肝炎、麻疹、風疹、水疱、ムンプスの抗体検査について、1年次に全学生を対象に実施（自己負担）し、抗体の有無を確認する。抗体を有しない者には臨床実習・臨地実習開始よりも十分な期間前までにワクチン接種を終了すること。

インフルエンザに関しては、毎年流行期前にワクチンを接種すること。（自己負担）

3) 感染症の予防と対策

実習期間中は実習施設が実施している感染症対策に沿って感染予防に努めること。また、実習時間外においても感染症対策を徹底し予防すること。

万一感染症が疑われる場合には、実習指導者および実習担当教員に相談すること。

4) 守秘義務の徹底と個人情報保護対策

臨床実習・臨地実習で知りえた、個人情報については一切口外しないこと。また、個人情報を含む内容をメモ用紙やノート、電子ファイル等に記録しないこと。

5) ハラスメントについて

臨床実習・臨地実習におけるハラスメントについては、「日本文理大学ハラスメント防止等に関する規程」に準じて対応する。臨床実習・臨地実習において不当な扱いを受けた場合は、実習担当教員に連絡すること。

「ハラスメントにあたる行為」

行為者本人の意図のいかんに関わらず、相手方の人権や人格的尊厳を傷つける不適切な言動をいう。ハラスメントには、次のようなものが含まれる。

① セクシュアルハラスメント

職場や学校において、上司や指導者が性的な言動・要求に対する相手方の対応により不利益を与える対価型セクハラと、性的な言動により職場環境や教育・研究環境を悪化させる環境型セクハラがある。

② アカデミックハラスメント

教育・研究の場で指導者が、指導を受ける人の就学・研究や職務上の利益を不当に侵害したり、人格的尊厳を傷つける行為をいう。

③ パワーハラスメント

職務関係で上司や先輩が部下々後輩の人権や人格的尊厳を傷つける言動をいう。

④ マタニティハラスメント・ケアハラスメント

妊娠・出産・育児休業・介護休業等を理由に職場で不当な扱いや嫌がらせをすることをいう。

6) 医療系分野学生生徒賠償責任保険

臨床実習・臨地実習では、対象患者及び学生に対して身体的障害や心理的障害をきたす事故を発生する危険性がある。また実習施設の備品破損等事故を生じることにも十分考えられる。そのため学生は全員以下の保険に加入すること。

【加入保険】 総合補償制度 Will [ウィル]

- 補償対象
- ・本人が受けた傷害に対する保険
 - ・相手に傷を負わせたり財物を壊したときの保険
 - ・学生本人の感染症及び学生の物品が破損した場合の保険

7) 放射線管理 (診療放射線学コースの学生対象)

臨床実習に当たり、個人被ばく線量測定器を着用し、実習期間中の被ばく線量を測定すること。

臨床実習施設において放射線や放射性同位元素等、放射線障害の恐れのある場所で臨床実習を行う場合、放射線障害防止と安全管理に留意すること。

6. 臨床実習・臨地実習開始時のオリエンテーション

実習施設（施設の概要等）についての説明を行う。また、施設内で学生が過ごす際の留意事項（就業時間、就業規則、感染防止、安全対策、個人情報保護等）についてもあわせて説明を行う。

7. 出欠の取り扱い

- 1) 出勤・退勤時間は各臨床実習・臨地実習施設の就業規則に準じる。
- 2) やむを得ず欠席、遅刻、早退する場合は、必ず各実習施設に連絡し実習指導者の許可をもらうこと。また、実習担当教員への報告を行うこと。

8. 事故発生時の対応

- 1) 通勤途中等、臨床実習・臨地実習時間外に事故が発生した場合、先ず実習担当教員に連絡を入れること。
- 2) 臨床実習・臨地実習時間中に事故が発生した場合、実習指導者に連絡し、実習指導者の指示で対処すること。また、当日中に大学の実習担当教員に報告すること。
- 3) 学生は本学を通して前記の保険に加入する。事故の内容によっては補償が可能な場合がある。補償内容の詳細については関連資料を参照するか大学まで問合せを行うこと。

9. 臨床実習・臨地実習施設への事前連絡

実習開始の1週間前に、実習施設に電話連絡し、以下の内容について確認を行うこと。但し実習施設の業務の妨げとならないように、連絡方法、日時等に注意すること。

- ・実習開始当日の集合場所と集合時間
- ・出勤時、臨床実習中の服装
- ・事前学修（特に予習が必要な領域など）

10. 事前学修について

臨床実習・臨地実習とは、新たに知識を得る機会ではなく、これまでに得た知識を統合し、実際の患者（ご利用者）に応用する機会である。従って臨床実習・臨地実習までに大学で学んだ内容をしっかりと復習し、知識が整理された状態で臨めるよう努力すること。

実習施設によっては、事前に学修内容を指定されることがある。指定された内容は、その施設で実習を行うための最低限の知識であると理解し、必ず予習をした上で実習に臨むこと。

11. 身だしなみについて

1) 頭髪について

- ① 髪型は相手に不快感を与えないよう留意し、茶髪、金髪等は禁止とする。
- ② 前髪が眉毛にかからず、横と後ろは清潔感のある長さが望ましい。
- ③ 女子は長髪の場合、必ず結ぶこと。

2) 化粧について

- ① 女性は華美な化粧を避けること。香水は使用を禁ずる。
- ② 付けまつ毛など、外れやすいものも使用を禁ずる。
- ③ 爪は短くし、マニキュアなどは使用しないこと。

3) 服装について

- ① 実習中は、特に指定の無い限り、本学で決められた白衣を着用すること。
- ② 実習施設から指定された際は指定のものを着用すること。
- ③ 靴下、靴は白の清潔なものを着用すること。
- ④ 実習施設への通学に際しては良識に従ったものにする。
(外部の方にとっては職員と同様であることを意識すること)

4) アクセサリーについて

- ① ピアス、指輪などのアクセサリーの着用は禁止とする。
- ② 腕時計は例外であるが、華美なものは避け、患者（ご利用者）に接触する際には外すよう配慮する。

12. 臨床実習・臨地実習施設への移動手段について

- 1) 実習施設への移動手段には、原則として公共交通機関を使用すること。自転車を利用する場合には、事前に実習施設側に確認をとること。自家用車、バイクの使用は原則禁止とするが、実習施設まで公共交通機関のない場合には、実習施設の許可を得た後、大学で許可する場合がある。
- 2) 不意の交通機関の乱れに対応するため、時間に十分な余裕をもって行動すること。実習開始前に、実際に実習施設まで出向き、通勤時の経路や通勤に要する時間を確認しておくことを推奨する。
- 3) 遅刻が見込まれる場合は、可及的速やかに実習指導者にその旨を報告すること。
- 4) 万が一、交通事故にあった場合は、警察への届けなど適切な処理を行い、可及的速やかに実習担当教員及び大学に連絡を入れること。

13. 臨床実習・臨地実習中の一般的な心構え

臨床実習・臨地実習は、実習施設と患者（ご利用者）が、学生の学修意欲に対するご理解とご厚意により成り立っているものである。従って学生自身が主体的に行動し学修することが臨床実習・臨地実習の大前提であり、十分な学修成果をあげるために自ら積極的に取り組む必要がある。

臨床実習・臨地実習の期間は、実際の患者（ご利用者）に触れ合っただけで学修できる期間としては非常に短く、貴重な時間である。臨床実習・臨地実習を最大限に生かし有意義なものにするためにも、無駄な時間を作らず、主体的に学修することが望まれる。

14. 時間の厳守（欠席・遅刻・早退について）

臨床実習・臨地実習中は特に時間を厳守すること（始業、終業、職員・患者との約束時間、書類の提出期限など）。時間を守らないことは、相手の時間を奪う行為であり、臨床においては、施設と個人の収益や、患者（ご利用者）の人命にまで影響するものであることを理解すること。

従って病気や忌引きなどのやむを得ない事情を除き、欠席・遅刻・早退は認められない。臨床実習・臨地実習期間の5分の4を満たさない場合には、臨床実習・臨地実習の単位認定を受けることはできない。やむを得ず欠席・遅刻・早退をした場合には、実習指導者に欠席・遅刻・早退届にて届け出るとともに、実習担当教員に連絡すること。なお、遅刻・早退は、欠席0.5回として集計します

15. 臨床実習・臨地実習指導者及び臨床実習・臨地実習施設の職員に対する心構え

- 1) 実習中は実習施設の規則を遵守し、指導者の指示に従って行動すること。指導者に対しては常にハウレンソウ（報告・連絡・相談）を心がけること。
- 2) 実習施設の職員に対しては礼節をもって接し、言葉遣いに気をつけること。また、常に心のこもった挨拶を励行すること。
- 3) 指導者や職員の助言・指導は真摯に受け止め、自らの態度や行動を改善するよう心がけること。
- 4) 実習で使用する部屋の整理・整頓などの雑務には積極的に協力すること。
- 5) 実習施設の物品の取り扱いには十分に注意し、破損や汚損のないよう気をつけること。

16. 患者（ご利用者）に対する心構え

- 1) 患者（ご利用者）及びご家族は、往々にして学生である皆さんよりも年長者である。常に尊敬の念と誠意をもって応じること。馴れ馴れしい態度は相手を遠ざけるものと理解すること。
- 2) 患者（ご利用者）及びご家族には礼節をもって接し、常に心のこもった挨拶を励行すること。
- 3) 患者（ご利用者）から疾患や障害に関する質問を受けた場合は、即答を避け、実習指導者に相談する。

- 4) 実習中に知り得た患者（ご利用者）の情報は、実習中はもちろんのこと、実習後においても一切口外しないこと。
- 5) メモなどの記録を取る際は、個人情報保護の取り決めに遵守する（実名は避けイニシャルとするなど）。記録の紛失には十分注意すること。

17. 臨床実習・臨地実習の終了時には

- 1) 空き時間を利用し、実習指導者及び実習施設の職員に十分な感謝の意を示し、お礼を述べること。
- 2) 忘れ物などが無いかを確認し、借用した設備（ロッカー等）がある場合には原状復帰を行うこと。
- 3) 実習終了後、1週間以内に実習指導者宛てにお礼状を送ること。

18. 臨床実習・臨地実習の停止について

臨床実習・臨地実習の期間中に以下の内容に該当する場合は、実習停止とする。

- 1) 学校感染症に罹患した場合
- 2) 問題行動を繰り返し行い、実習指導者の業務に妨げとなると判断した場合

19. 臨床実習・臨地実習報告会について

- 1) 学生は実習終了後、必ず臨床実習・臨地実習報告会に出席すること。臨床実習・臨地実習の日程は別に連絡する。
- 2) 臨床実習・臨地実習報告会では、実習で学んだことについて、実習レポートを資料として活用し各個人が発表を行う。発表後は他の学生又は参加者より質疑を受ける。
- 3) 臨床実習・臨地実習報告会終了後は、発表、質疑応答、教員の指導に基づいて各自で実習レポートを修正し、実習担当教員へ提出する。

20. 臨床実習・臨地実習終了時に大学に提出する書類について

- 1) 実習指導者からご提出いただく書類
「臨床実習・臨地実習評価表」「出席表」「欠席・遅刻・早退届」「事故発生報告書」
- 2) 学生が提出する書類
「臨床実習・臨地実習記録簿」「その他の課題レポート」

Ⅱ. 実習指導者へのお願い

1. 学生について

ご指導頂く学生の氏名・年齢・出身地に関しましては事前にご連絡しますので、実習指導の参考にされて下さい。なお、諸問題の発生をさけるため、住所、携帯電話番号につきましてはお伝えしませんので、不都合がある場合は随時本学にお問い合わせ下さい。

学生の多くは青年期の人間形成上、まだ未成熟で過渡期にある多感なものでありますので、私的な時間に個人的に行うという指導方法等は混乱を生じる場合があります。社会的に節度を持った医療人の範として、学生の態度・姿勢につきましても厳しくご指導下さい。

また、医療従事者として節度を持った人材として育成して頂きますようお願い申し上げます。

2. 臨床実習・臨地実習前の評価について

臨床実習・臨地実習前には実技試験を含む評価を実施しております。各学年に対応した評価を実施しておりますが、臨床実習・臨地実習においても技能・態度等をご指導下さい。

3. 実習の目標と到達目標

各臨床実習における到達目標をご覧頂き、これらの目標が円滑に達成できますようにご指導下さい。

4. 個人情報保護に関する誓約書について

基本的に学生紹介表と共にお渡しまたは送付いたしますが、実習当日に学生が提出する場合もございます。貴施設にて所定の書類がある場合は再提出をご指示して下さい。

5. 実習時間等について

- 1) 実習時間につきましては 40 時間／週を基本とさせていただきます。祝日により 40 時間／週に満たない場合は、振替日を設けて頂き、調整をお願いいたします。ただし、実習の進捗状況ならびに実習地の特性上問題が生じた場合は、本学にご連絡頂きますようお願いいたします。
- 2) 遅刻・早退は、欠席 0.5 回として集計しています。実習単位修得には、実習日数の 5 分の 4 以上の出席が必要です。
- 3) 実習期間中の有効な時間の使い方につきましてもご指導下さい。
- 4) 基本的な疾患を中心に、評価・基本的治療の実習ができますようご配慮下さい。
- 5) 実習時間を超える勉強会・研修会等への参加は、学生の自由意志を前提にお声かけ下さい。
- 6) 臨床実習・臨地実習の期間において、就職試験等が入る学生がおりますので、そのような場合はご配慮願います。

6. 実習課題

実習中の日々の記録として実習記録簿の作成を課しております。翌日に実習担当者に提出をするようにしていますので内容についてご指導いただけますと幸いです。

7. 臨床実習・臨地実習評価について

別紙(冊子)の臨床実習・臨地実習評価表を用い、学生に対する評価を行って下さい。実習評価の結果については、実習終了時に出来る限り学生にフィードバックして頂ければ幸いです。臨床実習・臨地実習評価表は本学宛にご返送下さい。

8. 事故防止について

- 1) 患者様に対するリスク管理・事故の防止は十分指導しておりますが、再度学生にご指導下さい。
- 2) 万が一事故が発生した場合、本学にご連絡頂きますと共に、事故報告書の作成を学生にご指示下さい。
- 3) 学生につきましては賠償責任保険に加入しております。学生が関わった実習において機器・器具等が破損した場合は、保険にて補償いたします。詳細は賠償責任保険の冊子をご参照下さい。

9. 土曜日・日曜日・祝日の取り扱いについて

臨床実習時間数を40時間/週とさせて頂くため、土曜日・日曜日・祝日の実習も実習時間として認識しております。ただし、各実習施設の事業体制上困難な場合は、本学までご連絡頂き、実習期間内もしくは実習期間外に調整をお願いします。

10. 実習地訪問について

実習期間中に本学の実習担当教員が訪問させて頂きますので、ご多忙中とは存じますがご配慮願います。

11. 臨床実習の中止について

学生に著しい問題行動があり、その後の実習の継続が困難と判断される場合、実習の中止もやむを得ないと考えておりますが、以下のような行為があった場合は早急に本学にご連絡下さい。

- 1) 無断で遅刻や欠席をした場合（やむを得ない場合は除く）
- 2) 実習施設の規則や実習指導者の指示に従わなかった場合
- 3) 実習態度・内容が著しく劣り、それ以後の実習継続が困難な場合

12. 気象条件の悪化・公共機関のストライキ等による実習対応

- 1) 実習地域の県全域に「警報」又は「特別警報」が発令された場合は、休講とする。
- 2) 警報の解除及び公共交通機関の運転再開が行われた場合、次のとおりとする。

警報解除及び開通時刻	実習開始時間
6時00分まで	平常どおり実施
11時00分まで	13時から実施
11時00分を過ぎた場合	休講

- 3) その他、異常気象状況下における対応につきましては、各実習施設の指導者の判断にお任せします。

13. 実習中のハラスメントについて

1) 学生がハラスメントの加害者となった場合の対応

学生より患者様がハラスメントを受けた場合は、実習指導者から本学へ迅速に連絡して頂けるようお願いいたします。実習施設と本学との協議の上で早急に対応したいと思います。実習施設内にハラスメントの規定がある場合には、その規定に準じます。

2) 実習指導者がハラスメントの被害者となった場合の対応

学生より実習指導者がハラスメントを受けた場合は、上記同様、実習指導者から本学へ迅速に連絡して頂けるようお願いいたします。実習施設と本学との協議の上で早急に対応したいと思います。

14. 抗体検査について

本学では、日本環境感染学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン」を基に、学生全員に抗体検査を実施しております。抗体検査の項目は、①肝炎(HBs抗体)、②麻疹、③風疹、④水痘・帯状ヘルペス、⑤ムンプス(おたふく)です。陰性の場合にはワクチン接種を指導しております。なお、HBs抗体に関しては、4月に抗体検査を実施し、結果後1回目～3回目までワクチン接種を義務付けています。実習開始前には「抗体価検査などの結果報告書」を提出させていただきます。本学で実施している以外の抗体検査が必要な場合は、実習開始前までにご連絡頂きますようお願いいたします。

個人情報保護に関するマニュアル

1. 臨床実習・臨地実習に係わる個人情報の保護について

実習を行うにあたって、患者のプライバシーの保護に十分配慮、守秘義務を厳守し、下記のこと十分に留意すること。

- イ. 本学にて事前に臨床実習・臨地実習に関する「個人情報保護に関する誓約書」に同意・署名捺印のもと、実習を行うこととする。
- ロ. 担当ケースに関する必要なカルテ情報や診療情報(コンピューターシステム内の情報等)は、必ず実習指導者の許可を得た後に閲覧・参照すること。
- ハ. 担当ケース以外の患者情報においては、カルテ情報や診療情報(コンピューターシステム内の情報等)を閲覧、参照してはならない。

二. 日誌、レポート、メモ等の取り扱いについて

個人に関する情報で、特定の個人を識別することができるもの(氏名、生年月日、住所、及び他の情報と容易に照合することができ、それにより個人を特定できるもの)は記載しないこと(例:患者の氏名はA、B、・・・などと記入する)。また、メモ・日誌・レポートの紛失や盗難に注意し、個人情報記載されたレポート類については、実習施設内でのみコピーすることとし、実習施設外でのコピーは行わないこと。

※下記の事例は、個人情報の保護違反にあたる。

- ・実習指導者からの患者の問題点に関する質問に対して、自分では解決できなかったためメールやSNSで友人に相談し情報を得た。
- ・臨床画像の異常所見について分からなかつたため、インターネット投稿サイト(Yahoo知恵袋や2ちゃんねる等)に画像投稿し意見を求めた。
- ・病院の内部情報、患者や病院関係者の個人情報を臨床実習施設内外で友人に話した。
- ・患者情報をパソコンやUSBメモリに記録し病院外に持ち出した。
- ・臨床実習・臨地実習での取り組みや感想をブログに掲載した。

2. 学生自身の個人情報について

安易に自分の情報を(携帯電話の番号や住所等)残さないこと。
学生証や免許証、携帯電話等の紛失には十分注意すること。

3. 施設と個人とで同意書を交わす場合

実習開始時に、個人情報保護に関する同意書に署名を求め実習施設がある。オリエンテーションを受け、同意書の内容をよく理解し署名すること。また同意書を交わした場合には必ず実習担当教員へ連絡をすること。必ず同意書のコピーを所持しておくこと。

個人情報保護に関する誓約書

病院(施設)長 様

私は、貴施設において臨床実習を行うにあたり、患者及び職員などに関する個人情報や貴施設内で知り得た情報を、臨床実習中はもとより臨床実習終了後においても第三者に漏えいすることがないよう、これらの情報の保護義務を遵守いたします。

令和 年 月 日

日本文理大学 保健医療学部 保健医療学科
()コース

学 年 年

氏 名 印

事故報告書

報告者

発生(発見)日時	令和 年 月 日() 午前・午後 時 分頃
実習施設名	施設名: 住 所: 電話番号:
対象学生氏名	学籍番号: 学生氏名:
実習科目名・担当教員名	科 目 名: 担当教員:
事故の状況 (具体的に記入)	
対象者等への被害状況	
発生時の対応と経過	1) 事故後の連絡(いつ、誰に連絡したか。報告が遅れた場合はその理由) 2) 対象者・家族等への対応とその反応
事故防止の対策等	※事故を通しての学びと再発予防に向けた課題

受 理 : 令和 年 月 日 () 時 分

実習指導者 署名 :

臨床実習・臨地実習担当教員別時間割(案)診療放射線学コース(後期)

担当教員:村中 博幸

	1	2	3	4	5
月				診療画像機器学2	/医療安全論
火					/チーム協働と課題解決
水			診療画像技術学実習1	卒業研究	
木	/医療安全論	放射線撮影学1		放射線医学演習/	/チーム協働と課題解決
金	実習巡回				

担当教員:甲斐 倫明

	1	2	3	4	5
月					/公衆衛生学
火		/医療統計学2			
水	自然科学入門		/医療統計学2	卒業研究	
木			放射線基礎科学		
金	実習巡回				

担当教員:野口 敦司

	1	2	3	4	5
月			社会参画実習/		
火	実習巡回				
水	放射線医薬品学	核医学検査技術演習	診療画像技術学実習1	卒業研究	
木		核医学検査技術学1	放射線基礎科学	放射線医学演習/	
金	実習巡回				

担当教員:東 敏也

	1	2	3	4	5
月	臨床画像解剖学		社会参画実習/		
火	診療画像検査学1		理工学実験	理工学実験	
水			診療画像技術学実習1	卒業研究	
木				放射線医学演習/	
金	実習巡回				

担当教員:青山 良介

	1	2	3	4	5
月		デジタル医療の基礎/	社会参画実習/		
火		放射線治療技術演習	理工学実験	理工学実験	
水			診療画像技術学実習1	卒業研究	
木	実習巡回				
金		臨床検査論3/	医用工学		

担当教員:伊藤 茂樹

	1	2	3	4	5
月					
火	実習巡回				
水	放射線医薬品学	核医学検査技術演習		卒業研究	
木		核医学検査技術学1			
金	実習巡回				

担当教員:亀井 修

	1	2	3	4	5
月	実習巡回				
火		放射線治療技術演習			/チーム協働と課題解決
水				卒業研究	
木			放射線治療技術学1		/チーム協働と課題解決
金	実習巡回				

担当教員:東 敏也

	1	2	3	4	5
月	臨床画像解剖学		社会参画実習/		
火	診療画像検査学1		理工学実験	理工学実験	
水			診療画像技術学実習1	卒業研究	
木				放射線医学演習/	
金	実習巡回				

担当教員:衛藤 路弘

	1	2	3	4	5
月	臨床画像解剖学	デジタル医療の基礎/	社会参画実習/		
火	診療画像検査学1				/チーム協働と課題解決
水			診療画像技術学実習1	卒業研究	
木		放射線撮影学1	画像検査学	放射線医学演習/	/チーム協働と課題解決
金	実習巡回				

担当教員:原田 義富

	1	2	3	4	5
月			社会参画実習/		
火		放射線治療技術演習	理工学実験	理工学実験	
水		核医学検査技術演習	診療画像技術学実習1	卒業研究	
木	実習巡回				
金			医療画像情報学1		

担当教員:野村 達八

	1	2	3	4	5
月			社会参画実習 /	診療画像機器 学2	/医療安全論
火			理工学実験	理工学実験	
水		核医学検査技 術演習			
木	/医療安全論			放射線医科学 演習/	
金	実習巡回				

臨床実習・臨地実習担当教員別時間割(案)臨床検査学コース(後期)

担当教員: 中野 忠男

	1	2	3	4	5
月					
火					
水	卒業研究	微生物学/			
木	実習巡回				
金	微生物検査学 2				

担当教員: 松井 智浩

	1	2	3	4	5
月	輸血・移植検査学		社会参画実習		
火	臨床検査医学				
水	卒業研究				
木	実習巡回				
金	臨床検査論2	/免疫検査学			

担当教員: 政元 いづみ

	1	2	3	4	5
月					
火	臨床検査医学		血液検査学実習	血液検査学実習	/チーム協働と課題解決
水	卒業研究				
木					/チーム協働と課題解決
金	実習巡回				

担当教員: 内山田 健次

	1	2	3	4	5
月			社会参画実習		
火			血液検査学実習	血液検査学実習	
水			一般検査学演習		
木	実習巡回				
金			生体分析検査化学実習	生体分析検査化学実習	

担当教員: 長濱 純二

	1	2	3	4	5
月					
火	臨床検査医学	/病理学1			
水	卒業研究				
木	実習巡回				
金		細胞診検査学/			

担当教員: 日下 雅友

	1	2	3	4	5
月			社会参画実習		
火					
水	卒業研究	遺伝子・染色体検査学/			
木	実習巡回				
金	臨床検査論2	臨床検査論3/	生体分析検査化学実習	生体分析検査化学実習	

担当教員: 山岡 源治

	1	2	3	4	5
月					
火			血液検査学実習	血液検査学実習	
水	卒業研究				
木					
金	実習巡回				

担当教員: 佐野 成雄

	1	2	3	4	5
月	実習巡回				
火	臨床検査医学				
水			診療画像技術学実習1		
木			画像検査学		
金	臨床検査論2	臨床生理検査学1/臨床生理検査学2			

臨床実習・臨地実習担当教員別時間割(案)臨床医工学コース(前期)

担当教員:伊藤 英史

	1	2	3	4	5
月	実習巡回				
火		臨床医学英語 /	医用工学概論 /	臨床支援技術 学	/卒業研究①
水	人工呼吸療法 学	/人工臓器学	/人工臓器学		/
木		循環制御治療 学	循環制御治療 学実習		
金					/卒業研究②

担当教員:小野寺 博和

	1	2	3	4	5
月			医用機械工学		
火			医用材料工学		/卒業研究①
水					/
木	実習巡回				
金		血液浄化療法 学	血液浄化療法 学実習		/卒業研究②

担当教員:砂子澤 裕

	1	2	3	4	5
月			社会参画入門		
火		医用機器学概 論			/卒業研究①
水	人工呼吸療法 学	医用治療機器 学	人工呼吸療法 学実習		/
木	実習巡回				
金	関係法規(医 工学)/	血液浄化療法 学	血液浄化療法 学実習		/卒業研究②

担当教員:姫野 栄一

	1	2	3	4	5
月			社会参画入門		
火	子一ム医療概 論/				
水	人工呼吸療法 学		人工呼吸療法 学実習		/
木	実習巡回				
金	/関係法規(医 工学)		血液浄化療法 学実習		

臨床実習・臨地実習 評価表

日本文理大学 保健医療学部 保健医療学科

()コース

学籍番号

氏 名

(施設名)						
(期間)	令和 年 月 日 ~ 月 日					
(指導責任者)						
該当欄に○印を記入して下さい	評価項目	4段階評価				備考
		4	3	2	1	
	基礎技術					
	理解度					
	管理能力					
	責任感					
	報告能力					
	積極性					
	忍耐力					
	実習態度					
患者接遇						

- ※ 評価基準は、別紙(臨床実習・臨地実習 評価基準)をご覧ください。
- ※ 4段階評価の「1」へ記入された場合は、備考欄にコメントをお願いします。(「1」はその項目の到達度が「不可」ということになります)
- ※ 用紙不足の場合は、本用紙をコピーしたものをご活用ください。
- ※ この用紙は実習終了後、提出をお願い致します。

(臨床実習・臨地実習 評価基準)

評価を記入していただく際に参考となる資料です。「4」は「優またはA」、「3」は「良またはB」、「2」は「可またはC」、「1」は「不可またはD」と同じ扱いとなります、

項目	評価	内容
基礎技術	4	理論や装置・器具の取り扱いを理解し、操作も学生としては十分である。
	2 or 3	装置・器具の取り扱いの理解は不十分だが、指示されたとおりに行い努力する。
	1	装置・器具の取り扱いを教えられても、操作することができない。
理解力	4	指示内容を理解し、行動につなげることができる。
	2 or 3	内容によっては、理解の遅いときがあるが、おおそ問題ない程度である。
	1	何度も繰り返して説明しないと、理解が遅く、また自分勝手な理解が多い。
管理能力	4	必要な教材(教科書・ノートなど)の事前準備が実習項目ごとに整理されており、必要なときにすぐに活用できるよう管理されている。
	2 or 3	必要な教材は用意しているが、十分な管理がされておらずすぐに活用できない。
	1	必要な教材が全く準備されていないか不十分。
責任感	4	指示されたことに対し、最後まで責任をもってやりとげることができる。
	2 or 3	指示を守り、周りのサポートを得ながら問題に取り組むことができる。
	1	責任をもって仕事に従事できない。失敗の責任を他に転嫁することがある。
報告能力	4	自ら進んでこまめに報告し、極めてわかりやすく、問題点を明らかにする。
	2 or 3	報告はあるものの、報告時期の遅延や報告内容が十分でない場合がある。
	1	報告も遅く内容も不十分で、聞かれて報告する程度である。
積極性	4	実習に興味をもち、活動的、献身的であり、人の嫌がることでも進んで行う。
	2 or 3	自分で考えを工夫するが、時には指示されてから動くことがある。
	1	指示されてからしぶしぶ行い、自発的な態度がほとんど見られない。
忍耐力	4	実習内容の変化等に耐え、根気よく最後までやり通すことができる。
	2 or 3	困難に直面すると避けようとするか、周囲の援助があれば最後まで耐える。
	1	実習に飽きっぽく、初めての内容や困難なことに我慢することができない。
実習態度	4	指導者や患者に対する応答の仕方、身だしなみはきわめて十分である。
	2 or 3	学ぶ意欲が態度に現れており、不十分な場合も注意すれば改善する。
	1	言葉使い、身だしなみが好ましくなく、注意しても改善しない。
患者接遇	4	常に明るく礼儀正しく接し、状態を注意深く観察して行動することができる。
	2 or 3	不快感を与えることなく接遇することができる。指導をすれば素直に努力する。
	1	言葉使いが乱暴なことや、態度によって患者様を不安にさせることが多い。

様式第2号(その2)

教育課程と指定規則との対比表

(診療放射線技師学校) (日本文理大学 保健医療学部保健医療学科診療放射線学コース)

指定規則の教育内容					別表第一(診療放射線技師養成課程)														
					基礎分野		専門基礎分野			専門分野						計			
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	ち	並	保	診	核	放	医	放		医	実	臨
			必修	選択		1	2	14	13	18	18	6	7	6	4	2	2	2	12
教養教育科目	力学リテラシー	1前		2	15	②	②												
	生物リテラシー	1前		2	15	②	②												
	化学リテラシー	1後		2	15	②	②												
	情報リテラシー1	1前	2		15	②	②												
	情報リテラシー2	1後		2	15	②	②												
	自然科学入門	1後		2	15	②	②												
	社会科学入門	1後		2	15	②	②												
	社会参画入門	1前	2		15	②	②												
	社会参画実習	1後	1		30	①	①												
	人間力概論	1前	2		15	②	②												
	産学一致の勧め	2前	2		15	②	②												
	英語1	1前	2		15	②	②												
	英語2	1後		2	15	②	②												
	英語3	2前		2	15	②	②												
	第二外国語(韓国語)	2前		2	15	②	②												
	第二外国語(中国語)	2前		2	15	②	②												
	コミュニケーション演習	1後		2	15	②	②												
	文章表現	1後		2	15	②	②												
	データサイエンス入門	1前	1		15	①	①												
	データサイエンス・AI基礎	2前		2	15	②	②												
	データ分析と社会課題解決	2後		2	15	②	②												
	大分学・大分業	1前	2		15	②	②												
健康の科学	1前		2	15	②	②													
スポーツサイエンス	1後		2	15	②	②													
人文科学への誘い	2前		2	15	②	②													
ジェネリックスキル養成1	1前休		1	30	①	①													
ジェネリックスキル養成2	1後休		1	30	①	①													
小計(卒業要件)					22	22	0			0								22	
専門教育科目	解剖学	1前	2		15			②											
	生理学	1前	2		15			②											
	生化学	1後	1		15			①											
	病理学1	1後	1		15			①											
	病理学2	2前		1	15			①											
	微生物学	1後		1	15			①											
	分子生物学	2前		1	15			①											
	免疫学	2前		1	15			①											
	医学概論	1前	1		15			①											
	薬理学	1後	1		15			①											
	公衆衛生学	2後	1		15			①											
	チーム医療概論	3前	1		15			①											
	保健医療福祉論	3後		1	15			①											
	医療安全論	3後	1		30											①			
医療統計学1	3前	1		15				①											
医療統計学2	3後		1	15				①											
小計(卒業要件)					12	0	11			1								12	

指定規則の教育内容						別表第一（診療放射線技師養成課程）												
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野						計	
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基礎	人間と生活	ち	保	診	核	放	医	放	医		実
			必修	選択			14	13	18	18	6	7	6	4	2	2	12	102
診療放射線学 専門教育科目	臨床画像解剖学	2後	2		15			②										
	基礎医学大要	4前	2		15			②										
	放射線基礎科学	1後	2		15				②									
	放射線基礎工学	1前	2		15				②									
	医用工学	1後	2		15				②									
	放射線物理学	2前	2		15				②									
	放射化学	2前	2		15				②									
	放射線生物学・疫学	2前	2		15				②									
	放射線計測学	2前	2		15				②									
	理工学実験	2後	2		30				②									
	医療倫理学	3前	1		15				①									
	放射線撮影学1	1後	2		15					②								
	放射線撮影学2	2前	2		15					②								
	臨床画像学	3前	2		15					②								
	診療画像機器学1	2前	2		15					②								
	診療画像機器学2	2後	2		15					②								
	診療画像機器学実験	4前	2		30					②								
	診療画像検査学1	2後	2		15					②								
	診療画像検査学2	3前	2		15					②								
	診療画像技術学実習1	2後	1		60					①								
	診療画像技術学実習2	3前	1		60					①								
	放射線医薬品学	2後	2		15						②							
	核医学検査技術学1	2後	2		15						②							
	核医学検査技術学2	3前	2		15						②							
	放射線腫瘍学	2後	1		15							①						
	放射線治療技術学1	2後	2		15							②						
	放射線治療技術学2	3前	2		15							②						
	放射線治療機器学	2前	2		15							②						
	医療画像工学	2前	2		15								②					
	医療画像情報学1	2後	2		15									②				
	医療画像情報学2	3前	2		15									②				
	放射線関係法規	2前	2		15										②			
放射線安全管理学	3前	2		15										②				
医療安全管理学	4前	1		30											①			
実践臨床画像論	3前	2		15												②		
臨床実習（診療参加型）	3後	12		45													⑫	
小計（卒業要件）						77	0	21	18	6	7	6	4	1	2	12	77	
コース共通	デジタル医療の基礎	1後	1		15	必修8単位	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	チーム協働と課題解決	3後	1		15													
	保健医療と経営	4前	1		15													
	保健医療と工学	4前	1		15													
	卒業研究	4通	4		15													
小計（卒業要件）						8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
診療放射線学	放射線医科学演習	4通	1		15	必修5単位	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	放射線治療技術演習	4通	2		15													
	核医学検査技術演習	4通	2		15													
小計（卒業要件）						5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
卒業要件単位数（最低単位数）						124	22	32	57	13	13	13	13	13	13	13	13	124
指定規則に対する増単位数							8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22

様式第2号(その2)

教育課程と指定規則との対比表

(臨床検査技師学校) (日本文理大学 保健医療学部保健医療学科臨床検査学コース)

別表第一(臨床検査技師養成課程)

指定規則の教育内容					別表第一(臨床検査技師養成課程)													計										
					基礎分野		専門基礎分野				専門分野																	
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	臨床検査の基礎とその疾病との関	保健医療福祉と臨床検査	医療工学及び医療情報	病態学	血液学的検査	病理学的検査	尿・糞便等一般検査	生化学的検査・免疫学的検査	遺伝子関連・染色体検査	輸血・移植検査	微生物学的検査	生理学的検査	臨床検査総合管理	医療安全管理	臨地実習					
			必修	選択		1単位当たりの時間数	14	8	5	4	4	7	4	5	3	6	2	4	6	10	6	2	12	102				
教養教育科目	力学リテラシー	1前	2	15	必修14単位 選択8単位 計22単位	②	②																					
	生物リテラシー	1前	2	15		②	②																					
	化学リテラシー	1後	2	15		②	②																					
	情報リテラシー1	1前	2	15		②	②																					
	情報リテラシー2	1後	2	15		②	②																					
	自然科学入門	1後	2	15		②	②																					
	社会科学入門	1後	2	15		②	②																					
	社会参画入門	1前	2	15		②	②																					
	社会参画実習	1後	1	30		①	①																					
	人間力概論	1前	2	15		②	②																					
	産学一致の励め	2前	2	15		②	②																					
	英語1	1前	2	15		②	②																					
	英語2	1後	2	15		②	②																					
	英語3	2前	2	15		②	②																					
	第二外国語(韓国語)	2前	2	15		②	②																					
	第二外国語(中国語)	2前	2	15		②	②																					
	コミュニケーション演習	1後	2	15		②	②																					
	文章表現	1後	2	15		②	②																					
	データサイエンス入門	1前	1	15		①	①																					
	データサイエンス・AI基礎	2前	2	15		②	②																					
	データ分析と社会課題解決	2後	2	15		②	②																					
	大分学・大分業	1前	2	15		②	②																					
	健康の科学	1前	2	15		②	②																					
	スポーツサイエンス	1後	2	15		②	②																					
人文科学への誘い	2前	2	15	②	②																							
ジェネリックススキル養成1	1前休	1	30	①	①																							
ジェネリックススキル養成2	1後休	1	30	①	①																							
小計(卒業要件)					22	22	0																		22			
専門教育科目	コース共通	解剖学	1前	2	15	必修18単位			②																			
		生理学	1前	2	15				②																			
		生化学	1後	1	15				①																			
		病理学1	1後	1	15					①																		
		病理学2	2前	1	15					①																		
		微生物学	1後	1	15					①																		
		分子生物学	2前	1	15					①																		
		免疫学	2前	1	15					①																		
		医学概論	1前	1	15					①																		
		薬理学	1後	1	15					①																		
		公衆衛生学	2後	1	15						①																	
		チーム医療概論	3前	1	15							①																
		保健医療福祉論	3後	1	15							①																
		医療安全論	3後	1	15																							
医療統計学1	3前	1	15																			①						
医療統計学2	3後	1	15																			①						
小計(卒業要件)					18	0	7	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	18		

指定規則の教育内容					別表第一（臨床検査技師養成課程）														計					
					基礎分野		専門基礎分野				専門分野													
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	連臨検査の基礎とその疾病との関	保健医療福祉と臨床検査	医療工学及び医療情報	病理学	血液学的検査	病理学的検査	尿・糞便等一般検査	生化学的検査・免疫学的検査	遺伝子関連・染色体検査	輸血・移植検査	微生物学的検査	生理学的検査	臨床検査総合管理	医療安全管理	臨床実習	
			必修	選択		1単位当たりの時間数	14	8	5	4	4	7	4	5	3	6	2	4	6	10	6	2	12	102
臨床検査学 専門教育科目	栄養学	2後	1	15	必修71単位			①																
	公衆衛生学演習	3前	1	15						①														
	関係法規(臨床検査)	4前	1	15						①														
	医療工学概論	2前	2	15							②													
	検査機器総論	2前	1	15							①													
	情報科学概論	3前	1	15								①												
	臨床病理学1	2前	1	15									①											
	臨床病理学2	2後	2	15										②										
	臨床検査医学	2後	2	15											②									
	臨床検査学演習	2前	2	15											②									
	血液検査学	2前	2	15											②									
	血液検査学実習	2後	2	30											②									
	病理組織検査学	2前	2	15												②								
	細胞診検査学	2後	1	15												①								
	病理組織細胞検査学実習	3前	2	30												②								
	一般検査学演習	2後	2	15													②							
	寄生虫検査学実習	3前	1	30													①							
	生体分析検査化学	2前	1	15														①						
	生体分析検査化学実習	2後	2	30														②						
	免疫検査学	2後	1	15														①						
	免疫検査学実習	3前	2	30														②						
	遺伝子・染色体検査学	2後	1	15															①					
	遺伝子・染色体検査学実習	3前	1	30															①					
	輸血・移植検査学	2後	2	15																②				
	輸血・移植検査学実習	3前	2	30																②				
	微生物検査学1	2前	2	15																	②			
	微生物検査学2	2後	2	15																	②			
	微生物検査学実習	3前	2	30																	②			
	臨床生理検査学1	1後	1	15																		①		
	臨床生理検査学2	1後	1	15																		①		
	臨床生理検査学実習	2前	2	30																		②		
	画像検査学	2後	2	15																		②		
	画像検査学実習	3前	2	30																		②		
画像・AI解析検査学	4前	2	15																	②				
臨床検査総合演習	3前	2	15																		②			
検査総合管理学	4前	2	15																		②			
医療安全管理学実習	4前	1	30																			①		
臨床実習前総合実習	3後	1	30																			①		
臨床実習	3後	11	30																			①		
小計（卒業要件）					71	0	1	0	2	4	7	4	5	3	6	2	4	6	10	4	1	12	71	
コース共通	デジタル医療の基礎	1後	1	15	必修8単位																			
	チーム協働と課題解決	3後	1	15																				
	保健医療と経営	4前	1	15																				
	保健医療と工学	4前	1	15																				
	卒業研究	4通	4	15																				
小計（卒業要件）					8	0		0							0								8	
臨床検査学	臨床検査論1	4前	2	15	必修5単位																			
	臨床検査論2	4後	2	15																				
	臨床検査論3	4後	1	15																				
小計（卒業要件）					5	0		0							0								5	
卒業要件単位数（最低単位数）					124	22		21								68							124	
指定規則に対する増単位数						8		0							1								22	
						13（指定規則との対比関係を表記できない科目）																		
						13（指定規則との対比関係を表記できない科目）																		

臨床工学技士国家試験受験資格の関連科目

区分	科目名	開講時期	単位数	
専門基礎分野	人体の構造及び機能	解剖学	1前	2
		生理学	1前	2
		生化学	1後	1
		基礎医学実習	2前	1
	臨床工学に必要な医学的基礎	医学概論	1前	1
		病理学1	1後	1
		薬理学	1後	1
		分子生物学	2前	1
		免疫学	2前	1
		公衆衛生学	2後	1
		チーム医療概論	3前	1
		保健医療福祉論	3後	1
		関係法規(医工学)	4前	1
	臨床工学に必要な理工学的基礎	応用数学	2前	2
		医用電気工学総論	2後	2
		医用電気工学各論	3前	2
		医用電気工学実習	3後	1
		医用電子工学総論	2後	2
		医用電子工学各論	3前	2
		医用電子工学実習	3後	1
		医用機械工学	3前	2
		医用計測工学	3後	2
	臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	医療情報処理工学	2後	2
		医用システム工学	3前	2
		システム・情報処理実習	3後	1
		データサイエンス概論	3後	2
専門分野	医用生体工学	医用工学概論	2前	1
		生体物性工学	2後	2
		医用材料工学	3前	2
		生体計測工学	3後	2
	医用機器学及び臨床支援技術	医用機器学概論	2前	2
		医用機器学実習	2後	1
		医用治療機器学	2前	2
		生体計測装置学	2後	2
		臨床支援技術学	2前	2
		臨床支援技術学実習	2後	1
	生体機能代行技術学	循環制御治療学	3前	2
		人工呼吸療法学	3前	2
		血液浄化療法学	3前	2
		循環制御治療学実習	3通	2
		人工呼吸療法学実習	3通	2
		血液浄化療法学実習	3通	2
	医療安全管理学	医療機器安全管理学	2後	2
		医用治療機器学実習	2後	1
		生体計測装置学実習	2後	1
		医療システムマネジメント論	3後	2
	関連臨床医学	生命科学概論	2後	1
		臨床医学英語	3前	1
		救急・麻酔・集中治療医学	3後	1
		臨床医学総論(内科系)	3前	2
		臨床医学総論(外科系)	3後	2
	臨床実習		4前	7
単位数計			87	

※本学部の教育課程を修了し、卒業要件を満たせば、所要の手続を行うことによって臨床工学技士(国家資格)の受験資格を取得することができる。これに関係する科目は上表のとおりであるが、すべて必修科目である。

各コース専任教員名簿

[診療放射線学コース]

職位	氏名	年齢	資格
教授	村中 博幸	61	診療放射線技師免許（登録番号：第22782号）
教授	相川 久幸	69	医師免許（登録番号：第246449号）
教授	伊藤 茂樹	64	診療放射線技師免許（登録番号：第20204号）
教授	岩崎 香子	52	なし
教授	甲斐 倫明	67	なし
教授	亀井 修	68	診療放射線技師免許（登録番号：第16537号）
教授	野口 敦司	62	診療放射線技師免許（登録番号：第21539号）
准教授	東 敏也	63	診療放射線技師免許（登録番号：第25059号）
講師	青山 良介	51	診療放射線技師免許（登録番号：第67486号）
講師	衛藤 路弘	49	診療放射線技師免許（登録番号：第42471号）
講師	原田 義富	49	診療放射線技師免許（登録番号：第41968号）
助教	野村 達八	37	診療放射線技師免許（登録番号：第80664号）

[臨床検査学コース]

職位	氏名	年齢	資格
教授	中野 忠男	68	臨床検査技師免許（登録番号：第60171号）
教授	長濱 純二	64	臨床検査技師免許（登録番号：第68151号）
教授	松井 智浩	51	臨床検査技師免許（登録番号：第120747号）
准教授	日下 雅友	49	臨床検査技師免許（登録番号：第134589号）
准教授	熊谷 貴	48	なし
准教授	政元 いずみ	59	臨床検査技師免許（登録番号：第86244号）
准教授	山岡 源治	66	臨床検査技師免許（登録番号：第84168号）
助教	内山田 健次	38	臨床検査技師免許（登録番号：第156213号）
助教	佐野 成雄	62	臨床検査技師免許（登録番号：第76084号）

[臨床医工学コース]

職位	氏名	年齢	資格
教授	伊藤 英史	51	臨床工学技士免許（登録番号：第10456号）
教授	松尾 孝美	65	なし
准教授	砂子澤 裕	48	臨床工学技士免許（登録番号：第12784号） 臨床検査技師免許（登録番号：第137775号）
准教授	小野寺 博和	58	なし
准教授	宮崎 仁	41	なし
講師	姫野 栄一	51	臨床工学技士免許（登録番号：第12362号）

学校法人文理学園教員就業規則

昭和45年7月1日
制定

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、学校法人文理学園が設置する学校に勤務する教員の就業に関する基本的事項について定めることを目的とする。

(教員)

第2条 この規則において教員とは以下のものをさす。

- (1) 大学に勤務する専任教員
- (2) 附属高等学校に勤務する専任教員
- (3) 専修学校に勤務する専任教員

第3条 この規則において所属長及び上長とは次のとおりである。

- (1) 大学において所属長とは学長を、上長とは所属学部の学部長をいう。
- (2) 附属高等学校において所属長とは校長を、上長とは教頭をいう。
- (3) 専修学校において所属長とは校長を、上長とは所属学科の学科長をいう。

第2章 採用

(提出書類)

第4条 採用された者は、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 履歴書（写真貼付のこと）
 - (2) 住民票記載事項の証明
 - (3) 医師の診断書
 - (4) 最終学校の卒業証明書
 - (5) 最終学校の成績証明書
 - (6) 身元保証書
 - (7) 誓約書
 - (8) 個人番号カード、通知カード、住民票いずれかの写し
 - (9) その他採用及び人事管理上必要な書類
- 2 大学に採用された者は前項の書類のほか、最終学校の学位記の写し及び所有する免許や資格を証明するものの写しを提出しなければならない。
- 3 附属高等学校に採用された者は第1項の書類のほか、教育職員免許状写（原本を提出して確認を受けること）を提出しなければならない。
- 4 専修学校に採用された者は第1項の書類のほか、所有する免許や資格を証明するものの写しを提出しなければならない。
- 5 第1項第8号で取得する個人番号は、次の各号の目的のために利用する。
- (1) 給与所得・退職所得に係る源泉徴収票作成業務
 - (2) 私学共済の短期給付、厚生年金、国民年金第3号被保険者関係の届出業務
 - (3) 雇用保険関係届出業務
 - (4) 労災保険関係届出業務
 - (5) その他前4号の事務に関連する事務
- 6 第1項第8号の提出にあたって、身元確認のために写真付身分証明書の提示又は写しを求めることがある。

第5条 教員は氏名、本籍、住所及び家族状況その他必要な事項に変更があったときは、1週間以内に所属長を経て、主管部門に届け出なければならない。

(試用期間)

第6条 教員の試用期間は6ヶ月とする。

- 2 前項の試用期間を経て引続き採用されるに至ったときは、試用の期間開始日にさかのぼって採用されたものとする。
- 3 試用期間中に学園が教員として不相当と認めた場合は採用しない。

第3章 勤務

(勤務時間及び休憩時間)

第7条 教員の勤務時間は、1週40時間を超えない範囲で次のように定める。

	始業時刻	終業時刻	休憩時間
日本文理大学	8時50分	17時50分	12時00分から 13時00分
日本文理大学附属高等学校	8時15分	16時55分	12時30分から 13時15分
日本文理大学医療専門学校	8時50分	17時50分	12時00分から 13時00分

- 2 教員のうち教育研究及び指導等のため、前項の規定によることが困難なものについては、法令等に定める範囲内において、所属長が個別に勤務時間の割り振り等を定めることができるものとする。
- 3 第1項及び第2項の勤務時間は、業務の都合により変更することがある。
- 4 教員は勤務時間中、組合活動及び所定の業務外の活動をしてはならない。
- 5 1週間の起算日は月曜日とする。

(勤務)

- 第8条 学校行事、入学試験その他業務遂行上必要な特定の日においては、勤務時間を変更し、勤務を命ずることがある。ただし、休日に出勤した場合は振替休日を取得させることとする。
- 2 教員が自己の業務の必要上、勤務時間外に自発的に勤務した時間については自宅研修とみなす。

(出張)

- 第9条 業務上出張をする教員は、出張伺を原則として10日前までに提出し、許可を受けなければならない。
- 2 出張する場合の労働時間の取扱いは、所定の労働時間を勤務したものとみなす。
 - 3 出張期間中における休日については、あらかじめ指示した場合を除き、休日を付与したものとみなす。

(出張報告)

第10条 出張より帰任した教員は、帰任後7日以内に出張報告書を提出しなければならない。

(責任時間)

第11条 教員の責任時間は、授業、研究、会議、委員会、入試に関する業務その他所属長が必要と認めた時間とする。

(公民権行使)

第12条 教員が勤務時間中に、選挙権その他公民としての権利を行使し、又は公の職務を執行するために必要な時間を請求した場合は、これを与える。ただし、権利の行使又は公の職務の執行に支障のない限り、請求された時間を変更させることがある。

(休日)

第13条 教員の休日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
 - (3) 年末年始(12月29日より1月3日まで)
 - (4) その他理事長の認める日
- 2 業務の都合により前項の休日を変更することがある。
 - 3 業務の都合上学校が必要と認める場合は、あらかじめ第1項の休日を他の日と振り替えることがある。

(休日勤務)

第14条 学校運営上必要ある場合は勤務時間を超え、又は休日に勤務を命ずることがある。

- 2 前項の場合には、休日を他の日にふりかえるものとする。

(年次有給休暇)

第15条 6ヶ月以上継続勤務し、全出勤日の8割以上を勤務した教員に対しては、6ヶ月を超えた日

から1年について、10日の年次有給休暇を与える。ただし、継続勤務期間が6ヶ月に満たない者については、採用に関連する提出書類の交付を受けるため官公署等へ行く場合及びやむを得ない事由がある場合は有給休暇を取得できるものとする。この取得した日数は、6ヶ月を超えて付与される日数より差し引く。

2 1年6ヶ月以上継続勤務した者には、次の表に従い年次有給休暇を与える。

継続勤務期間	付与日数
6ヶ月	10日
1年6ヶ月	11日
2年6ヶ月	12日
3年6ヶ月	14日
4年6ヶ月	16日
5年6ヶ月	18日
6年6ヶ月以上	20日

- 3 当該年度に行使しなかった年次有給休暇は、次年度に限り繰り越すことができる。
- 4 年次有給休暇は、教員が指定した時期に与える。ただし、業務に支障のある場合はその時期を変更させることがある。
- 5 前項の時期の指定は、事前に書面をもって上長に届け出なければならない。
- 6 年次有給休暇により休んだ期間については、通常の賃金を支払う。
- 7 第1項の年次有給休暇が与えられた教員に対しては、第4項の規定にかかわらず、与えられた日から1年以内に、当該教員の有する年次有給休暇日数のうち5日について、学園が当該教員の意見を聴取し、その意見を尊重した上で、あらかじめ時季を指定して取得させる。ただし、教員が第4項の規定による年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を5日から控除するものとする。

(時間単位の年次有給休暇)

第16条 労使協定に基づき、前条の年次有給休暇の日数のうち、1年について5日の範囲内で、次により時間単位の年次有給休暇（以下「時間単位年休」という。）を付与する。この5日には、前年の時間単位年休に係る繰り越し分を含める。

- 2 1日の年次有給休暇に相当する時間数は8時間とする。
- 3 時間単位年休は、1時間単位で付与する。
- 4 上記以外の事項については、前条の年次有給休暇と同様とする。

(母性健康管理のための休暇等)

第17条 妊娠中及び出産後1年以内の女性教員が母子保健法による健康診査等のために勤務時間内に通院する必要がある場合は、本人の請求により次の時間内通院を認める。

(1) 請求できる期間及び回数

- イ 妊娠23週まで 4週間に1回
- ロ 妊娠24週から35週まで 2週間に1回
- ハ 妊娠36週から出産まで 1週間に1回

ただし、医師等の指示がある場合は、その指示による回数を認める。

(2) 妊娠中の女性教員が業務を長時間継続することが身体に負担になる場合、本人の請求により所定の休憩以外に適宜休憩をとることを認める。

(3) 妊娠中の女性教員が、通勤時の混雑が母体の負担になる場合は、本人の請求により始業時間を30分繰下げ、終業時間を30分繰上げを認める。

ただし、本人の請求により合計1日1時間以内を限度として繰下げまたは繰上げ時間の調整を認める。

さらに、医師等による具体的な指導がある場合は、その指導事項が守られるよう、始業時刻及び終業時刻の変更を認める。

2 前項各号の措置中の賃金の取扱いは、有給とする。

(妊娠中又は出産後の症状等に関する措置)

第18条 妊娠中及び出産後1年以内の女性教員が、健康診査等を受け医師等からの指導を受けた場合は、本人の請求により、「母性健康管理指導事項連絡カード」に基づきその指導が守れるよう、勤務内容の軽減、勤務時間の短縮、休業等を認める。

2 前項の措置のうち、勤務時間の短縮及び休業の措置中の賃金の取扱いは、有給とする。

(産前産後の休暇)

第19条 6週間(多胎妊娠の場合は14週間)以内に出産予定の女性教員が請求した場合は、産前休暇を与える。

2 産後8週間を経過していない女性教員は就業させない。ただし、産後6週間を経過した女性教員が就業を請求する場合には、医師が認める業務に就かせることがある。

3 妊娠中の女性教員が請求した場合は、他の軽易な業務に転換させる。

4 妊娠中又は産後1年を経過しない女性教員が請求した場合は、第14条による時間外労働若しくは休日労働又は深夜労働を命ずることはない。

(生理休暇)

第20条 生理日の就業が著しく困難な女性教員が休暇を請求した場合には、その日について就業させない。

(育児時間)

第21条 生後1年未満の子を育てる女性教員が請求した場合は、休憩時間のほか、1日2回、各々30分の育児時間を与える。

(育児休業及び介護休業)

第22条 生後1年未満の子を育てる教員が申し出た場合は、その子が満1歳に達するまでを限度として育児休業を与える。ただし、別に定める要件を満たした場合、最長で満2歳に達するまで育児休業を与える。

2 要介護状態にある家族を有する教員が申し出た場合は、対象家族1人につき、通算93日間までの範囲内で3回を上限として介護休業を与える。

3 本条に定めるもののほか、育児休業、介護休業に関しては、別に定める学校法人文理学園育児休業及び介護休業規程による。

(特別休暇)

第23条 教員は次の場合、特別休暇を受けることができる。次の第1号から第5号までの特別休暇日数は歴日で計算し、その日数には所定休日を含まないものとする。

(1) 本人の結婚 結婚式当日または入籍日のいずれか早い日から6ヵ月以内に連続して7日以内

(2) 子女、兄弟姉妹の結婚 結婚式当日の1日

(3) 妻の出産 出産予定日を基準として前後1週間以内に連続して2日以内

(4) 忌引き

イ 父母、配偶者、子 連続して7日以内

ロ 祖父母、兄弟姉妹、孫、配偶者の父母 連続して3日以内

(5) 永年勤続者

イ 勤続25年 対象年度内に連続して4日

ロ 勤続35年 対象年度内に連続して5日

(6) その他所属長が必要と認める場合

2 慶弔のため遠隔地に行く必要のあるときは、実際の往復の日数を加算することができる。

第4章 給与等

(給与)

第24条 教員の給与に関しては、学校法人文理学園給与規程の定めるところによる。

(賞与)

第25条 教員の賞与に関しては、学校法人文理学園給与規程の定めるところによる。

(退職手当)

第26条 教員の退職手当に関しては、学校法人文理学園退職手当規程の定めるところによる。

第5章 服務

(服務の原則)

第27条 教員は本規則と「学校法人文理学園倫理規程」を誠実に守り、職務遂行に当たっては、言語

動作及び服装を正しくし、その職責を忠実に果たし、上司の命令に従い、所属する学校の秩序維持に努めなければならない。

(服務心得)

第28条 教員は常に次の事項を守らなければならない。

- (1) 学園の機密を他に漏らさないこと。
- (2) 学園の命令又は許可を受けないで他の業務に従事し、又は所属する学校以外の職場に勤務しないこと。
- (3) 所属する学校の内外を問わず教員としての品位を傷つけるような行為をしないこと。
- (4) 職務の権限を超えて専断的なことを行わないこと。
- (5) 学園の許可を受けないで、学園施設を利用し印刷物その他の文書を掲示若しくは配布し、或いは示威運動、宣伝放送をし、また演説会や集会を開かないこと。
- (6) 相手方の望まない性的言動や威圧的な言動により、他の教職員又は学生生徒に不利益を与えたり、就業環境又は学習環境を害すると判断される行為等をしないこと。
- (7) 学生生徒又は教職員に対して、学園の承認を得ないで、物品の販売又は斡旋をしないこと。
- (8) 火災その他災害に際しては、学園を極力防護し、特に学生生徒の安全、重要書類の保全をはかること。
- (9) 学園の財産、備品を許可なく業務以外に利用しないこと。特に、電子メールやインターネットを含む学園の保有財産である社内情報システムを業務と無関係な目的に利用し、業務の効率に影響を及ぼすことは厳に慎むこと。
- (10) 管理職に指定された者及びその他機密に関する職務をする者は、組合に加入しないこと。
- (11) 学園が保有する特定個人情報については、学校法人文理学園個人番号及び特定個人情報取扱規程の定めるところにより取り扱うこと。
- (12) その他前各号に準ずる、教員としてふさわしくない行為はしないこと。

(兼業)

第29条 教員が他の学校に出講しようとするとき、或いは他の職を兼ねようとするときには、あらかじめ書面で願い出て、所属長の許可を受けなければならない。

(勤怠届)

第30条 教員は定刻までに出勤し、出勤簿に自ら捺印する、又は所定の位置に備え付けのタイムレコーダーに自らICカードにより打刻しなければならない。遅刻の場合はその旨上長に届け出たうえ、速やかに勤務につかなければならない。

- 2 タイムレコーダーを使用する者は、退勤の際も前項と同様に自らICカードによりタイムレコーダーへ打刻しなければならない。
- 3 出勤簿の管理及びタイムレコーダーの取扱いについては、別に定める。

第31条 病気その他やむを得ない緊急の事由により早退するときは、上長の承認を得なければならない。

第32条 業務外の傷病その他の事由により欠勤するときは、あらかじめ届けを上長に提出しなければならない。

- 2 あらかじめ届けができない場合には、直ちに上長に連絡し、業務に支障をきたさないように努め、出勤後速やかに届けなければならない。
- 3 傷病欠勤が7日(土日祝日を除く)を超えるときは医師の診断書を提出しなければならない。

(異動)

第33条 業務の都合により、教員に勤務の配置転換又は職務の変更を命ずることがある。

(定年)

第34条 教員の定年は次のとおりとする。

- (1) 大学においては、教授・准教授・講師・助教64才、助手60才
 - (2) 附属高等学校においては、校長63才、その他の教員60才
 - (3) 専修学校においては、校長63才、その他の教員60才
- 2 前項の年齢に達した日の属する年度の終了する日をもって退職とする。

(定年手続)

第35条 定年に達する者には、主管部門より所属長を経て事前に定年退職通知書を交付する。

2 前項の通知書を受けた者は、退職する2ヶ月前までに所定の定年退職届を、所属長を経て主管部門に提出しなければならない。

(定年後の再雇用)

第36条 定年に達した者でも、本人が希望する場合、解雇事由に該当しない者であって、「高年齢者雇用安定法一部改正法附則第3項」に基づき、なお効力を有することとされる改正前の「高年齢者雇用安定法第9条第2項」に基づく労使協定により定められた基準に該当する者については、その基準により可否を判定し、一旦退職の後、1年間を単位に嘱託として再雇用する。また、以降についても、本人が希望する場合、本基準を毎年適用し、該当者は嘱託として原則として65歳まで継続雇用する。ただし、業務量、勤務成績、勤務態度、能力、経営状況等により更新しない場合がある。

2 前項の場合において、次に掲げる期間における労使協定の基準の適用については、その区分に応じ、それぞれ掲げる年齢以上の者を対象に行うものとする。

(1) 平成25年4月1日から平成28年3月31日までは、61歳

(2) 平成28年4月1日から平成31年3月31日までは、62歳

(3) 平成31年4月1日から平成34年3月31日までは、63歳

(4) 平成34年4月1日から平成37年3月31日までは、64歳

3 前2項に該当しない者については、理事会の議を経て、1年間を単位に嘱託として雇用することがある。

(無期労働契約への転換)

第36条の2 期間の定めのある労働契約で雇用する教員のうち、通算契約期間が5年を超える教員は、別に定める様式で申し込むことにより、現在締結している有期労働契約の契約期間の末日の翌日から、期間の定めのない労働契約での雇用に転換することができる。

2 前項の通算契約期間は、平成25年4月1日以降に開始する有期労働契約の契約期間を通算するものとし、現在締結している有期労働契約については、その末日までの期間とする。ただし、労働契約が締結されていない期間が連続して6ヶ月以上ある教員については、それ以前の契約期間は通算契約期間に含めない。

3 この規則に定める労働条件は、第1項の規定により期間の定めのない労働契約での雇用に転換した後も引き続き適用する。ただし、無期労働契約へ転換した教員に係る定年年齢は60歳とし、定年に達した日の属する年度の末日をもって退職する。

4 前項に規定する定年年齢に達した無期労働契約へ転換した教員でも、本人が希望する場合、解雇事由に該当しない者であれば、65歳まで再雇用する。

5 第3項の規定にかかわらず、無期労働契約が開始された日の年齢が60歳を超えている教員の定年退職日は、65歳に達した日の属する年度の末日とする。

6 無期転換後の就業に関する事項については、本規則を適用する。

7 第4項及び第5項にて65歳を超えた教員について、理事長が認めた場合は、1年間を単位に嘱託として雇用することがある。

8 大学教員の中で、任期が1年以上の教員については、本条を適用せず、日本文理大学任期制教員に関する規程を適用する。

(休職)

第37条 教員が次の各号の一に該当するときは休職とする。

(1) 業務外の負傷又は疾病により引続き2ヶ月欠勤したとき。

(2) 家事の都合その他の事由により引続き30日欠勤したとき。

(3) 刑事事件で起訴されたとき。

(4) 理事長が必要と認めたとき。

(休職期間)

第38条 前条の教員の休職期間は次のとおりとする。

(1) 前条第1号によるときは1年。ただし、結核性疾患については2年とし、特に事情があると認められるときは理事会の議を経て、さらにこれを1年延長することができる。ただし、休職期間は3年を超えることはない。

(2) 前条第2号によるときは3ヶ月

(3) 前条第3号によるときは、事件が裁判所に係属している期間

(4) 前条第4号によるときは、必要と認める期間
(復職)

第39条 前条の休職期間満了前に休職事由が消滅し、学園が認めた場合には復職させる。ただし、第37条第1号により休職した教員については、勤務に支障のない旨、学園の指定する医師又は主治医等の診断書を提出しなければならない。

(解雇及び解雇手続)

第40条 教員が、次の各号の一に該当するときはこれを解雇する。

- (1) 勤務成績又は勤務能力が著しく不良、若しくは責務が果たせないとき。
- (2) 心身の障害その他の事由により勤務に堪えられないとき。
- (3) 学園の縮小若しくは組織の改廃により教員に余剰を生じたとき。
- (4) 休職期間が満了し、かつ休職事由が消滅しないとき。
- (5) 担当科目が不開講となり、今後開講の見込みがないとき。
- (6) 試用期間中に学園が教員として不相当と認めたとき。
- (7) その他前各号に準ずる事由があると理事会が認めたとき。

2 前項の規定により教員を解雇する場合は、少なくとも30日前に本人に予告をするか、又は予告にかえて平均賃金の30日分以上の解雇予告手当を支払う。ただし、試用期間中の教員(14日を超えて引続き雇用された者を除く。)を解雇する場合又は労働基準法第20条第3項の規定による行政官庁の認定を受けた場合は、この限りではない。

3 前項の予告日数は、解雇予告手当を支払った日数に応じて短縮することができる。

(解雇制限)

第41条 前条の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する期間は解雇しない。ただし、第1号の場合において療養開始後3年を経過しても負傷又は疾病が治癒せず労働者災害補償保険法に基づく傷病補償年金の給付がなされ、労働基準法第81条によって打切補償を支払ったものとみなされる場合又は労働基準法第19条第2項の規定による行政官庁の認定を受けた場合は、この限りではない。

- (1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養するため休業する期間及びその後30日間
- (2) 労働基準法第65条第1項及び第2項に定める産前産後の期間及びその後30日間

(退職及び退職手続)

第42条 教員が、次の各号の一に該当するときは退職とする。

- (1) 退職を届け出て理事長から承認されたとき、または退職願を提出して14日を経過したとき。
- (2) 定年による退職の日に達したとき。
- (3) 期間を定めて雇用されている場合、その期間を満了したとき。
- (4) 死亡したとき。

2 前項第1号により退職しようとするときは、2ヶ月前までに所属長を経て理事長に退職願を提出しなければならない。

(貸付金等の返還)

第43条 教員が退職したとき又は解雇されたときは、身分証明書、図書その他所属する学校からの貸与品は直ちに返納し、業務上の帳簿書類を整備のうえ速やかに提出し、また学園に債務がある場合は、退職の日までに完済しなければならない。

第6章 安全及び衛生

(災害防止)

第44条 教員は、所属する学校の安全に関し施設の保全、職場の整頓に努め、災害防止に協力しなければならない。

(災害に対する措置)

第45条 教員は、災害の発生を発見し、又はその危険を予知したときは、臨機の措置をとるとともに、直ちにそのことを上司に報告し、教員は互いに協力して被害を最小限度にくいとめるよう努力しなければならない。

(健康診断)

第46条 教員は、学園が毎年定期に行う健康診断を受けなければならない。

(出勤の禁止)

第47条 法定伝染病、精神障害にかかった者、勤務により病状の悪化する恐れのある者及び医師から

勤務が不相当と診断された者は出勤を禁止する。

(出勤の禁止の解除)

第48条 前条に該当する者で、その事由が消滅した場合はこれを解除する。

(伝染病の届出)

第49条 教員は、自己、同居の者又は近隣の者が法定伝染病にかかり、若しくはその疑いがあるときは、直ちにその旨を上司に届け出て、その指示を受けなければならない。

第7章 研修

(研修)

第50条 教員は、その職責遂行のため自発的に研修に励み、かつ学園の命ずる研修を受けなければならない。

第51条 教員を学術研修のため理事会の承認を経て大学、研究所、研修所その他に派遣することができる。

2 前項の研修に要する経費の全部又は一部は、学園が負担する。

3 研修者は、所属長の命ずる要領で報告書を提出しなければならない。

第8章 表彰及び懲戒

(表彰)

第52条 教員で次の各号の一に該当する者は、これを表彰する。

(1) 永年勤続者

(2) 学術研究又は教育上、特に功績のあった者

(3) 学園の災害を未然に防止し、又は非常の際特に功労のあった者

(4) 国家的、社会的に功労があり、学園及び教職員の名誉を高めた者

(5) その他前各号に準ずる、特に表彰に値すると認められた者

2 前項第1号の永年勤続者とは、勤続が満15年、25年、35年の各年数に達した者をいう。

3 第2項における勤続年数の算出方法については、別に定める。

(表彰の決定)

第53条 前条による表彰は、所属長の推薦により、あらかじめ理事会で定めた表彰委員会の議を経て行い、その結果を理事会に報告する。

(表彰の方法)

第54条 表彰の方法については、別に定める。

(表彰の時期)

第55条 表彰の時期については、別に定める。

(懲戒の種類)

第56条 教員に対する懲戒は次のとおりとする。

(1) 戒告 始末書を提出させ、将来を戒める。

(2) 減給 始末書を提出させるとともに、1回の事案に対し平均賃金の1日分の半額を超えず、かつ総額が1ヶ月間の賃金総額の10分の1を超えない範囲で給与を減額する。減給期間は6ヶ月を限度とする。

(3) 停職 7日以内の期間を定めて出勤を停止し、その期間中の賃金を支払わない。

(4) 懲戒解雇 予告期間を設けずに即時解雇し、退職金を支給しない。行政官庁の認定を受けた場合は、予告手当も支給しない。

(懲戒の審議)

第57条 懲戒は、あらかじめ理事会で定めた懲戒委員会の議を経て行い、その結果を理事会に報告する。

(懲戒)

第58条 教員が次の各号の一に該当するときは、戒告に処する。

(1) 職務上の秩序を乱したとき。

(2) 火気を粗略に取り扱ったとき。

(3) 本規則及び業務上の命令に違反したとき(セクシャルハラスメント及びパワーハラスメントのケースを含む)。

(4) その他前各号に準ずる、教員としてふさわしくない行為のあったとき。

第59条 教員が次の各号の一に該当するときは、減給又は停職に処する。

- (1) 正当な理由なく、無断欠勤したとき。
- (2) 正当な理由なく、しばしば遅刻、早退するなど勤務を怠ったとき。
- (3) 休講する場合、主管部門に休講の届出をしばしば怠ったとき。
- (4) 職務上の不注意、怠慢又は監督不行届により、業務に重大な支障をきたしたとき。
- (5) 故意に施設、設備又は物品を毀損したとき。
- (6) 教職員又は学生生徒に対して、学園の承認を得ないで物品の販売又は斡旋を行ったとき。
- (7) 学園の許可を受けずに、学園施設を利用し印刷物その他の文書を掲示若しくは配布し、或いは示威運動、宣伝放送をし、また演説会や集会を開いたとき。
- (8) 本規則及び規程を無視して学園の秩序を乱したとき（セクシャルハラスメント及びパワーハラスメントのケースを含む。）。
- (9) 学園の許可なく、勤務時間中に組合活動をしたとき。
- (10) 重大な過失により、学園の信用を損なう行為のあったとき。
- (11) 酒酔い運転又は酒気帯び運転を行なったとき。
- (12) その他前各号に準ずる、教員としてふさわしくない行為のあったとき。

第60条 教員が次の各号の一に該当するときは、懲戒解雇に処する。ただし、情状によっては、諭旨解雇又は通常解雇とすることがある。

- (1) 前条の処分が再度に及び、反省の点がないとき。
- (2) 重要な経歴を偽って採用されたとき。
- (3) 学校の金品を詐取又は盗用したとき。
- (4) 学園の財産、備品を許可なく業務以外に利用したとき。特に、電子メールやインターネットを含む学園の保有財産である社内情報システムを業務と無関係な目的に利用し、業務の効率に影響を及ぼしたとき。
- (5) 火災その他重大な事故を起こし、学園に重大な損害を与えたとき。
- (6) 故意に本規則又は規程等を無視し、若しくは上司の命令に違反して学園の秩序を乱し、学園の業務を妨害し、名誉や信用を著しく傷つけたとき（セクシャルハラスメント及びパワーハラスメントのケースを含む。）。
- (7) 学園の機密を他に漏らしたとき。
- (8) 学園の命令又は許可を受けずに他の業務に従事し、又は学園以外の職場に勤務したとき。
- (9) 破廉恥な行為を起こし、学園の体面を汚したとき。
- (10) 学内外を問わず、他人に暴力行為をなしたとき。
- (11) 学内外を問わず、単独又は少数の教職員に対し、複数の教員が威嚇、脅迫、強要等の挙に出たとき。
- (12) 正当な理由なく、無断欠勤が連続14日以上に及んだとき。
- (13) 刑事上の罰によって訴追され学園の名誉信用を失い、若しくは教員としての汚名により職場規律を乱したとき。
- (14) 教職員又は学生生徒に対し、教唆、扇動し、事故及び紛争を起こさせたとき。
- (15) 学園が保有する個人情報（特定個人情報を含む。）を故意又は過失により漏えいさせたとき。
- (16) 酒酔い運転又は酒気帯び運転を行い、事故を起こしたとき。
- (17) その他前各号に準ずる、教員としてふさわしくない行為のあったとき。

（損害賠償）

第61条 教員が故意または重大な過失によって学園に損害を与えたときは、学園は教員に、その損害を賠償させることがある。また、教員が損害を賠償したとしても、学園は、原則として、就業規則に基づき、懲戒などを行うものとする。

2 教員が相手方に損害を与えたときは、教員にその損害を賠償させることがある。

3 教員の損害賠償の義務は、退職または解雇後においても、免責または軽減されるものではない。

（規則の改廃）

第62条 この規則の改廃は、理事会の承認を経なければならない。

附 則

この規則は、昭和45年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、昭和46年8月28日から施行する。

附 則

この規則は、昭和50年2月5日から施行する。

附 則

この規則は、昭和57年3月29日から施行する。

附 則

この規則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年6月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成17年3月31日以前に60才以上で雇用された大学教員の定年は、第31条第1号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成17年6月17日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月28日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年12月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

日本文理大学定年を超える教育職員の採用に関する特例規程

令和3年11月16日
制定

(目的)

第1条 この規程は、日本文理大学における新設学部等の設置に際し、就任時又は新設学部設置完成年度末までに定年年齢を超える教育職員（以下「教員」という。）の採用及び雇用期間などに関する特例について定めることを目的とする。

(採用等)

第2条 新設学部の設置に限り、新設学部開設から完成年度末までに定年年齢を超えた者を専任教員として採用することができる。

(雇用期間等)

第3条 前条の専任教員は、原則として新設学部等の完成年度末に退職するものとする。

2 前項の規定に関わらず、理事長が当該教員を完成年度以降も教員として勤務することを適当と認めるときは、学校法人文理学園教員就業規則第36条第3項を適用する。

(改廃)

第4条 この規程の改廃は、大学評議会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

日本文理大学 保健医療学部 診療放射線学コース 時間割【前期】

	1 8:50~10:20			2 10:30~12:00			3 13:00~14:30			4 14:40~16:10			5 16:20~17:50			
	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	
月	1年	情報リテラシー1	衛藤平木	PC3・4	力学リテラシー①	池畑池見有吉	2212	社会参画入門	専任教員	132~135/ 142~145						
	2年	病理学2/分子生物学	長濱/岩崎	2211	放射線撮影学2	亀井衛藤	145	放射線物理学	甲斐	143	診療画像機器学1	亀井野村	145			
	3年	医療倫理学/	亀井	133								医療画像情報学2	原田	133		
	4年	基礎医学大要	岩崎他3名	135												
火	1年	データサイエンス入門/	衛藤	2211	大分学・大分楽	池畑中西	2212	英語1	コリンズ佐藤	132・133	英語1	コリンズ佐藤	132・133			
	2年	英語3	コリンズ佐藤	132・133	医療画像工学	原田	145	放射化学	伊藤茂	145				第二外国語(韓国語)	高 2211	
	3年	チーム医療概論/医療統計学1	野口他5名/甲斐	143				診療画像検査学2	生野	135	臨床画像学/実践臨床画像論	衛藤他2名/衛藤他8名	135	臨床画像学/実践臨床画像論	衛藤他2名/衛藤他8名	135
	4年	放射線治療技術演習	亀井青山原田	135												
水	1年	人間力概論	高見他3名	2212	生理学	岩崎	2211									
	2年	免疫学/	松井	2211				産学一致の勧め	吉村他4名	2221						
	3年	核医学検査技術学2	伊藤茂野口	133				診療画像技術学実習2	衛藤他9名	133						
	4年				核医学検査技術演習	野口他3名	135				卒業研究	専任教員				
木	1年	生物リテラシー	日下	143	解剖学	岩崎	2211									
	2年				放射線治療機器学	亀井	145	放射線計測学	甲斐亀井野村	145				第二外国語(中国語)	許 18A51	
	3年	放射線治療技術学2	亀井	133										放射線安全管理学	伊藤茂甲斐野口 133	
	4年				/医療安全管理学	/生野	144	/保健医療と経営	/野口青山	2211	/保健医療と工学	/甲斐他8名	/2211			
金	1年	放射線基礎工学	亀井青山	143				健康の科学	武田堀吉田	18C41/ 18A51/ 18A52	力学リテラシー②	池畑池見有吉	2212	医学概論/	相川亀井 2212	
	2年	データサイエンス・AI基礎	衛藤	PC3	人文科学への誘い	東寺淵上	2211	放射線関係法規	野口亀井	145	放射線生物学・疫学	甲斐	145			
	3年															
	4年	放射線医学演習/	村中他5名	135				診療画像機器学実験	青山他4名	10103 ~ 10105	診療画像機器学実験	青山他4名	10103 ~ 10105			

※「/」は、前期の前半、後半の区切りを示している。

集中講義	担当	年次
ジェネリックスキル養成1	吉村東寺	1

日本文理大学 保健医療学部 診療放射線学コース 時間割【後期】

	1 8:50~10:20			2 10:30~12:00			3 13:00~14:30			4 14:40~16:10			5 16:20~17:50				
	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室		
月	1年	情報リテラシー2	衛藤平木	PC3・4	デジタル医療の基礎/	松尾他5名	2211	社会参画実習	専任教員	132~135 142~145							
	2年	臨床画像解剖学	相川東 衛藤	145								診療画像機器学2	村中野村 生野	145	栄養学/公衆衛生学	岩崎/ 甲斐 他3名	2211
	3年	臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/医療安全論①	野口他9名/ 村中他1名	2212	
	4年																
火	1年	文章表現	東寺 湖上	PC3	生化学/ 病理学1	岩崎/ 長濱	2212	英語2	コリンズ 佐藤	132・133		英語2	コリンズ 佐藤	132・133	コミュニケーション演習	高見	2221
	2年	診療画像検査学1	東 衛藤	145				理工学実験	青山他4名	7205		理工学実験	青山他4名	7205			
	3年	臨床実習(診療参加型)/保健医療福祉論①	野口他9名/ 渡部他2名	2212	臨床実習(診療参加型)/医療統計学2①	野口他9名/ 甲斐	/2211	臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/チーム協働と課題解決①	野口他9名/ 亀井他4名	2211	
	4年				放射線治療技術演習	亀井 青山 原田	135										
水	1年	自然科学入門	吉森他6名	143	微生物学/ 薬理学	中野/ 森	2212					スポーツサイエンス	竹田他5名	18C51			
	2年	放射線医薬品学	伊藤 茂野口	145				診療画像技術学実習1	衛藤他9名	10103 ~ 10105							
	3年	臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/医療統計学2②	野口他9名/ 甲斐	/2211	臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/保健医療福祉論②	野口他9名/ 渡部他2名	2212	
	4年				核医学検査技術演習	野口他3名	135				卒業研究	専任教員					
木	1年	化学リテラシー	安部	143	放射線撮影学1	村中 衛藤	143	放射線基礎科学	甲斐 野口	143							
	2年	データ分析と社会課題解決	衛藤 伊藤英 小久保	2211	核医学検査技術学1	伊藤 茂野口	145	放射線治療技術学1	亀井	145							
	3年	臨床実習(診療参加型)/医療安全論②	野口他9名/ 村中他1名	/2212	臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/チーム協働と課題解決②	野口他9名/ 亀井他4名	2211	
	4年										放射線医科学演習	村中他5名	135				
金	1年	社会科学入門	長崎他5名	143				医用工学	青山 松尾	143							
	2年							医療画像情報学1	原田	145				放射線腫瘍学/	相川	145	
	3年	臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名/ /		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		臨床実習(診療参加型)/	野口他9名		
	4年																

※「/」は、後期の前半、後半の区切りを示している。

集中講義	担当	年次
ジェネリックスキル養成2	鈴木照他2名	1

日本文理大学 保健医療学部 臨床検査学コース 時間割【前期】

	1 8:50~10:20			2 10:30~12:00			3 13:00~14:30			4 14:40~16:10			5 16:20~17:50			
	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	
月	1年	情報リテラシー1	衛藤平木	PC3・4	カ学リテラシー①	池畑池見有吉	2212	社会参画入門	専任教員	132~135/142~145						
	2年	病理学2/分子生物学	長濱/岩崎	2211	医療工学概論	青山	142				検査機器総論/	政元熊谷佐野	142・10306	臨床検査学演習	山岡他4名	10306
	3年	情報科学概論/	原田	144	公衆衛生学演習/	甲斐内山田	144									
	4年	検査総合管理学	政元内山田	142												
火	1年	データサイエンス入門/	衛藤	2211	大分学・大分学	池畑中西	2212	英語1	コリンズ佐藤	132・133	英語1	コリンズ佐藤	132・133			
	2年	英語3	コリンズ佐藤	132・133	微生物検査学1	中野	142	臨床病態学1/生体分析検査化学	松浦/日下	142			第二外国語(韓国語)	高	2211	
	3年	チーム医療概論/医療統計学1	野口他5名/甲斐	143				輸血・移植検査学実習	松井政元内山田	10406	輸血・移植検査学実習	松井政元内山田	10406			
	4年	臨床検査論1	山岡他4名	144									卒業研究	専任教員		
水	1年	人間力概論	高見他3名	2212	生理学	岩崎	2211									
	2年	免疫学/	松井	2211	病理組織検査学	長濱	142	産学一致の勧め	吉村他4名	2221	血液検査学	山岡	142			
	3年	画像検査学実習	佐野日下衛藤	10303・10103	画像検査学実習	佐野日下衛藤	10303・10103	微生物検査学実習	内山田中野山岡	10406	微生物検査学実習	内山田中野山岡	10406			
	4年															
木	1年	生物リテラシー	日下	143	解剖学	岩崎	2211									
	2年												第二外国語(中国語)	許	18A51	
	3年	病理組織細胞検査学実習	長濱	10403	病理組織細胞検査学実習	長濱	10403	免疫検査学実習	松井内山田政元	10406	免疫検査学実習	松井内山田政元	10406	臨床検査総合演習	長濱他6名	10303・10306・10310・10311
	4年				医療安全管理学実習	八尋内山田政元	134	/保健医療と経営	/野口青山	2211	/保健医療と工学	/甲斐他8名	/2211			
金	1年							健康の科学	武田堀吉田	18C41/18A51/18A52	カ学リテラシー②	池畑池見有吉	2212	医学概論/	相川亀井	2212
	2年	データサイエンス・AI基礎	衛藤	PC3	人文科学への誘い	東寺淵上	2211				臨床生理検査学実習	佐野日下政元	10303・10311	臨床生理検査学実習	佐野日下政元	10303・10311
	3年	遺伝子・染色体検査学実習/	日下熊谷	10410	遺伝子・染色体検査学実習/	日下熊谷	10410	寄生虫検査学実習/	熊谷中野内山田	10306	寄生虫検査学実習/	熊谷中野内山田	10306			
	4年	関係法規(臨床検査)/	山岡	132	画像・AI解析検査学	佐野原田	144									

※「/」は、前期の前半、後半の区切りを示している。

集中講義	担当	年次
ジェネリックスキル養成1	吉村東寺	1

日本文理大学 保健医療学部 臨床検査学コース 時間割【後期】

	1 8:50~10:20			2 10:30~12:00			3 13:00~14:30			4 14:40~16:10			5 16:20~17:50				
	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室		
月	1年	情報リテラシー2	衛藤平木	PC3・4	デジタル医療の基礎	松尾他5名	2211	社会参画実習	専任教員	132~135 142~145							
	2年	輸血・移植検査学	松井	142								臨床病態学2	松浦	142	栄養学/公衆衛生学	岩崎/甲斐他3名	2211
	3年	臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/医療安全論①	長濱他8名/村中他1名	2212	
	4年																
火	1年	文章表現	東寺湖上	PC3	生化学/病理学1	岩崎/長濱	2212	英語2	コリンズ佐藤	132・133		英語2	コリンズ佐藤	132・133	コミュニケーション演習	高見	2221
	2年	臨床検査医学	長濱他3名	142				血液検査学実習	山岡政元内山田	10401		血液検査学実習	山岡政元内山田	10401			
	3年	臨地実習/保健医療福祉論①	長濱他8名/渡部他2名	2212	臨地実習/医療統計学2①	長濱他8名/甲斐	/2211	臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/チーム協働と課題解決①	長濱他8名/亀井他4名	2211	
	4年																
水	1年	自然科学入門	吉森他6名	143	微生物学/薬理学	中野/森	2212					スポーツサイエンス	竹田他5名	18C51			
	2年				遺伝子・染色体検査学/	日下/	142	一般検査学演習	工藤	10306							
	3年	臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/医療統計学2②	長濱他8名/甲斐	/2211	臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/保健医療福祉論②	長濱他8名/渡部他2名	2212	
	4年	卒業研究	専任教員														
木	1年	化学リテラシー	安部	143													
	2年	データ分析と社会課題解決	衛藤伊藤英小久保	2211				画像検査学	佐野衛藤	144							
	3年	臨地実習/医療安全論②	長濱他8名/村中他1名	/2212	臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/チーム協働と課題解決②	長濱他8名/亀井他4名	2211	
	4年																
金	1年	社会科学入門	長崎他5名	143	臨床生理検査学1/臨床生理検査学2	中川他1名/中川他1名	142										
	2年	微生物検査学2	中野	144	細胞診検査学/免疫検査学	長濱/松井	142	生体分析検査化学実習	日下内山田	10306	生体分析検査化学実習	日下内山田	10306				
	3年	臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名/		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		臨地実習/	長濱他8名		
	4年	臨床検査論2	松井日下佐野	132	臨床検査論3/	日下青山工藤	132										

※「/」は、後期の前半、後半の区切りを示している。

集中講義	担当	年次
ジェネリクススキル養成2	鈴木照他2名	1
臨地実習前総合実習	長濱他8名	3

日本文理大学 保健医療学部 臨床医工学コース 時間割【前期】

	1 8:50~10:20			2 10:30~12:00			3 13:00~14:30			4 14:40~16:10			5 16:20~17:50		
	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室
月	1年	情報リテラシー1	衛藤平木	PC3・4	カ学リテラシー①	池畑池見有吉	2212	社会参画入門	専任教員	132~135/142~145					
	2年	病理学2/分子生物学	長濱/岩崎	2211	応用数学	松尾	7402								
	3年	医用電気工学各論	松尾	7301	医用システム工学	宮崎	7301	医用機械工学	小野寺	7301					
	4年	臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名
火	1年	データサイエンス入門/	衛藤	2211	大分学・大分祭	池畑中西	2212	英語1	コリンズ佐藤	132・133	英語1	コリンズ佐藤	132・133		
	2年	英語3	コリンズ佐藤	132・133	医用機器学概論	砂子澤	7402	医用工学概論/	伊藤英	7402	臨床支援技術学	伊藤英	7402	第二外国語(韓国語)	高 2211
	3年	チーム医療概論/医療統計学1	野口他5名/甲斐	143	臨床医学英語/	伊藤英	7301	医用材料工学	小野寺	7301					
	4年	臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/卒業研究①	伊藤英他4名/専任教員
水	1年	人間力概論	高見他3名	2212	生理学	岩崎	2211								
	2年	免疫学/	松井	2211	医用治療機器学	砂子澤	7402	産学一致の勧め	吉村他4名	2221					
	3年	人工呼吸療法学	伊藤英砂子澤姫野	7301	臨床医学総論(内科系)	相川	7301	人工呼吸療法学実習	砂子澤姫野	7202					
	4年	臨床実習/	伊藤英他4名	7302	臨床実習/人工臓器学	伊藤英他4名/伊藤英	7302	臨床実習/人工臓器学	伊藤英他4名/伊藤英	7302	臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名
木	1年	生物リテラシー	日下	143	解剖学	岩崎	2211								
	2年												第二外国語(中国語)	許 18A51	
	3年				循環制御治療学	伊藤英	7302	循環制御治療学実習	伊藤英安部	7204					
	4年	臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/保健医療と経営	伊藤英他4名/野口他1	2211	臨床実習//保健医療と工学	伊藤英他4名/甲斐他8名	/2211	臨床実習/	伊藤英他4名
金	1年							健康の科学	武田堀吉田	18C41/18A51/18A52	カ学リテラシー②	池畑池見有吉	2212	医学概論/	相川亀井 2212
	2年	データサイエンス・AI基礎	衛藤	PC3	人文科学への誘い	東寺淵上	2211	基礎医学実習	長濱政元	10301					
	3年	医用電子工学各論	松尾	7301	血液浄化療法学	砂子澤小野寺	7301	血液浄化療法学実習	砂子澤小野寺姫野	7201					
	4年	臨床実習/関係法規(医工学)	伊藤英他4名/砂子澤他1名	/7302	臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/	伊藤英他4名		臨床実習/卒業研究②	伊藤英他4名/専任教員

※「/」は、前期の前半、後半の区切りを示している。

集中講義	担当	年次
ジェネリックスキル養成1	吉村東寺	1

日本文理大学 保健医療学部 臨床医工学コース 時間割【後期】

	1 8:50~10:20			2 10:30~12:00			3 13:00~14:30			4 14:40~16:10			5 16:20~17:50				
	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室		
月	1年	情報リテラシー2	衛藤平木	PC3・4	デジタル医療の基礎	松尾他5名	2211	社会参画実習	専任教員	132~135 142~145							
	2年							臨床支援技術学実習	砂子澤 姫野 安部	10208			栄養学/公衆衛生学	岩崎/ 甲斐 他3名	2211		
	3年	人工呼吸療法学実習	砂子澤 姫野	7202				医用電気工学実習	小野寺	7107				/医療安全論①	/村中 野村	2212	
	4年																
火	1年	文章表現	東寺 湖上	PC3	生化学/ 病理学1	岩崎/ 長濱	2212	英語2	コリンズ 佐藤	132・ 133		英語2	コリンズ 佐藤	132・ 133	コミュニケーション演習	高見	2221
	2年	医用治療機器学実習	宮崎 小野寺 姫野	7106・ 7107				生体計測装置学実習	砂子澤 宮崎 姫野	7106/ 7202							
	3年	/保健医療福祉論①	/渡部 寺尾 鍋田	2212	臨床医学総論(外科系)	相川	7301	医用電子工学実習	小野寺	7107				/チーム協働と課題解決①	/亀井 他4名	2211	
	4年											レギュラトリーサイエンス論	伊藤英	7302			
水	1年	自然科学入門	吉森 他6名	143	微生物学/ 薬理学	中野/ 森	2212					スポーツサイエンス	竹田 他5名	18C51			
	2年	生命科学概論/	伊藤英	7402				医用機器学実習	砂子澤 小野寺	7106							
	3年	医用計測工学	松尾	7301	医療システムマネジメント論	伊藤英 宮崎 小野寺	7301	システム・情報処理実習	宮崎	10203				/保健医療福祉論②	/渡部 寺尾 鍋田	2212	
	4年											救急・麻酔・集中治療医学	相川	7302			
木	1年	化学リテラシー	安部	143													
	2年	データ分析と社会課題解決	衛藤 伊藤英 小久保	2211	生体物性工学	小野寺	7402	医用電子工学総論	松尾	7402		生体計測装置学	砂子澤	7402			
	3年	/医療安全論②	/村中 野村	/2212	生体計測工学	砂子澤	7301	循環制御治療学実習	伊藤英 安部	7204			/チーム協働と課題解決②	/亀井 他4名	2211		
	4年				医工学治療論	伊藤英	7302										
金	1年	社会科学入門	長崎 他5名	143													
	2年	医療機器安全管理学	小野寺	7402	医療情報処理工学	宮崎	7402	医用電気工学総論	松尾	7402							
	3年	データサイエンス概論	宮崎	7301				血液浄化療法学実習	砂子澤 小野寺 姫野	7201							
	4年														卒業研究		

※「/」は、後期の前半、後半の区切りを示している。

集中講義	担当	年次
ジェネリックスキル養成2	鈴木照 他2名	1

各技師（技士）養成所指導ガイドライン別表2

診療放射線技師養成所指導ガイドライン別表2（診療放射線学コース）

品目	数量
パソコン	1台/1人
オシロスコープ	相当数
信号発振器	相当数
テスター（電圧計を兼ねる）	相当数
電流計	相当数
直流可変安定化電源	相当数
個人被曝線量計	1/1人
電離箱式照射線量計（CTDIチェンバ含む）	1
GMカウンタ（吸収板セットを含む）	1
シンチレーションスペクトロメータ	1
シンチレーションカウンタ	1
シンチレーションサーベイメータ	1
GMサーベイメータ	1
電離箱サーベイメータ	1
貯蔵容器	1
鉛ブロック	相当数
標準線源	各種
診断用X線装置（立位・臥位用）（CRまたはフラットパネルを含む）	2
X線透視撮影装置	1
X線CT装置	1
超音波画像診断装置	2
超音波用ファントム	1
眼底写真撮影装置（無散瞳式）	1
散乱線除去用グリッド	各種
胸測計	1
角度計（人体測定用）	1
放射線防護用具（X線防護眼鏡を含む）	5
鉛衝立	2
人体ファントム（撮影用）	2
画像表示装置（高精細モニターを含む）	2
照度計	1
輝度計・色度計	1
非接続形X線測定器（管電圧、管電流、時間測定）	1
濃度計	1
解像カテストチャート	2
アルミ階段（アクリル階段を含む）	2

品目	数量
車椅子	相当数
ストレッチャー	1
ベッド	1
BLSシミュレータ	1
自動体外式除細動器	1
静脈注射シミュレータ	相当数
下部消化管検査等に係るシミュレータ・カテーテル	相当数
非観血式電子血圧計	相当数
乳房撮影用X線装置	1
上部消化管ファントム又は胃模型	1
乳腺ファントム	1
CTファントム (CTDI用を含む)	1
CT・MRI用3次元画像処理ソフトウェア	1

臨床検査技師養成所指導ガイドライン別表2（臨床検査学コース）

品目	数量
遠心機	6
冷却遠心機	1
電気冷蔵庫	2
冷凍庫（ディープフリーザー）	1
恒温装置	4
乾燥器	2
純水製造装置	1
検査器具洗浄器	4
気圧計	1
数取り器	相当数
写真用器具一式	1
ストップウォッチ	相当数
攪拌装置（マグネチックスターラ）	4
採血セット一式	相当数
舌圧子一式	相当数
口腔・鼻腔吸引用器具とチューブ一式	相当数
検体採取用ブラシ一式	相当数
イオンメーター（pH計を含む）	4
微量分注装置（マイクロピペット）	相当数
天びん（電子天びんも含む）	6
プロジェクター（スライド、OHP、ビデオ方式を含む）	2
電気回路実験装置	1
増幅素子実験装置	1
医用増幅装置（ポリグラフも可）	1
電気回路試験器（テスタ）	4
パーソナルコンピュータ	2人に1台以上
双眼顕微鏡	2人に1台以上
複双眼顕微鏡（教育用顕微鏡）	1
顕微投影機（顕微テレビも可）	1
蛍光顕微鏡	1
実体顕微鏡	2
顕微鏡用位相差装置	2
偏光装置	2
測微装置	2
写真撮影装置	1
滑走式マイクロトーム	4
パラフィン溶融器	1

品目	数量
切片伸展器	2
自動血球計数装置	1
血球計算器具	相当数
たん白屈折計	4
尿比重計	相当数
分光光度計	6
酵素反応速度装置	1
電気泳動装置	4
自記濃度計（デンシトメータ）	1
紫斑計	1
赤沈測定装置	1
ヘマトクリット用遠心機	2
遺伝子増幅用恒温槽	1
核酸検出装置	1
高圧蒸気滅菌器	2
乾熱滅菌器	1
煮沸消毒器	2
ふ卵器	2
集落計算盤	2
嫌気性培養器	2
細菌濾過装置	1
低温恒温器	1
血液型判定用加温観察箱	4
水平振とう器	4
マイクロタイター一式	相当数
マイクロプレート用リーダー	1
マイクロプレート用ウォッシャー	1
心電計	4
心電・心音・脈波計	1
脳波計	1
超音波検査装置	2
呼吸機能検査装置	2
電気味覚計	1
血圧計	1
聴診器	2

臨床工学技士養成所指導ガイドライン別表2（臨床医工学コース）

品目	数量
解剖学教育用機材	一式
生理学教育用実験材料	一式
病理学教育用機材	一式
オシロスコープ	5人に1台
信号発生器	5人に1台
電動機	一式
変圧器	5人に1台
直流電源装置	5人に1台
デジタルマルチメータ	5人に1台
パーソナルコンピュータ	5人に1台
人工呼吸器	一式
人工心肺装置	一式
補助循環装置	一式
血液透析装置	一式
ペースメーカ及びプログラマ	一式
除細動器及び除細動器チェッカ	一式
電気安全チェッカ	一式
電気メス及び電気メスチェッカ	一式
患者情報モニタ(心電図、血圧、血液ガス、呼吸ガス等を計測するもの)	一式
輸液ポンプ	一式
救命処置生体シミュレータ	一式
静脈注射シミュレータ	適当数

番号	書名	著者名	出版社名
1	情報科学概論	田中琢真	学術図書出版社
2	AI・データサイエンスの基礎	吉原幸伸	アイテック
3	新・情報学入門:ビッグデータ時代に必須の技法	マイケル・バックランド	日本評論社
4	人工知能と人間	長尾真	岩波書店
5	インタラクション:人工知能と心	上野直樹・西阪仰	大修館書店
6	人工知能の基礎	小林一郎(情報学)	サイエンス社
7	人工知能と人工生命の基礎	伊庭斉志	オーム社
8	人工知能の基礎	馬場口登・山田誠二	オーム社
9	人工知能は人間を超えるか:ディープラーニングの先にあるもの	松尾豊	KADOKAWA
10	人工知能 人類最悪にして最後の発明	ジェームズ・バラット:水谷淳	ダイヤモンド社
11	人工知能入門	小高知宏	共立出版
12	人間は「心が折れる」からこそ価値がある	苫米地英人	PHP研究所
13	シンギュラリティ:人工知能から超知能へ	マレー・シヤナハン	NTT出版
14	人工知能は私たちが滅ぼすのか:計算機が神になる100年の物語	児玉哲彦	ダイヤモンド社
15	人工知能はなぜ未来を変えるのか	松尾豊:塩野誠	KADOKAWA
16	人工知能と経済の未来:2030年雇用大崩壊	井上智洋	文藝春秋
17	情報社会の(哲学):グーグル・ビッグデータ・人工知能	大黒岳彦	勁草書房
18	人工知能:機械といかに向き合うか	ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部	ダイヤモンド社
19	人工知能	松本一教:宮原哲浩	オーム社
20	AI人工知能の軌跡と未来	竹内郁雄	日経サイエンス社
21	トコトンやさしい人工知能の本	産業技術総合研究所	日刊工業新聞社
22	人工知能はいかにして強くなるのか?:対戦型AIで学ぶ基本のしくみ	小野田博一	講談社
23	グーグルに学ぶディープラーニング	日経ビッグデータ編集部	日経BP
24	人工知能の核心	羽生善治	NHK出版
25	AI人工知能知るほどに驚き!の話:基本と最新事情が2時間でわかる!	ライフ・サイエンス研究班	河出書房新社
26	決定版AI人工知能	樋口晋也:城塚音也	東洋経済新報社
27	人工知能の哲学:生命から紐解く知能の謎	松田雄馬	東海大学出版部
28	AIが人間を殺す日:車、医療、兵器に組み込まれる人工知能	小林雅一	集英社
29	人工知能(AI)のはなし	大村平	日科技連出版社
30	なぜ人工知能は人と会話ができるのか	三宅陽一郎	マイナビ出版
31	最新図解で早わかり人工知能がまるごとわかる本	田口和裕:森嶋良子	ソーテック社
32	マンガでわかる人工知能	三宅陽一郎:備前やすのり	池田書店
33	ディスカッションを科学する:人間と人工知能の共生	長尾確	慶應義塾大学出版会
34	Excelでわかるディープラーニング超入門	涌井良幸:涌井貞美	技術評論社
35	人工知能プログラミングのための数学がわかる本	石川聡彦	KADOKAWA
36	人工知能と社会:2025年の未来予想	AIX:栗原聡	オーム社
37	誤解だらけの人工知能:ディープラーニングの限界と可能性	田中潤:松本健太郎	光文社
38	人工知能システムのプロジェクトがわかる本	本橋洋介	翔泳社
39	高校生のためのゲームで考える人工知能	三宅陽一郎:山本貴光	筑摩書房
40	いちばんやさしいAI(人工知能)超入門:AIってなあに?	大西可奈子	マイナビ出版
41	フリーソフトではじめる機械学習入門	荒木雅弘	森北出版
42	ゲーム情報学概論:ゲームを切り拓く人工知能	伊藤毅志:保木邦仁	コロナ社
43	AIは人間の仕事を奪うのか?:人工知能を理解する7つの問題	松本健太郎:池田憲弘	シーアンドアール研究所
44	人工知能はなぜ椅子に座れないのか:情報化社会における「知」と「生命」	松田雄馬	新潮社
45	人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」	新井紀子(数学):東中竜一郎	東京大学出版会
46	人工知能に哲学を教えたら	岡本裕一朗	SBクリエイティブ
47	シンギュラリティ	神崎洋治	創元社

番号	書名	著者名	出版社名
48	眠れなくなるほど面白い図解AI(人工知能)とテクノロジーの話	三宅陽一郎	日本文芸社
49	Python人工知能プログラミング	深井裕二	三恵社
50	AI社会の歩き方:人工知能とどう付き合うか	江間有沙	化学同人
51	はじめての人工知能:Excelで体験しながら学ぶAI	浅井登	翔泳社
52	Excelでわかるディープラーニング超入門【RNN・DQN編】	涌井良幸:涌井貞美	技術評論社
53	Excelでわかる機械学習超入門:AIのモデルとアルゴリズムがわかる	涌井良幸:涌井貞美	技術評論社
54	基礎から学ぶ人工知能の教科書	小高知宏	オーム社
55	人工知能 ディープラーニング編	松尾豊	ニュートンプレス
56	しくみがわかるベイズ統計と機械学習	手塚太郎	朝倉書店
57	AI事典:人工知能	中島秀之:浅田稔	近代科学社
58	LIFE3.0:人工知能時代に人間であるということ	マックス・テグマーク:水谷淳	紀伊國屋書店
59	人間と人工知能:文明論的考察	片岡寛光	内外出版
60	人工知能と人間・社会	稲葉振一郎:大屋雄裕	勁草書房
61	人工知能:チューリング/ブルックス/ヒント	開一夫:中島秀之	岩波書店
62	知識ゼロからの機械学習入門	太田和樹:TechAcademy	技術評論社
63	テキスト・画像・音声データ分析	西川仁:佐藤智和	講談社
64	人工知能:機械学習はどこまで進化するのか	竹内郁雄	日経サイエンス社
65	はじめてのAI	土屋誠司	創元社
66	スッキリわかるPythonによる機械学習入門	フレアリンク:須藤秋良	インプレス
67	イラストで学ぶ人工知能概論	谷口忠大	講談社
68	AI大図鑑	松尾豊	ニュートンプレス
69	あたらしい脳科学と人工知能の教科書	我妻幸長	翔泳社
70	教養としてのAI講義	メラニー・ミッチェル	日経BP
71	AI・データサイエンスのための図解でわかる数学プログラミング	松田雄馬:露木宏志	ソーテック社
72	機械学習アルゴリズム	鈴木顕	共立出版
73	ビッグデータと人工知能:可能性と畏を見極める	西垣通	中央公論新社
74	データサイエンスの基本がわかる本:これだけは知っておきたい	鈴木孝弘	オーム社
75	データサイエンス入門	竹村彰通	岩波書店
76	生命科学・医療系のための情報リテラシー	飯島史朗:石川さと子	丸善出版
77	チューリングの考えるキカイ	阿部彩芽:笠井琢美	技術評論社
78	AI時代の意思決定とデータサイエンス	佐藤洋行	多摩大学出版会
79	大学4年間のデータサイエンスが10時間でざっと学べる	久野遼平:木脇太一	KADOKAWA
80	マルウェアデータサイエンス:サイバー攻撃の検出と分析	ジョシュア・サックス:ヒラリー・サンダース	マイナビ出版
81	データサイエンスの森 Kaggleの歩き方	坂本俊之	シーアンドアール研究所
82	データサイエンス	ジョン・D. ケルハマー:ブレンダン・ティアニー	ニュートンプレス
83	データサイエンス設計マニュアル	ステイーブン・S. スキーナ	オライリー・ジャパン
84	ビッグデータ超入門	ダウン・E. ホームズ:岩崎学	東京化学同人
85	RとPythonで学ぶ[実践的]データサイエンス&機械学習	有賀友紀:大橋俊介	技術評論社
86	教養としてのデータサイエンス	北川源四郎:竹村彰通	講談社
87	文理融合データサイエンス入門	小高知宏:小倉久和	共立出版
88	Rではじめるデータサイエンス	ハドリー・ウィッカム:ギャレット・グロールマン	オライリー・ジャパン
89	セーフティ&セキュリティ入門:AI、IoT時代のシステム安全	金子朋子	日科技連出版社
90	RユーザのためのRStudio[実践]入門	松村優哉:湯谷啓明	技術評論社
91	はじめてのAIプログラミング:C言語で作る人工知能と人工無能	小高知宏	オーム社
92	データ構造とアルゴリズム	五十嵐健夫	数理工学社
93	Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造	辻真吾:下平英寿	講談社
94	データサイエンスのためのRプログラミングスキル	マイケル・フリーマン	共立出版

番号	書名	著者名	出版社名
95	RStudioではじめるRプログラミング入門	ギャレット・グロールマンド	オライリー・ジャパン
96	ゼロからわかるPython超入門: はじめてのプログラミング	佐藤美登利	技術評論社
97	生命と自由: 現象学、生命科学、そして形而上学	斎藤慶典	東京大学出版会
98	物質と意識: 脳科学・人工知能と心の哲学	ポール・M. チャーランド	森北出版
99	心理学	山村豊・高橋一公	医学書院
100	保健・医療・福祉を学ぶための心理学概論	高橋直樹・石本豪	共立出版
101	医療系のための心理学	樫村正美・野村俊明	講談社
102	リラクゼーション法の理論と実際	五十嵐透子	医歯薬出版
103	ドクターヘリハンドブック: ドクターヘリ安全運航のために	日本航空医療学会	へるす出版
104	救急医療におけるメディカルコントロール	日本救急医学会メディカルコントロール体制	へるす出版
105	人工知能と経済	山本勲	勁草書房
106	IoT時代のアライアンス戦略	富田賢	白桃書房
107	日本型“AI(人工知能)”ビジネスモデル: 俯瞰図から見える	大野治	日刊工業新聞社
108	文系のためのデータサイエンスがわかる本	高橋威知郎	総合法令出版
109	今日から使える! データサイエンスがよくわかる本	今西航平・西沢衛	秀和システム
110	データサイエンス入門	笹嶋宗彦	朝倉書店
111	人工知能と銀行経営	大久保豊・西村拓也	金融財政事情研究会
112	事例で学ぶ! あたらしいデータサイエンスの教科書	岩崎学	翔泳社
113	人工知能の社会学: AIの時代における人間らしさを考える	佐藤裕(社会学)	ハーベスト社
114	コミュニケーション実践トレーニング	杉原桂・野呂幾久子	ナカニシヤ出版
115	医療系学生のための社会保障制度と医療経済概論講義	米本倉基・真野俊樹	ムイスリ出版
116	医療機器の保険適用戦略と保険適用希望書の作成・手続実務	河原敦	じほう
117	診療報酬制度と医業収益: 病院機能別に考察する戦略的経営	井上貴裕	日本医療企画
118	労働経済学で考える人工知能と雇用	山本勲	三菱経済研究所
119	保健医療福祉職に必要な社会福祉学	川島芳雄	丸善プラネット
120	対人援助の作法: 誰かの力になりたいあなたに必要なコミュニケーション	竹田伸也	中央法規出版
121	コメディカルのための社会福祉概論	鬼崎信好・本郷秀和	講談社
122	いちばんやさしい「介護事務」超入門	水口錠二	ばる出版
123	介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド	渡辺裕美・藤澤雅子	メディカ出版
124	介護経営: 介護事業成功への道しるべ	小笠原浩一	日本医療企画
125	よくわかる地域包括ケア	隅田好美・藤井博志	ミネルヴァ書房
126	教育を読み解くデータサイエンス: データ収集と分析の論理	耳塚寛明・中西啓喜	ミネルヴァ書房
127	AI時代を切りひらく算数: 「理解」と「応用」を大切にする6年間の学び	芳沢光雄	日本評論社
128	理系女性のライフプラン	丸山美帆子・長濱祐美	メディカル・サイエンス・インターナショナル
129	医学・理工・自然科学系研究者のための英語論文ラクラク・アクセプト	北風政史	メディカ出版
130	数学図鑑: やりなおしの高校数学	永野裕之: ジーグレイブ	オーム社
131	数学的な思考とは何か: 数学嫌いと思っていた人に読んで欲しい本	長岡亮介	技術評論社
132	電気電子工学のための行列・ベクトル・複素関数・フーリエ解析	前山光明	電気学会
133	データサイエンスのための数学	椎名洋・姫野哲人	講談社
134	これからの微分積分	新井仁之	日本評論社
135	グラフでわかる初めてのフーリエ解析	比田井洋史	共立出版
136	電気電子工学のための微分方程式とラプラス変換	前山光明	電気学会
137	常微分方程式入門	原惟行・松永秀章	共立出版
138	システム数理工学: 意思決定のためのシステム分析	山地憲治	数理工学社
139	データサイエンス入門: Excelで学ぶ統計データの見方・使い方・集め方	上藤一郎・西川浩昭	オーム社
140	Rで楽しむベイズ統計入門: しくみから理解するベイズ推定の基礎	石田基広・奥村晴彦	技術評論社
141	Rで学ぶデータサイエンス	長畑秀和	朝倉書店

番号	書名	著者名	出版社名
142	Pythonで学ばあたらしい統計学の教科書	馬場真哉	翔泳社
143	データサイエンス入門	竹村彰通: 姫野哲人	学術図書出版社
144	数式なしでわかるデータサイエンス	アナリン・ウン: ケネス・スー	オーム社
145	データサイエンスの基礎	濱田悦生: 狩野裕	講談社
146	最適化手法入門	寒野善博: 駒木文保	講談社
147	統計モデルと推測	松井秀俊: 小泉和之	講談社
148	スパース回帰分析とパターン認識	梅津佑太: 西井龍映	講談社
149	モンテカルロ統計計算	鎌谷研吾: 駒木文保	講談社
150	ゼロからはじめるデータサイエンス: Pythonで学ぶ基本と実践	ジョエル・グルス: 菊池彰	オライリー・ジャパン
151	データサイエンス概説	山崎達也	学術図書出版社
152	Rで学ぶ統計的データ解析	林賢一: 下平英寿	講談社
153	RとPythonで学ぶ統計学入門	増井敏克	オーム社
154	絵と図でわかるデータサイエンス: 難しい数式なしに考え方の基礎が学べる	上藤一郎	技術評論社
155	文系のための統計学入門: データサイエンスの基礎	河口洋行	日本評論社
156	Rによるやさしい統計学	山田剛史: 杉澤武俊	オーム社
157	Pythonによる統計分析入門	山内長承	オーム社
158	Pythonで理解する統計解析の基礎	辻真吾: 谷合廣紀	技術評論社
159	Rグラフィックスクックブック: ggplot2によるグラフ作成のレシピ集	ウインストン・チャン	オライリー・ジャパン
160	医療専門職のための二度目の物理学入門	嶋津秀昭	学研メディカル秀潤社
161	大学生のための基礎物理学: 力学・熱学・電磁気学	大槻東巳	学術図書出版社
162	まるわかり! 基礎物理	時政孝行: 葉子研	南山堂
163	新SI単位と電磁気学	佐藤文隆: 北野正雄	岩波書店
164	連続体力学の話法: 流体力学, 材料力学の前に	清水昭比古	森北出版
165	例題でわかる基礎・演習流体力学	前川博(流体力学): 山本誠	共立出版
166	基礎から学ぶ流体力学	飯田明由: 小川隆申	オーム社
167	トコトンやさしい流体力学の本	久保田浪之介	日刊工業新聞社
168	流体力学: 基礎と応用	社河内敏彦: 辻本公一	養賢堂
169	流体力学: シンプルにすれば「流れ」がわかる	築地徹浩: 金原粲	実教出版
170	マンガでわかる流体力学	武居昌宏: 松下マイ	オーム社
171	図解によるわかりやすい流体力学	中林功一: 山口健二	森北出版
172	図解はじめての流体力学	田村恵万	科学図書出版
173	単位が取れる流体力学ノート	武居昌宏【著】	講談社
174	演習流体力学	日本機械学会	日本機械学会
175	複素流体力学ノート: 理想流体の基礎から粘性流への展開	新井紀夫	コロナ社
176	流体力学: 非圧縮性流体の流れ学	中山司	森北出版
177	流体の力学: 水力学と粘性・完全流体力学の基礎	松尾一泰	オーム社
178	高校数学でわかる流体力学: ベルヌーイの定理から翼に働く揚力まで	竹内淳【著】	講談社
179	流体力学	杉山弘: 遠藤剛	森北出版
180	流れのすじがよくわかる流体力学	小森悟	朝倉書店
181	数値計算による流体力学: ポテンシャル流, 層流, そして乱流へ	岡本正芳	コロナ社
182	流体力学	水島二郎: 柳瀬眞一郎	森北出版
183	いまさら流体力学?	木田重雄: パリティ編集委員会	丸善出版
184	圧縮性流体力学	杉山弘	森北出版
185	波動: 力学・電磁気学・量子力学	ダニエル・フライシュ	岩波書店
186	圧縮性流体力学・衝撃波	佐宗章弘	コロナ社
187	圧縮性流体力学	麻生茂: 川添博光	丸善出版
188	材料の熱力学入門	正木匡彦	コロナ社

番号	書名	著者名	出版社名
189	量子流体力学	坪田誠:笠松健一	丸善出版
190	電磁気学30講	戸田盛和	朝倉書店
191	電磁気学. 上	ジョン・デーヴィッド・ジャクソン	吉岡書店
192	電磁気学. 下	ジョン・デーヴィッド・ジャクソン	吉岡書店
193	単位が取れる電磁気学ノート	橋元淳一郎	講談社
194	「ファインマン物理学」を読む:電磁気学を中心として	竹内薫	講談社
195	電磁気学	多田泰芳:柴田尚志	コロナ社
196	電磁気学のABC:やさしい回路から「場」の考え方まで	福島肇	講談社
197	電磁気学	伊東敏雄	朝倉書店
198	わかる電磁気学	松川宏	サイエンス社
199	マクスウェル方程式:電磁気学のよりよい理解のために	北野正雄	サイエンス社
200	マンガでわかる電磁気学	遠藤雅守:真西まり	オーム社
201	6日でマスター! 電磁気学の基本66	土井淳	オーム社
202	電磁気学	佐川弘幸:本間道雄	丸善出版
203	電気磁気学:いかに使いこなすか	小野靖	数理工学社
204	電磁気学演習	小出昭一郎	裳華房
205	電磁気学	工藤博	理工図書
206	演習と応用電気磁気学	湯本雅恵:澤野憲太郎	数理工学社
207	電磁気学講義ノート:基本からわかる	市川紀充:岩崎久雄	オーム社
208	電磁気学ノート	長嶋秀世:伊藤稔	サイエンス社
209	電磁気学	松下貢	裳華房
210	マクスウェル方程式から始める電磁気学	小宮山進:竹川敦	裳華房
211	ひとりで学べる電磁気学:大切なポイントを余さず理解	中山正敏	講談社
212	技術者のための電磁気学入門	安永守利	コロナ社
213	電磁気学講義ノート	市田正夫	サイエンス社
214	電磁気学. 1	長岡洋介	岩波書店
215	電磁気学. 2	長岡洋介	岩波書店
216	電磁気学とベクトル解析	谷島賢二:吉田善章	共立出版
217	電磁気学講義ノート	高木淳:村中正	共立出版
218	わかりやすい電磁気学	脇田和樹:小田昭紀	ムイスリ出版
219	絵とき放射線のやさしい知識	飯田博美:安齋育郎	オーム社
220	わかりやすい電子物性:はじめて学ぶ電子工学	上野智雄	コロナ社
221	放射線物理学演習:特に計算問題を中心に	福田覚:前川昌之	医療科学社
222	わかりやすい放射線物理学	多田順一郎:中島宏	オーム社
223	放射線物理学	鬼塚昌彦:椎山謙一	共立出版
224	アイソトープ手帳	日本アイソトープ協会	日本アイソトープ協会
225	生命科学のための基礎化学	原田義也	東京大学出版会
226	生理学・生化学につながるていねいな化学	白戸亮吉:小川由香里	羊土社
227	まるわかり! 基礎化学	田中永一郎:松岡雅忠	南山堂
228	水素分子はかなりすごい:生命科学と医療効果の最前線	深井有	光文社
229	輻射輸送と輻射流体力学	梅村雅之:福江純	日本評論社
230	再生医療のためのバイオエンジニアリング	赤池敏宏	コロナ社
231	生物学:ヒトと環境の生命科学	川崎祥二:古庄律	建帛社
232	これだけはおさえたい! 生命科学:身近な話題から学ぶ	武村政春:奥田宏志	実教出版
233	医薬系のための生物学	丸山敬:松岡耕二	裳華房
234	まるわかり! 基礎生物	小林秀明:小林直人	南山堂
235	生命科学入門	池北雅彦:武村政春	丸善出版

番号	書名	著者名	出版社名
236	池上彰が聞いてわかった生命のしくみ:東工大で生命科学を学ぶ	池上彰:岩崎博史	朝日新聞出版
237	医療・看護系のための生物学	田村隆明	裳華房
238	エッセンシャル・キャンベル生物学	エリック・J. サイモン	丸善出版
239	教養としての生命科学:いのち・ヒト・社会を考える	小泉修	丸善出版
240	生命科学の静かなる革命	福岡伸一	集英社インターナショナル
241	演習で学ぶ生命科学:物理・化学・数理からみる生命科学入門	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
242	キャンベル生物学	ジェーン・B. リース:池内昌彦	丸善出版
243	わかる!身につく!生物・生化学・分子生物学	田村隆明	南山堂
244	生命科学概論:環境・エネルギーから医療まで	早稲田大学先進理工学部生命医科学科	朝倉書店
245	ビジュアルコア生物学	E. J. サイモン:八杉貞雄	東京化学同人
246	生物学入門	嶋田正和:上村慎治	東京化学同人
247	知識ゼロからの東大講義 そうだったのか!ヒトの生物学	坪井貴司	丸善出版
248	理系総合のための生命科学:分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
249	現代生命科学	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
250	モリス生物学:生命のしくみ	ジェームス・R. モリス	東京化学同人
251	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学	和田勝(動物学)	羊土社
252	生理学・生化学につながるていねいな生物学	白戸亮吉:小川由香里	羊土社
253	小説みたいに楽しく読める生命科学講義	石浦章一	羊土社
254	安らぎの生命科学	柳澤桂子	早川書房
255	ImageJではじめる生物画像解析	三浦耕太:塚田祐基	学研メディカル秀潤社
256	スタンダードフローサイトメトリー	日本サイトメトリー技術者認定協議会	医歯薬出版
257	ライフサイエンス顕微鏡学ハンドブック	山科正平:高田邦昭	朝倉書店
258	生命科学の実験デザイン	G. D. ラクストン:N. コルグレイヴ	名古屋大学出版会
259	現代生物科学入門. 7	浅島誠:黒岩常祥	岩波書店
260	理論生物学:生命科学の新しい潮流	望月敦史	共立出版
261	生物学と生命観	小田隆治	培風館
262	老化生物学:老いと寿命のメカニズム	ロジャー・B. マクドナルド	メディカル・サイエンス・インターナショナル
263	生命、微動だにせず:人工知能を凌駕する生命	郡司幸夫	青土社
264	生物統計学入門:ハーバード大学講義テキスト	マルチェッロ・バガノ:キンバリー・ゲープリュール	丸善出版
265	生物統計学入門	上村賢治:高野泰	オーム社
266	生命科学で使えるはじめての数理モデルとシミュレーション	鈴木貴:久保田浩行	羊土社
267	カエル教える生物統計コンサルテーション	毛呂山学	羊土社
268	再生医療のための細胞生物学	関口清俊	コロナ社
269	幹細胞と再生医療	中辻憲夫	丸善出版
270	分子細胞生物学	ハーヴィ・ロディッシュ	東京化学同人
271	数でとらえる細胞生物学	舟橋啓:ロン・ミロ	羊土社
272	Essential細胞生物学	中村桂子(生命誌):松原謙一	南江堂
273	オートファジー:分子メカニズムの理解から病態の解明まで	大隅良典:吉森保	南山堂
274	細胞死-Cell Death-:その分子機構、生理機能、病態制御	三浦正幸:清水重臣	化学同人
275	再生医療のための発生生物学	浅島誠	コロナ社
276	発生生物学:基礎から応用への展開	塩尻信義:弥益恭	培風館
277	生命の起源と生化学	アレクサンドル・イワノヴィッチ・オバーリ	岩波書店
278	図解生化学:これだけは知っておきたい	江島洋介	オーム社
279	マンガでわかる生化学	武村政春:菊野郎	オーム社
280	ベーシック生化学	畑山巧	化学同人
281	生化学・分子生物学演習	猪飼篤:野島博	東京化学同人
282	よくわかる生化学:分子生物学的アプローチ	藤原晴彦	サイエンス社

番号	書名	著者名	出版社名
283	標準生化学	藤田道也	医学書院
284	生化学・分子生物学	伊東蘆一・木元幸一	建帛社
285	ホートン生化学	ローレンス・A. モラン	東京化学同人
286	よくわかるスタンダード生化学	有坂文雄	裳華房
287	生化学ドリル: スッキリわかる! ゲンゲン身につく!	田村隆明	南山堂
288	エリオット生化学・分子生物学	デスポ・ババクリストドウロウ	東京化学同人
289	イラストレイテッド ハーパー・生化学	ハロルド・アンソニー・ハーパー	丸善出版
290	はじめの一步の生化学・分子生物学	前野正夫・磯川桂太郎	羊土社
291	解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理	岡田隆夫	羊土社
292	コンパクト生化学 改訂第4版	大久保岩男・賀佐伸省	南江堂
293	生化学きほんノート	浅賀宏昭	南山堂
294	ヴォート基礎生化学	ドナルド・ヴォート	東京化学同人
295	生物を知るための生化学	池北雅彦・榎並勲	丸善出版
296	生化学	藺田勝	羊土社
297	生化学ノート	藺田勝	羊土社
298	マクマリー生化学反応機構: ケミカルバイオロジーによる理解	ジョン・マクマリー	東京化学同人
299	生化学の論理: 物理化学の視点	日本化学会: 八木達彦	共立出版
300	エッセンシャル生化学	シャーロット・W. プラット	東京化学同人
301	ストライヤー生化学	ジェレミー・M. バーグ	東京化学同人
302	イラストレイテッド生化学	デニス・R. フェリアー	丸善出版
303	ブラウン生化学	テリー・ブラウン: 新井洋由	化学同人
304	入門生化学	佐藤健	裳華房
305	量子生化学	ベルナルド・プルマン	地人書館
306	コンパス生化学	前田正知: 浅野真司	南江堂
307	基礎講義生化学: アクティブラーニングにも対応	井上英史	東京化学同人
308	ミースフェルド生化学	ロジャー・L. ミースフェルト	東京化学同人
309	これだけ! 生化学	稲垣賢二	秀和システム
310	生化学辞典	大島泰郎: 今堀和友	東京化学同人
311	生化学実験	林淳三: 浅野勉	建帛社
312	生化学実験	後藤潔: 奥野悦生	建帛社
313	再生医療のための分子生物学	仲野徹	コロナ社
314	細胞の中の分子生物学: 最新・生命科学入門	森和俊	講談社
315	基礎分子生物学	田村隆明: 村松正実	東京化学同人
316	基礎講義分子生物学: アクティブラーニングにも対応	田中弘文: 井上英史	東京化学同人
317	現代人のための放射線生物学	小松賢志	京都大学学術出版会
318	放射線生物学	森田明典: 坂野康昌	共立出版
319	臨床プロテオミクス: バイオマーカー探索から個別化医療へ	日本臨床プロテオーム研究会	金原出版
320	Essentialタンパク質科学	マイク・ウィリアムソン	南江堂
321	糖鎖生物学: 生命現象と糖鎖情報	北島健: 佐藤ちひろ	名古屋大学出版会
322	これからの微生物学: マイクロバイオータからCRISPRへ	パスカル・コサール: 矢倉英隆	みすず書房
323	ウイルスの意味論: 生命の定義を超えた存在	山内一也	みすず書房
324	一目でわかる臨床遺伝学	ドリアン・J. プリチャード	メディカル・サイエンス・インターナショナル
325	新遺伝医学やさしい系統講義19講	福嶋義光: 櫻井晃洋	メディカル・サイエンス・インターナショナル
326	遺伝医学への招待	新川詔夫: 太田亨	南江堂
327	トンプソン&トンプソン遺伝医学	ロバート・L. ナスバウム	エルゼビア・ジャパン
328	基礎から学ぶ遺伝子工学	田村隆明	羊土社
329	医療応用をめざすゲノム編集: 最新動向から技術・倫理的課題まで	真下知士: 金田安史	化学同人

番号	書名	著者名	出版社名
330	遺伝子:NHKスペシャル人体2	NHKスペシャル「人体」取材班	医学書院
331	ゲノムが語る生命像:現代人のための最新・生命科学入門	本庶佑	講談社
332	ゼロから実践する遺伝統計学セミナー:疾患とゲノムを結びつける	岡田随象	羊土社
333	突然変異主導進化論:進化論の歴史と新たな枠組み	根井正利:鈴木善幸	丸善出版
334	アメーバのはなし:原生物・人・感染症	永宗喜三郎:島野智之	朝倉書店
335	ゼブラフィッシュの発生遺伝学	弥益恭	裳華房
336	医学概論	江部充	コロナ社
337	医療情報	板井孝彦郎:村岡潔	丸善出版
338	基礎から学ぶ医療情報	金谷孝之:服部建大	共立出版
339	医療情報サブノート	日本医療情報学会医療情報技術師育成部会	篠原出版新社
340	医療情報管理	野田雅司:伊藤敦子	建帛社
341	医療情報学入門	樺澤一之:豊田修一	共立出版
342	医療従事者のための情報リテラシー	森由紀:中村健壽	日経BP
343	ヘルマン医療人類学:文化・健康・病い	セシル・G・ヘルマン:辻内琢也	金剛出版
344	医療情報 医学医療編	日本医療情報学会医療情報技術師育成部会	篠原出版新社
345	はじめての医学	木南凌	メディカル・サイエンス・インターナショナル
346	医療情報	日本医療情報学会医療情報技術師育成部会	篠原出版新社
347	学生のための医療概論	小橋元:近藤克則	医学書院
348	医療人の基礎知識	鈴鹿医療科学大学底力教育推進センター	三重大学出版会
349	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論	北村諭	中外医学社
350	具体例からはじめる患者と医療従事者のためのインフォームド・コンセント取扱説明書	谷田憲俊	診断と治療社
351	誰も教えてくれなかったスピリチュアルケア	岡本拓也	医学書院
352	看護師・コメディカルのための医療心理学入門	野口普子	金剛出版
353	健康・医療心理学	岸太一:藤野秀美	ナカニシヤ出版
354	いのちを“つくって”もいいですか?:生命科学のジレンマを考える哲学講義	島蘭進	NHK出版
355	WMA医の倫理マニュアル	ジョン・R. ウィリアムズ	日本医師会
356	医療倫理/臨床倫理:医療人としての基礎知識	箕岡真子	日本医療企画
357	生命倫理と医療倫理	伏木信次:櫻則章	金芳堂
358	医療倫理超入門	マイケル・ダントニー・ホープ	岩波書店
359	生命倫理への招待	塩野寛:清水恵子	南山堂
360	死は共鳴する:脳死・臓器移植の深みへ	小松美彦	勁草書房
361	いのちの選択:今、考えたい脳死・臓器移植	小松美彦:市野川容孝	岩波書店
362	脳死・臓器移植Q&A50:ドナーの立場で“いのち”を考える	臓器移植法を問直す市民ネットワーク	海鳴社
363	ケースブック臨床倫理:救急・集中治療	氏家良人:前田正一	克誠堂出版
364	カミとヒトの解剖学	養老孟司	法蔵館
365	マンガで学ぶ医療統計	高橋麻奈:春瀬サク	みみずく舎
366	医療統計学入門:エビデンスを正しく見分けるための考え方	比江島欣慎	オーム社
367	医薬データ解析のためのベイズ統計学	エマニュエル・ルサッフル	共立出版
368	わかりやすいデータ解析と統計学	高橋龍尚	オーム社
369	医学・薬学系のための生物統計学入門	今野秀二:味村良雄	ムイスリ出版
370	親切的な医療統計学	奥田千恵子(医療統計学)	金芳堂
371	基礎医学統計学	加納克己:高橋秀人	南江堂
372	論文を正しく読み書くためのやさしい統計学	中村好一	診断と治療社
373	いちばんやさしい医療統計:徹底図解	吉田寛輝	アトムス
374	医薬データのための統計解析	ジョン・M. ラシーン:宮岡悦良	共立出版
375	超入門!すべての医療従事者のためのRStudioではじめる医療統計	笹渕裕介:大野幸子	金芳堂
376	医療統計解析使いこなし実践ガイド:臨床研究で迷わないQ&A	対馬栄輝	羊土社

番号	書名	著者名	出版社名
377	医学的研究のための多変量解析	ミッチェル・H. カッツ:木原正博	メディカル・サイエンス・インターナショナル
378	ねころんで読める医療統計:Dr. 浅井の本当にやさしい	浅井隆(医師)	メディカ出版
379	たったこれだけ! 医療統計学	マイケル・ハリス	金芳堂
380	StatMateによる実例で学ぶ医療統計:Ver. 5対応	高橋泰生	アトムス
381	今日から使える医療統計	新谷歩	医学書院
382	フリーソフトRを使ったららくらく医療統計解析入門	大榎陽一	中山書店
383	ここから学ぼう! 図解医療統計:本気で統計を始めたい人のための入門書	柳澤尚武:西崎祐史	総合医学社
384	入門医療統計学	森実敏夫	東京図書
385	超入門! Rでできるビジュアル統計学	藤井亮輔:鈴木康司	金芳堂
386	医療経営史:医療の起源から巨大病院の出現まで	酒井シヅ	日本医療企画
387	図説医学の歴史	坂井建雄	医学書院
388	医学 歴史と未来	井村裕夫	羊土社
389	医学英語論文表現法辞典	大井静雄	南山堂
390	医学英語表現辞典	横井川泰弘	金芳堂
391	ブラクティカル医学英語辞典	羽白清	金芳堂
392	Mini Note医学・看護略語:5,000語収録!	「月刊ナーシング」編集部	学研メディカル秀潤社
393	ブラクティカル医学略語辞典	後藤幸生	南山堂
394	ポケット英和医学用語・略語辞典	「ポケット英和医学用語・略語辞典」編集委	南山堂
395	医療系学生のための医療専門用語いかけ辞典	大久保恵美子	メヂカルフレンド社
396	臨床・カルテ・レセプト略語事典		医学通信社
397	人工知能時代の医療と医学教育	高橋優三	篠原出版新社
398	医学英語読解15のポイント	名木田恵理子:助川尚子	メジカルビュー社
399	医学英語:講義録. 1	日本医学英語教育学会	メジカルビュー社
400	やさしい医学英語	青野淳子:青野淳子	医学書院
401	質的研究と量的研究のエビデンスの統合	キャサリン・ポーブ	医学書院
402	キクタンメディカル:聞いて覚える医学英単語. 1	高橋玲	アルク(千代田区)
403	キクタンメディカル:聞いて覚える医学英単語. 2	高橋玲	アルク(千代田区)
404	基本の101語を組み合わせて学ぶ医学英語	津波古澄子	日本看護協会出版会
405	Dr. リトルが教える医学英語スピーキングが素晴らしく上達する方法	ドーリック・リトル:町淳二	羊土社
406	和英で引ける医学英語フレーズ辞典:もうプレゼンで困らない!	伊達勲	メジカルビュー社
407	そのまま使える病院英語表現5000	森島祐子:仁木久恵	医学書院
408	動詞で究める医学英語writing	小林充尚	メジカルビュー社
409	医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト. Step 1	日本医学英語教育学会	メジカルビュー社
410	医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト. Step 2	日本医学英語教育学会	メジカルビュー社
411	学生のためのカレントメディカルイングリッシュ	飯田恭子(健康科学)	医学書院
412	Dr. 押味のあなたの医学英語なんとかします!	押味貴之	メジカルビュー社
413	アクセプト率をグッとアップさせるネイティブ発想の医学英語論文	前平謙二	メディカ出版
414	医療系のための物理学入門	木下順二	講談社
415	トラブルに巻き込まれない著作権のキホン:医療従事者のギモンに答える!	服部誠	南山堂
416	やさしいメディカル英語	高木久代	講談社
417	医療英会話キーワード辞典:そのまま使える16000例文	森島祐子:仁木久恵	医学書院
418	臨床論文のMethodsを読むMethod	笹渕裕介	メディカル・サイエンス・インターナショナル
419	うまい英語で医学論文を書くコツ:世界の一流誌に採択されるノウハウ	植村研一	医学書院
420	7か国語対応イラスト会話・単語帳:メディカルスタッフ必携	宮川真奈美	学研メディカル秀潤社
421	医療者のためのExcel入門:超・基礎から医療データ分析まで	田久浩志	医学書院
422	実践多職種連携教育	寺崎文生:赤澤千春	中外医学社
423	Dr. セザキング直伝! 最強の医学英語学習メソッド	瀬寄智之	医学書院

番号	書名	著者名	出版社名
424	医療従事者のためのベーシックイングリッシュ	小澤淑子	オーム社
425	すぐに使える診療英語	加藤秀一	南山堂
426	臨床研究の教科書:研究デザインとデータ処理のポイント	川村孝	医学書院
427	医師・医学生のための人工知能入門	北澤茂	中外医学社
428	逆転発想法で攻略医学英語執筆のためのときめく実践例文集	小出徹	じほう
429	医療系スタッフのための情報システム入門:コンピュータで何ができるか	嶋津秀昭	学研メディカル秀潤社
430	事例で学ぶ医療者のためのWeb会議システム活用メソッド	磯部真倫	中外医学社
431	必ずアクセプトされる医学英語論文:完全攻略50の鉄則	康永秀生	金原出版
432	必ず読めるようになる医学英語論文:究極の検索術×読解術	康永秀生	金原出版
433	スライド作成テクニック100:学会発表, プレゼンに自信がもてる	石木寛人	南山堂
434	臨床論文を批判的吟味するためのMethod Journal clubをやってみよう	安田英人	メディカル・サイエンス・インターナショナル
435	医学英語の基本用語と表現:これだけは知っておきたい	藤枝宏壽:玉巻欣子	メジカルビュー社
436	マウス組織アトラス	岩永敏彦:小林純子	医学書院
437	マウス・ラットモデル作製・解析プロフェッショナル	先端モデル動物支援プラットフォーム	羊土社
438	日本医学英語検定試験3・4級教本	日本医学英語教育学会	メジカルビュー社
439	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 1	医療情報科学研究所	メディックメディア
440	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 5	医療情報科学研究所	メディックメディア
441	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 7	医療情報科学研究所	メディックメディア
442	基本がわかる漢方医学講義	日本漢方医学教育協議会	羊土社
443	人体の構造と機能	下正宗:前田環	医学書院
444	人体解剖ビジュアル:からだの仕組みと病気	松村讓兒	サイオ出版
445	人体の構造と機能	坂井建雄:岡田隆夫	放送大学教育振興会
446	コアカリ準拠Dr. ミカミの動画で学ぶ基礎医学 生命科学編	三上貴浩	医学書院
447	人体解剖学実習書	中河志朗:中河志朗	金芳堂
448	スネル臨床解剖学	リチャード・S. スネル	メディカル・サイエンス・インターナショナル
449	アトラス解剖学:人体の構造と機能	エルケ・リューティエン・ドレコール	西村書店(新潟)
450	人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂
451	解剖学教室へようこそ	養老孟司	筑摩書房
452	解剖学イラスト事典	松村讓兒	中外医学社
453	解剖学ワークブック	佐々木和信	中外医学社
454	ネッター解剖学カラーリングテキスト	ジョン・T. ハンセン:相磯貞和	南江堂
455	臨床につながる解剖学イラストレイテッド	松村讓兒	羊土社
456	人体解剖学実習:要点と指針	大谷修	南江堂
457	わかる!解剖生理用語チェック1000	飯島治之	医歯薬出版
458	解剖学講義	伊藤隆(解剖学)	南山堂
459	集中講義解剖学:カラーイラストで学ぶ	坂井建雄	メジカルビュー社
460	解剖学アトラス	ヴェルナー・ブラッツァー	文光堂
461	解剖学はじめの一步:医療職をめざす人の	坂井建雄	日本医事新報社
462	解剖学きほんノート	安谷屋均	南山堂
463	メディカルマスター解剖学	大谷修:佐藤達夫	オーム社
464	カラーアトラス人体:解剖と機能	横地千仞	医学書院
465	体表からわかる人体解剖学	リチャード・タンストール	南江堂
466	解剖学ワークブック	西川彰:小林直行	医歯薬出版
467	人体の構造と機能	エレイン・N. マリーブ	医学書院
468	解剖学スケッチ練習帳	金光秀晃:葛西一隆	共立出版
469	解剖学	澤田和彦:坂田ひろみ	理工図書
470	解剖生理をおもしろく学ぶ	増田敦子	サイオ出版

番号	書名	著者名	出版社名
471	人体解剖学ノート	清木勲治	金芳堂
472	いらすと！はじめての解剖学	松村譲児	テコム出版事業部
473	グラント解剖学図譜	ジョン・チャールズ・ボワロー・グラント	医学書院
474	解剖学カラーアトラス	ヨハネス・W. ローエン	医学書院
475	パンスキー ジェスト解剖学:基礎と臨床に役立つ. 1	ベン・パンスキー	西村書店(新潟)
476	パンスキー ジェスト解剖学:基礎と臨床に役立つ. 2	ベン・パンスキー	西村書店(新潟)
477	パンスキー ジェスト解剖学:基礎と臨床に役立つ. 3	ベン・パンスキー	西村書店(新潟)
478	臨床のための解剖学	キース・L. ムア	メディカル・サイエンス・インターナショナル
479	看護のためのからだの正常・異常ガイドブック	山田幸宏	サイオ出版
480	解剖学:人体の構造と機能	渡辺皓	サイオ出版
481	からだの地図帳 解剖学用語	佐藤達夫	講談社
482	ムーア臨床解剖学	キース・L. ムア	メディカル・サイエンス・インターナショナル
483	ネッター解剖学セット版:アトラス・別冊学習の手引き	フランク・H. ネッター:相磯貞和	エルゼビア・ジャパン
484	ネッター解剖学アトラス	フランク・H. ネッター:相磯貞和	エルゼビア・ジャパン
485	生命科学ただいま講義中	岡田安弘	金芳堂
486	OD版 解剖学の手びき	寺田春水著:池田敏子著	南山堂
487	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系	ミハエル・シュンケ	医学書院
488	ネッター解剖学カードブック:電子版付	フランク・H. ネッター	エルゼビア・ジャパン
489	標準解剖学	坂井建雄	医学書院
490	ブラクティカル解剖実習		丸善出版
491	人体の解剖生理学	木山博資:遠山正弥	金芳堂
492	面白くて眠れなくなる解剖学	坂井建雄	PHPエディターズ・グループ
493	3D解剖アトラス:3Dメガネ付	横地千仞	医学書院
494	イラストでまなぶ解剖学	松村譲児	医学書院
495	解剖生理:人体のしくみとはたらき	芹澤雅夫	サイオ出版
496	ヒューマンボディ:からだがわかる解剖生理学	バーバラ・ハーリヒ:坂井建雄	エルゼビア・ジャパン
497	カラーで学ぶ解剖生理学	ケビン・T. パットン	エルゼビア・ジャパン
498	解剖学	清木勲治	金芳堂
499	学生のための解剖・組織・発生学	諏訪文彦:竹村明道	医歯薬出版
500	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 解剖学	五味敏明:岸清	中外医学社
501	プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部	エリック・W. ベーカー	医学書院
502	人体の構造と機能	内田さえ	医歯薬出版
503	解剖学	坂井建雄:町田志樹	羊土社
504	プロメテウス解剖学コアアトラス	アン・M. ギルロイ	医学書院
505	解剖学	秋田恵一:星治	医歯薬出版
506	プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖	ミハエル・シュンケ	医学書院
507	プロメテウス解剖学アトラスコンパクト版	坂井建雄	医学書院
508	トートラ人体の構造と機能	ジェラルド・J. トートラ	丸善出版
509	プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト	中野隆	医学書院
510	ステップアップ解剖生理学ノート	増田敦子	サイオ出版
511	グレイ解剖学:電子書籍付き(日本語・英語版)	リチャード・L. ドレイク	エルゼビア・ジャパン
512	イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき	田中越郎	医学書院
513	プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部	ミハエル・シュンケ	医学書院
514	解剖学の基本:運動・からだ図解	松村譲児	マイナビ出版
515	解剖生理学:人体の構造と機能	志村二三夫:岡純	羊土社
516	解剖生理学ノート:人体の構造と機能	志村二三夫:岡純	羊土社
517	日本人体解剖学. 上巻	金子丑之助:金子勝治	南山堂

番号	書名	著者名	出版社名
518	日本人体解剖学. 下巻	金子丑之助:金子勝治	南山堂
519	トートラ人体解剖生理学	ジェラルド・J. トートラ	丸善出版
520	あたらしい人体解剖学アトラス	トーマス・R. ゲスト:佐藤達夫	メディカル・サイエンス・インターナショナル
521	エッセンシャル解剖・生理学	堀川宗之	学研メディカル秀潤社
522	医療系学生のための解剖見学実習ノート	千田隆夫:小村一也	アドスリー
523	人体解剖カラーリングブック	T. アラン・ツウィートメイヤー	丸善出版
524	イラストレイテッド解剖学	ケリー・M. ハーレル	丸善出版
525	人体解剖カラーアトラス:電子書籍付	ピーター・ハーバート・エーブラハム	南江堂
526	ソボッタ解剖学アトラス:電子書籍付. 第1巻	フリードリッヒ・パウルゼン	丸善出版
527	カラー図解人体の正常構造と機能[全10巻縮刷版]	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
528	カラー図解人体の正常構造と機能. 1	牛木辰男:小林弘祐	日本医事新報社
529	カラー図解人体の正常構造と機能. 2	大谷修:堀尾嘉幸	日本医事新報社
530	カラー図解人体の正常構造と機能. 3	河原克雅:佐々木克典	日本医事新報社
531	カラー図解人体の正常構造と機能. 4	泉井亮:妹尾春樹	日本医事新報社
532	カラー図解人体の正常構造と機能. 5	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
533	カラー図解人体の正常構造と機能. 6	年森清隆:川内博人	日本医事新報社
534	カラー図解人体の正常構造と機能. 7	山本一彦:松村讓兒	日本医事新報社
535	カラー図解人体の正常構造と機能. 8	河田光博:稲瀬正彦	日本医事新報社
536	カラー図解人体の正常構造と機能. 9	久野みゆき:安藤啓司	日本医事新報社
537	カラー図解人体の正常構造と機能. 10	坂井建雄:宮本賢一	日本医事新報社
538	イラスト解剖学	松村讓兒	中外医学社
539	グレイ解剖学アトラス:電子書籍付き	リチャード・L. ドレイク	エルゼビア・ジャパン
540	幹細胞技術の標準化:再生医療への期待	田中正躬:堀友繁	日本規格協会
541	再生医療叢書. 1	日本再生医療学会	朝倉書店
542	再生医療叢書. 2	日本再生医療学会	朝倉書店
543	再生医療叢書. 3	日本再生医療学会	朝倉書店
544	再生医療叢書. 4	日本再生医療学会	朝倉書店
545	再生医療叢書. 5	日本再生医療学会	朝倉書店
546	再生医療叢書. 6	日本再生医療学会	朝倉書店
547	再生医療叢書. 7	日本再生医療学会	朝倉書店
548	再生医療叢書. 8	日本再生医療学会	朝倉書店
549	再生医療技術の最前線	岡野光夫:大和雅之	シーエムシー出版
550	幹細胞研究と再生医療	中内啓光	南山堂
551	もっとよくわかる! 幹細胞と再生医療	長船健二	羊土社
552	標準組織学. 総論	藤田尚男:藤田恒夫	医学書院
553	再生医療と疾患解明の鍵となる組織幹細胞	戸口田淳也:長澤丘司	羊土社
554	標準組織学. 各論	藤田尚男:藤田恒夫	医学書院
555	クルスティッチ立体組織学アトラス	R. クルスティッチ:牛木辰男	西村書店(新潟)
556	新編カラーアトラス組織・細胞学	岩永敏彦:木村俊介	医歯薬出版
557	培養細胞による治療	ハワード・グリーン:大和雅之	コロナ社
558	カラーポケット組織学	リサ・M・J・リー:樋田一徳	西村書店(新潟)
559	再生医療とリハビリテーション	再生医療とリハビリテーション研究会	三輪書店
560	再生医療・細胞医療の研究と産業化の最前線	先進医療フォーラム	日本医学出版
561	ジュンケイラ組織学	ルイズ・カルロス・ジュンケイラ	丸善出版
562	カラー図解人体の細胞生物学	坂井建雄:石崎泰樹	日本医事新報社
563	組織学	阿部和厚:牛木辰男	南山堂
564	Ross組織学	マイケル・H. ロス	南江堂

番号	書名	著者名	出版社名
565	本当に知ってる？細胞を培養する方法	古江一楠田美保	じほう
566	バーチャルスライド 組織学	駒崎伸二	羊土社
567	新組織学:フルカラー新装版	野上晴雄:藤原研	日本医事新報社
568	細胞培養実習テキスト	日本組織培養学会	じほう
569	イメカラ:イメージするカラダのしくみ. 循環器	医療情報科学研究所	メディックメディア
570	循環器のしくみ:運動・からだ図解	阿古潤哉	マイナビ出版
571	血管インパクト:イラストと雑学で楽しく学ぶ解剖学	原田晃	医道の日本社
572	イラストと画像でみる血管内治療に必要な全身血管	阿古潤哉	メディカ出版
573	イメカラ:イメージするカラダのしくみ. 呼吸器	医療情報科学研究所	メディックメディア
574	イメカラ:イメージするカラダのしくみ. 消化管	医療情報科学研究所	メディックメディア
575	消化器のしくみ:運動・からだ図解	山田篤生	マイナビ出版
576	イメカラ:イメージするカラダのしくみ. 肝・胆・膵	医療情報科学研究所	メディックメディア
577	イメカラ:イメージするカラダのしくみ. 腎臓	医療情報科学研究所	メディックメディア
578	腎と泌尿器のしくみ:運動・からだ図解	東間紘	マイナビ出版
579	新骨の科学	須田立雄:小沢英浩	医歯薬出版
580	骨学のすゝめ	中野隆	南江堂
581	コメディカルのための筋・骨格・関節・靭帯ポケットアトラス	飯島治之:飯島美樹	技術評論社
582	マッスルインパクト:イラストと雑学で楽しく学ぶ解剖学	原田晃	医道の日本社
583	骨格筋ハンドブック:機能解剖からエクササイズまで一目でわかる	クリス・ジャーメイ	南江堂
584	神経解剖学講義ノート:カラー図解	寺島俊雄	金芳堂
585	マーティン カラー神経解剖学:テキストとアトラス	ジョン・H. マーチン:野村巖	西村書店(新潟)
586	神経解剖学	アラン・R. クロスマン	エルゼビア・ジャパン
587	臨床のための脳と神経の解剖学	ポールA. ヤング	メディカル・サイエンス・インターナショナル
588	ハインズ神経解剖学アトラス	デュアン・E. ハインズ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
589	神経科学:脳の探求 カラー版	マーク・F. ベアー	西村書店(新潟)
590	脳神経科学がわかる、好きになる	櫻井武	羊土社
591	触診解剖アトラス	セルジュ・ティクサ:奈良勲	医学書院
592	ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス	ニール・S・ノートン:前田健康	医歯薬出版
593	ムーア人体発生学	キース・L. ムア	医歯薬出版
594	ラングマン人体発生学	ジャン・ラングマン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
595	人体発生学講義ノート:カラー図解	塩田浩平	金芳堂
596	新先天性心疾患を理解するための臨床心臓発生学	山岸敬幸:白石公	メジカルビュー社
597	医用生体工学	神谷瞭:井街宏	培風館
598	生体用センサと計測装置	山越憲一:戸川達男	コロナ社
599	生体計測学	金井寛	コロナ社
600	生体計測装置学	石原謙(医学)	医歯薬出版
601	バイオメカニクス:機械工学と生物・医学の融合	立石哲也	オーム社
602	生体物性・医用材料工学	中島章夫:氏平政伸	医歯薬出版
603	ヒト心身状態の計測技術:人に優しい製品開発のための日常計測	牧川方昭:吉田正樹	コロナ社
604	バイオメカニクス入門	林紘三郎	コロナ社
605	生体機械工学入門	橋本成広	コロナ社
606	やりなおしからのなぜ?がわかる生化学・生理学超基本	岩田恵里子:宮澤恵二	メディカ出版
607	生体システム工学の基礎	福岡豊:内山孝憲	コロナ社
608	生理学:人体の構造と機能	片野由美:内田勝雄	サイオ出版
609	オックスフォード・生理学	ギリアン・ポーコック	丸善出版
610	N教授の生理学講義ノート:人体のしくみとしかけをわかりやすく伝授	二宮治明	日本医事新報社
611	目でみるからだのメカニズム	堺章	医学書院

番号	書名	著者名	出版社名
612	イラストでまなぶ生理学	田中越郎	医学書院
613	生理学実習NAVI		医歯薬出版
614	生理学テキスト	大地陸男	文光堂
615	カラー図解よくわかる生理学の基礎	ステファン・シルバーナグル	メディカル・サイエンス・インターナショナル
616	ギャノン生理学	ウィリアム・F. ギャノン	丸善出版
617	やさしい生理学	彼末一之:能勢博	南江堂
618	人体生理学ノート	岡田隆夫	金芳堂
619	生理学	奈良信雄:和田隆志	医歯薬出版
620	ガイトン生理学:電子書籍付き	アーサー・C. ガイトン	エルゼビア・ジャパン
621	○×問題でマスター生理学	志村まゆら	医歯薬出版
622	症例問題から学ぶ生理学	リンダ・S. コスタゾ	丸善出版
623	標準生理学	本間研一	医学書院
624	新生理学	竹内昭博	日本医事新報社
625	コスタゾ明解生理学	リンダ・S. コスタゾ:林俊宏	エルゼビア・ジャパン
626	ステップアップ生理学ノート:しくみとはたらき総まとめ	増田敦子	サイオ出版
627	生理学の基本:オールカラー	中島雅美	マイナビ出版
628	人体の力学:基礎から学ぶバイオメカニクス	松井剛一:照井直人	コロナ社
629	生体物性/医用機械工学	池田研二:嶋津秀昭	学研メディカル秀潤社
630	シンプル生理学	貴邑富久子:根来英雄	南江堂
631	解剖生理学・病理学:人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	加藤昌彦(食生活学)	第一出版(千代田区)
632	イラストレイテッド生理学	ロビン・R. プレストン	丸善出版
633	臨床工学技士のための生体物性	村林俊:三田村好矩	コロナ社
634	なんでやねん! 根拠がわかる解剖学・生理学要点50	川畑龍史:濱路政嗣	メディカ出版
635	なるほどなっとく! 解剖生理学	多久和典子:多久和陽	南山堂
636	解剖生理学:医療従事者のための	J. モイニ:松本純夫	東京化学同人
637	ほんまかいな! 根拠がわかる解剖学・生理学要点39	川畑龍史:濱路政嗣	メディカ出版
638	学生の声を聞いてつくった解剖生理学:確認問題つき	安谷屋均	南山堂
639	生体のしくみ標準テキスト:新しい解剖生理	高松研:堀内ふき	医学映像教育センター
640	臨床にダイレクトにつながる循環生理:たったこれだけで、驚くほどわかる!	リチャード・E. クラブド	羊土社
641	臨床診断力で差をつける! 循環器医のための実践臨床循環生理学	大手信之	メジカルビュー社
642	血液細胞症例集	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
643	血液細胞アトラス	通山薫:張替秀郎	文光堂
644	尾崎塾血液ガス・酸塩基平衡教室	尾崎孝平	メディカ出版
645	イメカラ血液:イメージするカラダのしくみ	医療情報科学研究所	メディックメディア
646	麻酔科医・集中治療医に必要な血液凝固、抗凝固、線溶系が分かる本	武田純三	真興交易医書出版部
647	心筋細胞の電気生理学:イオンチャネルから、心電図、不整脈へ	山下武志	メディカル・サイエンス・インターナショナル
648	血管再生治療:現状から未来を展望する	浅原孝之	診断と治療社
649	ウエスト呼吸生理学入門 疾患肺編	ジョン・B・ウエスト	メディカル・サイエンス・インターナショナル
650	麻酔・集中治療のための新呼吸・循環のダイナミズム	外須美夫	真興交易医書出版部
651	脳腸相関:各種メディエーター、腸内フローラから食品の機能性まで	内藤裕二	医歯薬出版
652	睥島の再生医療:睥β細胞の発生と再生をめぐる新展開	石井秀始:井村裕夫	診断と治療社
653	臨床がわかる腎生理	ジョン・ダンジガー	中外医学社
654	イメカラ内分・代謝:イメージするカラダのしくみ	医療情報科学研究所	メディックメディア
655	生殖補助医療技術学テキスト	荒木康久	医歯薬出版
656	ヘルスケアプロフェSSIONALのためのアンチエイジングQ&A	久保明	医歯薬出版
657	はじめての老化学・病理学:人間科学のためのライフサイエンス入門	千葉卓哉	コロナ社
658	抗加齢医学入門	米井嘉一	慶應義塾大学出版会

番号	書名	著者名	出版社名
659	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定試験対策問題集	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会	メディカルレビュー社
660	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2019 Vol. 15 No. 1		メディカルレビュー社
661	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2019 Vol. 15 No. 2		メディカルレビュー社
662	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2019 Vol. 15 No. 3		メディカルレビュー社
663	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2019 Vol. 15 No. 4		メディカルレビュー社
664	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2019 Vol. 15 No. 5		メディカルレビュー社
665	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2019 Vol. 15 No. 6		メディカルレビュー社
666	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2020 Vol. 16 No. 1		メディカルレビュー社
667	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2020 Vol. 16 No. 2		メディカルレビュー社
668	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2020 Vol. 16 No. 3		メディカルレビュー社
669	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2020 Vol. 16 No. 4		メディカルレビュー社
670	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2020 Vol. 16 No. 5		メディカルレビュー社
671	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2020 Vol. 16 No. 6		メディカルレビュー社
672	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2021 Vol. 17 No. 1		メディカルレビュー社
673	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2021 Vol. 17 No. 2		メディカルレビュー社
674	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2021 Vol. 17 No. 3		メディカルレビュー社
675	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2021 Vol. 17 No. 4		メディカルレビュー社
676	アンチ・エイジング医学:日本抗加齢医学会雑誌. 2021 Vol. 17 No. 5		メディカルレビュー社
677	骨の事典	鈴木隆雄:林泰史	朝倉書店
678	もっとよくわかる!脳神経科学:やっぱり脳はスゴイのだ!	工藤佳久	羊土社
679	脳神経系の再生医学:発生と再生の融合的新展開	河崎洋志:井村裕夫	診断と治療社
680	スタンフォード神経生物学	リチエン・ルオ:柚崎通介	メディカル・サイエンス・インターナショナル
681	運動学習の脳・神経科学:その基礎から臨床まで	大築立志:鈴木三央	市村出版
682	脳・神経のしくみ	石浦章一	マイナビ出版
683	脳・心・人工知能:数理で脳を解き明かす	甘利俊一	講談社
684	朝起きられない人のねむり学:一日24時間の賢い使い方	神山潤	新曜社
685	睡眠学:「眠り」の科学入門. 1	宮崎総一郎:北浜邦夫	北大路書房
686	摂食と健康の科学	高田明和	朝倉書店
687	睡眠学	日本睡眠学会	朝倉書店
688	楽しく学べる味覚生理学:味覚と食行動のサイエンス	山本隆	建帛社
689	活性酸素と運動	大野秀樹	杏林書院
690	再生医療と美容	上田実(医学)	南山堂
691	生化学:ヒトのからだの構成と働きを学ぶために	小野廣紀:千裕美	化学同人
692	生化学がわかる:基礎の基礎からしっかり理解できる!	田中越郎	技術評論社
693	生化学	津田道雄	金原出版
694	イラスト基礎からわかる生化学:構造・酵素・代謝	坂本順司	裳華房
695	生化学:からだの不思議を解き明かす	生田哲	じほう
696	カラー図解生化学ノート:書く!塗る!わかる!	森誠	講談社
697	生化学:人体の構造と機能	木元幸一:後藤潔	建帛社
698	わかりやすい生化学:疾病と代謝・栄養の理解のために	石黒伊三雄:篠原力雄	ヌーヴェルヒロカワ
699	集中講義生化学:カラーイラストで学ぶ. 改訂2版	鈴木敬一郎:本家孝一	マジカルビュー社
700	医学系のための生化学	石崎泰樹	裳華房
701	臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
702	レーニンジャーの新生化学:生化学と分子生物学の基本原理解. 上	中山和久	広川書店
703	レーニンジャーの新生化学:生化学と分子生物学の基本原理解. 下	デービッド・L. ネルソン	広川書店
704	医薬分子生物学	野島博	南江堂
705	基礎から学ぶ生化学	奥恒行:山田和彦	南江堂

番号	書名	著者名	出版社名
706	ここが知りたい！生化学：生命のふしぎを理解する	芝崎誠司	BookWay
707	シンプル生化学	林典夫：廣野治子	南江堂
708	生化学の基礎	岡純：曾根英行	建帛社
709	マークス臨床生化学	マイケル・リーパーマン	医学書院
710	つなげてみたらスルスルわかる！生化学・生理学・解剖学	橋本さとみ	学研メディカル秀潤社
711	スタディ生化学	渡邊敏明	建帛社
712	酸塩基平衡の考えかた：故きを・温ねて・Stewart	丸山一男	南江堂
713	ホルモンの事典	清野裕：千原和夫	朝倉書店
714	栄養療法にすぐ活かせるイラストホルモン入門	川崎英二	メディカ出版
715	ビジュアルホルモンのほたらきパーフェクトガイド	キャサリン・ウイットロック	日経ナショナルジオグラフィック社
716	代謝ガイドブック：栄養素からエネルギー生成・解毒・排泄までよくわかる	霜田幸雄	技術評論社
717	代謝ナビゲーション：ミトコンドリアを中心とする代謝ネットワーク	ナヴディーブ・S. チャンデル	メディカル・サイエンス・インターナショナル
718	忙しい人のための代謝学：ミトコンドリアがわかれば代謝がわかる	田中文彦	羊土社
719	生化学ー代謝ー	海本浩一：永田俊司	東京電機大学出版局
720	薬学で学ぶ病態生化学	林秀徳：渡辺泰裕	朝倉書店
721	薬理学	小池勝夫：荻原政彦	朝倉書店
722	薬理学	今井昭一	金原出版
723	ローレンス臨床薬理学	D. R. ローレンス	西村書店(新潟)
724	カラーイラストで学ぶくすりの作用メカニズム	平野和行：廣田耕作	医学書院
725	薬理学	辻本豪三：小池勝夫	医学書院
726	実践臨床薬理学	中谷晴昭：大橋京一	朝倉書店
727	疾患からみた臨床薬理学	大橋京一：藤村昭夫	じほう
728	カラー図解これならわかる薬理学	ハインツ・リュルマン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
729	薬理：薬物と看護	鈴木正彦(薬理学)	サイオ出版
730	薬理学：疾病の成り立ちと回復の促進	中嶋敏勝	医歯薬出版
731	集中講義薬理学：カラーイラストで学ぶ	渡邊康裕	メジカルビュー社
732	休み時間の薬理学	丸山敬	講談社
733	臨床薬理学：ハーバード大学講義テキスト	デービッド・E. ゴーラン	丸善出版
734	図解薬理学	鍋島俊隆：井上和秀	南山堂
735	イラストでまなぶ薬理学	田中越郎	医学書院
736	患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門	笹栗俊之	九州大学出版会
737	はじめる！つかえる！看護のための薬理学	時政孝行	南山堂
738	イラストレイテッド薬理学	リチャード・A. ハーヴェイ	丸善出版
739	〇×問題でマスター薬理学	山本浩一：大和谷厚	医歯薬出版
740	NEW薬理学	田中千賀子：加藤隆一	南江堂
741	くすりと薬理	海本浩一：岩谷博次	東京電機大学出版局
742	いちばんやさしい薬理学	木澤靖夫	成美堂出版
743	臨床薬理学	日本臨床薬理学会：小林真一	医学書院
744	マンガでわかる薬理学	枝川義邦：しおさき忍	オーム社
745	臨床薬物動態学	加藤隆一：家入一郎	南江堂
746	コメディカルのための薬理学	渡邊泰秀：安西尚彦	朝倉書店
747	ベッドサイドの薬理学	笹栗俊之：宮田篤郎	丸善出版
748	薬の作用が手に取るようにわかる本：絵で見る薬理学	黒山政一	じほう
749	薬物治療総論／症候・臨床検査／個別化医療：薬理・病態・薬物治療	乾賢一：赤池昭紀	中山書店
750	ラング・デール薬理学	H. P. ラング：J. M. リッター	エルゼビア・ジャパン
751	初めの一步は絵で学ぶ薬理学：疾患と薬の作用がひと目でわかる	黒山政一：香取祐介	じほう
752	新図解表説薬理学・薬物治療学	菱沼滋	エムスリーエデュケーション

番号	書名	著者名	出版社名
753	休み時間のワークブック薬理学	柳澤輝行:小橋史	講談社
754	シンプル薬理学	野村隆英:石川直久	南江堂
755	はじめの一歩の薬理学	石井邦雄:坂本謙司	羊土社
756	イラストで理解するかみくだき薬理学	町谷安紀	南山堂
757	薬理学	荻田喜代一:首藤誠	南江堂
758	わかりやすい薬理学	安原一:小口勝司	ヌーヴェルヒロカワ
759	臨床薬理学	古川裕之:赤瀬智子	メディカ出版
760	標準薬理学	飯野正光:鈴木秀典	医学書院
761	カッツング薬理学エッセンシャル	ベルトラン・G. カッツング	丸善出版
762	ステップアップ薬理学ノート	内田直樹	サイオ出版
763	病態生理・生化学. 1	井上圭三:富田基郎	共立出版
764	病態生理・生化学. 2	井上圭三:富田基郎	共立出版
765	疾病の成り立ちと回復の促進. 1	下正宗	医学書院
766	疾病の成り立ちと回復の促進. 2	下正宗	医学書院
767	疾病の成り立ちと回復の促進. 3	下正宗	医学書院
768	NEWエッセンシャル病理学	長村義之:笹野公伸	医歯薬出版
769	医療系学生のための病理学	中村仁志夫:佐藤達資	講談社
770	病態生理ビジュアルマップ:人体の構造と機能からみた. 1	佐藤千史:井上智子	医学書院
771	病態生理ビジュアルマップ:人体の構造と機能からみた. 2	佐藤千史:井上智子	医学書院
772	病態生理ビジュアルマップ:人体の構造と機能からみた. 3	佐藤千史:井上智子	医学書院
773	病態生理ビジュアルマップ:人体の構造と機能からみた. 4	佐藤千史:井上智子	医学書院
774	病態生理ビジュアルマップ:人体の構造と機能からみた. 5	佐藤千史:井上智子	医学書院
775	メディカルクイズ100. 病理学編	安達洋祐	メディカルレビュー社
776	ステップアップ病理学ノート	江口正信	サイオ出版
777	スタンダード病理学	沢辺元司:長坂徹郎	文光堂
778	病理学/病理検査学	松原修:鴨志田伸吾	医歯薬出版
779	図解入門よくわかる病理診断学の基本としくみ:オールカラー	田村浩一	秀和システム
780	集中講義病理学:カラーイラストで学ぶ	清水道生:内藤善哉	メジカルビュー社
781	病理検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
782	カラー ルービン病理学:臨床医学への基盤	エマニュエル・ルービン	西村書店(新潟)
783	はじめの一歩の病理学	深山正久	羊土社
784	はじめの一歩の病態・疾患学:病態生理から治療までわかる	林洋(内科学)	羊土社
785	Dr. レイの病理学講義	高橋玲:北澤荘平	金芳堂
786	病理学	堤寛	サイオ出版
787	病理学きほんノート	小林正伸	南山堂
788	図解病理解剖ガイド	新井富生	文光堂
789	ロビンス基礎病理学:電子書籍(日本語・英語版)付	ピナイ・クマール	エルゼビア・ジャパン
790	説明できる病態生理:解剖・疾患・アセスメントにつながる!	竹田津文俊	学研メディカル秀潤社
791	なるほどなっとく! 病理学:病態形成の基本的な仕組み	小林正伸	南山堂
792	標準病理学	北川昌伸:仁木利郎	医学書院
793	ハマー & マクフィー疾患の病態生理:臨床医学入門	國分眞一郎:中山智祥	丸善出版
794	正常と異常が一目でわかる総合診療のための病理診断ケーススタディ	青木眞:砂川恵伸	医学書院
795	カラーで学べる病理学	渡辺照男	ヌーヴェルヒロカワ
796	スパルタ病理塾:あなたの臨床を変える! 病理標本の読み方	小島伊織	医学書院
797	臨床病態学:医学概論 臨床医学入門 臨床検査医学総論 疾患各論	佐藤良暢:勝田逸郎	南江堂
798	シンプル病理学	笹野公伸:岡田保典	南江堂
799	おしゃべり病理医のカラダと病気の図鑑:人体サブライチェーンの仕組み	小倉加奈子	CCCメディアハウス

番号	書名	著者名	出版社名
800	病理組織の見方と鑑別診断:カラーアトラス	赤木忠厚:松原修	医歯薬出版
801	病態学/臨床検査医学総論	奈良信雄:高木康	医歯薬出版
802	わかりやすい病理学	恒吉正澄:小田義直	南江堂
803	病理学:疾病の成り立ちと回復の促進	岡田英吉	サイオ出版
804	組織病理カラーアトラス:Web付録付	坂本穆彦:北川昌伸	医学書院
805	解明病理学:病気のメカニズムを解く	青笹克之:加藤光保	医歯薬出版
806	絶滅危惧種の病理医は人工知能(AI)に勝てるか?	沼本敏	文芸社
807	慢性炎症と生活習慣病	小川佳宏:真鍋一郎	南山堂
808	重症患者における炎症と凝固・線溶系反応	松田直之	中山書店
809	やさしい腫瘍学:からだのしくみから見る“がん”	小林正伸	南江堂
810	がんの生物学	ロバート・A. ワインバーグ	南江堂
811	遺伝性腫瘍ハンドブック	日本家族性腫瘍学会	金原出版
812	おしゃべりながんの図鑑:病理学から見たわかりやすいがんの話	小倉加奈子	CCCメディアハウス
813	がん生物学イラストレイテッド	渋谷正史:湯浅保仁	羊土社
814	がんゲノム医療遺伝子パネル検査実践ガイド	角南久仁子:畑中豊	医学書院
815	よくわかるゲノム医学:ヒトゲノムの基本から個別化医療まで	服部成介:水島一菅野純子	羊土社
816	ゲノム医学:ゲノム情報を活かす医療のために	トム・ストラッチャン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
817	遺伝統計学と疾患ゲノムデータ解析	岡田随象	メディカルドゥ
818	マンガでわかるゲノム医学	水島一菅野純子:サキマイコ	羊土社
819	遺伝子・染色体検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
820	医療に役立つ遺伝子関連Web情報検索:手とり足とり教えますガイド	中山智祥	メディカル・サイエンス・インターナショナル
821	遺伝子・染色体検査学	東田修二	医歯薬出版
822	レビンソン微生物学・免疫学	ウォーレン・レビンソン	丸善出版
823	微生物学・感染看護学:微生物から感染防止を考える	岡田忍:小池和子(看護学)	医歯薬出版
824	微生物学:細菌・真菌・ウイルスと感染症	杉田隆	じほう
825	イラストレイテッド微生物学	リチャード・A. ハーヴェイ	丸善出版
826	微生物学	西條政幸	サイオ出版
827	最新マイコプラズマ学	日本マイコプラズマ学会	近代出版(東京)
828	休み時間の微生物学	北元憲利	講談社
829	臨床微生物学	松本哲哉	医歯薬出版
830	シンプル微生物学	小熊惠二:堀田博	南江堂
831	微生物プラチナアトラス	佐々木雅一:岡秀昭	メディカル・サイエンス・インターナショナル
832	ステップアップ微生物学ノート	西條政幸	サイオ出版
833	世界で一番美しい病原体と薬のミクロ図鑑	コリン・ソルター:石黒千秋	エクスナレッジ
834	医真菌100種:臨床で見逃していたカビたち	榎村浩一	メディカル・サイエンス・インターナショナル
835	ASM臨床微生物学プラチナレファランス	クリストファー・D. ドーン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
836	染方史郎の楽しく覚えやすい好きになる感じる細菌学×抗菌薬	染方史郎(金子幸弘)	じほう
837	微生物と免疫	林修(薬学):石井恭子	建帛社
838	標準微生物学	神谷茂:錫谷達夫	医学書院
839	コンパクト微生物学	小熊惠二:堀田博	南江堂
840	イラストでわかる微生物学超入門:病原微生物の感染のしくみ	齋藤光正	南山堂
841	新微生物学	館田一博:松本哲哉	日本医事新報社
842	すべての臨床医が知っておきたい腸内細菌叢	内藤裕二	羊土社
843	ビジュアル細菌のはたらきパーフェクトガイド:とことん解説人体と健康	キャサリン・ウイットロック	日経ナショナルジオグラフィック社
844	消毒と滅菌のガイドライン. 2020年版	大久保憲:尾家重治	へるす出版
845	ウイルスの世紀:なぜ繰り返し出現するのか	山内一也	みすず書房
846	ウイルスと人間	山内一也	岩波書店

番号	書名	著者名	出版社名
847	免疫学の基礎	小山次郎:大沢利昭	東京化学同人
848	一目でわかる免疫学	J. H. L. プレーフェア	メディカル・サイエンス・インターナショナル
849	もっとよくわかる!免疫学	河本宏	羊土社
850	臨床免疫学	福岡良博:佐藤進一郎	医歯薬出版
851	免疫学Update:分子病態の解明と治療への展開	審良静男:熊ノ郷淳	南山堂
852	イラストレイテッド免疫学	リチャード・A. ハーヴェイ	丸善出版
853	免疫学:基礎と臨床	ゴードン・G. マクファーソン	東京化学同人
854	マンガでわかる免疫学	河本宏:しおざき忍	オーム社
855	臨床免疫学	山田俊幸:大戸齊	講談社
856	カラー図解免疫学の基本がわかる事典	鈴木隆二	西東社
857	免疫系のしくみ:免疫学入門	ローレン・ソンベイラック	東京化学同人
858	免疫学:「わたしの体」をまもる仕組み	田中稔之	じほう
859	エッセンシャル免疫学	ピーター・パーラム:笹月健彦	メディカル・サイエンス・インターナショナル
860	免疫ペディア:101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる!	熊ノ郷淳	羊土社
861	シンプル免疫学	中島泉:高橋利忠	南江堂
862	免疫学コア講義	熊ノ郷淳:阪口薫雄	南山堂
863	休み時間の免疫学	齋藤紀先	講談社
864	図説免疫学入門	デーヴィド・メーラ:山本一夫	東京化学同人
865	分子細胞免疫学:アブスーリックマン・ピレ	アブル・K. アップース	エルゼビア・ジャパン
866	スタンダード免疫学	小林芳郎:笠原忠	丸善出版
867	免疫学の入門	今西二郎	金芳堂
868	好きになる免疫学:「私」が「私」であるしくみ	萩原清文:山本一彦	講談社
869	リーズナブル免疫生物学	吉田龍太郎	中外医学社
870	免疫生物学	チャールズ・A. ジェンウェー	南江堂
871	ヒトの免疫学:基本から疾患理解につなげる 電子書籍付	マシュー・ヘルバート	エルゼビア・ジャパン
872	好きになる免疫学ワークブック	萩原清文	講談社
873	基礎免疫学:免疫系の機能とその異常	アブル・K. アップース	エルゼビア・ジャパン
874	免疫:からだを護る不思議なしくみ	矢田純一	東京化学同人
875	標準免疫学	宮坂昌之:小安重夫	医学書院
876	医系免疫学	矢田純一	中外医学社
877	医動物学	吉田幸雄:有蘭直樹	南山堂
878	寄生虫学テキスト	上村清:木村英作	文光堂
879	寄生虫のはなし:この素晴らしい、虫だらけの世界	永宗喜三郎:脇司	朝倉書店
880	医動物学	平山謙二	医歯薬出版
881	図説人体寄生虫学	吉田幸雄	南山堂
882	内視鏡治療の進歩	小黒八七郎	医学図書出版
883	標準集中治療医学	天羽敬祐	真興交易医書出版部
884	ICUハンドブック	三宅康史	中外医学社
885	臨床医学総論:臨床医学総論 放射性同位元素検査技術学 医用工学概	小山高敏:戸塚実	医学書院
886	ICU合併症の予防策と発症時の戦い方	萩原祥弘:清水敬樹	羊土社
887	ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床医学総論/臨床検査医学総論	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
888	リトルICUブック	ポール・L. マリノ:稲田英一	メディカル・サイエンス・インターナショナル
889	メディカルスタッフのための医療禁忌なるほどブック	富野康日己:佐藤美加	中外医学社
890	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 2	医療情報科学研究所	メディックメディア
891	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 3	医療情報科学研究所	メディックメディア
892	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 4	医療情報科学研究所	メディックメディア
893	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 6	医療情報科学研究所	メディックメディア

番号	書名	著者名	出版社名
894	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 8	医療情報科学研究所	メディックメディア
895	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 9	医療情報科学研究所	メディックメディア
896	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 10	医療情報科学研究所	メディックメディア
897	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 11	医療情報科学研究所	メディックメディア
898	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 12	医療情報科学研究所	メディックメディア
899	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 13	医療情報科学研究所	メディックメディア
900	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 14	医療情報科学研究所	メディックメディア
901	臨床医学総論	篠原一彦:小谷透	医歯薬出版
902	医学論文を読んで活用するための10講義	青島周一	中外医学社
903	ICUグリーンノート	志馬伸朗:石井潤貴	中外医学社
904	M&Mで改善する!ICUの重症患者管理	讃井将満	羊土社
905	ABCDEs/バンドルとICUにおける早期リハビリテーション	氏家良人:高橋哲也	克誠堂出版
906	ICU完全攻略トラブルシューティング162	清水敬樹	中外医学社
907	教えて!ICU集中治療に強くなる	早川桂:清水敬樹	羊土社
908	教えて!ICU集中治療に強くなる. part2	早川桂	羊土社
909	教えて!ICU集中治療に強くなる. part3	早川桂	羊土社
910	ICUブック	ポール・L. マリノ:稲田英一	メディカル・サイエンス・インターナショナル
911	日本集中治療医学会専門医テキスト	日本集中治療医学会教育委員会	真興交易医書出版部
912	INTENSIVIST. 6-2		メディカル・サイエンス・インターナショナル
913	INTENSIVIST. 7-2		メディカル・サイエンス・インターナショナル
914	INTENSIVIST. 7-4		メディカル・サイエンス・インターナショナル
915	INTENSIVIST. 8-1		メディカル・サイエンス・インターナショナル
916	INTENSIVIST. 8-2		メディカル・サイエンス・インターナショナル
917	INTENSIVIST. Vol. 8 No. 4(2016)		メディカル・サイエンス・インターナショナル
918	INTENSIVIST. Vol. 9 No. 1(2017)		メディカル・サイエンス・インターナショナル
919	ICUとCCU:集中治療医学. vol. 43 No. 1		医学図書出版
920	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 2		医学図書出版
921	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 3		医学図書出版
922	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 4		医学図書出版
923	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 5		医学図書出版
924	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 6		医学図書出版
925	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 7		医学図書出版
926	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 8		医学図書出版
927	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 9		医学図書出版
928	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 10		医学図書出版
929	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 11		医学図書出版
930	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 43 No. 12		医学図書出版
931	ICUとCCU別冊号:集中治療医学. Vol. 43(2019)		医学図書出版
932	救急・集中治療. Vol31 No2(2019)	岡元和文	総合医学社
933	救急・集中治療. Vol31 No3(2019)	岡元和文	総合医学社
934	救急・集中治療. Vol31 No4(2019)	岡元和文	総合医学社
935	レジデントノート:プライマリケアと救急を中心とした総合誌. 2020 3	中村謙介	羊土社
936	INTENSIVIST. Vol. 12 No. 2		メディカル・サイエンス・インターナショナル
937	INTENSIVIST. Vol. 13 No. 2		メディカル・サイエンス・インターナショナル
938	救急・集中治療. Vol32 No2(2020)	土井研人	総合医学社
939	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 1		医学図書出版
940	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 2		医学図書出版

番号	書名	著者名	出版社名
941	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 3		医学図書出版
942	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 4		医学図書出版
943	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 5		医学図書出版
944	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 6		医学図書出版
945	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 7		医学図書出版
946	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 8		医学図書出版
947	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 9		医学図書出版
948	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 10		医学図書出版
949	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 11		医学図書出版
950	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 44 No. 12		医学図書出版
951	ICUとCCU別冊号:集中治療医学. Vol. 44 別冊号		医学図書出版
952	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 1		医学図書出版
953	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 2		医学図書出版
954	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 3		医学図書出版
955	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 4		医学図書出版
956	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 5		医学図書出版
957	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 6		医学図書出版
958	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 7		医学図書出版
959	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 8		医学図書出版
960	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 9		医学図書出版
961	ICUとCCU:集中治療医学. Vol. 45 No. 10		医学図書出版
962	3次元超音波入門	平田一郎:本合泰	医学図書出版
963	超音波	千原国宏	コロナ社
964	超音波診断装置	伊東正安:望月剛	コロナ社
965	よくわかる超音波検査入門講座	佐久間浩:桑島章	永井書店
966	コメディカルのための疾患・画像ファイル	鈴木正行	文光堂
967	まずはここから救急超音波ポケットアトラス	ロバート・F. リアドン	中外医学社
968	とんでもなく役立つ検査値の読み方	西崎祐史:渡邊千登世	照林社
969	救急で使える超音波診断マニュアル:画像描出のコツと検査・治療手技	ビッキ・E. ノーブル	メディカル・サイエンス・インターナショナル
970	検査機器総論	三村邦裕:山藤賢	医歯薬出版
971	内科診断学	福井次矢:奈良信雄	医学書院
972	一般検査学	三村邦裕:宿谷賢一	医歯薬出版
973	超音波検査症例集	日本臨床衛生検査技師会	じほう
974	生理機能検査学	東條尚子:川良徳弘	医歯薬出版
975	救急超音波診:救急診療にエコーを活用する	本多英喜	羊土社
976	検査値早わかりガイド	江口正信:水口國雄	サイオ出版
977	これだけは知っておきたい!くすりでひける臨床検査	中村敏明	じほう
978	新人技師リエコとらくらく学ぶ超音波検査手技ABC	久保田義則:松尾汎	メディカ出版
979	臨床工学技士のための生体計測装置学	西村生哉:三田村好矩	コロナ社
980	異常値の出るメカニズム	河合忠:山田俊幸	医学書院
981	検査データの「?」に答えます!	メ谷直人	文光堂
982	ポケットマスター-臨床検査知識の整理 公衆衛生学/関係法規	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
983	ポケットマスター-臨床検査知識の整理 検査機器総論	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
984	ポケットマスター-臨床検査知識の整理 遺伝子・染色体検査学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
985	超音波の学校:誰でもレベルアップ. vol. 1	関根智紀	金原出版
986	救急超音波テキスト:point of careとしての実践的活用法	亀田徹:木村昭夫	中外医学社
987	検査値を読むトレーニング:ルーチン検査でここまでわかる	本田孝行	医学書院

番号	書名	著者名	出版社名
988	知っておきたい臨床検査値	日本薬学会	東京化学同人
989	ポケットマスター臨床検査知識の整理 一般検査学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
990	ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床生理学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
991	若手医師・ナースのための救急エコーは、こう見る・こう使う	船曳知弘	メディカ出版
992	INNERVISION:医療と画像の総合情報誌. 第34巻第7号		インナービジョン
993	臨床検査技師のための医学英語:実用会話・文献の読み方	奈良信雄	医歯薬出版
994	これから始める臨床化学・遺伝子検査の精度保証	志保裕行:若月香織	医歯薬出版
995	ポケットマスター臨床検査知識の整理 医動物学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
996	医療系学生のための医用質量分析学テキスト	日本医用マスペクトル学会	診断と治療社
997	臨床検査データブックコンパクト版	高久史麿:黒川清	医学書院
998	救急超音波ポケットマニュアル	秋山敏一	オーム社
999	ポケットマスター臨床検査知識の整理 病理学/病理組織細胞学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
1000	臨床検査法提要	金井正光:奥村伸生	金原出版
1001	臨床検査ガイド:これだけは必要な検査のすすめかた・データのよみかた	大西宏明	文光堂
1002	ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床微生物学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
1003	検体検査の品質・精度確保の基準の手引き	宮地勇人	医歯薬出版
1004	品質保証・精度管理教本	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1005	臨床検査技師エラー・ノート	芝紀代子	メジカルビュー社
1006	検査総合管理学	高木康:三村邦裕	医歯薬出版
1007	ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床化学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
1008	医用超音波工学の基礎:資格試験の受験から新技術の入り口まで	竹内真一:内田武吉	コロナ社
1009	臨床検査技師ブルー・ノート	芝紀代子	メジカルビュー社
1010	臨床検査技師国家試験問題集. 2022年版	日本臨床検査学教育協議会	医歯薬出版
1011	超音波検査士・超音波指導検査士認定試験問題集	日本超音波医学会	医歯薬出版
1012	臨床検査技師国家試験問題注解. 2022年版	臨床検査技師国家試験問題注解編集委員会	金原出版
1013	ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床免疫学	細井英司:坊池義浩	医歯薬出版
1014	検査値の読み方・考え方:専門医からのアドバイス	西崎統:村田満	総合医学社
1015	ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床血液学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
1016	臨床検査を使いこなす	矢富裕	日本医師会
1017	超音波の基礎と装置	甲子乃人	メディフレックス
1018	経過でみる救急・ICU画像診断マニュアル	清水敬樹	羊土社
1019	こんなに役立つpoint of care超音波:救急ICUから一般外来・在宅まで	鈴木昭広	メジカルビュー社
1020	一般検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1021	バイタルサインからの臨床診断	宮城征四郎:入江聰五郎	羊土社
1022	Dr. 徳田のバイタルサイン講座	徳田安春	日本医事新報社
1023	心エコーのABC	五島雄一郎	中山書店
1024	不整脈判読トレーニング	ケン・グラウアー	医学書院
1025	心エコー・ドプラ法の臨床	大木崇:大木崇	医学書院
1026	心電図トレーニング	小沢友紀雄	中外医学社
1027	不整脈トレーニング	小沢友紀雄	中外医学社
1028	続・やってみようよ!心電図	高階経和	インターメディカ
1029	心電図を学ぶ人のために	高階経和	医学書院
1030	やってみようよ!心エコー:心エコーのナゾがみるみる解ける!	小糸仁史	インターメディカ
1031	IVUSマニュアル:血管内超音波法	本江純子:斎藤穎	中山書店
1032	やってみようよ!心電図:これさえわかれば必ず読める!	高階経和	インターメディカ
1033	心磁図の読み方	塚田啓二:山口巖	コロナ社
1034	かんたんマスターモニター心電図	三宅良彦	照林社

番号	書名	著者名	出版社名
1035	臨床心エコー図学	吉川純一	文光堂
1036	臨床心血管エコー	西野雅巳	中外医学社
1037	運動負荷心電図:その方法と読み方	川久保清	医学書院
1038	ECGブック:心電図センスを身につける	アンドリュウ・R. ホートン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1039	マンガで学ぶ心電図&不整脈	池田隆徳	中外医学社
1040	かんたんポイント心電図:これならわかる!	奥出潤	医学書院
1041	EPカンファレンス:症例から学ぶ不整脈・心臓電気生理	宮崎利久	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1042	なぜこうなる?心電図:波形の成立メカニズムを考える	時政孝行:蓮尾博	九州大学出版会
1043	心電図・不整脈:個人授業	杉山裕章:永井良三	医学書院
1044	頸動脈エコー法テクニカルガイド	西野繁樹:飯伏羲弘	ヌンク
1045	イメージで理解する心エコー・ドブラ・循環力学	菅原基晃:仁木清美	文光堂
1046	心エコー図撮像必携:すぐに使える実戦テクニック	神野雅史	ヌンク
1047	成り立ちから理解する心電図波形:心筋の活動電位を読み解く	田中義文	学研メディカル秀潤社
1048	初心者から研修医のための経食道心エコー. 2	国沢卓之:野村実	真興交易医書出版部
1049	モニター心電図レッスン:心電図を見るとドキドキする人のための	大八木秀和	医学書院
1050	心電図のみかた, 考えかた, 基礎編	杉山裕章	中外医学社
1051	経食道心エコーハンドブック:3D TEE	アネット・ヴェガス	克誠堂出版
1052	確実に身につく心臓カテーテル検査の基本とコツ	中川義久	羊土社
1053	心電図のみかた, 考えかた, 応用編	杉山裕章	中外医学社
1054	ナースのためのアクティブ心電図	田中喜美夫	サイオ出版
1055	モニター心電図なんて恐くない	田中喜美夫	サイオ出版
1056	ゼロからわかるモニター心電図	吉野秀朗	成美堂出版
1057	はじめての心電図	兼本成斌	医学書院
1058	これから始める心エコー:絶対撮れる, 1人で撮れる	芦原京美:大門雅夫	メジカルビュー社
1059	はじめてでもやさしいモニター心電図:装着の手順から波形の読み方まで	林敏雅	学研メディカル秀潤社
1060	ミッフィーの早引きモニター心電図ハンドブック	三浦稚郁子	エクスナレッジ
1061	血管エコー撮像必携:すぐに使える実戦テクニック	伊藤正範:富谷美香	ヌンク
1062	血管エコーハンドブック	竹中克:戸出浩之	金芳堂
1063	動画でわかる実践的心エコー入門	大門雅夫	中山書店
1064	Electrocardiography A to Z:心電図のリズムと波を見極める	清水渉:村川裕二	日本医師会
1065	ナースが書いた看護に活かせる心電図ノート	鈴木まどか	照林社
1066	ハート先生の心電図教室, 基礎と不整脈編	市田聡	医学同人社
1067	ハート先生の心電図教室, 心房細動編	市田聡	医学同人社
1068	これでOK! 血管エコー報告書の書き方	濱口浩敏:久保田義則	金芳堂
1069	循環器超音波検査士への最短コース:判断力を高める!	仲宗根出:中谷敏	文光堂
1070	書いて覚える! ハローキティのモニター心電図ノート	徳野慎一	ナツメ社
1071	ハート先生の看護学生のための心電図教室	心臓病看護教育研究会	医学同人社
1072	ハート先生の心電図問答100選	心臓病看護教育研究会	医学同人社
1073	グロスマン・ベーム心臓カテーテル検査・造影・治療法	絹川弘一郎	南江堂
1074	心エコー臨床のギモン厳選50	日本心エコー図学会	メディカ出版
1075	心血管エコー用語・略語・数値スーパーリファレンス	西上和宏	メディカ出版
1076	ナースのための早わかりモニター心電図の読み方と心臓病の検査	小橋隆一郎	主婦の友社
1077	これならわかる! 心電図の読み方:~モニターから12誘導まで~	大島一太	ナツメ社
1078	PICC末梢挿入式中心静脈カテーテル管理の理論と実際	井上善文	じほう
1079	読める! モニター心電図	土居忠文:杉浦哲朗	医歯薬出版
1080	しくみからマスターするDr. フルカワの心電図の読み方	古川哲史	総合医学社
1081	必ずうまくいく! PICC	徳嶺讓芳:金井理一郎	羊土社

番号	書名	著者名	出版社名
1082	循環機能検査症例集	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1083	レジデントのためのこれだけ心電図	佐藤弘明	日本医事新報社
1084	再チャレ！心電図：今さら聞けない先輩ナースも今度こそわかる	田中喜美夫	メディカ出版
1085	実力心電図：「読める」のその先へ	日本不整脈心電学会	日本不整脈心電学会
1086	血管超音波テキスト	日本超音波検査学会	医歯薬出版
1087	基礎からわかる！カテーテルアブレーション	松尾征一郎	医歯薬出版
1088	POC心エコーマニュアル：Point of Careで症状から考える心臓超音	柴山謙太郎・船越拓	文光堂
1089	心エコー図：知識を習得し、実践で活かす最強のメソッド	筒井裕之・大門雅夫	メジカルビュー社
1090	心電図検定公式問題集&ガイド：受検者必携！2級／3級	日本不整脈心電学会心電図検定委員会	メディカ出版
1091	12誘導心電図よみ方マスター 基礎編	栗田隆志	メディカ出版
1092	12誘導心電図よみ方マスター トレーニング編	栗田隆志	メディカ出版
1093	ハート先生の心電図セミナー 不整脈編	心臓病看護教育研究会	医学同人社
1094	新・心エコーの読み方、考え方	羽田勝征	中外医学社
1095	心エコーハンドブック 基礎と撮り方	竹中克・戸出浩之	金芳堂
1096	熱血講義！心電図：匠が教える実践的判読法	杉山裕章・小笹寧子	医学書院
1097	ハート先生の心電図セミナー 初級編	市田聡	心臓病看護教育研究会
1098	心エコー図検査徳大超音波センターのオキテ100	山田博胤・西尾進	文光堂
1099	心電図の読み“型”教えます！. Season1	杉山裕章	中外医学社
1100	Dr. 岩倉の心エコー塾：治療に直結する考えかたと見かた	岩倉克臣	羊土社
1101	これから始める心臓カテーテル検査	矢嶋純二	メジカルビュー社
1102	経食道心エコーハンドブック：2D TEE	アネット・ヴェガス・溝部俊樹	克誠堂出版
1103	経食道心エコー法マニュアル：Web動画付	渡橋和政	南江堂
1104	ハート先生の心電図セミナー 上級編	ECデザイン出版	心臓病看護教育研究会
1105	エキスパートが教える心・血管エコー計測のノウハウ	種村正	医学書院
1106	心電図の読み“型”教えます！. Season2	杉山裕章	中外医学社
1107	実践に生きる臨床心エコー図法	伊藤浩	南江堂
1108	これから始める血管エコー：描出のコツと再現性を高めるためのテクニック	種村正・小谷敦志	メジカルビュー社
1109	続・楽しく学んで好きになる！心電図トレーニングクイズ. 2	谷内亮水・山本克人	医歯薬出版
1110	ガイドラインに心エコーを生かす：ケースから学ぶ指針の解釈と活用	瀬尾由広・上嶋徳久	メジカルビュー社
1111	スタートアップ・心エコーマニュアル：考える心エコー実践のために	増山理・合田亜希子	南江堂
1112	カラー写真で一目でわかる経食道心エコー：撮り方、診かたの基本とコツ	岡本浩嗣・山浦健	羊土社
1113	臨床心電図診断学：楽しく学ぼう心電図のすべて	沢山俊民・山本誠一	日本医学出版
1114	いつでもどこでも心電図判読88＋11問	上嶋健治	克誠堂出版
1115	Excelによる生体信号解析：心電図・脈波・血圧	三宅晋司	エヌ・ティー・エス
1116	なんかヘン！？がわかる心電図の第一歩	岡村英夫	南江堂
1117	エキスパートの手元がみえる！血管エコー	八鍬恒芳・藤崎純	羊土社
1118	心エコーがうまくなりたければ心エコーレポートを書きなさい	福田信夫・福田大和	中外医学社
1119	かげさんのイラストで学ぶ心電図と不整脈めも	かげ	南江堂
1120	症候別に学ぶ血管エコーのアプローチ法	濱口浩敏・久保田義則	文光堂
1121	やさしくわかる心エコーの当て方・見かた	野間充	羊土社
1122	国循・天理よろづ印心エコー読影ドリル	泉知里	医学書院
1123	心電図の読み“型”教えます！. Season3	杉山裕章	中外医学社
1124	心臓超音波テキスト	日本超音波検査学会・種村正	医歯薬出版
1125	もしも心電図で循環器を語るなら	香坂俊	医学書院
1126	ハート先生の心電図セミナー 初級入門コース	市田聡	心臓病看護教育研究会
1127	ほぼ初めての心電図：最初はここからはじまります	村川裕二	南江堂
1128	周術期経食道心エコー実践法	野村実・小出康弘	真興交易医書出版部

番号	書名	著者名	出版社名
1129	今さら聞けないIVUS	森野禎浩	メジカルビュー社
1130	バスキュラーアクセス超音波テキスト	春口洋昭	医歯薬出版
1131	看護師・検査技師・研修医のためのペースメーカー心電図が好きになる!	山下武志・葉山恵津子	南江堂
1132	虚血評価ハンドブック	中村正人・田中信大	南江堂
1133	心電図モニター:ベッドサイドで役立つ波形の見方と緊急時対処の基本	谷村伸一・武田聡	へるす出版
1134	FFRスタンダードマニュアル:PCIのための虚血評価	田中信大	メジカルビュー社
1135	非侵襲的虚血評価スタンダードマニュアル:PCIのための虚血評価	松本直也(内科学)・田中信大	メジカルビュー社
1136	「どう使う?」が解決する! OCT/血管内視鏡活用ガイド	南都伸介・西野雅巳	南江堂
1137	超音波気管支鏡ガイド下針生検マニュアル	安福和弘・中島崇裕	金原出版
1138	呼吸機能検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1139	呼吸機能検査症例集	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1140	気管支鏡テキスト	日本呼吸器内視鏡学会	医学書院
1141	気管支鏡所見:見方・読み方・考え方	土田敬明	日本医事新報社
1142	呼吸機能検査ハンドブック	日本呼吸器学会	メディカルレビュー社
1143	ココが知りたい!! スパイロメトリーの基本と秘訣!	羽白高・柴田正慶	克誠堂出版
1144	呼吸療法で活かす! 呼吸機能・血液ガスの知識	鈴木範孝	真興交易医書出版部
1145	食道病変内視鏡アトラス	消化器内視鏡編集委員会	東京医学社
1146	消化器内視鏡技師試験問題解説	日本消化器内視鏡学会	医学図書出版
1147	消化管内視鏡のABC	出月康夫	日本医師会
1148	消化器内視鏡技師試験問題解説. 2	日本消化器内視鏡学会	医学図書出版
1149	大腸内視鏡挿入法:解剖学理論に基づく定型的挿入手技	中西弘幸	永井書店
1150	腹部エコーのABC	竹原靖明・竹原靖明	日本医師会
1151	カプセル内視鏡カラーアトラス:小腸病変の精細視野を拓く	緒方晴彦・大塚和朗	診断と治療社
1152	技師とナースのための消化管内視鏡ハンドブック	屋代庫人・大園研	文光堂
1153	消化管内視鏡の歴史	丹羽寛文	日本メディカルセンター
1154	消化器内視鏡技師試験問題解説. 4	日本消化器内視鏡学会	医学図書出版
1155	やさしくわかる内視鏡検査・治療・ケア:オールカラー	清水周次・田中雅夫	照林社
1156	腹部超音波テキスト:日超検	関根智紀・南里和秀	医歯薬出版
1157	動画でわかるカプセル内視鏡テキスト	日本カプセル内視鏡学会	コンパス出版局
1158	腹部エコー診断111ステップ	若杉聡	中外医学社
1159	腹部エコー超入門:すぐわかる	光井洋	西村書店(新潟)
1160	こんなときどうする?内視鏡室Q&A	田村君英	中山書店
1161	消化器内視鏡技師のためのハンドブック	松井敏幸・赤松泰次	医学図書出版
1162	消化器内視鏡技師試験即攻マスター	赤松泰次・田村君英	医学図書出版
1163	大園流 消化器内視鏡の介助・ケア	大園研・港洋平	羊土社
1164	上部消化管内視鏡挿入・観察のポイントつ[経口内視鏡]	田尻久雄・貝瀬満	日本メディカルセンター
1165	内分泌機能検査実施マニュアル	成瀬光栄・平田結喜緒	診断と治療社
1166	初心者が知りたい「腹部エコーの疑問」に答える本:対話式レクチャー	土居忠文	医歯薬出版
1167	腹部超音波ポケットマニュアル	川地俊明・秋山敏一	オーム社
1168	内視鏡所見のよみ方と鑑別診断. 下部消化管	多田正大・大川清孝	医学書院
1169	胃内視鏡検診マニュアル	日本消化器がん検診学会	日本消化器がん検診学会
1170	カラー写真で必ずわかる! 消化器内視鏡	中島寛隆・長浜隆司	羊土社
1171	内視鏡技師・看護師ポケットナビ	田村君英	中山書店
1172	大腸内視鏡挿入の基本とトラブルシューティング:こうすれば上手いく!	樫田博史・鶴田修	羊土社
1173	この1冊ではじめる上部消化管内視鏡マニュアル:研修医・初心者のために	赤松泰次	南江堂
1174	ここまで診る消化管エコー:エコー・内視鏡・X線検査の裏付け	杉山高・花井洋行	医療科学社
1175	医師と内視鏡技師のコラボによる腹部用手圧迫を用いた大腸内視鏡挿入法	野崎良一・松平美貴子	日本メディカルセンター

番号	書名	著者名	出版社名
1176	胃の拡大内視鏡診断	八木一芳:味岡洋一	医学書院
1177	イラストで理解する大腸内視鏡操作法	中嶋清司	メディカ出版
1178	新しい診断基準・分類に基づいたNBI BLI LCI内視鏡アトラス	加藤元嗣:井上晴洋	日本メディカルセンター
1179	上部消化管内視鏡診断(秘)ノート	野中康一:濱本英剛	医学書院
1180	消化器内視鏡ハンドブック	日本消化器内視鏡学会	日本メディカルセンター
1181	消化管内視鏡診断テキスト. 1	小池和彦	文光堂
1182	消化管内視鏡診断テキスト. 2	小池和彦:藤城光弘	文光堂
1183	下部消化管内視鏡スクリーニング検査マニュアル	日本消化器内視鏡学会	医学図書出版
1184	教科書では教えてくれない!私の消化器内視鏡Tips	小野敏嗣	医学書院
1185	上部・下部消化管内視鏡診断(秘)ノート	野中康一:市原真	医学書院
1186	消化器内視鏡の登竜門:内視鏡診断のすべてがわかる虎の巻	田尻久雄:井上晴洋	南江堂
1187	上部消化管内視鏡診断アトラス	長浜隆司:竹内学	医学書院
1188	下部消化管内視鏡診断アトラス	松本主之	医学書院
1189	教科書では教えてくれない!私の消化器内視鏡Tips	小野敏嗣	医学書院
1190	髄液検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1191	臨床脳波検査スキルアップ	所司睦文:小野澤裕也	金原出版
1192	モノグラフ臨床脳波を基礎から学ぶ人のために	日本臨床神経生理学学会	診断と治療社
1193	脳波・誘発電位検査ポケットマニュアル	正門由久	医歯薬出版
1194	麻酔科医・集中治療医のための脳波解析と電気生理学的モニタリング	松本美志也	克誠堂出版
1195	Dr. 大塚の血液ガスのなぜ?がわかる	大塚将秀	学研メディカル秀潤社
1196	血液ガス“超”入門:パルスオキシメータを10倍活用する	堀川由夫	医学書院
1197	世界でいちばん簡単に血ガスがわかる、使いこなせる本	古川力丸	メディカ出版
1198	臨床化学検査学	浦山修:奥村伸生	医歯薬出版
1199	最新尿検査:その知識と病態の考え方	河合忠:伊藤喜久	メディカル・ジャーナル社
1200	臨床検査技師のための血算の診かた	岡田定	医学書院
1201	血液形態アトラス	矢富裕:増田亜希子	医学書院
1202	臨床化学検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1203	血液検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1204	血液検査学	奈良信雄	医歯薬出版
1205	スタンダード検査血液学:Web動画付	日本検査血液学会	医歯薬出版
1206	わかる血液ガス:ステップ方式による検査値の読み方	ローレンス・マーティン	学研メディカル秀潤社
1207	一目でわかる血液ガス	飯野靖彦	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1208	血液ガス・酸塩基平衡に強くなる	白髪宏司	羊土社
1209	楽しく学べる血液ガスと呼吸生理	滝澤始	文光堂
1210	そこが知りたい!動脈血液ガス一刀両断!	イアン・A. M. ヘネシー	エルゼビア・ジャパン
1211	竜馬先生の血液ガス白熱講義150分	田中竜馬	中外医学社
1212	帰ってきた竜馬先生の血液ガス白熱講義22問	田中竜馬	中外医学社
1213	ひと目でわかる微生物検査アトラス	木下承皓:荒川創一	金原出版
1214	微生物検査学:メディカルサイエンス	太田敏子:岡崎充宏	近代出版(東京)
1215	免疫検査学	窪田哲朗:藤田清貴	医歯薬出版
1216	臨床免疫検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1217	臨床微生物検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1218	臨床微生物検査ハンドブック	小栗豊子	三輪書店
1219	顕微鏡検査ハンドブック:臨床に役立つ形態学	菅野治重:相原雅典	医学書院
1220	細胞診ガイドライン. 1	日本臨床細胞学会	金原出版
1221	細胞診ガイドライン. 2	日本臨床細胞学会	金原出版
1222	細胞診ガイドライン. 3	日本臨床細胞学会	金原出版

番号	書名	著者名	出版社名
1223	細胞診ガイドライン. 4	日本臨床細胞学会	金原出版
1224	細胞診ガイドライン. 5	日本臨床細胞学会	金原出版
1225	細胞診断学入門:臨床検査技師・細胞検査士をめざす人のために	社本幹博:越川卓	名古屋大学出版会
1226	細胞検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1227	細胞診を学ぶ人のために	坂本穆彦	医学書院
1228	ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱規程	日本病理学会	羊土社
1229	細胞検査士細胞像試験問題集	日本臨床細胞学会	医歯薬出版
1230	スタンダード細胞診テキスト	水口國雄	医歯薬出版
1231	染色法のすべて	水口國雄	医歯薬出版
1232	細胞診アトラス:細胞・組織相関と最適なマネジメントのために	三上芳喜	文光堂
1233	細胞診鑑別アトラス	青笹克之:金城満	医歯薬出版
1234	手技と細胞鑑別の完全攻略実践的EUS-FNAアトラス	廣岡保明:稲山久美子	医歯薬出版
1235	痛みと鎮痛の基礎知識	小山なつ	技術評論社
1236	集中治療での鎮静・鎮痛	磨田裕	ベネコム
1237	根拠がわかる注射のための解剖学	佐藤達夫	インターメディカ
1238	ライン管理:中心静脈・動脈穿刺	宮道亮輔:石松伸一	学研メディカル秀潤社
1239	こういうことだったのか!! 酸素療法	小尾口邦彦	中外医学社
1240	輸液を学ぶ人のために	和田孝雄:近藤和子	医学書院
1241	写真でわかる経鼻栄養チューブの挿入と管理	山元恵子	インターメディカ
1242	輸血・移植検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
1243	スタンダード輸血検査テキスト	認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委	医歯薬出版
1244	よくわかる輸血学	大久保光夫:前田平生	羊土社
1245	輸血学	前田平生:大戸齊	中外医学社
1246	レジデントのためのこれだけ輸液	佐藤弘明	日本医事新報社
1247	日本臨床栄養代謝学会JSPENテキストブック	日本臨床栄養代謝学会	南江堂
1248	救急・集中治療のための輸液管理Q&A:研修医からの質問385	岡元和文	総合医学社
1249	血液浄化療法に強くなる	柴垣有吾:櫻田勉	羊土社
1250	日本急性血液浄化学会標準マニュアル	日本急性血液浄化学会	医学図書出版
1251	臨床工学技士のための血液浄化療法フルスペック	金子岩和:秋葉隆(透析療法)	メジカルビュー社
1252	血液浄化学	坂井瑠実:八城正知	メジカルビュー社
1253	生体機能代行装置学血液浄化療法装置	日本臨床工学技士教育施設協議会	医歯薬出版
1254	ICU/CCUの急性血液浄化療法の考え方, 使い方	大野博司	中外医学社
1255	人工呼吸管理実践ガイド	道又元裕:小谷透	照林社
1256	人工呼吸管理:モード設定とウィーニング	望月俊明:石松伸一	学研メディカル秀潤社
1257	よくわかる人工呼吸管理テキスト	並木昭義:氏家良人	南江堂
1258	臨床工学技士のための呼吸治療ガイドブック	相嶋一登:山口修	メジカルビュー社
1259	人工呼吸器グラフィックモニターの基本	今中秀光	メディカ出版
1260	免許皆伝! 呼吸療法の考え方, 進め方	滝澤始:倉井大輔	中外医学社
1261	新人工呼吸ケアのすべてがわかる本:1冊でまるごと理解	道又元裕	照林社
1262	やさしい血ガス・呼吸管理	長尾大志	日本医事新報社
1263	こういうことだったのか!! NPPV	小尾口邦彦	中外医学社
1264	臨床工学技士のための人工呼吸療法	磨田裕:廣瀬稔	学研メディカル秀潤社
1265	人工呼吸器の本エッセンス	ウィリアム・オーウェンズ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1266	やさしくわかるECMOの基本	氏家良人:小倉崇以	羊土社
1267	人工呼吸器の本アドバンス	ウィリアム・オーウェンズ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1268	見える! できる! 気管挿管:写真・イラスト・動画でわかる手技のコツ	青山和義	羊土社
1269	人工呼吸管理レジデントマニュアル	則末泰博	医学書院

番号	書名	著者名	出版社名
1270	人工呼吸器トラブルシューティングセミナー：電子版付	田中竜馬	日本医事新報社
1271	ECMO実践ハンドブック：世界標準の成人ECMO管理	アラン・ヴァイルステク	羊土社
1272	WEB動画で学ぶ人工呼吸管理：基礎がわかれば実践できる	日本呼吸ケア教育研究会	金芳堂
1273	こういうことだったのか！！ECMO・PCPS	小尾口邦彦	中外医学社
1274	「やりたいこと」がすぐできる！人工呼吸器つかいこなしくイックリファレンスブック	横山俊樹：春田良雄	メディカ出版
1275	わかって動ける！人工呼吸管理ポケットブック	志馬伸朗	羊土社
1276	ECMO・PCPSバイブル：ECMO・PCPSを習得したいすべての人へ	日本呼吸療法医学会	メディカ出版
1277	行ったり来たりでよくわかる機器から入る人工呼吸器管理	石橋一馬	中外医学社
1278	人工呼吸管理に強くなる	讃井将満：大庭祐二	羊土社
1279	世界でいちばん愉快に人工呼吸管理がわかる本：ナース・研修医のための	古川力丸	メディカ出版
1280	Dr. 竜馬の病態で考える人工呼吸管理	田中竜馬	羊土社
1281	人工呼吸管理の合格ポイント	道又元裕	学研メディカル秀潤社
1282	人工呼吸器まるごとブック：とことんやさしい！だけじゃナイ！	沖縄呼吸ケア研究会	メディカ出版
1283	在宅人工呼吸器ケア実践ガイド：ALS生活支援のための技術・制度・倫理	川口有美子：小長谷百絵	医歯薬出版
1284	書いて覚える！ハローキティの人工呼吸器ノート	南雲秀子：中西美貴	ナツメ社
1285	ゼロからわかる人工呼吸器ケア	小谷透	成美堂出版
1286	ファーストタッチ人工呼吸器：ナース・研修医・臨床工学技士のための	石橋一馬	メディカ出版
1287	これならわかる！人工呼吸器の使い方	讃井将満	ナツメ社
1288	人工呼吸管理ポケットガイド	大野博司	中外医学社
1289	1冊でわかる病棟で行う呼吸管理：これだけ押さえれば大丈夫！	富井啓介：永田一真	学研メディカル秀潤社
1290	Table Top Exercise机上演習で学ぶ人工呼吸器トラブルシューティング	日本呼吸ケア教育研究会	金芳堂
1291	呼吸ECMOのすべてQ&A	竹田晋浩：近藤豊	中外医学社
1292	心肺脳蘇生法	岡田和夫	医学図書出版
1293	CPR+AEDコースマニュアル	太田祥一：行岡哲男	医学書院
1294	気管挿管	大谷典生：石松伸一	学研メディカル秀潤社
1295	標準救急医学	有賀徹(救急医学)：坂本哲也	医学書院
1296	病院前救急医学	小浜啓次	へるす出版
1297	ER・ICUスタッフ必携マニュアル	今泉均：升田好樹	南江堂
1298	好きになる救急医学：病院前から始まる救急医療	小林国男	講談社
1299	EBM救急医学：クリニカル・ディシジョン・ルールと診断テスト	ジェシー・M. バインズ	西村書店(新潟)
1300	AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために	瀬尾憲司	医歯薬出版
1301	写真と動画でわかる一次救命処置：BLS	小林正直：石見拓	学研メディカル秀潤社
1302	写真と動画でわかる二次救命処置：ALS	小林正直：石見拓	学研メディカル秀潤社
1303	集中治療学	讃井将満：山口敦司	メジカルビュー社
1304	内科病棟・ERTトラブルシューティング	上田剛士：高岸勝繁	金芳堂
1305	ビジュアルでわかる救急・ICU患者のME機器からみた呼吸・循環管理	阿南英明	メディカ出版
1306	救急レジデントマニュアル	堀進悟：佐々木淳一	医学書院
1307	重症患者管理マニュアル	平岡栄治：則末泰博	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1308	ER・ICUの薬剤121 ver. 2. 0：看護師・研修医必携	大野博司：志賀隆	メディカ出版
1309	救急・ICUの頻用薬を使いこなせ！	志馬伸朗	羊土社
1310	集中治療、ここだけの話	田中竜馬	医学書院
1311	内科レジデントマニュアル	聖路加国際病院内科専門研修委員会	医学書院
1312	ER・ICU100のピットフォール	志馬伸朗	中外医学社
1313	ICU実践ハンドブック：病態ごとの治療・管理の進め方	清水敬樹	羊土社
1314	災害時の集中治療室：日頃の準備から発災後まで—ICUの対応ガイダンス	日本集中治療医学会危機管理委員会	真興交易医書出版部
1315	救急救命士標準テキスト	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版
1316	ねころんで読める救急患者のみかた	坂本壮	メディカ出版

番号	書名	著者名	出版社名
1317	救急・集中治療. Vol32 No3(2020)	松田直之	総合医学社
1318	救急・ICUでの新型コロナウイルス感染症対応マニュアル	大友康裕	メディカ出版
1319	救急・集中治療領域における緩和ケア	氏家良人・木澤義之	医学書院
1320	病棟・ICU・ERで使えるクリティカルケア薬Essence & Practice	安宅一晃・牧野淳	じほう
1321	ナース・研修医のための救急・ICUで使うME機器	竹内一郎(救急医学)	メディカ出版
1322	コメディカルによるバイタル異常・急変・ME機器でのアラームサインへのアプローチ	小野寺憲治	薬事日報社
1323	救急ICU薬剤ノート:希釈まで早わかり!	清水敬樹	羊土社
1324	救急医療達人に学ぶ! vol. 3	磯谷栄二	真興交易医書出版部
1325	救急・集中治療における臨床倫理	前田正一・氏家良人	克誠堂出版
1326	救急・集中治療医学レビュー:最新主要文献と解説. 2016-'17	岡元和文・横田裕行	総合医学社
1327	ER・ICU診療を深める. 1	小尾口邦彦	中外医学社
1328	カンタン! 救急蘇生:動画でわかる胸骨圧迫&AED	小林正直・石見拓	学研メディカル秀潤社
1329	ER・ICU 100のdon'ts:明日からやめる医療ケア	志馬伸朗・小尾口邦彦	中外医学社
1330	救命救急・集中治療エキスパートブックR35	三宅康史	日本医事新報社
1331	ハートセイバーファーストエイドCPR AEDインストラクターマニュアル	アメリカ心臓協会	American Heart Assoc
1332	ER・ICU 100のスタンダード	志馬伸朗	中外医学社
1333	集中治療医学レビュー:最新主要文献と解説. 2018-'19	岡元和文・大塚将秀	総合医学社
1334	薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト	日本病院薬剤師会	へるす出版
1335	重症患者のアセスメントとベストプラクティス	道又元裕	日総研出版
1336	明日のアクションが変わるICU輸液力の法則	川上大裕	中外医学社
1337	集中治療医学レビュー:最新主要文献と解説. 2020-'21	岡元和文・大塚将秀	総合医学社
1338	救急・集中治療最新ガイドライン. 2020-'21	岡元和文	総合医学社
1339	ICU/CCUの薬の考え方, 使い方	大野博司	中外医学社
1340	もっともってねころんで読める抗菌薬:やさしい抗菌薬入門書3	矢野邦夫	メディカ出版
1341	わかる抗菌薬	天沢ヒロ	医学書院
1342	使いこなす抗菌薬	天沢ヒロ	医学書院
1343	抗菌薬の考え方, 使い方:魔弾よ、ふたたび...	岩田健太郎	中外医学社
1344	ステロイドの選び方・使い方ハンドブック	山本一彦	羊土社
1345	ケアに使える画像の見かた:X線写真・CT画像・エコー像・MRI	久志本成樹	照林社
1346	原典で読む放射線治療史	館野之男	エム・イー振興協会
1347	標準放射線医学	西谷弘・遠藤啓吾	医学書院
1348	放射線医学物理学	西台武弘	文光堂
1349	放射線治療物理学	荒木不次男	国際文献社
1350	人体のメカニズムから学ぶ放射線生物学	松本義久	メジカルビュー社
1351	放射線診断物理学	松本政雄:日本医学物理学会	国際文献社
1352	診療用放射線事務手続き・安全管理・日常点検	山口一郎(放射線衛生学)	医療科学社
1353	放射線医科学の事典:放射線および紫外線・電磁波・超音波	大西武雄	朝倉書店
1354	放射線・医療安全管理学	藤淵俊王・杜下淳次	南山堂
1355	放射線計測学	納富昭弘	国際文献社
1356	標準X線CT画像計測	日本放射線技術学会	オーム社
1357	放射線計測学	日本放射線技術学会	オーム社
1358	3D画像で学ぶ人体	上山敬司・中川克二	医学書院
1359	新X線解剖学	小林敏雄	金原出版
1360	MR・超音波・眼底基礎知識図解ノート	新津守・磯辺智範	金原出版
1361	画像診断を学ぼう:単純X線からCT・MRI・超音波まで	ウィリアム・ヘリング・江原茂	エルゼビア・ジャパン
1362	そうだったのか! 絶対読めるCAG:シェーマでわかる冠動脈造影の読み方	中川義久・林秀隆	羊土社
1363	ステップアップ消化管超音波検査	岩崎信広・岡部純弘	医歯薬出版

番号	書名	著者名	出版社名
1364	マイヤース腹部放射線診断学:発生的・解剖学的アプローチ	モートン・アレン・マイヤース	医学書院
1365	放射性同位元素検査学:メディカルサイエンス	河村誠治:三田明弘	近代出版(東京)
1366	放射性同位元素検査技術学	小野口昌久:川井恵一	医歯薬出版
1367	ICUの理学療法	神津玲	三輪書店
1368	病理学	横井豊治:村雲芳樹	医学書院
1369	臨床工学技士のための高気圧酸素治療入門	日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	へるす出版
1370	高気圧酸素治療のための医学・生理学	トム・S. ニューマン	へるす出版
1371	カラー写真で学ぶ機能解剖学に基づく手技療法	竹内義享	医歯薬出版
1372	医用電気工学	金井寛	コロナ社
1373	メディカルテクノロジーへの招待	海野肇:酒井清孝	培風館
1374	医用超音波機器ハンドブック	日本電子機械工業会	コロナ社
1375	ME用語辞典	日本エム・イー学会	コロナ社
1376	ME機器マニュアル:基礎から学んでトラブルに対応	久保寿子:尾崎真	真興交易医書出版部
1377	医用電子工学	松尾正之:根本幾	コロナ社
1378	臨床工学技士のすすめ	野城真理	コロナ社
1379	再生医療のためのバイオマテリアル	田畑泰彦	コロナ社
1380	こんな時どうするME機器のトラブル対処法	坂本篤裕	真興交易医書出版部
1381	臨床工学(CE)とME機器・システムの安全	渡辺敏(医学)	コロナ社
1382	医用機械工学	馬淵清資	コロナ社
1383	金属バイオマテリアル	塙隆夫:米山隆之	コロナ社
1384	医用工学概論	嶋津秀昭	コロナ社
1385	入門医工学:医学をサポートする工学	大島宣雄	サイエンス社
1386	新ME機器ハンドブック	電子情報技術産業協会	コロナ社
1387	ポリマーバイオマテリアル:先端医療のための分子設計	石原一彦(マテリアル工学)	コロナ社
1388	ME機器保守管理マニュアル:臨床工学技士の業務を中心として	渡辺敏(医学):小野哲章	南江堂
1389	セラミックバイオマテリアル	岡崎正之:山下仁大	コロナ社
1390	臨床工学技士のための基礎電子工学	稲岡秀検:野城真理	コロナ社
1391	医療機器:生い立ち・役目と働き・望まれる姿	久保田博南	真興交易医書出版部
1392	CTとMRI:その原理と装置技術	森一生:山形仁	コロナ社
1393	医工連携:最新動向と将来展望	田中紘一	日本医療企画
1394	第24回臨床工学技士国家試験問題解説集		へるす出版
1395	医療系資格試験のための物理試験	仲田昭彦	コロナ社
1396	医療系資格試験のための電気	仲田昭彦	コロナ社
1397	医用システム・制御工学	嶋津秀昭:堀内邦雄	医歯薬出版
1398	第25回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1399	医療機器の日常お手入れガイド清掃・消毒・滅菌	川崎忠行:田口彰一	メジカルビュー社
1400	医療機器と検査・治療のしくみ:イラスト図解	八幡勝也:木村憲洋	日本実業出版社
1401	臨床工学技士ブルー・ノート:基礎編	見目恭一	メジカルビュー社
1402	臨床工学技士イエロー・ノート:臨床編	見目恭一	メジカルビュー社
1403	第26回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1404	医療機器治験改正GCP省令のポイント	東健太郎:宮田俊男	じほう
1405	先端医療を支える工学:生体医工学への誘い	日本生体医工学会	コロナ社
1406	第2種ME技術実力検定試験重要問題集中トレーニング	中村藤夫:石田等	メジカルビュー社
1407	臨床工学技士グリーン・ノート:基礎編	見目恭一	メジカルビュー社
1408	臨床工学技士グリーン・ノート:臨床編	見目恭一	メジカルビュー社
1409	第27回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1410	医用機器安全管理学	篠原一彦:出淵靖志	医歯薬出版

番号	書名	著者名	出版社名
1411	ME機器安全使用・管理マニュアル虎の巻	竹田晋浩:鈴木健一	克誠堂出版
1412	医用電子工学	中島章夫:福長一義	医歯薬出版
1413	医用電気工学. 1	戸畑裕志:中島章夫	医歯薬出版
1414	医用電気工学. 2	福長一義:中島章夫	医歯薬出版
1415	臨床工学技士ポケット・レビュー帳	福長一義	メジカルビュー社
1416	臨床工学プラクティカル・フルコース	川崎忠行	メジカルビュー社
1417	臨床工学技士先手必勝! 弱点克服完全ガイド	見目恭一	メジカルビュー社
1418	人工心臓	四津良平:平林則行	南江堂
1419	第28回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1420	血液浄化装置	峰島三千男	南江堂
1421	医用工学演習:よくわかる電気電子の基礎知識	西山篤:飯田孝保	医療科学社
1422	バイオマテリアル:その基礎と先端研究への展開	田畑泰彦:塙隆夫	東京化学同人
1423	よくわかる! 超音波検査に必要な「基礎」:医用超音波工学入門	田中直彦	文光堂
1424	第2種ME技術実力検定試験必勝ポイント帳	中村藤夫:石田等	メジカルビュー社
1425	レーザー医療の基礎と安全	日本レーザー医学会	アトムス
1426	CE臨床実習ルートマップ	日比谷信	メジカルビュー社
1427	医用工学:医療技術者のための電気・電子工学	若松秀俊:本間達	共立出版
1428	第29回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1429	最新人工心臓:理論と実際	上田裕一:碓氷章彦	名古屋大学出版会
1430	ドクターゴンの知っておきたい在宅医療の機器・材料	泰川恵吾	薬事日報社
1431	イラスト医工学:バイオメカニクスから医療機器・科学捜査まで	伊藤安海:鍵山善之	アドスリー
1432	人工心臓・補助循環装置	「新ME早わかりQ&A」編集委員会	南江堂
1433	対訳ISO 13485	日本医療機器産業連合会	日本規格協会
1434	イラスト&写真でわかる医療機器&材料ディテールBOOK	上野雅巳	医学通信社
1435	あなたのラボにAI(人工知能)×ロボットがやってくる	夏目徹	羊土社
1436	第30回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1437	プラスチック製医療機器入門:材料・種類・用途から滅菌・薬機法まで	日本医療機器テクノロジー協会	三光出版社
1438	医用工学概論	嶋津秀昭:中島章夫	医歯薬出版
1439	ISO13485:2016医療機器における品質マネジメントシステム実践ガイド	日本医療機器産業連合会ISO/TC210	日本規格協会
1440	第2種ME技術実力検定試験マスター・ノート	中村藤夫	メジカルビュー社
1441	第2種ME技術実力検定試験徹底攻略!	第2種ME技術実力検定試験問題研究会	学研メディカル秀潤社
1442	バイオマテリアルサイエンス:基礎から臨床まで	山岡哲二:大矢裕一	東京化学同人
1443	臨床工学技士のための臨床実習が楽しくなる本	高橋純子	丸善出版
1444	エキスパートに学ぶ補助循環のキホンとトラブルシューティング	大槻勝明	総合医学社
1445	呼吸療法装置	「新ME早わかりQ&A」編集委員会	南江堂
1446	ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル	古菌勉	学研メディカル秀潤社
1447	第31回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1448	医用治療機器学	篠原一彦	医歯薬出版
1449	臨床工学技士標準テキスト	小野哲章:峰島三千男	金原出版
1450	医用情報処理工学	戸畑裕志:中島章夫	医歯薬出版
1451	医用工学の基礎	土肥健純	東京電機大学出版局
1452	ドクターがやさしく教える! 医療AI入門	山下康行	金原出版
1453	臨床工学技士集中治療テキスト	日本集中治療医学会CEテキスト作成委員会	真興交易医書出版部
1454	イザイ医材No. 35(2019)	日本医療マネジメント学会	篠原出版新社
1455	Clinical Engineering:臨床工学ジャーナル. Vol. 30 No. 3		学研メディカル秀潤社
1456	Clinical Engineering:臨床工学ジャーナル. Vol. 30 No. 6		学研メディカル秀潤社
1457	Clinical Engineering:臨床工学ジャーナル. Vol. 30 No. 7		学研メディカル秀潤社

番号	書名	著者名	出版社名
1458	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 30 No. 10		学研メディカル秀潤社
1459	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 30 No. 11		学研メディカル秀潤社
1460	医療機器安全実践必携ガイド 医療概論編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1461	医療機器安全実践必携ガイド 臨床医学編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1462	医療機器安全実践必携ガイド 臨床工学編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1463	医療機器安全実践必携ガイド 医療情報編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1464	第32回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1465	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 31 No. 1		学研メディカル秀潤社
1466	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 31 No. 5		学研メディカル秀潤社
1467	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 31 No. 6		学研メディカル秀潤社
1468	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 31 No. 8		学研メディカル秀潤社
1469	医療機器システム白書. 2020	月刊新医療	エム・イー振興協会
1470	医用機械工学	日本臨床工学技士教育施設協議会	医歯薬出版
1471	知っておきたい医工計測技術入門	鈴木良次: 辰巳仁史	朝倉書店
1472	Pythonによる医用画像処理入門	藤田広志: 上杉正人	オーム社
1473	MEの基礎知識と安全管理	日本生体医工学会ME技術教育委員会	南江堂
1474	第2種ME技術実力検定試験全問題解説	第2種ME技術実力検定試験問題研究会	学研メディカル秀潤社
1475	人工心臓ハンドブック	山口敦司: 百瀬直樹	中外医学社
1476	医療現場の滅菌	高階雅紀	へるす出版
1477	医療機器安全実践必携ガイド 医療概論編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1478	医療機器安全実践必携ガイド 臨床医学編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1479	医療機器安全実践必携ガイド 臨床工学編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1480	医療機器安全実践必携ガイド 医療情報編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1481	医療に活かす生体医工学	日本生体医工学会: 平田雅之	コロナ社
1482	第33回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1483	ウェアラブル医療・ヘルスケア機器の技術と市場		シーエムシー出版
1484	イザイ-医材No. 36(2019)	日本医療マネジメント学会	篠原出版新社
1485	イザイ-医材No. 37(2020)	日本医療マネジメント学会	篠原出版新社
1486	イザイ-医材No. 38(2020)	日本医療マネジメント学会	篠原出版新社
1487	イザイ-医材No. 39(2021)	日本医療マネジメント学会	篠原出版新社
1488	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 32 No. 1		学研メディカル秀潤社
1489	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 32 No. 2		学研メディカル秀潤社
1490	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 32 No. 3		学研メディカル秀潤社
1491	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 32 No. 4		学研メディカル秀潤社
1492	Clinical Engineering: 臨床工学ジャーナル. Vol. 32 No. 8		学研メディカル秀潤社
1493	JISハンドブック2021. 73-2	日本規格協会	日本規格協会
1494	JISハンドブック2021. 73-3	日本規格協会	日本規格協会
1495	JISハンドブック2021. 73-4	日本規格協会	日本規格協会
1496	生体内移動論	ロナルド・L. フルニエ	朝倉書店
1497	医療機器安全実践必携ガイド 医療概論編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1498	医療機器安全実践必携ガイド 臨床医学編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1499	医療機器安全実践必携ガイド 臨床工学編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1500	医療機器安全実践必携ガイド 医療情報編	日本医療機器学会	エム・イー振興協会
1501	第34回臨床工学技士国家試験問題解説集	日本臨床工学技士教育施設協議会	へるす出版
1502	医療機器システム白書. 2021	月刊新医療	エム・イー振興協会
1503	医療機器システム白書. 2022	月刊新医療	エム・イー振興協会
1504	医用材料工学	堀内孝: 村林俊	コロナ社

番号	書名	著者名	出版社名
1505	人工心肺:その原理と実際	グレン・P. グレーヴリー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1506	バイオデザイン スタンフォード大学	ステファノス・A. ゼニオス	薬事日報社
1507	看護師・研修医・臨床工学技士のための救急・ICUのME機器らくらく攻略ブック	三木隆弘	メディカ出版
1508	医用工学	富永孝宏:坂本重己	共立出版
1509	JISハンドブック2021. 73-1	日本規格協会	日本規格協会
1510	ナースのためのME機器マニュアル	加納隆:廣瀬稔	医学書院
1511	ICU・CCU看護教本	日本集中治療医学会	医学図書出版
1512	ベッドまわりの環境学	川口孝泰	医学書院
1513	救急ケア	中村恵子(看護学)	学研プラス
1514	在宅療養指導とナーシングケア:退院から在宅まで. 4	宮崎歌代子:鹿渡登史子	医歯薬出版
1515	看護の人間工学:ヘルス・ケア・ワークを支える	大河原千鶴子:酒井一博	医歯薬出版
1516	写真でわかる看護安全管理:事故・インシデントの背景要因の分析と対策	佐相邦英:村上美好	インターメディカ
1517	ICU・CCUのベッドサイドモニタリング:写真と図解でマスター!	妙中信之	メディカ出版
1518	疾患別ICUナースの観察力・対応力upポケットマニュアル	篠崎正博	メディカ出版
1519	緊急時の初期対応Q&A:事例に学ぶ	川原千香子:太田祥一	総合医学社
1520	救急外来トリアージ:アメリカ救急看護学会・救急医学会推薦5段階トリアー	ジュリー・K. ブリッグス	西村書店(新潟)
1521	急変対応のすべてがわかるQ&A	佐藤憲明	照林社
1522	アセスメント力を高める! バイタルサイン	徳田安春	医学書院
1523	病理学		メディカルフレンド社
1524	ICU・CCU看護	早川弘一:高野照夫	医学書院
1525	ICU・CCU	香取信之	医学書院
1526	在宅ケア	鈴木陽一	医学書院
1527	ナースのためのやさしくわかる内視鏡検査・治療・ケア:オールカラー	工藤進英	ナツメ社
1528	苦手克服! 人工呼吸ケア:患者さんのつらさを軽減するポイント48	廣瀬稔:森安恵実	医学書院
1529	ハートナーシング・呼吸器ケア・エマージェンシーケア 13年	西田修	メディカ出版
1530	わかって身につくバイタルサイン	田中裕二	学研メディカル秀潤社
1531	はじめてのバイタルサイン	中村明美	メディカ出版
1532	国循ICU看護マニュアル	小林順二郎:伊藤文代	メディカ出版
1533	ICU患者のモニタリング:異変のサインを見逃さない!	神戸市立医療センター中央市民病院	メディカ出版
1534	ICUのベッドサイドケア:写真&図解で完全マスター!	宇都宮明美	メディカ出版
1535	人工呼吸器と集中ケアQ&A:ベッドサイドからの質問286	岡元和文	総合医学社
1536	人工呼吸器デビュー:はじめてでも使いこなせるすぐ動ける	露木菜緒:道又元裕	学研メディカル秀潤社
1537	ICU患者のフィジカルアセスメント	濱本実也	メディカ出版
1538	新人ナースのためのまるわかり心臓カテーテル看護	横井良明:木下博子	メディカ出版
1539	基礎看護技術	角濱春美:梶谷佳子	メディカルフレンド社
1540	医療安全:多職種でつくる患者安全をめざして	山内豊明:荒井有美	南江堂
1541	注射・採血ができる:Web動画付	福家幸子:山岡麗	医学書院
1542	導尿・洗腸・摘便ができる:Web動画付	福家幸子:山岡麗	医学書院
1543	解剖と疾患と看護がつながる!:ゼットイ聞きたいさわ先生の人気講座	さわ研究所	医歯薬出版
1544	病態生理学:疾病のなりたちと回復の促進2		医学書院
1545	看護英語の基本用語と表現:これだけは知っておきたい	園城寺康子:川越栄子	マジカルビュー社
1546	看護学生のためのレポート&実習記録の書き方	百瀬千尋	メディカルフレンド社
1547	緩和ケア	宮下光令	メディカ出版
1548	はじめての人工呼吸器	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	メディカ出版
1549	看護の現場ですぐに役立つICU看護のキホン	レアネットドライブ	秀和システム
1550	ICNR(INTENSIVE CARE NURSING REVIEW)		学研メディカル秀潤社
1551	使いこなし人工呼吸器:初めての人が達人になれる	露木菜緒	南江堂

番号	書名	著者名	出版社名
1552	ナースのための臨床推論で身につく院内トリアージ	伊藤敬介(看護師):大西弘高	学研プラス
1553	まるごとやりなおしのバイタルサイン	桑原美弥子:山内豊明	メディカ出版
1554	看護学生のためのウォーミングアップ:数学、物理、生物、化学、小論文	平田雅子:平田昌	サイオ出版
1555	災害看護	酒井明子(看護学):長田恵子	メディカ出版
1556	重症患者ケア. Vol. 6 No. 1		総合医学社
1557	やさしくわかるICU看護	松木恵里:市川幾恵	ナツメ社
1558	人工呼吸器とケアQ&A:基本用語からトラブル対策まで	岡元和文	総合医学社
1559	肝胆膵の治療とケアQ&A:どでかい図解でカンタンスイスイはわかり	島田光生	メディカ出版
1560	ICNR(INTENSIVE CARE NURSING REVIEW). Vol. 4No. 4		学研メディカル秀潤社
1561	慢性期看護	黒江ゆり子	メディカルフレンド社
1562	人間関係論	石川ひろの	医学書院
1563	解剖生理学:人体の構造と機能 1	坂井建雄	医学書院
1564	化学	奈良雅之	医学書院
1565	微生物学:疾病のなりたちと回復の促進 4	吉田真一	医学書院
1566	薬理学:疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘	医学書院
1567	災害看護:看護の専門知識を統合して実践につなげる	酒井明子(看護学)	南江堂
1568	終末期医療の緩和ケア	ジェームス・F・ハンラティ	朝日出版社
1569	手順が見える! 次の動きがわかる! 消化器外科の手術看護	大野義一郎	医学書院
1570	災害看護:寄り添う, つながる, 備える	三澤寿美:太田晴美	学研メディカル秀潤社
1571	これならわかるICU看護:大事なポイント、全部みせます! オールカラー	道又元裕	照林社
1572	先輩ナースが書いた消化器外科ノート:ケアの根拠がわかる	久保健太郎:西口幸雄	照林社
1573	新人ナースのための消化器外科看護ダンドリBOOK	土岐祐一郎	メディカ出版
1574	ICNR(INTENSIVE CARE NURSING REVIEW). Vol. 5 No. 2		学研メディカル秀潤社
1575	ICNR(INTENSIVE CARE NURSING REVIEW)Vol. 5 No. 3		学研メディカル秀潤社
1576	医療安全学	松村由美	メディカルレビュー社
1577	臨床薬理学	鈴木洋史	メディカルレビュー社
1578	やさしくわかる透析看護	小林修三:日高寿美	照林社
1579	いまさら聞けない! 急変対応Q&A	道又元裕:露木菜緒	照林社
1580	消化器内視鏡のケアズバリ! 使えるポイントBOOK	山本夏代	メディカ出版
1581	医療安全:患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力	小林美亜	学研メディカル秀潤社
1582	なるほど人工呼吸管理:誰もここまで教えてくれなかった	安宅一晃	メディカ出版
1583	呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	地域医療機能推進学会	メディカ出版
1584	透析管理関連	地域医療機能推進学会	メディカ出版
1585	生化学:人体の構造と機能 2	畠山鎮次	医学書院
1586	解剖生理学ワークブック:『系統看護学講座』準拠	坂井建雄:岡田隆夫	医学書院
1587	はじめて学ぶ! 脳神経外科のキホンとケア	柴田靖	総合医学社
1588	脳神経外科に配属ですか?!	井上亨	メディカ出版
1589	人工呼吸器・気管切開まるわかり:いざというとき困らない!	木下佳子:橋本良子	照林社
1590	看護師・看護学生のためのなぜ? どうして?. 3 2020-2021	医療情報科学研究所	メディックメディア
1591	看護師・看護学生のためのなぜ? どうして?. 4 2020-2021	医療情報科学研究所	メディックメディア
1592	看護師・看護学生のためのなぜ? どうして?. 5 2020-2021	医療情報科学研究所	メディックメディア
1593	看護師・看護学生のためのなぜ? どうして?. 6 2020-2021	医療情報科学研究所	メディックメディア
1594	すぐ役立つ患者を守る臨床スキル	石松伸一:藤野智子	学研メディカル秀潤社
1595	心不全ケア教本	眞茅みゆき:池亀俊美	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1596	たった20項目で学べる在宅皮膚疾患&スキンケア	安部正敏	学研メディカル秀潤社
1597	Dr. 上田のもうダメされない身体診察	上田剛士	メディカ出版
1598	トリアージナースガイドブック. 2020	日本救急看護学会	へるす出版

番号	書名	著者名	出版社名
1599	循環器内科・心臓血管外科ナースポケットブック	池亀俊美	学研メディカル秀潤社
1600	栄養生化学	脊山洋右:島野仁	メディカルフレンド社
1601	透析看護ポケットブック:慢性腎不全の病態と治療・ケアがまるっとわかる!	伊東稔:川合由美子	メディカ出版
1602	人工呼吸ケアはじめの一步:オールカラー	坂木孝輔:齋藤敬太	照林社
1603	看護・医療を学ぶ人のためのよくわかる関係法規	松原孝明	学研メディカル秀潤社
1604	写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス	守田美奈子:鈴木憲史	インターメディカ
1605	栄養学:人体の構造と機能 3	中村丁次	医学書院
1606	栄養食事療法	中村丁次	医学書院
1607	写真でわかる基礎看護技術アドバンス:基礎的な看護技術を中心に!	吉田みつ子:本庄恵子	インターメディカ
1608	写真でわかる臨床看護技術アドバンス. 1	本庄恵子:吉田みつ子	インターメディカ
1609	写真でわかる臨床看護技術アドバンス. 2	本庄恵子:吉田みつ子	インターメディカ
1610	写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス	吉田みつ子:本庄恵子	インターメディカ
1611	心電図教えてノート:チームでモニター事故を予防する!	石田岳史:富田晴樹	中外医学社
1612	看護のための臨床病態学	浅野嘉延:吉山直樹	南山堂
1613	本当に大切なことが1冊でわかる循環器	新東京病院看護部	照林社
1614	本当に大切なことが1冊でわかる脳神経	東海大学医学部付属八王子病院看護部	照林社
1615	糖尿病・腎臓病看護	金子和真:佐藤智寛	講談社
1616	看護の現場ですぐに役立つ循環器看護のキホン	中澤真弥:雑賀智也	秀和システム
1617	これならわかる!循環器疾患の看護ケア	杉岡充爾	ナツメ社
1618	CKD(慢性腎臓病)看護ケアガイド	岡美智代	照林社
1619	看護の現場ですぐに役立つ心臓血管外科看護	前田浩(医学博士)	秀和システム
1620	症状・疾患がわかるBOOK:ここだけおさえて!院内で出合う	山中克郎	照林社
1621	看護の現場ですぐに役立つ心臓カテーテル看護の基本	岩崎純恵	秀和システム
1622	基礎看護技術	角濱春美:梶谷佳子	メディカルフレンド社
1623	解剖生理学	橋本尚詞:鯉淵典之	メディカルフレンド社
1624	病理学:疾病のなりたちと回復の促進 1	大橋健一	医学書院
1625	看護の現場ですぐに役立つ消化器内視鏡看護	青木亜由美:河上真紀子	秀和システム
1626	これならわかる!脳神経外科の看護ケア	横浜新都市脳神経外科病院	ナツメ社
1627	多職種連携・地域連携をふまえた看護記録パーフェクトガイド	畑田みゆき	学研メディカル秀潤社
1628	糖尿病看護ビジュアルナーシング	平野勉:柏崎純子	学研メディカル秀潤社
1629	本当に大切なことが1冊でわかる呼吸器	さいたま赤十字病院看護部	照林社
1630	コツぶっくす 人工呼吸器:先輩ナースの書きこみがぜんぶのってる!	兵庫県立尼崎総合医療センター看護部	メディカ出版
1631	ヘルスケアシステム論 ヘルスケアサービス提供のための制度・政策	井部俊子:増野園恵	日本看護協会出版会
1632	安心・安全自信がもてる輸液管理	雀地洋平	南江堂
1633	3つの「知りたい」がまとめてわかる!心電図・X線画像・採血	宮道亮輔	学研メディカル秀潤社
1634	透析療法&看護のギモン88アンサーブック	山家敏彦:相澤裕	メディカ出版
1635	これならわかる!消化器外科の看護ケア	福長洋介:長井優子	ナツメ社
1636	慢性腎臓病看護	日本腎不全看護学会	医学書院
1637	はじめてでもよくわかるナースのための呼吸ECMO実践ガイド	清水敬樹:濱口純	学研メディカル秀潤社
1638	早わかり人工呼吸器換気モード超入門:たとえとイラストでかんたんマスター	磨田裕	メディカ出版
1639	ICUケアメソッド:クリティカルケア領域の治療と看護	道又元裕	学研メディカル秀潤社
1640	基礎と臨床がつながるバイタルサイン:血圧・脈拍・体温・呼吸・意識・SpO2	三浦英恵:村田洋章	学研メディカル秀潤社
1641	人工呼吸器離脱のための標準テキスト	日本クリティカルケア看護学会	学研メディカル秀潤社
1642	ICUナースポケットブック	日本集中治療教育研究会	学研メディカル秀潤社
1643	ICU3年目ナースのノート	道又元裕:露木菜緒	日総研出版
1644	ICUトータルアセスメント:クリティカルケア領域の看護計画	道又元裕	学研メディカル秀潤社
1645	素敵ナースの練習帳:人工呼吸管理・急変対応・ドレーン管理・心電図対応	道又元裕	学研メディカル秀潤社

番号	書名	著者名	出版社名
1646	消化器内視鏡の機器・器具・デバイスはこう使い！	大圃研・佐藤貴幸	金芳堂
1647	呼吸管理を極める！：エキスパートの考え方とやり方	道又元裕・露木菜緒	総合医学社
1648	わかる！使える！バイタルサイン・フィジカルアセスメント：オールカラー	中村充浩	照林社
1649	ICUに配属ですか？！：すぐ大事なことだけギュッとまとめて教えます！	市場晋吾	メディカ出版
1650	すぐ役立つ急性期の呼吸管理	道又元裕	学研メディカル秀潤社
1651	ICUビジュアルナーシング	道又元裕	学研メディカル秀潤社
1652	補助循環、ちゃんと教えます。：新人にわかる言葉・イラスト・写真で解説！	湊谷謙司	メディカ出版
1653	急性期看護：クリティカルケア	明石恵子	メディカルフレンド社
1654	周術期看護	明石恵子	メディカルフレンド社
1655	生物学	高畑雅一	医学書院
1656	すぐ調 糖尿病	山田悟	医学書院
1657	高齢者の健康と障害	堀内ふき・諏訪さゆり	メディカ出版
1658	心電図道場	高階経和	医学書院
1659	CCUエキスパート看護マニュアル part 2	三浦稚郁子	中外医学社
1660	すぐ調 循環器	高橋寿由樹	医学書院
1661	まるごと図解循環器疾患：オールカラー	大八木秀和	照林社
1662	病態生理からみた先天性心疾患の周術期看護	中西敏雄	メディカ出版
1663	ナース・メディカルスタッフのための循環器レクチュア	齋藤宣彦・大門雅夫	文光堂
1664	ハートナーシング：. Vol. 34No. 5		メディカ出版
1665	すぐ調 呼吸器	福永興吉	医学書院
1666	パーフェクトガイド呼吸管理とケア：病態生理から学ぶ臨床のすべて	岡元和文・柳下芳寛	総合医学社
1667	すぐ調 消化器	浦上秀次郎	医学書院
1668	はじめてでもやさしい内視鏡看護：内視鏡の検査・治療・看護	椿昌裕	学研メディカル秀潤社
1669	手にとるようにぐんぐんわかる！消化器内視鏡EMR/ESD看護	湯浅淑子・和田美由紀	金芳堂
1670	すぐ調 精神科	秋根良英	医学書院
1671	絵でみる脳と神経：しくみと障害のメカニズム	馬場元毅	医学書院
1672	すぐ調 小児科	内田敬子	医学書院
1673	新生児の正常・異常みきわめブック 正期産児編	田中太平	メディカ出版
1674	消化器外科の器械出し：カラー写真で理解する手順・ポイント・テクニック	飯島正平	メディカ出版
1675	術後管理のチェックポイント：一般外科・消化器外科51術式別 上	大井田尚継	医歯薬出版
1676	術後管理のチェックポイント：一般外科・消化器外科51術式別 下	大井田尚継	医歯薬出版
1677	ドレーン・チューブ管理&ケアガイド	佐藤憲明	中山書店
1678	オペナーシング 14年秋季増刊：術式別でわかりやすい！	今本治彦	メディカ出版
1679	器械出し・外回りのまるわかりポイント	阿部奈緒子	メディカ出版
1680	ドレーン管理デビュー：はじめてでもすぐできるすぐ動ける	小松由佳・道又元裕	学研メディカル秀潤社
1681	見てわかる！流れでわかる！脳神経外科手術レクチャー	木村俊運・佐藤美智子	学研メディカル秀潤社
1682	看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本	大口祐矢	秀和システム
1683	よくわかる周手術期看護	石塚睦子	学研メディカル秀潤社
1684	心臓血管外科の基本知識と患者ケア：病態生理の理解に基づく	新田隆	総合医学社
1685	オペナーシング：手術看護の総合専門誌 2019 7(vol. 34-7		メディカ出版
1686	オペナーシング：手術看護の総合専門誌 2020 7(vol. 35-7		メディカ出版
1687	ポケットノート器械出し看護要点チェック Vol. 2	小成聡	日総研出版
1688	コツぶっくす ドレーン管理：先輩ナースの書きこみがぜんぶのってる！	三重大学医学部附属病院看護部	メディカ出版
1689	ICUナースのカテーテル管理：根拠・経験知+Q&A	道又元裕	日総研出版
1690	がん化学療法	長場直子・本村茂樹	学研メディカル秀潤社
1691	がん放射線治療パーフェクトブック	唐澤久美子・藤本美生	学研メディカル秀潤社
1692	やさしくわかる脳神経外科：オールカラー	高橋伸明	照林社

番号	書名	著者名	出版社名
1693	すぐ調 脳・神経	佐々木貴浩:田中蔵人	医学書院
1694	はじめての補助循環:カラービジュアルで見てわかる!	山名比呂美:向原伸彦	メディカ出版
1695	国循SCU・NCU看護マニュアル	伊藤文代:峰松一夫	メディカ出版
1696	ナースの心臓血管外科学	安達秀雄	中外医学社
1697	これだけは知っておきたい脳神経外科ナースングQ&A	森田明夫	総合医学社
1698	心臓血管外科手術器械出し・外回り完全マニュアル	橋本和弘	メディカ出版
1699	心臓外科手術と術後ケア術式別ポイントチェック	志水秀行	メディカ出版
1700	徹底ガイド心臓血管外科:術後管理・ケア	山中源治:小泉雅子	総合医学社
1701	どう見る?どう動く?消化器外科ベッドサイド処置&ケア	田中雅夫	メディカ出版
1702	3日でマスター!ペースメーカー患者のケアに自信が持てるようになる本	柏瀬一路	メディカ出版
1703	Dr. 正井のなぜなに?がガツンとわかる補助循環	正井崇史	メディカ出版
1704	心臓血管外科ケアマニュアル		日総研出版
1705	これだけは知っておきたい整形外科	細野昇	医学書院
1706	すぐ調 整形外科	奥山訓子	医学書院
1707	すぐ調 皮膚科	鈴木洋介	医学書院
1708	腎不全・透析看護の実践	松岡由美子:梅村美代志	医歯薬出版
1709	すぐ調 腎・透析	松浦友一	医学書院
1710	すぐ調 泌尿器	菊地栄次	医学書院
1711	はじめてでもやさしい透析看護:透析療法の知識・技術と患者マネジメント	渋谷祐子	学研メディカル秀潤社
1712	すぐ調 産婦人科	谷垣伸治	医学書院
1713	すぐ調 眼科	武蔵国弘	医学書院
1714	すぐ調 耳鼻咽喉科	神崎晶	医学書院
1715	わかりやすい内科学	井村裕夫	文光堂
1716	デビッドソン内科学	スタンリー・デビッドソン	エルゼビア・ジャパン
1717	医療系学生のための図解病態治療学TEXT&NOTE	丹羽利充	診断と治療社
1718	シンプル内科学	寺野彰:菅谷仁	南江堂
1719	ワシントンマニュアル患者安全と医療の質改善	エミリー・フォンダン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1720	内科学書	南学正臣	中山書店
1721	新臨床内科学デスク判	矢崎義雄	医学書院
1722	なるほどなっとく!内科学	浅野嘉延	南山堂
1723	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 内科学	北村諭	中外医学社
1724	デジタル細胞生物学:データベース化・ImageJ・R・コマンドライン・	ステイーブ・J. ロイル	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1725	内科学:机上版	矢崎義雄	朝倉書店
1726	ハリソン内科学	福井次矢:黒川清	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1727	ナースの内科学	奈良信雄	中外医学社
1728	免疫・アレルギー疾患イラストレイテッド:病態と治療戦略がみえる	田中良哉	羊土社
1729	痛み・鎮痛のしくみ:オールカラー	橋口さおり	マイナビ出版
1730	図解入門よくわかる痛み・鎮痛の基本としくみ	伊藤和憲	秀和システム
1731	ミトコンドリアと病気	村山圭:小坂仁	メディカルドゥ
1732	1型糖尿病の治療マニュアル	丸山太郎(内科学)	南江堂
1733	糖尿病の治療マニュアル	東京女子医科大学糖尿病センター	医歯薬出版
1734	糖尿病・内分泌疾患ビジュアルブック	落合慈之:林道夫	学研メディカル秀潤社
1735	糖尿病性腎臓病の診かた, 考えかた	和田隆志:柏原直樹	中外医学社
1736	糖尿病・腎臓病・透析患者のやる気を引き出すコーチング	坂井敦子	メディカ出版
1737	わかりやすい糖尿病テキスト	宮崎久義:豊永哲至	じほう
1738	実践!病を引き受けられない糖尿病患者さんのケア	石井均	医学書院
1739	糖尿病診療ガイドライン. 2019	日本糖尿病学会	南江堂

番号	書名	著者名	出版社名
1740	糖尿病治療の手びき:患者さんとその家族のための. 2020	日本糖尿病学会	南江堂
1741	糖尿病の最新食事療法のなぜに答える 基礎編	本田佳子	医歯薬出版
1742	かゆいところに手が届く! まるわかり糖尿病塾	三澤美和:岡崎研太郎	医学書院
1743	高齢者糖尿病治療ガイド. 2021	日本糖尿病学会	文光堂
1744	糖尿病・代謝・内分泌のしくみ:運動・からだ図解	小田原雅人	マイナビ出版
1745	救急・ICUの体液管理に強くなる	小林修三:土井研人	羊土社
1746	膠原病学:免疫学・リウマチ性疾患の理解のために	塩沢俊一	丸善出版
1747	全身性エリテマトーデス臨床マニュアル	橋本博史	日本医事新報社
1748	膠原病診療ノート:症例の分析 文献の考察 実践への手引き	三森明夫	日本医事新報社
1749	むかしの頭で診ていませんか? 膠原病診療をスッキリまとめました	三村俊英	南江堂
1750	全身性エリテマトーデス診療ガイドライン. 2019	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策	南山堂
1751	アレルギー害虫のはなし:アレルギーを引き起こす虫たち	川上裕司	朝倉書店
1752	わかりやすい止血・血栓検査	中村克己:磯部淳一	新興医学出版社
1753	血液内科学	大屋敷一馬:伊藤良和	丸善出版
1754	よくわかる血液内科	萩原将太郎	医学書院
1755	イラストで理解するみんなの血液内科学	渡邊純一	中外医学社
1756	WHO分類改訂第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学	木崎昌弘:田丸淳一	中外医学社
1757	血液病レジデントマニュアル	神田善伸	医学書院
1758	血液専門医テキスト	日本血液学会	南江堂
1759	血液疾患最新の治療. 2020-2022	中尾眞二:松村到	南江堂
1760	血液疾患における多職種の間わり	前田裕弘	中外医学社
1761	臨床老年医学入門:すべてのヘルスケア・プロフェッショナルのために	道場信孝:日野原重明	医学書院
1762	プライマリケア医のための実践フレイル予防塾:めざせ健康長寿	荒井秀典	日本医事新報社
1763	フレイル診療ガイド. 2018年版	荒井秀典	日本老年医学会
1764	フレイルのみかた	荒井秀典	中外医学社
1765	健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病:電子版付き!	田中逸	日本医事新報社
1766	まるごとわかる! 生活習慣病	坂根直樹	南山堂
1767	健康長寿診療ハンドブック:実地医家のための老年医学のエッセンス	日本老年医学会	日本老年医学会
1768	生活習慣病骨折リスクに関する診療ガイド. 2019年版	杉本利嗣	日本骨粗鬆症学会
1769	図とイラストだからわかるサルコペニア・フレイル	遠藤直人	クリニコ出版
1770	ダイジェスト版生活習慣病骨折リスクに関する診療ガイド. 2019年版	日本骨粗鬆症学会生活習慣病における骨折	日本骨粗鬆症学会
1771	原典放射線障害:1896年-1944年の資料から	館野之男	東京大学出版会
1772	図説ICU. 循環管理編	清水禮壽:福家伸夫	真興交易医書出版部
1773	カラー版循環器病学:基礎と臨床	川名正敏:北風政史	西村書店(新潟)
1774	循環器内科学	水野杏一:安武正弘	丸善出版
1775	そうだったのか! 臨床に役立つ循環薬理学	古川哲史	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1776	すべてがわかる循環器	明石嘉浩:大宮一人	照林社
1777	専門医のための循環器病学	小川聡:井上博	医学書院
1778	循環器診療に活かす心臓血管解剖学	国立循環器病研究センター	メジカルビュー社
1779	循環器疾患ビジュアルブック	落合慈之:山崎正雄	学研メディカル秀潤社
1780	循環器治療学:人体のメカニズムから学ぶ臨床工学	的場聖明:白山武司	メジカルビュー社
1781	そうだったのか! 症例でみる循環器病態生理	古川哲史	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1782	循環器治療薬ファイル:薬物治療のセンスを身につける	村川裕二	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1783	新しい臨床を開拓するための分子循環器病学	小室一成	南山堂
1784	かんテキ循環器:患者がみえる新しい「病気の教科書」	大八木秀和:宮川和也	メディカ出版
1785	循環器疾患最新の治療. 2020-2021	伊藤浩(内科医):山下武志	南江堂
1786	そうだったんだ! 脂質異常症:治療の新潮流を探る	伊藤浩(内科医)	文光堂

番号	書名	著者名	出版社名
1787	一からわかる循環器腎臓病学:CKD合併心血管疾患治療のノウハウ	伊藤浩(内科医)	文光堂
1788	循環器内科学レビュー:最新主要文献とガイドラインでみる. 2022-'23	清水渉	総合医学社
1789	ER・ICUで必要な循環器薬の知識と使い方:日米のエビデンスの狭間で	香坂俊	総合医学社
1790	これだけは知っておきたい循環管理:研修医からの質問323	山科章	総合医学社
1791	循環器疾患・救急医療/血液疾患	厚田幸一郎:久保田理恵	オーム社
1792	明日のアクションが変わる補助循環の極意教えます	川上将司	中外医学社
1793	急性循環不全	藤野裕士:坂田泰史	中山書店
1794	Dr. 竜馬のやさしくわかる集中治療 循環・呼吸編	田中竜馬	羊土社
1795	急性心筋梗塞の治療	五十嵐正男	医学図書出版
1796	心疾患の視診・触診・聴診	福田信夫:大木崇	医学書院
1797	なぜ不整脈は起こるのか:心筋活動電位からスパイラルエントリーまで	稲田紘	コロナ社
1798	図解先天性心疾患:血行動態の理解と外科治療	高橋長裕	医学書院
1799	プルキンエ不整脈	野上昭彦:小林義典	医学書院
1800	心不全:循環生理からみた診断と治療	友田春夫	医学書院
1801	不整脈プロフェッショナル:イオンチャネルからアブレーション治療まで	土谷健:高橋尚彦	南江堂
1802	心不全	筒井裕之	羊土社
1803	臨床心臓構造学:不整脈診療に役立つ心臓解剖	井川修	医学書院
1804	不整脈治療のThe Basics:臨床に役立つ電気生理学	ジョナサン・S. スタインバーグ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1805	日本救急医学会ICLS指導者ガイドブック	日本救急医学会	羊土社
1806	不整脈診療レジデントマニュアル	小林義典:新田隆	医学書院
1807	心エコーハンドブック 心臓弁膜症	竹中克:戸出浩之	金芳堂
1808	先天性心疾患の血行動態:治療へのアプローチ	金子幸裕:平田康隆	文光堂
1809	不整脈学	井上博:村川裕二	南江堂
1810	そうだったのか!臨床に役立つ不整脈の基礎	中谷晴昭:古川哲史	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1811	これで安心!不整脈:脳梗塞・突然死を防ぐ	杉薫	高橋書店
1812	不整脈テクニカルガイド	縦山幸彦:神野雅史	ヌンク
1813	心エコーハンドブック 先天性心疾患	竹中克:戸出浩之	金芳堂
1814	不整脈治療update. 第1巻	奥村謙:井上耕一	医薬ジャーナル社
1815	先天性心疾患	中沢誠	メジカルビュー社
1816	不整脈治療update. 第2巻	奥村謙:夢田浩	医薬ジャーナル社
1817	心エコーハンドブック 心筋・心膜疾患	竹中克:戸出浩之	金芳堂
1818	成人先天性心疾患	丹羽公一郎	メジカルビュー社
1819	成人先天性心疾患パーフェクトガイド	赤木禎治:伊藤浩(内科医)	文光堂
1820	ICLS(あいしいえるえす)コースガイドブック:日本救急医学会	日本救急医学会:山畑佳篤	羊土社
1821	実践!カテーテルアブレーション治療とケア	貝谷和昭:柴田正慶	メディカ出版
1822	冷凍カテーテルアブレーション治療ハンドブック	沖重薫	南江堂
1823	国循環心臓リハビリテーション実践マニュアル	後藤葉一	メディカ出版
1824	心筋症:知識を習得し、実践で活かす最強のメソッド	筒井裕之	メジカルビュー社
1825	弁膜症:知識を習得し、実践で活かす最強のメソッド	筒井裕之:山本一博	メジカルビュー社
1826	エコーで診る先天性心疾患	富松宏文	アトムス
1827	心不全の基礎知識100	佐藤幸人	文光堂
1828	今すぐはじめられる!心臓デバイスの遠隔モニタリング超入門	鈴木誠:三橋武司	南江堂
1829	やさしくわかるカテーテルアブレーション	池田隆徳:藤野紀之	羊土社
1830	心不全療養指導士認定試験ガイドブック	日本循環器学会	南江堂
1831	ハート先生の心電図塾 期外収縮私に任せて!!	心臓病看護教育研究会	ECデザイン出版
1832	ここが知りたい虚血性心疾患:診断とカテーテル治療のコンテキスト	樋口義治	中外医学社
1833	“次の一手”を鍛える心房細動診療の歩みかた	山下武志	南山堂

番号	書名	著者名	出版社名
1834	ポケット版不整脈非薬物治療ガイドライン	日本循環器学会	ライフサイエンス出版
1835	循環器診療コンプリート 不整脈:心・腎・脳の視点でとらえる循環器疾患	井上耕一	学研メディカル秀潤社
1836	循環器診療コンプリート 先天性心疾患・肺動脈疾患	赤木禎治	学研メディカル秀潤社
1837	3-D mappingアブレーションにどう活用するか	山根禎一	メジカルビュー社
1838	心房細動カテーテルアブレーション	山根禎一	メジカルビュー社
1839	冷凍カテーテルアブレーション	沖重薫	医学書院
1840	ここが知りたい急性心不全の救急・集中治療管理	佐藤幸人	中外医学社
1841	これから始めるカテーテルアブレーション	大塚崇之	メジカルビュー社
1842	カテーテルアブレーションのためのチャートで学ぶトラブルシューティング!	山根禎一	メジカルビュー社
1843	心房細動ホットバルーンカテーテルアブレーション	佐竹修太郎	金芳堂
1844	心エコーハンドブック 冠動脈疾患	竹中克:戸出浩之	金芳堂
1845	しみじみわかる血栓止血. vol. 1(DIC・血液凝固検査)	朝倉英策	中外医学社
1846	しみじみわかる血栓止血. vol. 2(血栓症・抗血栓療法)	朝倉英策	中外医学社
1847	臨床に直結する血栓止血学	朝倉英策	中外医学社
1848	超音波ガイドEVT:体表エコー, IVUSの徹底活用で手技成功に導く	平野敬典	メジカルビュー社
1849	高血圧治療ガイドライン. 2019	日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成	日本高血圧学会
1850	減塩のすべて:理論から実践まで	日本高血圧学会減塩委員会	南江堂
1851	高血圧診療ガイド:高血圧治療ガイドライン2019準拠. 2020	日本高血圧学会	文光堂
1852	保健指導で高血圧パラドックスの解消へ:保健指導の現場の疑問に答える	菱田明:伊藤貞嘉	東京医学社
1853	長期呼吸管理の諸問題	天羽敬祐	医学図書出版
1854	入門・呼吸療法	大村昭人:安本和正	克誠堂出版
1855	図説ICU. 呼吸管理編	奥津芳人:磨田裕	真興交易医書出版部
1856	呼吸器疾患ビジュアルブック	石原照夫:落合慈之	学研メディカル秀潤社
1857	イラストでわかる呼吸器内科学	一ノ瀬正和	文光堂
1858	症例に学ぶ成人呼吸ECMO管理	前橋赤十字病院	へるす出版
1859	呼吸療法Up Date	榎田浩史	真興交易医書出版部
1860	まるごと図解呼吸の見かた:オールカラー	長尾大志	照林社
1861	呼吸治療学	磨田裕:大塚将秀	メジカルビュー社
1862	呼吸療法認定士デビューのための呼吸ケアQ&A100:オールカラー	濱本実也	メディカ出版
1863	在宅酸素療法をイチから学ぶ本:基礎から適応病態別の処方まで	郷間巖	日本医事新報社
1864	生体機能代行装置学呼吸療法装置	廣瀬稔:生駒俊和	医歯薬出版
1865	臨床呼吸器感染症学	迎寛	南江堂
1866	咳嗽・喀痰の診療ガイドライン. 2019	日本呼吸器学会咳嗽・喀痰の診療ガイドライン	日本呼吸器学会
1867	呼吸療法認定士たしかめドリル. 2019	吉田省造:齋藤正樹	日総研出版
1868	呼吸療法認定士“合格チャレンジ”100日ドリル	西信一	メディカ出版
1869	睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診療ガイドライン. 2020	日本呼吸器学会	南江堂
1870	呼吸器内視鏡実践マニュアル 呼吸器内視鏡を用いた診断と治療	出雲雄大:笹田真滋	医療科学社
1871	ARDSの治療戦略:「知りたい」に答える、現場の知恵とエビデンス	志馬伸朗	羊土社
1872	呼吸ECMOマニュアル:体外膜型肺	市場晋吾:竹田晋浩	克誠堂出版
1873	呼吸管理Q&A:研修医からの質問316	相馬一玄:岡元和文	総合医学社
1874	急性呼吸不全	藤野裕士	中山書店
1875	麻酔科医に必要な周術期呼吸管理	佐藤暢一:山本達郎(医師)	文光堂
1876	呼吸管理グリーンノート	西村匡司	中外医学社
1877	肺水腫をめぐる諸問題	天羽敬祐:渡辺昌平	医学図書出版
1878	COPDの教科書:呼吸器専門医が教える診療の鉄則	倉原優:林清二	医学書院
1879	新肺高血圧症診療マニュアル:根治を目指す最新の治療指針	伊藤浩(内科医):松原広己	南江堂
1880	間質性肺炎合併肺癌に関するステートメント	日本呼吸器学会	南江堂

番号	書名	著者名	出版社名
1881	かわる！わかる！おもしろい！コペルニクスなガス交換	氏家良人：北岡裕子	克誠堂出版
1882	肺エコーのABC：肺は超音波で聴け！／電子版&動画付き	鈴木昭広	日本医事新報社
1883	グラム染色道場：肺炎診療に生かす喀痰グラム染色の見方・考え方	山本剛	日本医事新報社
1884	アレルギー性気管支肺真菌症の診療の手引き	日本アレルギー学会	医学書院
1885	COPD：慢性閉塞性肺疾患	三嶋理晃：金子猛	中山書店
1886	肺癌診療虎の巻：WJOG 肺がんグループのプラクティス	山本信之：赤松弘朗	クリニコ出版
1887	臨床・病理肺癌取扱い規約	日本肺癌学会	金原出版
1888	こんなに役立つ肺エコー：救急ICUから一般外来・在宅まで	鈴木昭広	メジカルビュー社
1889	消化器内視鏡のコツとアドバイス	竜田正晴：飯石浩康	南江堂
1890	消化器疾患治療マニュアル	辻井正彦：平松直樹	金芳堂
1891	全部見える消化器疾患：スーパービジュアル	山本雅一	成美堂出版
1892	消化器疾患ビジュアルブック	針原康：松橋信行	学研メディカル秀潤社
1893	消化器内視鏡技師・ナースのための内視鏡室の器械・器具・薬	山本夏代：小林智明	メディカ出版
1894	消化器内視鏡の基礎知識と基本テクニック	消化器内視鏡編集委員会	東京医学社
1895	消化器疾患	石橋賢一	医学書院
1896	消化器内視鏡医のための重要論文200篇 消化管腫瘍編	松田尚久	シービーアール
1897	消化性潰瘍診療ガイドライン. 2020	日本消化器病学会	南江堂
1898	機能性消化管疾患診療ガイドライン：過敏性腸症候群(IBS). 2020	日本消化器病学会	南江堂
1899	消化器内視鏡技師・ナースのバイブル：検査・診断・治療の看護・介助	田村君英：星野洋	南江堂
1900	上部消化管内視鏡スキルアップノート	TOKYOGASTROLOGYCL	中外医学社
1901	はじめての上部消化管内視鏡ポケットマニュアル	藤城光弘：道田知樹	南江堂
1902	ビジュアル早期胃・食道・咽頭癌内視鏡診断	門馬久美子：阿美克典	学研メディカル秀潤社
1903	「食道／胃／大腸がんの早期発見・予防&内視鏡」最前線	豊島治	医学舎
1904	技師&ナースのための消化器内視鏡ガイド：検査・治療・看護	田村君英	学研メディカル秀潤社
1905	上部消化管内視鏡スクリーニング検査マニュアル	日本消化器内視鏡学会	医学図書出版
1906	内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像 上部消化管	田尻久雄：長南明道	日本メディカルセンター
1907	消化器内視鏡用語集	日本消化器内視鏡学会用語委員会	日本消化器内視鏡学会
1908	消化器内視鏡技師試験問題解説. 5	日本消化器内視鏡学会	医学図書出版
1909	X線と内視鏡の比較で学ぶH. pylori胃炎診断	ピロリ菌感染を考慮した胃がん検診研究会	文光堂
1910	除菌後胃がんを見逃さない！H. pylori既感染者の胃内視鏡診断アトラス	春間賢：井上和彦(医師)	金芳堂
1911	経鼻内視鏡による胃がん検診マニュアル	日本消化器がん検診学会	日本消化器がん検診学会
1912	胃炎をどうする？：ABC胃がんリスク層別化で・内視鏡で・X線で 検診	三木一正	日本医事新報社
1913	形と模様を極める大腸腫瘍内視鏡診断学	高木篤	シービーアール
1914	大腸がん診療における遺伝子関連検査等のガイダンス	日本臨床腫瘍学会	金原出版
1915	大腸ポリープ診療ガイドライン. 2020	日本消化器病学会	南江堂
1916	炎症性腸疾患(IBD)診療ガイドライン. 2020	日本消化器病学会	南江堂
1917	症例から学ぶ内視鏡医・内視鏡技師のための大腸腫瘍診断・治療	吉田直久：榎田博史	金芳堂
1918	クローン病の診療ガイド	日本炎症性腸疾患協会	文光堂
1919	十二指腸・小腸・虫垂腫瘍	九嶋亮治：牛久哲男	文光堂
1920	大腸癌	八尾隆史：菅井有	文光堂
1921	十二指腸内視鏡ATLAS：観察法／拡大内視鏡／鑑別診断	藤城光弘：山本頼正	日本メディカルセンター
1922	内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像 下部消化管	田尻久雄：田中信治	日本メディカルセンター
1923	大腸内視鏡診断の基本とコツ	田中信治：永田信二	羊土社
1924	慢性肝不全：病像と治療の現状	川口巧：清水雅仁	中外医学社
1925	新臓臓病学	下瀬川徹	南江堂
1926	肝硬変診療ガイドライン. 2020	日本消化器病学会	南江堂
1927	肝癌	坂元亨宇：原田憲一	文光堂

番号	書名	著者名	出版社名
1928	肝内胆管癌診療ガイドライン. 2021年版	日本肝癌研究会	金原出版
1929	重症患者における急性肝不全・急性腎傷害・代謝異常	森松博史	中山書店
1930	NET・下垂体・副甲状腺・副腎	笹野公伸・亀山香織	文光堂
1931	野口病院甲状腺エコー診断パーフェクトガイド: 動画を含む電子版付	村上 司	日本医事新報社
1932	AIによる「ヘルスケアの見える化」でストレスの実態が見えてくる	宮崎義則	風詠社
1933	Dr. 竜馬のやさしくわかる集中治療 内分泌・消化器編	田中竜馬	羊土社
1934	骨腫瘍	小田義直・吉田朗彦	文光堂
1935	関節リウマチ診療ガイドライン. 2020	日本リウマチ学会	診断と治療社
1936	メディカルスタッフのための神経内科学	河村満	医歯薬出版
1937	精神神経疾患ビジュアルブック	秋山剛・音羽健司	学研メディカル秀潤社
1938	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 神経内科学	細川武・原元彦	中外医学社
1939	みるよむわかる精神医学入門	ニール・L. バートン・朝田隆	医学書院
1940	臨床神経内科学	廣瀬源二郎・田代邦雄	南山堂
1941	神経内科学テキスト	江藤文夫(医学)・飯島節	南江堂
1942	読めばわかる! 臨床不眠治療: 睡眠専門医が伝授する不眠の知識	中山明峰	全日本病院出版会
1943	怪談に学ぶ脳神経内科	駒ヶ嶺朋子	中外医学社
1944	コロナのせいにしてみよう。シャムズの話	國松淳和	金原出版
1945	臨床につながる神経・筋疾患	花山耕三	医歯薬出版
1946	こころの治療薬ハンドブック	井上猛・桑原斉	星和書店
1947	神経救急・集中治療ハンドブック: Critical Care Neurology	篠原幸人・永山正雄	医学書院
1948	脳神経疾患ビジュアルブック	森田明夫・吉澤利弘	学研メディカル秀潤社
1949	高次脳機能障害学	石合純夫	医歯薬出版
1950	心エコー・神経超音波で診る脳梗塞診断マニュアル	吉田清・木村和美	南江堂
1951	高次脳機能障害ポケットマニュアル	原寛美	医歯薬出版
1952	脳神経症候イラストブック	馬場元毅	学研メディカル秀潤社
1953	脳腫瘍	小森隆司・廣瀬隆則	文光堂
1954	臨床につながる脳疾患学	岡島康友	医歯薬出版
1955	嚥下障害ポケットマニュアル	聖隷嚥下チーム	医歯薬出版
1956	やさしくわかる脳卒中: 急性期の検査・治療・看護・リハビリまで	永田泉・波多野武人	照林社
1957	脳卒中: 基礎知識から最新リハビリテーションまで	正門由久・高木誠(医師)	医歯薬出版
1958	脳卒中の栄養療法	山本拓史	羊土社
1959	「パーキンソン病」「レビー小体型認知症」がわかるQAブック	小阪憲司・織茂智之	メディカ出版
1960	パーキンソン病	服部信孝・下泰司	中外医学社
1961	もっとねころんで読めるてんかん診療	中里信和	メディカ出版
1962	大人のトラウマを診るということ: こころの病の背景にある傷みに気づく	青木省三・村上伸治	医学書院
1963	アルツハイマー病の謎: 認知症と老化の絡まり合い	マーガレット・ロック・坂川雅子	名古屋大学出版会
1964	まるごと図解認知症キャラクター分類でよくわかる: オールカラー	山口博(医師)	照林社
1965	認知症の排泄ケアベッドサイドマニュアル	榊原隆次他・関戸哲利	中外医学社
1966	認知症ハンドブック	中島健二・下濱俊	医学書院
1967	メンタルヘルスを学ぶ: 精神医学・内科学・心理学の視点から	村井俊哉・森本恵子	ミネルヴァ書房
1968	マンガで学ぶ感染症	岩田健太郎	中外医学社
1969	感染対策マニュアル	吉田美智子・藤井基博	医学書院
1970	もっとよくわかる! 感染症: 病原因子と発症のメカニズム	阿部章夫	羊土社
1971	わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫	藤本秀士・目野郁子	南山堂
1972	感染と免疫	ジョン・プレイフェア	東京化学同人
1973	感染と生体防御	酒井徹・鈴木克彦	建帛社
1974	症例から学ぶ輸入感染症AtoZ. ver. 2	忽那賢志	中外医学社

番号	書名	著者名	出版社名
1975	感染予防,そしてコントロールのマニュアル:すべてのICTのために	ニザーム・ダマーニ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1976	レジデントのための感染症診療マニュアル	青木真	医学書院
1977	感染症の数理モデル	稲葉寿	培風館
1978	パンデミック:世界に広がる恐るべき50の感染症	ピーター・ムーア:加藤茂孝	丸善出版
1979	人類は感染症とともに生きていく	ミーラ・センチリンガム	羊土社
1980	救急・集中治療領域における感染症診療	氏家良人:重光秀信	克誠堂出版
1981	わかりやすい予防接種	渡辺博(小児科医)	診断と治療社
1982	ワクチン:基礎から臨床まで	日本ワクチン学会	朝倉書店
1983	ワクチンと予防接種のすべて:見直されるその威力	尾内一信:高橋元秀	金原出版
1984	おとなのワクチン:子どもだけじゃないおとなに足りないワクチンをわかり	中山久仁子	南山堂
1985	予防接種の手びき. 2020-21年度版	岡部信彦:岡田賢司	近代出版(東京)
1986	恐ろしい感染症からたくさんの命を救った現代ワクチンの父の物語	ポール・A. オフィット	南山堂
1987	ねころんで読めるワクチン	笠井正志	メディカ出版
1988	敗血症治療:一刻を争う現場での疑問に答える	真弓俊彦	羊土社
1989	呼吸器内科医が解説!新型コロナウイルス感染症COVID-19	栗野暢康:出雲雄大	医療科学社
1990	救急医療のための新型コロナウイルス感染症COVID-19診療ガイド	太田凡	総合医学社
1991	多職種でコロナの危機と向き合う	梶原絢子	日本看護協会出版会
1992	COVID-19の病態・診断・治療:現場の知恵とこれからの羅針盤	小倉高志	医学書院
1993	抗酸菌検査ガイド. 2020	日本結核・非結核性抗酸菌症学会	南江堂
1994	標準小児科学	原寿郎:高橋孝雄	医学書院
1995	国立小児病院麻酔科ECMOガイドブック	宮坂勝之	克誠堂出版
1996	小児心電図テクニカルガイド	長嶋正実	ヌク
1997	小児心電図ハンドブック	高木純一	中外医学社
1998	小児超音波診断のすべて	金川公夫:河野達夫	メジカルビュー社
1999	小児超音波検査のみかた,考えかた	市橋光:野中航仁	中外医学社
2000	PICUハンドブック:小児集中治療の最前線	杉本晃一:黒澤寛史	エムスリーエデュケーション
2001	小児科当直医マニュアル	神奈川県立こども医療センター小児内科・小	診断と治療社
2002	小児救急治療ガイドライン:内科医・小児科研修医のための	市川光太郎:天本正乃	診断と治療社
2003	小児急性血液浄化療法ハンドブック	亀井宏一:伊藤秀一	東京医学社
2004	KPUM小児ICUマニュアル	橋本悟:佐和貞治	永井書店
2005	小児救命救急・ICUピックアップ. 1	日本小児集中治療研究会	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2006	小児救命救急・ICUピックアップ. 2	日本小児集中治療研究会	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2007	小児救命救急・ICUピックアップ. 3	日本小児集中治療研究会	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2008	小児救命救急・ICUピックアップ. 4	日本小児集中治療研究会	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2009	小児救命救急・ICUピックアップ. 5	日本小児集中治療研究会	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2010	小児アレルギーエディターテキスト 基礎編	日本小児臨床アレルギー学会	診断と治療社
2011	新生児マスキリーニング対象疾患等診療ガイドライン. 2019	日本先天代謝異常学会	診断と治療社
2012	川崎病:増え続ける謎の小児疾患	三浦大	弘文堂
2013	小児溶血性貧血の臨床と検査技術	渋谷温	診断と治療社
2014	小児不整脈のカテーテルアブレーション	住友直方	診断と治療社
2015	小児・成育循環器学	日本小児循環器学会	診断と治療社
2016	小児エコーの撮影法と正常像がぜんぶわかる!	日本小児超音波研究会	金芳堂
2017	徹底ガイド小児の呼吸管理Q&A	植田育也	総合医学社
2018	小児内分泌学	日本小児内分泌学会	診断と治療社
2019	小児急性血液浄化療法マニュアル	服部元史:金子岩和	医学図書出版
2020	小児腎臓病学	日本小児腎臓病学会	診断と治療社
2021	こどもの腎臓病と治療	後藤芳充	メディカ出版

番号	書名	著者名	出版社名
2022	新子どもの腎炎・ネフローゼ:正しい理解が希望をはぐくむ	伊藤秀一	東京医学社
2023	小児特発性ネフローゼ症候群診療ガイドライン, 2020	日本小児腎臓病学会	診断と治療社
2024	小児心臓血管外科手術:血行動態と術式の図説・解説	藤原直	中外医学社
2025	小児麻酔ポケットマニュアル	蔵谷紀文	羊土社
2026	小児心臓血管外科手術シミュレーション	小澤司	メジカルビュー社
2027	標準小児外科学	上野滋:仁尾正記	医学書院
2028	小児体外循環ハンドブック	大橋牧人:三浦正也	東京医学社
2029	スタンダード小児内視鏡外科手術:押さえておきたい手技のポイント	田口智章:奥山宏臣	メジカルビュー社
2030	新生児ECMO:臨床の手引き	長屋昌宏	名古屋大学出版会
2031	NICUマニュアル	新生児医療連絡会	金原出版
2032	新生児集中治療室NICU	クリスティーン・A. グリーソン	医歯薬出版
2033	新生児・小児ME機器サポートブック:きほんきづくきわめる	松井晃	メディカ出版
2034	ベッドサイドの新生児の診かた	河野寿夫:伊藤裕司	南山堂
2035	最新NICUマニュアル	京都府立医科大学附属病院	診断と治療社
2036	新生児学入門	仁志田博司	医学書院
2037	新生児学テキスト	日本新生児成育医学会	メディカ出版
2038	最新新生児外科学	窪田昭男:奥山宏臣	ばーそん書房
2039	AAP/AHA新生児蘇生テキストブック	アメリカ小児科学会	医学書院
2040	先天性心疾患と新生児循環管理のピットフォール	日本周産期循環管理研究会	メディカ出版
2041	新生児の心エコー入門:超音波検査にもとづくNICU循環管理のススメ	豊島勝昭	メディカ出版
2042	新生児蘇生法テキスト:日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく	細野茂春	メジカルビュー社
2043	イラストで学ぶ新生児呼吸管理	楠田聡	メディカ出版
2044	体外循環による新生児急性血液浄化療法マニュアル	茨聡	メディカ出版
2045	ここからはじめる!新生児の呼吸管理ビジュアルガイド	長和俊	メディカ出版
2046	ステップアップ新生児呼吸管理:Q&Aで違いが分かる・説明できる	長和俊	メディカ出版
2047	新生児呼吸管理ハンドブック	長谷川久弥	東京医学社
2048	小児臨床栄養学	日本小児栄養消化器肝臓学会	診断と治療社
2049	外科学臨床講義:考える臨床医であるために知っておきたい外科学の最近	小川道雄	へるす出版
2050	外科学	鈴木時雄:吉野肇一	医学書院
2051	NEW外科学	出月康夫:古瀬彰	南江堂
2052	外科学概論	炭山嘉伸	南江堂
2053	ナーズの外科学	磯野可一	中外医学社
2054	標準外科学	北野正剛:坂井義治	医学書院
2055	ステップアップ内視鏡外科手術	佐々木章:若林剛	医学書院
2056	手術室の安全医学講座	横野諭	金芳堂
2057	手術治療学	高橋典彦:加藤伸彦	メジカルビュー社
2058	手術室の安全医学講座 part2	横野諭	金芳堂
2059	イラストでわかる外科手術基本テクニック:電子書籍付	幕内雅敏	エルゼビア・ジャパン
2060	スーパーローテーターのための内視鏡外科手術トレーニングマニュアル	中島清一:塩野裕之	丸善出版
2061	わかりやすい電気メスの本:自分の武器を知る!	桜木徹	金原出版
2062	手術領域医療機器の操作・管理術	日本臨床工学技士会	メジカルビュー社
2063	外科レジデントマニュアル	松藤凡:山内英子	医学書院
2064	臨床工学技士のための周術期管理	許俊鋭:安原洋	学研メディカル秀潤社
2065	臨床麻酔学全書 上巻	花岡一雄:真下節	真興交易医書出版部
2066	臨床麻酔学全書 下巻	花岡一雄:真下節	真興交易医書出版部
2067	周術期麻酔管理ハンドブック:理論から実践まで/救急から緩和まで	小栗顕二:横野諭	金芳堂
2068	最先端外科手術の麻酔管理	稲垣喜三	克誠堂出版

番号	書名	著者名	出版社名
2069	標準麻酔科学	古家仁:稲田英一	医学書院
2070	麻酔科研修チェックノート:書き込み式で研修到達目標が確実に身につく!	讃岐美智義	羊土社
2071	麻酔科研修実況中継! 第2巻	南敏明:駒澤伸泰	中外医学社
2072	グラフィック麻酔学:臨床が楽しくなる図・式・表	ティム・フーパー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2073	好きになる麻酔科学:苦痛を除き手術を助ける医療技術	諏訪邦夫:横山武志	講談社
2074	麻酔科医として必ず知っておきたい周術期の呼吸管理	磯野史朗	羊土社
2075	Q&A形式で学ぶ周術期気道・呼吸管理の基礎と実際	山田芳嗣:倉橋清泰	克誠堂出版
2076	免疫抑制薬TDM標準化ガイドライン. 2018	日本TDM学会:日本移植学会	金原出版
2077	内視鏡外科手術役立つテクニック100:Web動画付	宮澤光男	医学書院
2078	TEXT形成外科学	波利井清紀:中塚貴志	南山堂
2079	標準形成外科学	平林慎一	医学書院
2080	外傷の術後管理のスタンダードはこれだ!	清水敬樹	羊土社
2081	イラストでよくわかる放射線治療・放射線化学療法サポートケア	阿南節子:井関千裕	じほう
2082	いのちを見つめる:がん患者の心理	小久保正昭	産業能率大学出版部
2083	やさしくわかる放射線治療学	日本放射線腫瘍学会	学研メディカル秀潤社
2084	がん治療とサポートケア:イラストでよくわかる	田口哲也:阿南節子	じほう
2085	がんと心理療法のこころみ:夢・語り・絵を通して	岸本寛史	誠信書房
2086	がん医療の臨床倫理	コリーン・ギャラハー	医学書院
2087	腫瘍循環器診療ハンドブック	小室一成	メジカルビュー社
2088	がんの電磁波温熱療法&高気圧酸素療法	安田浩康	幻冬舎メディアコンサルティング
2089	ゴイテン放射線腫瘍学:医学物理士の視点	マイケル・ゴイテン:森慎一郎	医歯薬出版
2090	放射線治療基礎知識図解ノート:図,表,画像が満載!要点がわかる!	榮武二:櫻井英幸	金原出版
2091	脳神経外科手術のための神経モニタリングアトラス	片山容一:山本隆充	医学書院
2092	ナースの脳神経外科学	黒岩敏彦	中外医学社
2093	脳神経外科医の必携バイブル:Dr. 便利帳	窪田惺	永井書店
2094	脳血管障害の急性期マネジメント	清水宏明	文光堂
2095	内頸動脈瘤のすべて:シミュレーションで経験する手術・IVR. 近位部	井川房夫:宮地茂	メディカ出版
2096	内頸動脈瘤のすべて:シミュレーションで経験する手術・IVR. 遠位部	井川房夫:宮地茂	メディカ出版
2097	脳神経外科グリーンノート	寺坂俊介:宝金清博	中外医学社
2098	1から12まで脳神経からみた脳神経外科手術	伊達勲	メジカルビュー社
2099	脳神経外科レジデントマニュアル	夏目敦至:泉孝嗣	医学書院
2100	脳神経外科手術のコンパス:術中機能・画像情報モニタリングマニュアル	森田明夫	メジカルビュー社
2101	標準脳神経外科学	児玉南海雄:峯浦一喜	医学書院
2102	脳虚血	木内博之:斉藤延人	三輪書店
2103	ニュースタンダード脳神経外科学	生塩之敬:種子田護	三輪書店
2104	「超」入門脳神経外科術中モニタリング	佐々木達也:鈴木恭一	メディカ出版
2105	疾患・術式別脳神経外科手術合併症の回避・対処法Q&A156	吉村紳一:吉本幸司	メディカ出版
2106	標準脳神経外科学	新井一:富永悌二	医学書院
2107	デバイスとITを使いこなす脳神経外科手術	伊達勲:森田明夫	メジカルビュー社
2108	脳血管外科手術器具・機器:必ず知っておきたい	飯原弘二:菱川朋人	メディカ出版
2109	神経内視鏡治療スタート&スタンダード	伊達勲	メジカルビュー社
2110	Advanced神経内視鏡手術:神経内視鏡の可能性をさらに拓げる	伊達勲:森田明夫	メジカルビュー社
2111	呼吸器外科学	藤井義敬:正岡昭	南山堂
2112	臨床実戦呼吸器外科の裏ワザ51:知って役立つ現場のテクニック	浦本秀隆:常塚宣男	南江堂
2113	上級医の循環器治療手技 カテーテルアブレーション	門田一繁:田坂浩嗣	日本医事新報社
2114	呼吸器外科手術アドバンス:Web動画付	岩崎昭憲:白石武史	南江堂
2115	最新体外循環:基本的知識と安全の確保	井野隆史:安達秀雄	金原出版

番号	書名	著者名	出版社名
2116	心臓手術の周術期管理	ロバート・M. ボージャー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2117	周術期経食道心エコー実践法	アルバート・C. ベリーノ	真興交易医書出版部
2118	今日の心臓手術の適応と至適時期	伊藤浩(内科医):高梨秀一郎	文光堂
2119	周術期経食道心エコー図:効率的に学ぶために	ロジャー・L. クリック	真興交易医書出版部
2120	心臓手術の実際. part 2	許俊鋭:山田芳嗣	学研メディカル秀潤社
2121	SHDインターベンション治療のための心エコー図マニュアル	吉田清:大倉宏之	メジカルビュー社
2122	心臓手術の実際. part 3	許俊鋭:山田芳嗣	学研メディカル秀潤社
2123	心臓手術周術期管理:FOR PROFESSIONAL ANESTHES	稲田英一	克誠堂出版
2124	ペースメーカー・CRT・ICDポケット	栗田康生	メディカ出版
2125	新心臓血管外科管理ハンドブック	国立循環器病研究センター	南江堂
2126	心臓麻酔ポケットマニュアル	野村実:黒川智	羊土社
2127	全部わかる!心臓血管外科:治療法と術後管理	水野友裕:荒井裕国	総合医学社
2128	新心臓血管外科テキスト	安達秀雄:小野稔	中外医学社
2129	ブラクティカル補助循環ガイド:研修医・看護師・臨床工学技士のための	澤芳樹	メディカ出版
2130	ナースが書いた看護に活かせる心臓ペースメーカー・CRT・ICDノート	鈴木まどか:林英守	照林社
2131	心臓血管外科専門医認定試験過去問題集2012~2015	3学会構成心臓血管外科専門医認定機構	南江堂
2132	ハートチームのための心臓血管外科手術 周術期管理のすべて	國原孝	メジカルビュー社
2133	心臓手術チームのための経食道心エコー	村田光繁:山田達也	文光堂
2134	ひとりでマスター心臓ペースメーカー植込み術:透視+手元の動画DVD付	岡村英夫	メジカルビュー社
2135	ペースメーカー・ICD・CRT実践ハンドブック	ケネス・A・エレンボーゲン	医学書院
2136	心臓血管外科リハビリテーション ゴールド・スタンダード	Cardiovascularsurge	ヒューマン・プレス
2137	セーフティテクニク心臓手術アトラス	シャヴオシュ・コウンサリ	南江堂
2138	心臓血管外科専攻医・専門医必修! Off the Job Trainingテキスト	3学会構成心臓血管外科専門医認定機構	南江堂
2139	心臓ペースメーカー・ICD・CRT・CRT-D	筒井裕之:里見和浩	メジカルビュー社
2140	やさしくわかる心臓血管外科:オールカラー	堀隆樹:中村喜次	照林社
2141	補助人工心臓治療チーム実践ガイド	許俊鋭	メジカルビュー社
2142	生体機能代行装置学体外循環装置	日本臨床工学技士教育施設協議会	医歯薬出版
2143	こんなときどうするペースメーカープログラミングのキモ!	山科章:五関善成	メジカルビュー社
2144	必携!在宅VAD管理	日本人工臓器学会:松宮護郎	はる書房
2145	不整脈治療デバイスのリード・マネジメント	庄田守男	医学書院
2146	ヘンスレー心臓手術の麻酔	フレデリック・A. ヘンスレー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2147	心臓血管麻酔Positive and Negativeリスト25	山蔭道明:平田直之	中外医学社
2148	心臓血管外科エキスパートが分析する“術中危機的状況”	横山育:夜久均	南江堂
2149	Slender PCI日本語版:究極の低侵襲カテーテル治療のためのTips&T	吉町文暢	中外医学社
2150	植込み型心臓デバイス認定士公式テキスト	日本不整脈心電学会植込み型心臓デバイス認	南江堂
2151	イラストで学ぶ心臓ペースメーカーstep by step	S. セルジュ・パロルド	医学書院
2152	今さら聞けない心臓ペースメーカー	岡村英夫	メジカルビュー社
2153	症例で覚えるPCI術者に必要な治療Tips:実践に活かす!	五十嵐康己	メジカルビュー社
2154	WCCMのコメディカルによるコメディカルのための「PCIを知る。」セミナー	西日本コメディカルカテーテルミーティング	メディカ出版
2155	ハート先生の心臓ペースメーカー講座	心臓病看護教育研究会	医学同人社
2156	PCIにいかすOCT/OFDIハンドブック	森野禎浩:伊藤友範	医学書院
2157	インターベンション医必携PCI基本ハンドブック	伊莉裕二	南江堂
2158	PCI医必携ガイドワイヤー“秘伝”テクニク:こうすれば必ず通過する!	村松俊哉	南江堂
2159	確実に身につくPCIの基本とコツ	南都伸介:中村茂	羊土社
2160	こんなときどうする?PCIトラブルの対処術	坂田泰史	南江堂
2161	これから始めるPCI:Percutaneous Coronary Int	及川裕二	メジカルビュー社
2162	PCI(秘)裏技テクニク	伊藤良明	メジカルビュー社

番号	書名	著者名	出版社名
2163	PCIで使い倒すIVUS徹底活用術	本江純子	メジカルビュー社
2164	PCIエキスパートになるための28カ条	中村正人	メジカルビュー社
2165	カテーテルスタッフのためのPCI必須知識:これだけおさえれば大丈夫	木島幹博: 添田信之	メジカルビュー社
2166	上級医を目指す循環器治療手技PCI:350本の動画を含む電子版付	門田一繁	日本医事新報社
2167	イラストで見る食道・大腸EMRと胃ESD:安全な内視鏡治療のコツ	松橋信行: 藤城光弘	メジカルビュー社
2168	消化器外科術後合併症対応マニュアル	井上雄志: 山本雅一	メジカルビュー社
2169	レジデントのための消化器外科診療マニュアル	森正樹: 土岐祐一郎	医学書院
2170	消化器外科レジデントマニュアル	力山敏樹	医学書院
2171	腹腔鏡下消化器外科手術標準手技シリーズ. 1	北野正剛	メジカルビュー社
2172	腹腔鏡下消化器外科手術標準手技シリーズ. 2	北野正剛	メジカルビュー社
2173	腹腔鏡下消化器外科手術標準手技シリーズ. 3	北野正剛	メジカルビュー社
2174	腹腔鏡下消化器外科手術標準手技シリーズ. 4	北野正剛	メジカルビュー社
2175	LECS: イラストと写真で見る内視鏡医と外科医のコラボレーション	腹腔鏡・内視鏡合同手術研究会	メジカルビュー社
2176	エキスパートも唸る! 進化する消化器治療内視鏡	森宏仁	メジカルビュー社
2177	消化器外科手術の基礎知識: イラストと動画で学ぶ手術の基本	上西紀夫: 正木忠彦	学研メディカル秀潤社
2178	消化器外科専門医必携問題集 知識のSELF ASSESSMENT	白石憲男: 河野洋平	メジカルビュー社
2179	消化器内視鏡外科手術トラブルシューティング: Web動画付	宮澤光男: 竹内裕也	医学書院
2180	消化器外科グリーンノート	猪股雅史: 二宮繁生	中外医学社
2181	基本手術手技	加納宣康	へるす出版
2182	内視鏡外科消化器再建術のすべて: 手術力が必ず向上する	阿部展次: 上野正紀	学研メディカル秀潤社
2183	藤田保健衛生大学内視鏡外科手術テキスト	須田康一: 佐藤誠二	南江堂
2184	腹腔鏡下脾臓摘出術	森俊幸: 跡見裕	へるす出版
2185	人工臓器取り扱いマニュアル: ベッドサイド型	中條大輔: 山田和彦	診断と治療社
2186	腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管結石手術	徳村弘実	へるす出版
2187	ストーマ手術アトラス	塚田邦夫: 渡辺成	へるす出版
2188	脊椎内視鏡下手術: Web動画付	吉田宗人: 中川幸洋	医学書院
2189	ナースの整形外科学	勝呂徹: 出沢明	中外医学社
2190	NEWエッセンシャル整形外科学	星野雄一: 吉川秀樹	医歯薬出版
2191	フットケアと足病変治療ガイドブック	日本フットケア学会	医学書院
2192	入門運動器の超音波観察法実技編: プローブ走査を中心に	日本超音波骨軟組織学会	医歯薬出版
2193	整形外科疾患ビジュアルブック	落合慈之	学研メディカル秀潤社
2194	整形外科医のための手術解剖学図説	スタンリ・ホッペンフェルド	南江堂
2195	TEXT整形外科学	大鳥精司: 高相晶士	南山堂
2196	標準整形外科学	井樋栄二: 吉川秀樹	医学書院
2197	スポーツ整形外科学: アスリートを支えるクリニカルスタンダード	松本秀男: 熊井司	文光堂
2198	人工股関節のバイオマテリアル: 材料選択からデザインまで	山本謙吾	メジカルビュー社
2199	BHA・THA人工股関節置換術パーフェクト	稲葉裕(整形外科): 神野哲也	羊土社
2200	TKA・UKA人工膝関節置換術パーフェクト	松田秀一: 岡崎賢	羊土社
2201	リハビリテーション概論	真柄彰: 鴨下博	理工図書
2202	リハビリテーション医学	真柄彰: 鴨下博	理工図書
2203	リハビリテーション医学・医療用語集	日本リハビリテーション医学会	文光堂
2204	ICUから始める早期リハビリテーション	中村俊介	羊土社
2205	深化したTIMEによる褥瘡ケーススタディ	田中マキ子	照林社
2206	標準皮膚科学	岩月啓氏: 照井正	医学書院
2207	皮膚外科学	日本皮膚外科学会	学研メディカル秀潤社
2208	Bella Pelle: 美肌をつくるサイエンス. Vol. 6 No. 1		メディカルレビュー社
2209	Bella Pelle: 美肌をつくるサイエンス. Vol. 6 No. 2		メディカルレビュー社

番号	書名	著者名	出版社名
2210	Bella Pelle:美肌をつくるサイエンス. Vol. 6 No. 3		メディカルレビュー社
2211	Bella Pelle:美肌をつくるサイエンス. Vol. 6 No. 4		メディカルレビュー社
2212	標準泌尿器科学	並木幹夫:市川智彦	医学書院
2213	腹腔鏡手術	荒井陽一	メジカルビュー社
2214	ロボット支援手術	土谷順彦	メジカルビュー社
2215	長期透析療法の実際	浅野泰:秋澤忠男	新興医学出版社
2216	腎臓病教室	椎貝達夫	新興医学出版社
2217	生活と透析:これだけは知っておこう	新生会第一病院:小川洋史	医学書院
2218	透析療法ネクスト. 1	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2219	透析療法ネクスト. 2	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2220	透析療法ネクスト. 3	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2221	専門医に聞きたいコメディカルのための腎不全・透析療法Q&A 101	飯田喜俊:椿原美治	医歯薬出版
2222	透析療法の合併症対策:Step by stepで学ぶ	北岡建樹	永井書店
2223	Dr. ジンゾーの透析療法の初歩	佐藤良和	南山堂
2224	腎臓病の話	椎貝達夫	岩波書店
2225	透析療法ゴールデンハンドブック	秋澤忠男:衣笠えり子	南江堂
2226	たんぱく質コントロールの栄養食事療法	渡邊早苗(栄養学)	建帛社
2227	透析療法事典	中本雅彦:佐中孜	医学書院
2228	専門医のための腎臓病学	内山聖:富野康日己	医学書院
2229	考える腎臓病学	谷口茂夫	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2230	シュライアー腎臓病と病態生理	ロバート・W. シュライアー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2231	病態から学ぶ新腎臓内科学	向山政志:中尾一和	診断と治療社
2232	わかりやすい透析工学:血液浄化療法の科学的基礎	酒井清孝:峰島三千男	南江堂
2233	臨床腎臓病マニュアル	南学正臣	南江堂
2234	急性腎不全・AKI診療Q&A	野入英世	中外医学社
2235	腎臓内科学	佐々木成	丸善出版
2236	実践シャントエコー	春口洋昭	医歯薬出版
2237	臨床腎臓内科学	安田隆:平和伸仁	南山堂
2238	腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト	日本腎臓病薬物療法学会	じほう
2239	CKDブック:慢性腎臓病管理の手引	ジョン・T. ドーガダス:南学正臣	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2240	透析療法	大平整爾	医業ジャーナル社
2241	マンガで学ぶ透析療法	佐藤良和	中外医学社
2242	腎臓病と人工透析の現代史:「選択」を強いられた患者たち	有吉玲子	生活書院
2243	透析療法パーフェクトガイド	飯田喜俊:秋葉隆(透析療法)	医歯薬出版
2244	対話で学ぶ腎不全と透析療法の知識	北岡建樹	南山堂
2245	透析療法ネクスト. 11	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2246	透析療法ネクスト. 12	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2247	透析療法ネクスト. 15	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2248	透析療法ネクスト. 16	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2249	透析療法ネクスト. 17	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2250	透析療法マニュアル	信楽園病院:鈴木正司	日本メディカルセンター
2251	高齢透析患者治療とケアのための透析療法Q&A	飯田喜俊:椿原美治	医歯薬出版
2252	穿刺技術向上に役立つ透析スタッフのためのバスキュラーアクセスガイドブック	山家敏彦:前波輝彦	メジカルビュー社
2253	腹膜透析療法Q&A	細谷竜男:横尾隆	東京医学社
2254	基礎から始める腎臓内科学	副島昭典:長沢俊彦	東京医学社
2255	NEWエッセンシャル腎臓内科学	富野康日己	医歯薬出版
2256	腎臓病教室:知りたいことがよくわかる	中尾俊之	医歯薬出版

番号	書名	著者名	出版社名
2257	透析療法ネクスト. 19	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2258	医師・コメディカルのための慢性腎臓病生活・食事指導マニュアル	日本腎臓学会:日本腎臓学会	東京医学社
2259	慢性腎臓病(CKD)食事指導のポイント:スタッフから患者さんに伝えたい	飯田喜俊:兼平奈々	医歯薬出版
2260	腎臓内科クリニカルスタンダード	小松康宏	文光堂
2261	透析療法パーフェクトガイド:腎不全の基礎知識から学べる	田部井薫	総合医学社
2262	これだけは知っておきたい透析療法	富野康日己	中外医学社
2263	糖尿病腎症の食品交換表	日本糖尿病学会	文光堂
2264	透析療法ネクスト. 20	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2265	腎臓病診療のためのエネルギー代謝ガイド	前田益孝	東京医学社
2266	腎臓病食品交換表:治療食の基準	中尾俊之:小沢尚	医歯薬出版
2267	腎機能に応じた投与戦略:重篤な副作用の防ぎかた	中山裕史:竹内裕紀	医学書院
2268	そうだったんだ!透析患者	加藤明彦	文光堂
2269	薬剤性腎障害(DKI)診療Q&A:DKI診療ガイドラインを実践するために	山縣邦弘:臼井丈一	診断と治療社
2270	透析療法ネクスト. 21	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2271	オンコネフロジー:がんと腎臓病学・腎疾患と腫瘍学	ケナール・D. ジャバイリー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2272	メディカルスタッフのための腎臓病学	富野康日己	中外医学社
2273	透析スタッフのためのバスキュラーアクセス超音波検査	春口洋昭	医歯薬出版
2274	まるごと図解腎臓病と透析:オールカラー	小林修三:日高寿美	照林社
2275	腎臓・透析療法・透析患者の体イラスト図鑑	友雅司	メディカ出版
2276	透析患者への投薬ガイドブック:慢性腎臓病(CKD)の薬物治療	平田純生:古久保拓	じほう
2277	なぜ?から学ぶ血液浄化77	酒井清孝:宮坂武寛	東京医学社
2278	臨床工学技士のための透析医療	篠田俊雄:峰島三千男	学研メディカル秀潤社
2279	基礎からわかる透析療法パーフェクトガイド	篠田俊雄:萩原千鶴子	学研メディカル秀潤社
2280	オンラインHDFの基礎と臨床:透析患者の予後と合併症の改善を目指して	土田健司	メディカ出版
2281	腎臓病の食品成分表:大きな文字でさっと探せる	金澤良枝	女子栄養大学出版部
2282	腎臓病診療レジデントマニュアル	小松康宏	医学書院
2283	腎・泌尿器疾患ビジュアルブック	落合慈之:渋谷祐子	学研メディカル秀潤社
2284	レジデントのための腎臓病診療マニュアル	深川雅史:安田隆	医学書院
2285	透析療法ネクスト. 22	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2286	透析ハンドブック	小川洋史:岡山ミサ子	医学書院
2287	透析医のための漢方薬テキスト	和田健太郎	アトムス
2288	こういうことだったのか!!CHDF	小尾口邦彦	中外医学社
2289	透析療法ネクスト. 23	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2290	バスキュラーアクセスは透析室で守る!	延命寺俊哉:人見泰正	医歯薬出版
2291	エコーを使ったバスキュラーアクセス穿刺法ガイド	木船和弥	メジカルビュー社
2292	透析療法ネクスト. 24	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2293	いまさら訊けない!透析患者検査値のみかた,考えかた	加藤明彦	中外医学社
2294	所見を「読んで」「考える」臨床医のための腎病理読解ロジック	乳原善文:柴垣有吾	中外医学社
2295	腎臓リハビリテーションガイドライン	日本腎臓リハビリテーション学会	南江堂
2296	エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン. 2018	日本腎臓学会	東京医学社
2297	透析装置および関連機器の原理(構造・機能)とメンテナンス	山下芳久	日本メディカルセンター
2298	やさしい腎代替療法:よりよい治療法を選択するために読む本	中元秀友:秋野公造	西村書店(新潟)
2299	看護師・臨床工学技士のための透析シャントエコー入門	春口洋昭	メディカ出版
2300	これまでがわかる.これからがわかる.透析療法最前線	中元秀友:小川智也	東京医学社
2301	腎臓リハビリテーション	上月正博	医歯薬出版
2302	腹膜透析・腎移植ハンドブック	石橋由孝:衣笠哲史	中外医学社
2303	腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン. 2018	日本腎臓学会	東京医学社

番号	書名	著者名	出版社名
2304	実践！腎臓リハビリテーション入門	上月正博	医歯薬出版
2305	腎生理がわかれば、水・電解質異常がわかる！	杉本俊郎	南山堂
2306	腎臓専門医のためのCKD診療Q&A	山縣邦弘：岡田浩一	東京医学社
2307	患者さんとご家族のためのCKD療養ガイド. 2018	日本腎臓学会	東京医学社
2308	透析患者の検査値の読み方	深川雅史：花房規男	日本メディカルセンター
2309	生体機能代行装置学血液浄化	海本浩一：岩谷博次	東京電機大学出版局
2310	透析ケア：透析と移植の医療・看護専門誌. 2019 2(Vol. 25 N		メディカ出版
2311	至適透析を理解する血液透析処方ロジック	乳原善文：上野智敏	中外医学社
2312	血液透析の理論と実際	富野康日己	中外医学社
2313	誰も教えてくれなかった血液透析の進めかた教えます	長澤将：宮崎真理子	羊土社
2314	腎臓内科レジデントマニュアル	今井圓裕：丸山彰一	診断と治療社
2315	透析療法ネクスト. 25	秋葉隆(透析療法)：秋澤忠男	医学図書出版
2316	透析患者の管理：知りたいこと。知るべきこと。	中西健：倉賀野隆裕	東京医学社
2317	目で見て判る「長時間透析と自由食」：食塩と血圧の新しい関係	金田浩	東京医学社
2318	腹膜透析診療指針	岡田一義：橋本寛文	東京医学社
2319	腎臓病薬物療法トレーニングブック	平田純生	じほう
2320	透析療法ネクスト. 26	秋葉隆(透析療法)：秋澤忠男	医学図書出版
2321	腹膜透析ガイドライン：2019 JSDT “Guidelines for. 2019	日本透析医学会学術委員会腹膜透析ガイドラ	医学図書出版
2322	腎疾患・透析最新の治療. 2020-2022	山縣邦弘：南学正臣	南江堂
2323	ここが知りたい！腎臓病診療ハンドブック	清水英樹	中外医学社
2324	腎不全と薬の使い方Q&A	平田純生：竹内裕紀	じほう
2325	腎臓病の人のための食品成分表[ポケット版]	主婦の友社	主婦の友社
2326	腎臓病が進行したら、私は腹膜透析を勧めます	古賀祥嗣	イースト・プレス
2327	腎臓病の基本的食事	富野康日己：牧野直子	学研プラス
2328	腎機能別薬剤投与量POCKET BOOK	日本腎臓病薬物療法学会腎機能別薬剤投与方	じほう
2329	血液浄化とそれを支える基盤技術	織田成人：酒井清孝	東京医学社
2330	腎生検ガイドブック. 2020	日本腎臓学会	東京医学社
2331	透析患者の検査値ポケットブック：患者指導にすぐ使える	友雅司	メディカ出版
2332	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン. 2020	成田一衛	東京医学社
2333	エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD)診療ガイドライン. 2020	成田一衛	東京医学社
2334	エビデンスに基づくIgA腎症診療ガイドライン. 2020	成田一衛	東京医学社
2335	エビデンスに基づくネフローゼ症候群診療ガイドライン. 2020	成田一衛	東京医学社
2336	慢性腎臓病患者とともにすすめるSDM実践テキスト	腎臓病SDM推進協会	医学書院
2337	プロフェッショナル腎臓病学	南学正臣	中外医学社
2338	腎代替療法選択ガイド. 2020	日本腎臓学会	ライフサイエンス出版
2339	一歩先の透析医療：理論と実践	山川智之	中外医学社
2340	透析患者の足を守る：透析治療×全身管理×フットケア	小林修三：日高寿美	照林社
2341	血液浄化療法ハンドブック. 2021	透析療法合同専門委員会	協同医学書出版社
2342	腎不全の基礎知識から学べる透析療法パーフェクトガイド	田部井薫	総合医学社
2343	糖尿病性腎臓病の病態と治療	富野康日己：和田隆志	中外医学社
2344	腎・透析診療指針：最新ガイドラインに基づく. 2021-'22	岡田浩一(腎臓内科学)	総合医学社
2345	透析療法グリーンノート	長田太助：齋藤修	中外医学社
2346	透析患者の薬剤ポケットブック	平田純生	メディカ出版
2347	腎臓病診療Q&A：AKI～CKD～腎難病まで	山縣邦弘：臼井丈一	東京医学社
2348	動画と写真でまるわかり！血液透析	偕行会グループ：田岡正宏	学研メディカル秀潤社
2349	透析ケア：透析と移植の医療・看護専門誌. 2021 7(Vol. 27 N		メディカ出版
2350	透析ケア：透析と移植の医療・看護専門誌. 2021 8(Vol. 27 N		メディカ出版

番号	書名	著者名	出版社名
2351	腎薬ドリル:腎臓病薬物療法の知識・理論を臨床に結びつけるトレー	浦田元樹	じほう
2352	透析療法ネクスト. 27	秋葉隆(透析療法):秋澤忠男	医学図書出版
2353	腎臓病療養指導士のためのCKD指導ガイドブック	日本腎臓病協会	東京医学社
2354	イラストでわかる腎臓・透析療法・透析患者の体	花房規男	メディカ出版
2355	バスキュラーアクセス治療学	春口洋昭:大平整爾	中外医学社
2356	高密度焦点式超音波療法:前立腺癌に対する低侵襲治療	内田豊昭	診断と治療社
2357	ジェネラリストのための性感染症入門	谷崎隆太郎	文光堂
2358	性感染症診断・治療ガイドライン. 2020	性感染症学会	診断と治療社
2359	標準産科婦人科学	綾部琢哉:板倉敦夫	医学書院
2360	婦人科・乳腺外科疾患ビジュアルブック	落合慈之:角田肇	学研メディカル秀潤社
2361	産婦人科ベッドサイドマニュアル	青野敏博:苛原稔	医学書院
2362	産婦人科内視鏡手術ガイドライン. 2019年版	日本産科婦人科内視鏡学会	金原出版
2363	産婦人科内視鏡手術スキルアップ	日本産科婦人科内視鏡学会	メジカルビュー社
2364	産婦人科感染症マニュアル	日本産婦人科感染症学会	金原出版
2365	生殖外科のすべて	森田峰人:太田邦明	メディカ出版
2366	卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約. 病理編	日本産科婦人科学会	金原出版
2367	子宮体癌取扱い規約病理編	日本産科婦人科学会	金原出版
2368	子宮頸癌	安田政実:三上芳喜	文光堂
2369	ひと目でわかる乳腺エコー	杉山高	医療科学社
2370	誰も教えてくれなかった乳腺エコー	何森垂由美	医学書院
2371	乳腺細胞診と画像診断の比較100選	藏本博行:吉田明	医療科学社
2372	基礎から学ぶ産婦人科超音波診断	馬場一憲	東京医学社
2373	ヨーガによるヘルスケアアプローチ	金子洋美	日本看護協会出版会
2374	産婦人科エコーパーフェクトマニュアル:動画を含む電子版付	長谷川潤一	日本医事新報社
2375	産科の感染防御ガイド:新型コロナウイルス感染症に備える指針	日本産婦人科医会	メディカ出版
2376	超音波胎児病学	竹内久弥	南江堂
2377	胎児心拍数モニタリング&超音波検査	西村修:石本人士	メディカ出版
2378	周産期メンタルヘルスケアの理論	北村俊則:北村俊則	医学書院
2379	現代の眼科学	所敬:吉田晃敏	金原出版
2380	標準眼科学	中澤満:村上晶	医学書院
2381	眼科学	大鹿哲郎:園田康平	文光堂
2382	OCT眼底診断学	岸章治	エルゼビア・ジャパン
2383	OCTアンギオグラフィコアアトラス:ケースで学ぶ読影のポイント	吉村長久:加登本伸	医学書院
2384	眼科疾患ビジュアルブック	永本敏之	学研メディカル秀潤社
2385	視能検査学	日本視能訓練士協会	医学書院
2386	視能訓練学	日本視能訓練士協会	医学書院
2387	標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	鈴木淳一	医学書院
2388	目でみる耳鼻咽喉科疾患	池田勝久	文光堂
2389	耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック	落合慈之	学研メディカル秀潤社
2390	TEES(経外耳道的内視鏡下耳科手術)手技アトラス	欠畑誠治:二井一則	中山書店
2391	内視鏡下鼻内副鼻腔手術:副鼻腔疾患から頭蓋底疾患まで	森山寛:春名眞一	医学書院
2392	内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術	中川隆之	医学書院
2393	絵でわかる言語障害:言葉のメカニズムから対応まで	毛束真知子	学研メディカル秀潤社
2394	若手Dr & DHのための全身疾患別で学ぶくすりの知識	金子明寛:川辺良一	デンタルダイヤモンド社
2395	Dr. Bonoの生命科学データ解析	坊農秀雅	メディカル・サイエンス・インターナショナル
2396	MTAその基礎と臨床:生体材料としての現状と展望	興地隆史:井澤常泰	ヒョーロン・パブリッシャーズ
2397	看護に役立つ口腔ケアテクニック	晴山婦美子:塚本敦美	医歯薬出版

番号	書名	著者名	出版社名
2398	看護とヘルスケアの社会学	アビー・ペリー:原信田実	医学書院
2399	基礎から学ぶ医療経済評価:費用対効果を正しく理解するために	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	じほう
2400	わかりやすい公衆衛生学	清水忠彦:佐藤拓代	ヌーヴェルヒロカワ
2401	ヘルスプロモーション:健康科学	和田雅史:齊藤理砂子	聖学院大学出版会
2402	公衆衛生学	照屋浩司:川村堅	医歯薬出版
2403	在宅医療をはじめよう!:非がん患者の自宅での看取り	永井康徳:永吉裕子	南山堂
2404	在宅医療をはじめよう!:医療を変える,地域を変える,文化を変える	永井康徳:永吉裕子	南山堂
2405	保健医療福祉概論	高木康	医歯薬出版
2406	医療経済・政策学の探究	二木立	勁草書房
2407	在宅医療臨床入門	和田忠志	南山堂
2408	在宅医療バイブル	川越正平	日本医事新報社
2409	予防医療のすべて	長尾和宏:岡田唯男	中山書店
2410	患者と医療サービス:患者視点の医療とは	深津博	日本医療企画
2411	NEW予防医学・公衆衛生学	岸玲子:小泉昭夫	南江堂
2412	コミュニティヘルスケア研究	田城孝雄:星旦二	放送大学教育振興会
2413	在宅医療における臨床検査医学	臨床検査振興協議会	じほう
2414	医療情報 情報処理技術編	日本医療情報学会医療情報技術育成部会	篠原出版新社
2415	高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン. 2019	日本老年医学会	日本老年医学会
2416	医療情報の基礎知識:第15~20回医療情報基礎知識検定試験問題付	日本医療情報学会医療情報技術育成部会	南江堂
2417	医療情報システム入門. 2020	保健医療福祉情報システム工業会	社会保険研究所
2418	保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門	石川ひろの	大修館書店
2419	公衆衛生がみえる. 2020-2021	医療情報科学研究所	メディックメディア
2420	地域医療構想のデータをどう活用するか	松田晋哉	医学書院
2421	在宅医療たんぼ先生の実践!多職種連携	永井康徳:永吉裕子	金芳堂
2422	公衆衛生学:管理栄養士講座	伊達ちぐさ:松村康弘	建帛社
2423	多職種連携とシステム科学:異界越境のすすめ	松下博宣	日本医療企画
2424	ヘルスケアの未来	アクセンチュア	日経BPM
2425	経済学を知らずに医療ができるか!?	康永秀生	金芳堂
2426	学生のための健康管理学	木村康一:永松俊哉	南山堂
2427	これだけでわかる!医療AI	井川房夫:藤田広志	中外医学社
2428	公衆衛生マニュアル. 2021	中村好一:佐伯圭吾	南山堂
2429	@ER×ICU目指せギリギリ救急医	薬師寺泰匡	日本医事新報社
2430	ていねいな保健統計学	白戸亮吉:鈴木研太	羊土社
2431	やさしい保健統計学	縣俊彦	南江堂
2432	基礎から学ぶ楽しい保健統計	中村好一	医学書院
2433	数式不要!はめ込み統計学:EZRでできる保健医療統計これだけ	加藤丈夫	医学書院
2434	救急医療40年:救急医学・救急医療改革への道程	小浜啓次	へるす出版
2435	スマホで始まる未来の医療:医療+ICTの最前線	東京慈恵会医科大学	日経BP
2436	多職種連携で支える災害医療:身につけるべき知識・スキル・対応力	小井土雄一:石井美恵子	医学書院
2437	鉄腕アトムのような医師:AIとスマホが変える日本の医療	高尾洋之	日経BP
2438	医療・医療経営統計データ集. 2021-2022年版		三冬社
2439	国際的視点から学ぶ医療経済学入門	バーバラ・マックベイク	東京大学出版会
2440	入門医療経済学:「いのち」と効率の両立を求めて	真野俊樹	中央公論新社
2441	医療経済学の基礎理論と論点	西村周三:田中滋	勁草書房
2442	医療経済学で読み解く医療のモondagイ	真野俊樹	医学書院
2443	“見える化”医療経済学入門	川淵孝一	医歯薬出版
2444	医療経済学講義	橋本英樹:泉田信行	東京大学出版会

番号	書名	著者名	出版社名
2445	羅針盤としての政策史:歴史研究からヘルスケア・福祉政策の展望を拓く	猪飼周平	勁草書房
2446	2040年に向けて医療はこうなる!	仲野豊	プリメド社
2447	世界一わかりやすい「医療政策」の教科書	津川友介	医学書院
2448	ヒューマンファクターからみた医療安全	釘宮豊城	真興交易医書出版部
2449	5日間で学ぶ医療安全超入門	坂本すが	学研プラス
2450	医療事故初期対応	前田正一	医学書院
2451	医療安全ことはじめ	中島和江:児玉安司	医学書院
2452	医療事故とクライシスマネジメント	安川文朗	日本医療企画
2453	関係法規	生駒俊和:出淵靖志	医歯薬出版
2454	医療におけるヒューマンエラー:なぜ間違えるどう防ぐ	河野龍太郎	医学書院
2455	医療安全管理学	諏訪部章:高木康	医歯薬出版
2456	実用再生医療新法:	岡田潔:日本再生医療学会	医歯薬出版
2457	日本の医療関連法規:その歴史と基礎知識	平井謙二	日本医療企画
2458	事例から学ぶ医療安全対策	中元秀友:矢内原仁	東京医学社
2459	Q&A医薬品・医療機器・健康食品等に関する法律と実務	赤羽根秀宜	日本加除出版
2460	医療安全管理テキスト:医療安全管理者必携	飯田修平	日本規格協会
2461	医療情報と医事法	甲斐克則	信山社出版
2462	Q&Aでわかる医療ビッグデータの法律と実務	水町雅子	日本法令
2463	医療者のためのわかりやすい医療訴訟	粟野公一郎:粟野暢康	医療科学社
2464	コ・メディカルのための医事法学概論	野崎和義	ミネルヴァ書房
2465	医療安全	松下由美子:杉山良子	メディカ出版
2466	医療安全管理実務者標準テキスト	日本臨床医学リスクマネジメント学会	へるす出版
2467	関係法規. 2021年版	宮島喜文:三村邦裕	医歯薬出版
2468	医療法学入門	大磯義一郎:大滝恭弘	医学書院
2469	医療制度・医療政策・医療経済	今中雄一:大日康史	丸善出版
2470	医療経済学・地域医療学	浜田淳:齋藤信也(医師)	岡山大学出版会
2471	日本の医療政策と地域医療システム:医療制度の基礎知識と最新動向	尾形裕也	日本医療企画
2472	医療コミュニケーション:医療従事者と患者の信頼関係構築	荒木正見:荒木登茂子	日本医療企画
2473	今すぐできる!患者が集まる接遇術	白梅英子	日本医療企画
2474	臨床工学技士になるには	岩間靖典	ペリかん社
2475	広報・広告/ブランディング:集患力をアップさせるために	石田章一	日本医療企画
2476	業務改革:病院活性化のための効果的手法	白濱伸也	日本医療企画
2477	医療品質経営:患者中心医療の意義と方法論	飯塚悦功:水流聡子	日本医療企画
2478	医療情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)	紀ノ定保臣	日本医療企画
2479	DPCIによる戦略的病院経営:急性期病院に求められるDPC活用術	松田晋哉	日本医療企画
2480	経営形態:その種類と選択術	羽生正宗	日本医療企画
2481	保険外診療/附帯業務:自由診療と医療関連ビジネス	浅野信久	日本医療企画
2482	病院経営戦略論:経営手法の多様化と戦略実行にあたって	尾形裕也	日本医療企画
2483	バランスト・スコアカード:その理論と実践	荒井耕:正木義博	日本医療企画
2484	医療ガバナンス:医療機関のガバナンス構築を目指して	内田亨	日本医療企画
2485	医療経営学:病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略	今村知明:康永秀生	医学書院
2486	クリニカルパス/地域医療連携	濃沼信夫	日本医療企画
2487	入門医療経営情報学	山内一信:藤田保健衛生大学	同友館
2488	今すぐできる!問題解決型思考を身につける基本スキル	田中智恵子:高橋啓	日本医療企画
2489	今すぐできる!人事労務問題解決.理論編	鷹取敏昭	日本医療企画
2490	今すぐできる!人事労務問題解決.事例編	鷹取敏昭	日本医療企画
2491	今すぐできる!ゼロから学べる財務会計入門	梅原隆	日本医療企画

番号	書名	著者名	出版社名
2492	今すぐできる！医師を集めるブランディング手法	神谷健一	日本医療企画
2493	今すぐできる！患者が集まる病院広報戦略	山田隆司：大塚光宏	日本医療企画
2494	今すぐできる！失敗しない患者クレーム対応術	原聡彦	日本医療企画
2495	MBA流ケースメソッドで学ぶ医療経営入門	渋谷明隆	日経BP
2496	だれでもわかる！医療現場のための病院経営のしくみ	木村憲洋	日本医療企画
2497	医療経営コンサルタントが紐解く病院経営のしくみ	平田二郎	マイナビ出版
2498	チーム医療と現場力：強い組織と人材をつくる病院風土改革	白髪昌世	日本医療企画
2499	医療経営におけるホスピタリティ価値	吉原敬典	白桃書房
2500	医療安全と業務改善を成功させる病院の文書管理実践マニュアル	矢野真：棟近雅彦	メディカ出版
2501	医療・介護制度改革へ向けた病院経営戦略	石井富美	日本医療企画
2502	ゼロからはじめる病院のPDCA：医療の質の見える化と改善	伏見清秀：本橋隆子	医歯薬出版
2503	MBA的医療経営：目指せ！！メディカルエグゼクティブ	角田圭雄	幻冬舎メディアコンサルティング
2504	病院の仕組み／各種団体、学会の成り立ち	木村憲洋	日本医療企画
2505	日本の医療関連サービス：病院を取り巻く医療産業の状況	井上貴裕	日本医療企画
2506	なるほど、なっとく医療経営Q&A60 中級：患者・経営・政策の視点でポイント整理	長英一郎：網代祐介	日本医療企画
2507	医療現場でのクレーム・トラブルQ&A：初期対応から法的対応まで	兼児敏浩：楠井嘉行	ぎょうせい
2508	医師の働き方改革大全：現場と経営の変革に効く「完全マニュアル」	裴英洙：石井洋介	日経BP
2509	在宅医療経営・実践テキスト	大石佳能子：荒木庸輔	日経BP
2510	自治体病院経営ハンドブック 令和元年度版	自治体病院経営研究会	ぎょうせい
2511	ヘルスケア業界データブック	日本政策投資銀行	日本医療企画
2512	理論と実践：「医療経営士」情報誌 No. 34	林諄：上塚芳郎	日本医療経営実践協会
2513	医療経営白書 2019年度版	医療経営白書編集委員会	日本医療企画
2514	組織論からみた病院経営	小倉真治	へるす出版
2515	自治体病院経営改革：人口減少・地域消滅時代の	伊関友伸	ぎょうせい
2516	患者トラブルvs応招義務：医療とスタッフを守るために	尾内康彦：大阪府保険医協会	プリメド社
2517	理論と実践：「医療経営士」情報誌 No. 35	林諄：上塚芳郎	日本医療経営実践協会
2518	理論と実践：「医療経営士」情報誌 No. 36	林諄：上塚芳郎	日本医療経営実践協会
2519	最新医療経営PHASE3：「経営の時代」の羅針盤 2020年4月号		日本医療企画
2520	医療情報技師能力検定試験過去問題・解説集 2020	日本医療情報学会医療情報技師育成部会	南江堂
2521	なるほど、なっとく医療経営Q&A50 初級	長英一郎	日本医療企画
2522	経営理念・経営ビジョン／経営戦略：戦略を実行するための組織経営	多湖雅博	日本医療企画
2523	人的資源管理：ヒトは経営の根幹	米本倉基	日本医療企画
2524	事務管理／物品管理：コスト意識を持っているか？	山本康弘	日本医療企画
2525	病院ファイナンス：資金調達的手法と実務	福永肇	日本医療企画
2526	医療法務／医療の安全管理：訴訟になる前に知っておくべきこと	須田清	日本医療企画
2527	管理会計の体系的理解とその実践	渡辺明良	日本医療企画
2528	医療サービスの多様化と実践：患者は何を求めているのか	島田直樹	日本医療企画
2529	自治体病院経営ハンドブック 令和2年度版	自治体病院経営研究会	ぎょうせい
2530	医療経営概論：病院の経営に必要な基本要素とは	吉長成恭	日本医療企画
2531	医療マーケティングと地域医療：患者を顧客としてとらえられるか	真野俊樹	日本医療企画
2532	医療ICTシステム：ヘルスデータの戦略的活用と地域包括ケアの推進	瀬戸僚馬	日本医療企画
2533	病院会計：財務会計と管理会計	橋口徹	日本医療企画
2534	理論と実践：「医療経営士」情報誌 No. 38	林諄：上塚芳郎	日本医療経営実践協会
2535	経営理論に学ぶ病院経営戦略	井上貴裕	ロギカ書房
2536	ヘルスケア業界データブック 2020	日本政策投資銀行	日本医療企画
2537	はじめての医療経営論	真野俊樹	有斐閣
2538	看護管理者のための医療経営学：働き方改革と医療機関の健康経営	尾形裕也	日本看護協会出版会

番号	書名	著者名	出版社名
2539	組織管理／組織改革：改革こそが経営だ！	富田健司	日本医療企画
2540	医療・介護の連携：地域包括ケアと病院経営	橋爪章	日本医療企画
2541	ヘルスケア業界データブック. 2021	日本政策投資銀行	日本医療企画
2542	医療経営戦略論	羽田明浩	創成社
2543	月刊医療経営士. 2021年 12月号		日本医療企画
2544	医療経営白書. 2021年度版	医療経営白書編集委員会	日本医療企画
2545	禁煙学	日本禁煙学会	南山堂
2546	ストレスチェック時代の睡眠・生活リズム改善実践マニュアル	田中秀樹・宮崎総一郎	全日本病院出版会
2547	人工知能に負けない脳：人間らしく働き続ける5つのスキル	茂木健一郎	日本実業出版社
2548	健康と環境の科学	川添禎浩・有菌幸司	講談社
2549	研修生・医学生のための症例で学ぶ栄養学	折茂英生・勝川史憲	建帛社
2550	ロス医療栄養学大事典：健康と病気のしくみがわかる	A・キャサリン・ロス・稲垣暢也	西村書店（新潟）
2551	すべての診療科で役立つ栄養学と食事・栄養療法	曾根博仁	羊土社
2552	メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック	佐々木雅也	南江堂
2553	臨床栄養全史：栄養療法の面白さがみえる、深まる	大熊利忠	羊土社
2554	病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック	日本病態栄養学会	南江堂
2555	新・栄養塾	大村健二・濱田康弘	医学書院
2556	キーワードでわかる臨床栄養：栄養で治す！基礎から実践まで. 令和版	岡田晋吾	羊土社
2557	重症患者の治療の本質は栄養管理にあった！	真弓俊彦	羊土社
2558	ICU感染制御を究める	志馬伸朗	南江堂
2559	ICTのためのまるっと感染症レクチャー	矢野晴美	メディカ出版
2560	続・人類と感染症の歴史：新たな恐怖に備える	加藤茂孝	丸善出版
2561	滅菌・消毒・洗浄ハンドブック：国際標準の感染予防対策	ICHG研究会	医歯薬出版
2562	CDCガイドラインの使い方感染対策：誰でもサツとできる！	矢野邦夫	メディカ出版
2563	結核Up to Date	四元秀毅・倉島篤行	南江堂
2564	新型インフルエンザパンデミックに日本はいかに立ち向かってきたか	岡部信彦・和田耕治	南山堂
2565	感染症疫学：感染性の計測・数学モデル・流行の構造	ヨハン・ギセック・山本太郎	昭和堂（京都）
2566	基礎から学ぶ楽しい疫学	中村好一	医学書院
2567	新型コロナウイルス感染症〔COVID-19〕対応BOOK	大阪市立十三市民病院COVID-19対策	照林社
2568	大阪市立十三市民病院がつくった新型コロナウイルス感染症もつと対応BOOK	西口幸雄・白石訓	照林社
2569	国立国際医療研究センター（NCGM）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	国立国際医療研究センター	南江堂
2570	INFECTION CONTROL. 2021 10（30巻10号）		メディカ出版
2571	ロスマンの疫学：科学的思考への誘い	ケネス・J. ロスマン・矢野栄二	篠原出版新社
2572	はじめて学ぶやさしい疫学：日本疫学会標準テキスト	日本疫学会：磯博康	南江堂
2573	医ダニ学図鑑：見える分類と疫学	高田伸弘	北隆館
2574	産業保健マニュアル	森晃爾	南山堂
2575	医療従事者のための災害対応サポートブック	山本保博	東京法令出版
2576	法医組織病理学	ヴェルナー・ヤンセン	丸善出版
2577	薬がみえる：チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 2	医療情報科学研究所	メディックメディア
2578	薬がみえる：チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 3	医療情報科学研究所	メディックメディア
2579	薬がみえる：チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 4	医療情報科学研究所	メディックメディア
2580	薬がみえる：チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 1	医療情報科学研究所	メディックメディア
2581	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 4	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2582	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 6	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2583	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 7	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2584	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 8	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2585	ヘルスケア分野における産学連携ガイドブック	川尻達也・平野正夫	薬事日報社

番号	書名	著者名	出版社名
2586	詳説薬剤経済学:次世代に向けた医療経済学・地域医療学	恩田光子:砂川雅之	京都廣川書店
2587	薬学と社会:医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医	乾賢一	中山書店
2588	FDAの正体:米国食品医薬品局. 上	フラン・ホーソン:栗原千絵子	篠原出版新社
2589	FDAの正体:米国食品医薬品局. 下	フラン・ホーソン:栗原千絵子	篠原出版新社
2590	医薬品医療機器等法・薬剤師法・毒劇法解説	翁健:鯉澤照夫	薬事日報社
2591	よくわかる薬機法 再生医療等製品編:カラー図解	ドーモ:新薬事法研究会	薬事日報社
2592	よくわかる薬機法 医療機器/体外診断用医薬品編:カラー図解	ドーモ:薬機法研究会	薬事日報社
2593	Q&Aでわかる業種別法務 医薬品・医療機器	日本組織内弁護士協会	中央経済社
2594	やさしい医薬品医療機器等法 医薬品・医薬部外品・化粧品編	レギュラトリーサイエンス学会	じほう
2595	やさしい医薬品医療機器等法 医療機器・体外診断用医薬品・再生医療等製品編	レギュラトリーサイエンス学会	じほう
2596	よくわかるQ&A改正医薬品医療機器等法のポイント	薬事法規研究会	ぎょうせい
2597	医薬品医療機器等法薬剤師法関係法令集. 令和3(2021)年版	薬事行政研究会	薬務公報社
2598	薬事法令ハンドブック		薬事日報社
2599	看護・医療系のためのくすりと治療の基礎知識	鳥澤保廣:蜂谷正博	東京化学同人
2600	ここが知りたかったOTC医薬品の選び方と勧め方	坂口眞弓	南江堂
2601	手術室・ICUで使う薬剤ノート	河本昌志	メディカ出版
2602	王様のくすり図鑑	木村美紀:ハマハウス	じほう
2603	医薬品のレギュラトリーサイエンス	豊島聡:黒川達夫	南山堂
2604	バイオ医薬品と再生医療	赤池昭紀:長船健二	中山書店
2605	王子様のくすり図鑑	木村美紀:松浦聖	じほう
2606	日本における医薬品のリスクマネジメント	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	じほう
2607	進化するがん創薬:がん科学と薬物療法の最前線	清宮啓之	化学同人
2608	新生児室・NICUで使う薬剤ノート	北東功:三輪雅之	メディカ出版
2609	今日の治療薬:解説と便覧. 2021	浦部晶夫:島田和幸	南江堂
2610	ポケット医薬品集. 2021年版	龍原徹:澤田康文	南山堂
2611	臨床場面でわかる!くすりの知識:ナースが出会う14の場面134の疑問	五味田裕:荒木博陽	南江堂
2612	これならわかる!看護に役立つくすりの知識	赤瀬智子:佐橋幸子	ナツメ社
2613	医薬品・医療機器・再生医療等製品GCP・GPSPガイドブック. 2020	日本薬剤師研修センター	薬事日報社
2614	医薬品・医療機器・再生医療等製品GLPガイドブック. 2020	日本薬剤師研修センター	薬事日報社
2615	医療スタッフと学生のための医薬品投与量計算脳トレーニング	古川裕之	メディカ出版
2616	ねころんで読める漢方薬	今津嘉宏	メディカ出版
2617	アロマとハーブの薬理学	川口健夫	講談社
2618	工学系のための応用数学	松井信行:市村正也	森北出版
2619	数理工学の世界	中村佳正	日本評論社
2620	はじめての計測工学	南茂夫:木村一郎	講談社
2621	高校数学でマスターする計測工学:基礎から応用まで	小坂学:岡田志麻	コロナ社
2622	絵ときでわかる計測工学	門田和雄	オーム社
2623	計測工学入門	中村邦雄:石垣武夫	森北出版
2624	基本を学ぶ流体力学	藤田勝久	森北出版
2625	流体力学の基礎と流体機械	福島千晴:亀田孝嗣	共立出版
2626	流れ学:流体力学と流体機械の基礎	山田英巳:濱川洋充	森北出版
2627	Pythonで学ぶ流体力学の数値計算法	藤井孝藏:立川智章	オーム社
2628	はじめての振動工学	藤田聡:古屋治	東京電機大学出版局
2629	演習機械工学のための力学	日本機械学会	日本機械学会
2630	材料力学	中井善一:三村耕司	朝倉書店
2631	図解道具としての材料力学入門	西野創一郎	日刊工業新聞社
2632	楽しく学ぶ 破壊力学	成田史生:大宮正毅	朝倉書店

番号	書名	著者名	出版社名
2633	材料科学・材料工学:基礎から応用まで	ジェームズ・ニューエル	東京化学同人
2634	トコトンやさしい金属材料の本	吉村泰治	日刊工業新聞社
2635	基礎エネルギー工学	桂井誠	数理工学社
2636	マネジメント人間工学	小松原明哲:辛島光彦	朝倉書店
2637	エンジニアリング・デザインの教科書	別府俊幸:まがみばん	平凡社
2638	JISにもとづく標準製図法	大西清	オーム社
2639	人工知能時代を(善く生きる)技術	堀内進之介	集英社
2640	未来技術の倫理:人工知能・ロボット・サイボーグ	河島茂生	勁草書房
2641	システム工学	室津義定	森北出版
2642	システム工学－問題発見・解決の方法－	井上雅裕:陳新開	オーム社
2643	システム工学:定量的な意思決定法	井上雅裕:陳新開	オーム社
2644	三次元画像計測の基礎:バンドル調整の理論と実践	日本写真測量学会	東京電機大学出版局
2645	予測の科学はどう変わる?:人工知能と地震・噴火・気象現象	井田喜明	岩波書店
2646	医療の場を整える環境デザイン	戸倉蓉子	日本看護協会出版会
2647	電設技術者のための病院の電気設備	日本電設工業協会	日本電設工業協会
2648	臨床工学技士のための機械工学	西村生哉	コロナ社
2649	機械工学のための数学	日本機械学会	日本機械学会
2650	絵とき機械工学のやさしい知識	小町弘:吉田裕亮	オーム社
2651	機械工学	山本誠:荒井正行	丸善出版
2652	材料力学入門	日下貴之	数理工学社
2653	材料力学入門	堀野正俊	オーム社
2654	入門材料力学:これならわかる(図解でやさしい)	有光隆	技術評論社
2655	機械力学	吉沢正紹	朝倉書店
2656	初学者のための機械の要素	真保吾一	オーム社
2657	機械力学の基礎:力学への入門	宮野尚哉:徳田功	数理工学社
2658	機械力学入門	堀野正俊	オーム社
2659	絵ときでわかる機械力学	門田和雄:長谷川大和	オーム社
2660	基礎制御工学	前田和夫:岩貞継夫	森北出版
2661	JIS機械製図の基礎と演習	熊谷信男:阿波屋義照	共立出版
2662	初心者のための機械製図	藤本元:御牧拓郎	森北出版
2663	わかる!使える!作業工具・取付具入門	澤武一	日刊工業新聞社
2664	わかる!使える!3Dプリンター入門	水野操	日刊工業新聞社
2665	流体のエネルギーと流体機械	高橋徹	オーム社
2666	流体力学の基礎	宮内敏雄:店橋護	数理工学社
2667	流体力学	鈴木康方:関谷直樹	コロナ社
2668	図解道具としての流体力学入門	西野創一郎	日刊工業新聞社
2669	流体力学	富山明男	朝倉書店
2670	医療機器への参入のためのスタディブック:参入シリーズ応用編	医工連携推進機構	薬事日報社
2671	ゼロからわかる医療機器・介護機器ビジネスのしくみ	溝上幸伸	ぱる出版
2672	医療機器の薬事申請入門	薬事衛生研究会	薬事日報社
2673	医療機器開発ガイド	菊地真	じほう
2674	医療機器の薬事業務解説	小泉和夫	薬事日報社
2675	医療機器への参入のためのガイドブック	医工連携推進機構	薬事日報社
2676	対訳ISO 14971	日本医療機器産業連合会	日本規格協会
2677	よくわかる!医療機器の許認可申請	小泉和夫	薬事日報社
2678	医療機器開発とベンチャーキャピタル 実践編	大下創:池野文昭	幻冬舎メディアコンサルティング
2679	医工連携による機器・材料の開発	大浦イツセイ:西垣孝行	シーエムシー出版

番号	書名	著者名	出版社名
2680	医療機器の製造販売承認申請等に必要生物学的安全性評価の基本的考え方について	ISO/TC194国内委員会	薬事日報社
2681	粘性流体力学	日本航空宇宙学会	丸善出版
2682	きちんと知りたい!ドローンメカニズムの基礎知識	鈴木真二	日刊工業新聞社
2683	放射線計測ハンドブック	グレン・F. ノル:神野郁夫	オーム社
2684	放射能はなぜこわい:生命科学の視点から	柳澤桂子	地湧社
2685	臨床工学技士のための電気工学	西村生哉:三田村好矩	コロナ社
2686	トコトンやさしい電気の本	山崎耕造	日刊工業新聞社
2687	例題で学ぶはじめての電気電子工学	臼田昭司:伊藤敏	技術評論社
2688	電気回路が一番わかる	有馬良知	技術評論社
2689	電気電子基礎数学	川口順也:松瀬貞規	数理工学社
2690	電気電子工学のための基礎数学	森武昭:大矢征	森北出版
2691	大学1年生のための電気数学:電気回路・電磁気学の基礎数学	高木浩一:猪原哲	森北出版
2692	電気電子計測	廣瀬明	数理工学社
2693	電気・電子計測工学:新SI対応	吉澤昌純:降矢典雄	コロナ社
2694	絵ときシーケンス制御読本 入門編	大浜庄司	オーム社
2695	絵ときシーケンス制御読本-実用編-	大浜庄司	オーム社
2696	電気電子材料工学	電気学会	電気学会
2697	電気電子材料工学	西川宏之	数理工学社
2698	メカトロニクスのモーター技術	見城尚志:佐渡友茂	技術評論社
2699	信号解析教科書:信号とシステム	原島博	コロナ社
2700	デジタル信号処理の基礎:例題とPythonによる図で説く	岡留剛	共立出版
2701	信号処理教科書:不規則信号とフィルター	原島博	コロナ社
2702	Pythonで学ぶフーリエ解析と信号処理	神永正博	コロナ社
2703	電磁波工学	広川二郎:木村雄一	朝倉書店
2704	図解でわかるはじめてのデジタル画像処理	山田宏尚	技術評論社
2705	量子コンピュータが人工知能を加速する	西森秀稔:大関真之	日経BP
2706	制御工学	西村正太郎:北村新三	森北出版
2707	線形システム制御入門	梶原宏之	コロナ社
2708	制御工学	森泰親	コロナ社
2709	制御工学の考え方:産業革命は「制御」からはじまった	木村英紀	講談社
2710	制御工学	太田有三	オーム社
2711	基礎制御工学	松瀬貞規	数理工学社
2712	演習と応用基礎制御工学	松瀬貞規	数理工学社
2713	やさしく学べる制御工学	今井弘之:竹口知男	森北出版
2714	システム制御工学演習	杉江俊治:梶原宏之	コロナ社
2715	演習で学ぶ基礎制御工学	森泰親	森北出版
2716	制御工学の基礎	高橋宏治	数理工学社
2717	システム制御のための最適化理論	延山英沢:瀬部昇	コロナ社
2718	制御工学:フィードバック制御の考え方	斉藤制海:徐粒	森北出版
2719	制御工学の基礎	足立修一	東京電機大学出版局
2720	ゼロからはじめる制御工学	竹澤聡	講談社
2721	電気電子システムのための制御工学	佐々木清吾	電気学会
2722	例題で学ぶはじめての自動制御	臼田昭司	技術評論社
2723	非線形制御工学	竹内義之	大学教育出版
2724	絵ときでわかる機械制御	宇津木諭	オーム社
2725	制御工学	成清辰生:不破勝彦	理工図書
2726	はじめての制御工学	佐藤和也:平元和彦	講談社

番号	書名	著者名	出版社名
2727	はじめてのロボット工学:製作を通じて学ぶ基礎と応用	石黒浩:浅田稔	オーム社
2728	身体運動とロボティクス	川村貞夫:小澤隆太	コロナ社
2729	身体運動の制御と適応:リハビリ・介護、ロボットへの応用	伊藤宏司	オーム社
2730	心を知るための人工知能:認知科学としての記号創発ロボティクス	谷口忠大	共立出版
2731	ロボット工学の基礎	川崎晴久	森北出版
2732	基礎電子工学	藤本品	森北出版
2733	エレクトロニクスラボ:ものの仕組みがわかる18の電子工作	DK社:若林健一	オライリー・ジャパン
2734	電磁環境工学	電子情報通信学会:徳田正満	コロナ社
2735	デジタル回路	五島正裕	数理工学社
2736	デジタル電子回路	木村誠聡	数理工学社
2737	はじめての論理回路	飯田全広	近代科学社
2738	文系でもわかる電子回路:“中学校の知識”ですいすい読める	山下明	翔泳社
2739	半導体材料工学:材料とデバイスをつなぐ	大貫仁	内田老鶴園
2740	イチからはじめる美容医療機器の理論と実践	宮田成章	全日本病院出版会
2741	ママ&パパにつたえたい子どもの病気ホームケアガイド	日本外来小児科学会	医歯薬出版
2742	アトラス応急処置マニュアル	St. John Ambulance	南江堂
2743	赤ちゃんと子どもの応急処置マニュアル	横田裕行:植田育也	南江堂
2744	コアカリ獣医内科学:内科学総論・呼吸循環器病学・消化器病学. 1	コアカリ獣医内科学編集委員会	文永堂出版
2745	小動物消化管内視鏡アトラス:鼻腔を含む	末松弘彰:高橋雅弘	ファームプレス
2746	アナトミカル・ヴィーナス:解剖学的美しき人体模型	ジョアンナ・エーベンスティン	グラフィック社
2747	整形外科医のためのスポーツ医学概論	松本秀男	中山書店
2748	ゲームAI技術入門:広大な人工知能の世界を体系的に学ぶ	三宅陽一郎	技術評論社
2749	ことばのデータサイエンス	小林雄一郎	朝倉書店
2750	AIと人類は共存できるか?:人工知能SFアンソロジー	長谷敏司:藤井太洋	早川書房
2751	患者学入門	笹目秀光	批評社
2752	齊藤諒の生きる力:四肢麻痺・人工呼吸器装着の僕が伝えたいこと	齊藤諒	文芸社
2753	電磁気学ノート	藤田広一	コロナ社
2754	EBM血液浄化療法	飯田喜俊	金芳堂
2755	基礎からの電磁気学	原康夫	学術図書出版社
2756	気管支腔内超音波断層法	栗本典昭	金芳堂
2757	Excelで学ぶ流体力学	森下悦生	丸善出版
2758	生物学:人の生命科学	佐々木史江:堀口毅	医歯薬出版
2759	組織管理/組織改革:改革こそが経営だ!	富田健司	日本医療企画
2760	ナースのためのME機器マニュアル	加納隆:廣瀬稔	医学書院
2761	標準免疫学	宮坂昌之:小安重夫	医学書院
2762	イチからはじめる美容医療機器の理論と実践	宮田成章	全日本病院出版会
2763	医学英語の基本用語と表現:これだけは知っておきたい	藤枝宏寿:玉巻欣子	メジカルビュー社
2764	標準薬理学	飯野正光:鈴木秀典	医学書院
2765	グレイ解剖学アトラス	リチャード・L. ドレイク	エルゼビア・ジャパン
2766	Essential細胞生物学	ブルース・アルバーツ	南江堂
2767	わかりやすい病理学	恒吉正澄:小田義直	南江堂
2768	医療安全管理実務者標準テキスト	日本臨床医学リスクマネジメント学会	へるす出版
2769	ついに国家が消滅し、人工知能が世界政府を作ります	田村珠芳	徳間書店
2770	内科学[分冊版]	矢崎義雄	朝倉書店
2771	解明病理学:病気のメカニズムを解く	青笹克之	医歯薬出版
2772	大学4年間のデータサイエンスが10時間でざっと学べる	久野遼平:木脇太一	KADOKAWA
2773	医療系学生のための社会保障制度と医療経済概論講義	米本倉基:真野俊樹	ムイスリ出版

番号	書名	著者名	出版社名
2774	世界の予言2. 0陰謀論を超えていけ キリストの再臨は人工知能とともに	深月ユリア	明窓出版
2775	医療・介護の連携: 地域包括ケアと病院経営	橋爪章	日本医療企画
2776	医系免疫学	矢田純一	中外医学社
2777	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 1	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2778	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2018 VOL. 49 No. 11	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2779	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 2	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2780	現代生命科学	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
2781	電磁気学演習	田村忠久	学術図書出版社
2782	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 3	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2783	解剖生理学・病理学: 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	加藤昌彦・近藤和雄	第一出版(千代田区)
2784	医薬品・医療機器・再生医療等製品GCP・GPSPガイドブック. 2019	日本薬剤師研修センター	薬事日報社
2785	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 5	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2786	薬事法令ハンドブック. 令和元年度版		薬事日報社
2787	呼吸療法認定士“合格チャレンジ”100日ドリル. 2019	西信一	メディカ出版
2788	医薬品医療機器等法薬剤師法関係法令集. 令和元年版	薬事行政研究会	薬務公報社
2789	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 9	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2790	医薬品・医療機器・再生医療等製品GLPガイドブック. 2019	日本薬剤師研修センター	薬事日報社
2791	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 10	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2792	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 11	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2793	ソーシャルビジネスとしての医療経営学	西田在賢	薬事日報社
2794	医療経営手帳. 2020	『フェイズ3』編集部	日本医療企画
2795	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2019 VOL. 50 No. 12	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2796	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 1	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2797	情報・人工知能・経営工学書目録. 2020		工学書目録刊行会
2798	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 2	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2799	医療機器承認便覧. 平成30年版		薬務公報社
2800	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 3	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2801	疾患薬理学: 改訂モデル・コアカリキュラム対応	成田年	ネオメディカル
2802	池上彰が聞いてわかった生命のしくみ: 東工大で生命科学を学ぶ	池上彰	朝日新聞出版
2803	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 4	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2804	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 5	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2805	放射線健康リスク科学	細井 義夫・神田 玲子	NextPublishing Authors Press
2806	薬事法令ハンドブック. 令和2年度版		薬事日報社
2807	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 6/7	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2808	医薬品医療機器等法薬剤師法関係法令集. 令和2(2020)年版	薬事行政研究会	薬務公報社
2809	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 8	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2810	入門病理学: 病気の形態となりたち	町並陸生	丸善出版
2811	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 9	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2812	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 10	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2813	薬事法令ハンドブック. 令和2年9月施行版		薬事日報社
2814	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 11	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2815	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2020 VOL. 51 No. 12	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2816	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2021 VOL. 52 No. 1	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2817	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2021 VOL. 52 No. 2	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2818	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2021 VOL. 52 No. 3	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2819	医療機器承認便覧. 令和元年版		薬務公報社
2820	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2021 VOL. 52 No. 4	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団

番号	書名	著者名	出版社名
2821	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2021 VOL. 52 No. 5	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2822	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2021 VOL. 52 No. 6	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2823	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2021 VOL. 52 No. 7	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
2824	ハイパーサーミア:がん温熱療法ガイドブック	日本ハイパーサーミア学会	毎日健康サロン
2825	放射線治療物理学	西台武弘	文光堂
2826	放射線物理学	榮武二:遠藤真広	国際文献社
2827	医療放射線防護学	赤羽恵一:遠藤真広	国際文献社

連番	書名	著者名	出版社名
1	The Origins of Modern Science : From Antiquity to the Scientific Revolution	Gal, Ofer	Cambridge Univ Pr
2	The Routledge Handbook of Philosophy of Biodiversity (Routledge Handbooks in Philosophy)	Garson, Justin (EDT)/ Plutynski, Anya (EDT)/ Sarkar, Sahotra (EDT)	Routledge
3	The Mechanics of the Circulation	Caro, C. G./ Pedley, T. J./ Schroter, R. C./ Seed, W. A./ Parker, K. H	Cambridge Univ Pr
4	Biomaterials : A Basic Introduction	Chen, Qizhi/ Thouas, George	CRC Pr I Llc
5	Fluid Mechanics for Cardiovascular Engineering : A Primer	Pedrizzetti, Gianni	Springer
6	Smart Biosensors in Medical Care (Advances in Ubiquitous Sensing Applications for Healthcare)	Chaki, Jyotismita (EDT)/ Dey, Nilanjan (EDT)/ De, Debashis (EDT)	Academic Pr
7	Understanding Evo-Devo (Understanding Life)	Arthur, Wallace	Cambridge Univ Pr
8	Understanding Evolution (Understanding Life)	Kampourakis, Kostas	Cambridge Univ Pr
9	Stress and Poverty : A Cross-Disciplinary Investigation of Stress in Cells, Individuals, and Society	Breitenbach, Michael/ Kapferer, Elisabeth/ Sedmak, Clemens	Springer
10	The First Cell : The Mystery Surrounding the Beginning of Life	Schreiber, Ulrich C./ Mayer, Christian	Springer
11	Why Gut Microbes Matter : Understanding Our Microbiome (Fascinating Life Sciences)	Flint, Harry	Springer
12	Human Biochemistry	Litwack, Gerald	Academic Pr
13	Biochemistry -- Hardback	Berg, Jeremy M./ Stryer, Lubert/ Tymoczko, John/ Gatto, Gregory	Macmillan Learning
14	Biophysical Chemistry	Klostermeier, Dagmar/ Rudolph, Markus G.	CRC Pr I Llc
15	Human Embryology and Developmental Biology	Carlson, Bruce M., M.D., Ph.D.	Elsevier Science Health Science
16	A Primer of Population Genetics and Genomics	Hartl, Daniel L.	Oxford Univ Pr
17	Guyton and Hall Physiology Review	Hall, John E., Ph.D.	Elsevier Science Health Science
18	Biochemistry, Molecular Biology, and Genetics (Board Review Series)	Lieberman, Michael A., Ph.D./ Ricer, Rick, M.D.	Lippincott Williams & Wilkins
19	BRS Pathology (Board Review Series)	Gupta, Mary Elizabeth Peyton, M.D.	Lippincott Williams & Wilkins
20	Review of Medical Microbiology and Immunology : A Guide to Clinical Infectious Diseases (Review of Medical Microbiology and Immunology)	Levinson, Warren, M.D., Ph.D./ Chin-Hong, Peter, M.D./ Joyce, Elizabeth	McGraw-Hill
21	Lippincott Illustrated Reviews: Biochemistry (Lippincott Illustrated Reviews Series) -- Paperback / softback	Abali, Emine E./ Cline, Susan D./ Franklin, David S./ Viselli, Dr. Sus	Wolters Kluwer Health
22	Pilbeam's Mechanical Ventilation : Physiological and Clinical Applications -- Paperback / softback	Cairo, J, Phd, Rrt, Faarc	Elsevier - Health Sciences Division
23	Gray's Atlas of Anatomy (Gray's Anatomy)	Drake, Richard L., Ph.D./ Vogl, A. Wayne, Ph.D./ Mitchell, Adam W. M./	Churchill Livingstone

連番	書名	著者名	出版社名
24	Larsen's Human Embryology	Schoenwolf, Gary C., Ph.D./ Bleyl, Steven B., M.D., Ph.D./ Brauer, Phi	Elsevier
25	Gray's Anatomy : The Anatomical Basis of Clinical Practice (Gray's Anatomy: the Anatomical Basis of Clinical Practice)	Standring, Susan, Ph.D. (EDT)	Elsevier Science Health Science
26	Gray's Anatomy for Students (Grays Anatomy for Students)	Drake, Richard L., Ph.D./ Vogl, A. Wayne, Ph.D./ Mitchell, Adam W. M./	Elsevier Science Health Science
27	Textbook of Histology	Gartner, Leslie P., Ph.D.	Elsevier Science Health Science
28	Grant's Atlas of Anatomy	Agur, Anne M. R., B.sc./ Dalley Ii, Arthur F., Phd, Faaa	Lippincott Williams & Wilkins
29	Photographic Atlas of Anatomy	Rohen, Johannes W./ Yokochi, Chihiro, M.D./ Lutjen-Drecoll, Elke	Lippincott Williams & Wilkins
30	The Developing Human : Clinically Oriented Embryology	Moore, Keith L., Ph.D./ Persaud, T. V. N., M.D., Ph.D./ Torchia, Mark	W B Saunders Co
31	Grant's Dissector -- Paperback / softback	Detton, Alan J.	Wolters Kluwer Health
32	Moore's Essential Clinical Anatomy -- Paperback / softback	Agur, Anne M. R., B.sc./ Dalley Ii, Arthur F., Phd, Faaa	Wolters Kluwer Health
33	Photographic Atlas of Anatomy -- Paperback / softback	Rohen, Johannes W./ Yokochi, Chihiro/ Lutjen-drecoll, Elke	Wolters Kluwer Health
34	Cardiovascular Physiology (Mosby Physiology)	Pappano, Achilles J., Ph.D./ Wier, Withrow Gil, Ph.D.	Elsevier Science Health Science
35	Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology (Textbook of Medical Physiology)	Hall, John E., Ph.D./ Hall, Michael E., M.D.	Elsevier Science Health Science
36	Cytology : Diagnostic Principles and Clinical Correlates	Cibas, Edmund S., M.D./ Ducatman, Barbara S., M.D.	Elsevier Science Health Science
37	Diagnostic Pathology : Infectious Diseases	Milner, Dan A., M.d./ Abedalthagafi, Malak, M.D./ Pecora, Nicole, M.D.	Elsevier Science Health Science
38	Histology and Cell Biology : An Introduction to Pathology	Kierszenbaum, Abraham L., M.D., Ph.D./ Tres, Laura L., M.D., Ph.D.	Elsevier Science Health Science
39	Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease (Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease)	Kumar, Vinay, M.D./ Abbas, Abul K./ Aster, Jon C., M.D., Ph.D./ Turner	Elsevier Science Health Science
40	Robbins & Cotran Review of Pathology	Klatt, Edward C., M.D./ Kumar, Vinay, M.D.	Elsevier Science Health Science
41	Robbins and Cotran Atlas of Pathology (Robbins Pathology)	Klatt, Edward C.	Elsevier Science Health Science
42	Medical Parasitology : A Self-Instructional Text	Leventhal, Ruth, Ph.D./ Cheadle, Russell F./ Hoffman, Elliot (ILT)	F a Davis Co
43	Medical Immunology	Virella, Gabriel, Dr. (EDT)	CRC Pr I Llc
44	Bailey & Scott's Diagnostic Microbiology	Tille, Patricia M., Ph.D.	Elsevier Science Health Science
45	Brody's Human Pharmacology : Mechanism-Based Therapeutics	Wecker, Lynn	Elsevier
46	Rang and Dale's Pharmacology	Ritter, James M./ Flower, Rod, Ph.D./ Henderson, Graeme, Ph.D./ Loke,	Elsevier Science Health Science

連番	書名	著者名	出版社名
47	Henry's Clinical Diagnosis and Management by Laboratory Methods (Clinical Diagnosis and Management by Laboratory Methods)	McPherson, Richard A., M.D./ Pincus, Matthew R., M.D., Ph.D.	Elsevier
48	Essential Clinical Procedures	Dehn, Richard W./ Asprey, David P.	Elsevier Science Health Science
49	Accurate Results in the Clinical Laboratory : A Guide to Error Detection and Correction	Dasgupta, Amitava, Ph.D. (EDT)/ Sepulveda, Jorge L., M.D., Ph.D. (EDT)	Elsevier Science Ltd
50	Immunology & Serology in Laboratory Medicine	Turgeon, Mary Louise	Mosby Inc
51	Linne & Ringsrud's Clinical Laboratory Science : Concepts, Procedures, and Clinical Applications	Turgeon, Mary Louise	Mosby Inc
52	A Quick Guide for Clinical Biochemistry	Al Bulushi, Buthainah	Nova Science Pub Inc
53	Diagnosis and Management of Mitochondrial Disorders	Mancuso, Michelangelo (EDT)/ Klopstock, Thomas (EDT)	Springer
54	Handbook of Clinical Diagnostics	Wan, Xue-Hong (EDT)/ Zeng, Rui (EDT)	Springer
55	Saliva in Health and Disease : The Present and Future of a Unique Sample for Diagnosis	Tvarijonavičiute, Asta (EDT)/ Martinez-Subiela, Silvia (EDT)/ Lopez-Jornet, Pia (EDT)	Springer
56	Rodak's Hematology : Clinical Principles and Applications	Keohane, Elaine M., Ph.D./ Otto, Catherine M., Ph.D./ Walenga, Jeanine	W B Saunders Co
57	Wallach's Interpretation of Diagnostic Tests (Interpretation of Diagnostic Tests)	Rao, L. V., Ph.D./ Snyder, L. Michael, M.D.	Wolters Kluwer Health
58	ECMO in the Adult Patient (Core Critical Care)	Vuylsteke, Alain, M.D./ Brodie, Daniel, M.D./ Combes, Alain, M.D./ Fow	Cambridge Univ Pr
59	Engineering-Medicine : Principles and Applications of Engineering in Medicine	Chan, Lawrence S. (EDT)/ Tang, William C. (EDT)	CRC Pr I Llc
60	Biomedical Engineering	Miyauchi, Akihiro (EDT)/ Miyahara, Yuji (EDT)	Jenny Stanford Pub
61	Medical Device Regulation : A Guidebook for Medical Device Manufacturers	Wreh, Elijah N.	Jenny Stanford Pub
62	Biomedical Product Development : Bench to Bedside (Learning Materials in Biosciences)	Arjmand, Babak (EDT)/ Payab, Moloud (EDT)/ Goodarzi, Parisa (EDT)	Springer
63	Cecil Essentials of Medicine (Andreoli and Carpenter's Cecil Essentials of Medicine)	Wing, Edward J., M.D. (EDT)/ Schiffman, Fred J., M.D. (EDT)	Elsevier Science Health Science
64	Goldman-Cecil Medicine (2-Volume Set) (Cecil Textbook of Medicine)	Goldman, Lee, M.D./ Schafer, Andrew I., M.D.	Elsevier Science Health Science
65	Cardiovascular Hemodynamics for the Clinician	Stouffer, George A., M.D. (EDT)	Blackwell Pub
66	Minimally Invasive Cardiac Surgery : A Practical Guide	Kofidis, Theo, M.D. (EDT)	CRC Pr I Llc
67	Braunwald's Heart Disease (2-Volume Set) : A Textbook of Cardiovascular Medicine	Libby, Peter/ Bonow, Robert O./ Mann, Douglas L./ Tomaselli, Gordon F.	Elsevier
68	Braunwald's Heart Disease : A Textbook of Cardiovascular Medicine (Braunwald's Heart Disease)	Libby, Peter/ Bonow, Robert O./ Mann, Douglas L./ Tomaselli, Gordon F.	Elsevier
69	Arrhythmia Essentials	Olshansky, Brian, M.D./ Chung, Mina K., M.D./ Pogwizd, Steven M., M.D.	Elsevier Science Health Science

連番	書名	著者名	出版社名
70	Catheter Ablation of Cardiac Arrhythmias	Huang, Shoei K. Stephen, M.D./ Miller, John M., M.D.	Elsevier Science Health Science
71	Kern's Cardiac Catheterization Handbook	Sorajja, Paul, M.D. (EDT)/ Lim, Michael J., M.D. (EDT)/ Kern, Morton J	Elsevier Science Health Science
72	The Interventional Cardiac Catheterization Handbook	Kern, Morton J., M.D./ Sorajja, Paul, M.D./ Lim, Michael J., M.D.	Elsevier Science Health Science
73	Valvular Heart Disease : A Companion to Braunwald's Heart Disease	Otto, Catherine M., M.d (EDT)/ Bonow, Robert O., M.D. (EDT)	Elsevier Science Health Science
74	Cardiovascular Medicine and Surgery	Mukherjee, Debabrata/ Lange, Richard/ Bailey, Steve (EDT)/ Baliga, Rag	Lippincott Williams & Wilkins
75	Grossman & Baim's Cardiac Catheterization, Angiography, and Intervention	Moscucci, Mauro, M.D. (EDT)	Lippincott Williams & Wilkins
76	Josephson's Clinical Cardiac Electrophysiology : Techniques and Interpretations	Callans, David J, M.D.	Lippincott Williams & Wilkins
77	Cardiovascular Physiology	Mohrman, David E., Ph.D./ Heller, Lois Jane, Ph.D.	McGraw-Hill
78	Cardiac Catheterization and Coronary Intervention (Oxford Specialist Handbooks in Cardiology)	Mitchell, Andrew (EDT)/ De Maria, Giovanni Luigi (EDT)/ Banning, Adria	Oxford Univ Pr
79	Basic Electrocardiography	Petty, Brent G.	Springer
80	Manual of Perioperative Care in Adult Cardiac Surgery	Bojar, Robert M.	Wiley-Blackwell
81	Pathophysiology of Heart Disease : An Introduction to Cardiovascular Medicine -- Paperback / softback	Lilly, Leonard S.	Wolters Kluwer Health
82	Pulmonary Circulation : Diseases and Their Treatment	Peacock, Andrew J., M.D. (EDT)/ Naeije, Robert, M.D., Ph.D. (EDT)/ Rub	CRC Pr I Llc
83	West's Pulmonary Pathophysiology : The Essentials	West, John B., M.D., Ph.D./ Luks, Andrew M., M.D.	Lippincott Williams & Wilkins
84	Cough: Pathophysiology, Diagnosis and Treatment	Zanasi, Alessandro (EDT)/ Fontana, Giovanni (EDT)/ Mutolo, Donatella (EDT)	Springer
85	Clinical Hematology Atlas	Garr, Jacqueline H.	Elsevier Science Health Science
86	Williams Hematology (Williams Hematology)	Kaushansky, Kenneth, M.D./ Prchal, Josef T., M.D./ Burns, Linda J., M.	McGraw-Hill
87	Williams Textbook of Endocrinology (Williams Textbook of Endocrinology)	Melmed, Shlomo/ Koenig, Ronald J., M.D., Ph.D./ Auchus, Richard J., M.	Elsevier Science Health Science
88	Clinical Tuberculosis	Friedman, Lloyd N. (EDT)/ Dedicoat, Martin (EDT)/ Davies, Peter D. O.	CRC Pr I Llc
89	The Washington Manual of Surgery	Klingensmith, Mary E., M.D. (EDT)/ Wise, Paul E., M.D. (EDT)/ Courtney	Lippincott Williams & Wilkins
90	Pharmacology for Anaesthesia and Intensive Care	Peck, Tom/ Harris, Benjamin	Cambridge Univ Pr
91	Smith and Aitkenhead's Textbook of Anaesthesia	Thompson, Jonathan (EDT)/ Moppett, Iain (EDT)/ Wiles, Matthew (EDT)	Elsevier Science Health Science
92	Manual of Clinical Anesthesiology	Chu, Lawrence F. (EDT)/ Traynor, Andrea J., M.D. (EDT)/ Kurup, Viji, M	Lippincott Williams & Wilkins

連番	書名	著者名	出版社名
93	Stoelting's Pharmacology & Physiology in Anesthetic Practice	Flood, Pamela, M.D. (EDT)/ Rathmell, James P., M.D. (EDT)/ Urman, Rich	Lippincott Williams & Wilkins
94	Chronic Kidney Disease, Dialysis, and Transplantation : A Companion to Brenner and Rector's the Kidney	Himmelfarb, Jonathan, M.D./ Ikizler, T. Alp, M.D.	Elsevier Science Health Science
95	A Textbook of Clinical Embryology	Girsh, Eliezer (EDT)	Cambridge Univ Pr
96	Biometrics : Theory, Algorithms, Techniques, and Case Study Implementation	Joshi, Madhuri Arunkumar/ Raval, Mehul S./ Chaskar, Uttam/ Dale, Manis	Chapman & Hall
97	Mechanical Support for Cardiac and Respiratory Failure in Pediatric Patients	Duncan, Brian W. (EDT)	CRC Pr I Llc
98	Cardiovascular Catheterization and Intervention : A Textbook of Coronary, Peripheral, and Structural Heart Disease	Mukherjee, Debabrata (EDT)/ Bates, Eric R. (EDT)/ Roffi, Marco (EDT)/	CRC Pr I Llc
99	Congenital Heart Disease : A Clinical, Pathological, Embryological, and Segmental Analysis	Van Praagh, Richard	Elsevier Science Health Science
100	Extracorporeal Membrane Oxygenation (Critical Care Clinics, October 2017)	Puri, Nitin (EDT)/ Baram, Michael (EDT)/ Cavarocchi, Nicholas C. (EDT)	Elsevier Science Health Science
101	Handbook of Medical Engineering	Mcmahon, Morris	Ingram Pub Services
102	Extracorporeal Membrane Oxygenation: Advances in Therapy	Firstenberg, Michael S.(EDT)	Intechopen
103	Hemodynamics : Monitoring, Theory and Applications (Cardiology Research and Clinical Developments)	Senzaki, Hideaki (EDT)	Nova Biomedical
104	Core Concepts in Dialysis and Continuous Therapies	Magee, Colm C. (EDT)/ Tucker, J. Kevin (EDT)/ Singh, Ajay K. (EDT)	Springer Verlag
105	Cardiovascular Hemodynamics : An Introductory Guide (Contemporary Cardiology)	Herausgegeben:Askari, Arman T./ Messerli, Adrian W.	SPRINGER, BERLIN; SPRINGER INTERNATIONAL PUBLISHING;